

# 病 院 年 報

令和6年度



日本赤十字社

日本赤十字社愛知医療センター  
名古屋第一病院

Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

## 理 念

皆さまとの出会いを一期のことと心得、その痛みを分かちあい、苦しみを共にしつつ、一日も早く健康の幸せを喜びあえるよう努めます。

## 基 本 方 針

1. 皆さまが安心できる癒しの森といたします。
2. 高度・良質で安全な医療をいたします。
3. 災害救護活動を積極的に行います。
4. 周産期・小児及び救急医療を充実します。
5. 医療連携を密にして地域完結型の医療を目指します。
6. 職員の教育・研修を推進します。
7. 健全経営を維持するように努めます。

## ミ ッ シ ョ ン ス テ ー ト メ ン ト

リーダーシップを発揮しよう	Leadership
チームワークを大切にしよう	Teamwork
互いにリスペクトする心を持とう	Respect
最高の医療レベルを目指そう	Best Quality
安全第一に心がけよう	Safety

## 患 者 さ ん の 権 利 と 責 務

当院は、患者さんやご家族のご意向を尊重し、医療者と患者さんとのより良いパートナーシップ（対等な協力関係）を築くため、「患者さんの権利と責務」を明示し、患者さん中心の医療を行うことに最大の努力をいたします。

### 患者さんの権利

1. 人としての尊厳が保たれた最善の医療を受けることができます。
2. 病気の内容、治療方法、今後の見通しなどについて十分な説明を受け、自らの意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否することができます。
3. 患者さんが受けたい診療内容を病院や医師に伝えることができます。また、何らかの理由でご自分の意思を表示できない場合には、ご家族の方や適切な代理人を指定して判断を依頼することができます。なお、依頼した人の方針を拒否することもできます。
4. ご自身の病気の診断や治療について、他の医師や病院を自由に選択し意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。
5. 所定の手続きを経て、ご自分の診療記録の開示を求めることができます。
6. 当院は、患者さんに関する情報を承諾なしに第三者に知らせることはありません。

7. 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうか、自らの意思に基づき決めることができます。
8. 診療内容や入院中の生活において問題や不満がある場合には、医療者にそのことを伝えることができます。このことにより、患者さんの診療に関してなんら不利益を被ることはありません。

医療は、患者さんと医療者が信頼関係を築き協同することが肝要です。  
この精神にのっとり患者さんに以下の点を望みます。

### **患者さんの責務**

1. 患者さんご自身の病気について、病状、経過、服用している薬など、正確にお伝えください。
2. 検査や治療の内容を十分理解し、合意のうえでお受けください。
3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるよう、他の方々の治療や病院職員による医療提供に支障が生ずる行為をしないでください。
4. 医療者に対して、暴力的な振る舞いや言動はしないでください。
5. 入院中は、病院の規則を守ってください。
6. 適切な医療を維持するために、医療費をお支払いいただく必要があります。支払い請求を受けたら、速やかにお支払いください。
7. 当院は臨床研修指定病院で、研修医が直接医療に従事します。また、医学生、看護学生などの臨床実習施設でもありますので、臨床教育にご理解とご協力をお願いします。

## 巻頭言

令和7年の夏は大雨と酷暑の異常気象が続きました。8月下旬の名古屋は、中東のドバイと同じ位の気温が10日以上続いたとの事です。カンドゥーラというゆったりと全身を覆う白い長袖のローブを着ている人をテレビ等で見られたことがあると思いますが、頸やおなか周りを締めない服で過ごしたくなる暑さでした。

新型コロナ蔓延期を乗り越えて、多くの会議・集会が復活しました。「衆知を集める」即、問題解決や発展ではありませんが、従来の対面に加えてのwebinarが蔓延後の日常になり、問題解決のスピードが上がったと信じています。また、学会等がHybridを含めた対面で開催されることが多くなりました。対面で集まると、メインの話題から派生した話がいけない方向に発展して、更に物事の理解が深まっていくことは良く経験されることで、対面での開催が増えて来たことが学術業績からうかがわれほっとしています。

一方、病院の業績は余り芳しくありません。COVID-19対応により、令和2年度に急減した延べ入院患者数が、なかなか元には戻りませんでした。名古屋大学メディカルITセンターの医療圏や行政区別の推計値および当院の各種データを解析すると、この間の診療圏の人口減少や、医療行為の進歩により入院治療が必要な日数が減少していることを見逃していたようです。前述のMITセンターや各種の人口推計データを検討し、当院の診療圏での人口増加はあり得ないと判断して、コロナ病棟として使用しその後は休床していた東7階病棟の34床を、9月に正式に返上しました。

次年の病院年報には、この効果が様々なところに表れていることを期待しています。

令和7年12月 院長 錦見尚道





# 目 次

## I. 業務概要

### 1. 医事業務管理課

(1) 年度別患者数	2
(2) 年度別稼働状況	2
(3) 診療科別・月別患者数	3
(4) 診療科別・月別稼働状況	5
(5) 科別救急患者数	7
(6) 曜日別救急患者数	7
(7) 月別救急患者数	8
(8) 地域別救急患者数	8

### 2. 栄養課

(1) 食種別食数一覧	9
(2) 栄養部門加算算定数	9
(3) 栄養指導集計表	11

### 3. 診療情報管理課

(1) 大分類別退院患者数	12
(2) 大分類別退院患者数の推移	13
(3) 住所別退院患者数	14
(4) 主要疾患別退院患者数の推移	15
(5) 診療科別上位疾患別科別退院患者数及び平均在院日数	17

### 4. 放射線科部

(1) 診療科別被検者数	19
(2) 年度別検査項目別件数	21
(3) 年度別放射線治療患者数	21

### 5. 病理部・細胞診分子病理診断部

(1) 診療科別生検検体数	22
(2) 病理特殊検査検体数	22
(3) 院外受託検査	22
(4) 剖検検体数（科別検体数、月別検体数）	23
(5) 細胞診件数（検体種別検体数）	23
(6) 遺伝子件数	23

### 6. 輸血部

(1) 検査年報集計	24
(2) 院内廃棄血集計（輸血管理室）	24
(3) 造血幹細胞移植症例数（分子細胞検査室）	25
(4) 成分採血室稼働状況	25

### 7. 健診部

健診実績	26
------	----

## 8. 薬剤部

(1) 入院・外来処方せん枚数	27
(2) 入院薬剤管理指導料算定数	27
(3) 妊娠と薬外来の相談件数	27
(4) 薬学生実務実習受け入れ人数	27
(5) 抗がん剤調製延患者数	27
(6) 新規の治験・製造販売後調査受託件数	27
(7) 専門薬剤師資格取得薬剤師数	27

## 9. 検査部

(1) 検査種別稼働集計	28
(2) 判断料	30
(3) 検査加算・管理料	31

## 10. 看護部

(1) 看護部の理念	32
(2) 基本方針	32
(3) 看護部目標	32
(4) 看護部行事・看護職員対象研修等一覧	33
(5) 学会発表先一覧	36
(6) 看護部委員会活動 活動評価	37

## 11. リハビリテーション科部

(1) リハビリ依頼件数	67
(2) 診療科別依頼件数	67
(3) PT/OT/ST 別 処方件数	67
(4) リハビリ延べ実施件数	67
(5) リハビリ稼働集計	68
(6) ADL の改善状況	68

## 12. 地域医療連携室

(1) 地域医療支援病院 【紹介・逆紹介件数と率】(年度別推移)	69
(2) 地域医療支援病院 【紹介率・逆紹介率】(年度月別推移)	69
(3) 【診療科別】 紹介件数 (過去5年度比較)	70
(4) 【診療科別】 逆紹介件数 (過去5年度比較)	70
(5) 【診療科別】 初診件数 (過去5年度比較)	71
(6) 【診療科別】 紹介・逆紹介率	71
(7) 【地域・医療圏別】 2次医療圏別紹介元動向 (過去5年度比較)	72
(8) 【地域・医療圏別】 2次医療圏別逆紹介先動向 (過去5年度比較)	72
(9) 医療機器等の共同利用の実績	73
(10) 病診連携システム学術セミナー開催状況	74
(11) 研修会・検討会開催実績	75

## 13. 医療社会事業課

(1) 年間援助件数	81
(2) 科別援助件数	82
(3) がん相談支援センター援助件数	83

#### 14. 総務課

(1) 災害救護訓練・研修派遣実績	86
(2) 災害救護活動 派遣実績	89
(3) 病院ボランティア活動状況	90
(4) 地域福祉活動状況	91

## II. 業績

1. 著書	94
2. 論文	97
3. 学会	121
4. 学術講演等記録	153

# I . 業 務 概 要

# 1. 医事業務管理課

## (1) 年度別患者数

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来	新患者数	31,060	29,618	30,086
	患者延数	346,477	343,363	343,796
	1日平均	1,425.8	1,418.9	1,414.8
入院	入院患者数	19,208	19,830	21,163
	退院患者数	19,300	19,851	21,077
	在院患者延数	218,351	218,370	224,658
	入院患者延数	237,187	238,221	245,735
	1日平均	649.8	650.9	673.2

※平成20年4月1日以降 許可病床数852床（一般病床）

## (2) 年度別稼働状況（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来	外来診療	9,966,265	10,200,586	10,420,556
入院	包括評価	7,594,783	7,724,540	8,426,846
	出来高	13,251,474	13,820,781	14,859,195
	合計	20,846,257	21,545,321	23,286,041

(3) 診療科別・月別患者数(患者延数)

	各 科	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	内 科	41	45	51	49	45	39
外 来	腎臓内科	597	599	614	676	680	611
	内分泌内科	1,400	1,274	1,408	1,435	1,343	1,357
	血液内科	1,528	1,520	1,446	1,658	1,483	1,526
	化学療法内科	1	2	1	1	3	2
	総合診療科	180	185	166	195	162	141
	精神科	29	28	23	35	21	21
	脳神経内科	1,215	1,194	1,273	1,308	1,330	1,292
	呼吸器内科	1,797	1,726	1,699	1,963	1,841	1,747
	消化器内科	3,243	2,989	3,025	3,404	3,165	3,121
	循環器内科	1,184	1,256	1,294	1,317	1,230	1,175
	小児科	1,583	1,641	1,632	1,836	1,874	1,570
	一般・消化器外科	1,090	990	1,008	1,068	974	1,034
	乳腺外科	1,067	1,008	951	1,091	1,068	1,051
	整形外科	2,142	2,153	2,158	2,124	2,192	1,948
	形成外科	254	276	300	281	300	291
	脳神経外科	707	661	701	706	699	624
	呼吸器外科	367	310	361	345	328	379
	心臓血管外科	436	330	359	433	306	339
	血管外科	279	216	271	270	237	233
	小児外科	148	131	136	165	183	157
	皮膚科	1,136	1,155	1,213	1,324	1,297	1,137
	泌尿器科	1,366	1,390	1,421	1,464	1,462	1,470
	女性泌尿器科	360	321	350	382	303	347
	産婦人科	1,844	1,859	1,902	1,906	1,890	1,848
	眼科	555	569	558	602	540	517
	耳鼻咽喉科	1,606	1,481	1,416	1,594	1,499	1,353
	放射線科	651	662	586	633	574	627
	リハビリ	307	348	333	359	323	300
	歯科口腔外科	1,756	1,728	1,753	1,726	1,705	1,703
	合計	28,869	28,047	28,409	30,350	29,057	27,960

	各 科	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	内 科	0	0	0	0	0	0
入 院	腎臓内科	456	309	325	417	515	420
	内分泌内科	152	311	292	242	269	412
	血液内科	1,628	1,859	2,155	1,933	1,975	2,231
	化学療法内科	0	0	0	0	0	0
	総合診療科	0	0	0	0	0	0
	精神科						
	脳神経内科	1,530	1,541	1,459	1,541	1,612	1,070
	呼吸器内科	1,544	1,771	1,747	1,916	1,845	1,527
	消化器内科	2,272	2,360	2,467	2,557	2,593	2,090
	循環器内科	1,163	1,215	1,096	1,087	1,246	1,382
	小児科	2,093	2,155	2,093	2,189	2,064	2,014
	一般・消化器外科	1,333	1,467	1,410	1,457	1,092	1,255
	乳腺外科	391	410	350	377	520	548
	整形外科	1,083	1,186	1,413	1,510	1,412	1,095
	形成外科	37	57	67	80	74	98
	脳神経外科	650	695	652	708	564	532
	呼吸器外科	499	530	491	457	585	546
	心臓血管外科	647	688	748	616	599	461
	血管外科	161	175	126	190	146	141
	小児外科	127	97	56	70	74	70
	皮膚科	184	115	163	206	235	147
	泌尿器科	681	737	845	900	805	876
	女性泌尿器科	144	114	138	131	127	123
	産婦人科	1,935	1,691	1,946	2,134	1,973	1,920
	眼科	0	11	0	0	0	2
	耳鼻咽喉科	621	605	688	708	594	593
	放射線科						
	リハビリ						
	歯科口腔外科	200	183	158	214	245	224
	合計	19,531	20,282	20,885	21,640	21,164	19,777

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	各 科
48	40	51	44	37	34	524	内科
667	642	675	648	650	717	7,776	腎臓内科
1,462	1,331	1,441	1,300	1,241	1,375	16,367	内分泌内科
1,619	1,457	1,559	1,559	1,378	1,540	18,273	血液内科
2	1	1	3	1	1	19	化学療法内科
161	130	146	147	119	144	1,876	総合診療科
29	18	29	26	21	24	304	精神科
1,357	1,281	1,312	1,246	1,077	1,388	15,273	脳神経内科
1,928	1,784	2,056	2,014	1,620	1,823	21,998	呼吸器内科
3,505	3,275	3,280	2,962	2,862	3,131	37,962	消化器内科
1,335	1,306	1,316	1,195	1,219	1,342	15,169	循環器内科
1,526	1,531	1,716	1,560	1,358	1,719	19,546	小児科
1,135	987	1,037	965	961	1,070	12,319	一般・消化器外科
1,108	1,058	1,121	1,058	988	1,076	12,645	乳腺外科
2,071	2,042	2,151	2,037	1,839	2,197	25,054	整形外科
279	258	255	273	246	275	3,288	形成外科
736	653	633	623	547	704	7,994	脳神経外科
377	342	371	298	279	322	4,079	呼吸器外科
452	369	370	370	322	345	4,431	心臓血管外科
284	205	207	196	186	203	2,787	血管外科
179	137	166	171	144	200	1,917	小児外科
1,276	1,165	1,220	1,077	1,060	1,146	14,206	皮膚科
1,619	1,376	1,516	1,540	1,360	1,542	17,526	泌尿器科
387	336	320	320	292	309	4,027	女性泌尿器科
1,954	1,831	1,786	1,758	1,706	1,894	22,178	産婦人科
565	534	547	502	485	556	6,530	眼科
1,564	1,414	1,590	1,492	1,419	1,609	18,037	耳鼻咽喉科
742	777	749	663	664	865	8,193	放射線科
336	309	291	335	328	379	3,948	リハビリ
1,909	1,741	1,808	1,672	1,593	1,901	20,995	歯科口腔外科
30,612	28,330	29,720	28,054	26,002	29,831	345,241	合計

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	各 科
0	0	0	0	0	0	0	内科
433	325	331	386	354	487	4,758	腎臓内科
331	236	204	196	208	271	3,124	内分泌内科
2,011	1,961	2,033	1,822	1,833	2,244	23,685	血液内科
0	0	0	0	0	0	0	化学療法内科
0	0	0	0	0	0	0	総合診療科
							精神科
1,119	1,386	1,681	1,734	1,193	1,374	17,240	脳神経内科
1,789	1,686	1,767	2,403	1,746	1,584	21,325	呼吸器内科
2,324	2,609	2,228	2,390	2,345	2,524	28,759	消化器内科
1,243	1,258	1,529	1,506	1,280	1,363	15,368	循環器内科
2,043	2,204	2,215	2,097	1,846	2,261	25,274	小児科
1,377	1,450	1,261	990	975	1,197	15,264	一般・消化器外科
452	421	472	421	525	539	5,426	乳腺外科
1,042	1,238	1,709	1,445	1,302	1,383	15,818	整形外科
66	27	58	108	147	80	899	形成外科
594	608	576	448	498	532	7,057	脳神経外科
515	568	523	463	425	385	5,987	呼吸器外科
528	604	616	608	499	638	7,252	心臓血管外科
157	134	103	84	84	164	1,665	血管外科
88	92	62	95	54	64	949	小児外科
100	136	91	66	101	54	1,598	皮膚科
1,018	1,023	894	775	887	962	10,403	泌尿器科
133	142	96	76	86	111	1,421	女性泌尿器科
1,917	1,703	2,023	1,637	1,766	2,181	22,826	産婦人科
0	0	2	0	0	0	15	眼科
599	401	525	456	463	505	6,758	耳鼻咽喉科
							放射線科
							リハビリ
237	290	209	308	271	325	2,864	歯科口腔外科
20,116	20,502	21,208	20,514	18,888	21,228	245,735	合計

(4) 診療科別・月別稼働状況(単位:千円)

	各 科	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	内科	393	777	784	691	385	483
外 来	腎臓内科	9,298	8,608	9,537	9,638	10,241	8,894
	内分泌内科	32,630	29,827	32,822	32,327	32,585	31,780
	血液内科	157,093	164,870	145,558	206,208	185,431	176,380
	化学療法内科	17	4	3	43	7	82
	総合診療科	2,220	2,188	1,892	2,056	2,069	1,945
	精神科	199	148	167	208	157	126
	脳神経内科	21,390	33,962	39,347	25,937	36,564	44,465
	呼吸器内科	106,125	95,498	96,832	110,651	97,638	95,818
	消化器内科	99,744	96,839	102,091	112,591	95,484	84,278
	循環器内科	20,844	22,863	22,772	23,287	21,351	22,864
	小児科	38,390	43,142	42,880	48,137	55,935	56,069
	一般・消化器外科	37,333	33,519	33,402	37,640	40,098	38,855
	乳腺外科	74,550	80,326	71,379	80,053	80,782	81,558
	整形外科	26,907	25,635	25,848	27,490	24,213	23,056
	形成外科	2,043	2,072	2,090	1,896	1,979	1,903
	脳神経外科	9,238	9,159	9,458	10,285	9,326	8,641
	呼吸器外科	12,288	12,221	8,877	12,193	12,292	12,897
	心臓血管外科	5,533	4,262	4,702	5,888	4,261	4,596
	血管外科	2,412	2,159	2,458	2,565	2,482	2,362
	小児外科	923	761	813	1,131	1,044	1,142
	皮膚科	13,337	14,261	14,442	16,697	16,410	15,131
	泌尿器科	49,145	55,536	50,840	55,114	58,589	56,308
	女性泌尿器科	3,952	3,475	4,339	3,858	3,750	3,398
	産婦人科	41,038	39,802	41,868	44,612	44,116	42,186
	眼科	8,936	10,238	8,756	10,610	9,823	9,697
	耳鼻咽喉科	18,632	17,899	17,913	19,214	20,178	15,058
	放射線科	20,210	21,093	16,502	20,431	16,060	18,464
	リハビリ	2,106	2,385	2,284	2,429	2,309	2,282
	歯科口腔外科	17,300	15,490	15,290	14,196	14,436	13,781
	合計	834,227	849,018	825,953	938,076	899,997	874,497

	各 科	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	内科	1,711	1,019	595	1,190	2,820	1,746
入 院	腎臓内科	31,552	17,528	19,296	24,207	29,706	27,494
	内分泌内科	8,037	15,734	15,429	13,744	15,458	25,887
	血液内科	168,771	170,891	228,601	220,423	192,334	227,238
	化学療法内科	0	0	0	0	0	0
	総合診療科	0	0	0	0	0	0
	精神科						
	脳神経内科	89,922	91,805	85,623	81,832	86,464	59,022
	呼吸器内科	99,636	105,202	104,560	117,167	107,598	93,557
	消化器内科	139,681	136,954	139,910	149,586	154,054	125,939
	循環器内科	152,883	200,538	183,610	183,132	182,603	174,903
	小児科	189,305	199,701	196,387	205,705	193,612	187,355
	一般・消化器外科	108,587	119,404	107,920	124,128	94,906	105,472
	乳腺外科	41,114	39,657	32,870	41,631	50,182	51,851
	整形外科	108,521	131,621	130,144	151,045	130,171	111,425
	形成外科	3,214	4,678	5,684	6,804	6,519	6,257
	脳神経外科	77,880	68,238	78,668	80,093	67,718	80,738
	呼吸器外科	75,767	70,815	67,949	77,538	86,107	81,720
	心臓血管外科	190,377	158,784	186,017	137,668	161,310	127,516
	血管外科	35,195	31,078	16,392	32,752	20,090	28,914
	小児外科	19,329	11,627	9,719	13,136	13,973	13,336
	皮膚科	8,589	4,136	10,197	9,909	12,343	6,425
	泌尿器科	55,598	58,360	60,021	68,578	64,383	66,916
	女性泌尿器科	16,225	12,698	14,852	13,831	14,149	12,351
	産婦人科	188,399	169,822	191,691	209,655	194,713	180,347
	眼科	0	792	0	0	0	263
	耳鼻咽喉科	40,026	39,888	44,718	54,143	45,472	41,265
	放射線科						
	リハビリ						
	歯科口腔外科	18,488	15,447	16,721	21,727	21,085	17,595
	合計	1,868,808	1,876,413	1,947,574	2,039,625	1,947,771	1,855,531



10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	各 科
482	403	491	299	384	455	6,026	内科
9,596	8,412	8,955	8,663	8,778	9,274	109,894	腎臓内科
33,229	26,351	33,165	31,395	24,482	27,109	367,701	内分泌内科
192,621	163,333	178,474	159,053	157,987	148,834	2,035,843	血液内科
122	4	19	97	29	101	528	化学療法内科
2,325	1,735	2,923	1,709	1,968	2,682	25,713	総合診療科
193	112	200	160	142	157	1,968	精神科
29,015	40,077	37,195	31,113	35,045	45,664	419,774	脳神経内科
108,302	90,389	90,533	96,762	91,529	90,611	1,170,688	呼吸器内科
96,785	88,546	91,752	83,818	88,865	95,040	1,135,833	消化器内科
25,304	23,214	24,419	23,884	25,028	23,430	279,260	循環器内科
36,855	36,849	27,154	25,283	33,568	73,521	517,783	小児科
42,246	36,020	34,936	38,651	39,739	42,822	455,263	一般・消化器外科
87,298	85,735	88,693	87,084	75,756	86,961	980,176	乳腺外科
26,584	24,843	26,510	24,563	22,786	25,637	304,075	整形外科
2,148	1,713	1,744	2,207	1,708	1,793	23,296	形成外科
10,186	8,563	8,991	8,493	6,738	9,643	108,720	脳神経外科
14,083	12,733	11,288	11,393	9,398	9,521	139,184	呼吸器外科
6,181	5,278	5,234	4,803	4,414	4,597	59,751	心臓血管外科
2,894	1,876	2,066	2,072	1,879	2,152	27,377	血管外科
1,184	867	916	1,034	828	964	11,607	小児外科
18,370	16,328	16,542	14,870	13,532	14,967	184,887	皮膚科
60,308	66,619	64,562	73,428	59,879	61,008	711,336	泌尿器科
3,921	4,753	5,774	5,495	3,235	3,942	49,893	女性泌尿器科
46,203	41,047	38,729	40,522	39,099	39,384	498,608	産婦人科
11,502	11,934	10,142	8,405	9,569	10,269	119,882	眼科
19,567	19,048	20,591	18,914	19,883	19,993	226,891	耳鼻咽喉科
21,313	22,980	21,247	19,322	19,081	23,772	240,475	放射線科
2,605	2,317	2,034	2,259	2,312	2,580	27,902	リハビリ
15,762	14,333	14,148	15,026	13,510	16,947	180,219	歯科口腔外科
927,184	856,413	869,426	840,777	811,153	893,833	10,420,554	合計

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	各 科
1,034	1,980	2,611	1,703	1,334	1,348	19,091	内科
28,597	18,883	23,526	25,724	24,840	28,255	299,608	腎臓内科
20,540	12,539	12,714	9,508	15,511	12,510	177,610	内分泌内科
188,714	189,481	204,751	179,324	211,039	239,951	2,421,517	血液内科
0	0	0	0	0	0	0	化学療法内科
0	0	0	0	0	0	0	総合診療科
							精神科
71,478	90,154	101,602	91,390	70,070	75,225	994,587	脳神経内科
109,119	103,204	116,182	144,438	101,979	94,503	1,297,144	呼吸器内科
147,626	153,660	130,261	165,697	137,688	149,148	1,730,204	消化器内科
192,915	176,741	215,400	215,632	215,216	214,794	2,308,366	循環器内科
204,920	207,828	218,089	206,890	184,299	224,563	2,418,655	小児科
119,717	124,483	104,851	92,769	100,880	117,160	1,320,278	一般・消化器外科
44,855	44,420	45,985	49,353	51,851	49,197	542,966	乳腺外科
127,422	132,332	169,754	139,745	126,030	138,600	1,596,808	整形外科
4,251	2,090	4,952	7,985	9,647	7,920	70,001	形成外科
80,600	65,241	58,614	56,103	74,462	72,071	860,427	脳神経外科
79,514	83,303	73,648	67,025	65,933	61,034	890,356	呼吸器外科
157,563	140,788	172,252	174,049	128,460	173,721	1,908,506	心臓血管外科
30,330	28,201	19,466	23,537	15,924	19,291	301,171	血管外科
13,660	15,594	13,129	13,937	10,486	11,912	159,838	小児外科
5,251	6,804	4,992	3,126	7,568	2,684	82,024	皮膚科
83,352	74,094	73,637	62,168	68,908	74,654	810,668	泌尿器科
14,128	13,979	10,442	9,153	8,757	11,829	152,394	女性泌尿器科
181,144	168,328	193,731	156,674	159,381	196,989	2,190,877	産婦人科
0	0	508	0	0	0	1,562	眼科
45,547	31,068	38,961	34,881	35,259	38,413	489,641	耳鼻咽喉科
							放射線科
							リハビリ
24,597	20,883	17,353	23,873	20,099	23,873	241,742	歯科口腔外科
1,976,874	1,906,081	2,027,410	1,954,685	1,845,622	2,039,648	23,286,041	合計

### (5) 科別救急患者数

	入院	外来	計	%
内科	0	230	230	1.2
腎臓内科	162	105	267	1.4
内分泌内科	140	164	304	1.6
血液内科	213	159	372	2.0
消化器内科	1,019	1,394	2,413	12.8
呼吸器内科	661	1,399	2,060	10.9
脳神経内科	680	1,015	1,695	9.0
循環器内科	635	966	1,601	8.5
一般消化器外科	360	222	582	3.1
呼吸器外科	90	36	126	0.7
心臓血管外科	132	77	209	1.1
血管外科	32	31	63	0.3
乳腺外科	33	74	107	0.6
小児外科	4	23	27	0.1
整形外科	359	1,172	1,531	8.1
リハビリ科	0	0	0	0.0
脳神経外科	282	905	1,187	6.3
産婦人科	444	573	1,017	5.4
小児科	771	2,079	2,850	15.1
耳鼻咽喉科	86	647	733	3.9
皮膚科	40	461	501	2.6
形成外科	4	97	101	0.5
泌尿器科	233	459	692	3.7
女性泌尿器科	5	11	16	0.1
眼科	0	42	42	0.2
歯科口腔外科	18	172	190	1.0
精神科	0	0	0	0.0
総合診療科	1	3	4	0.0
化学療法内科	0	0	0	0.0
放射線科	0	1	1	0.0
救急科	0	0	0	0.0
計	6,404	12,517	18,921	100.0

### (6) 曜日別救急患者数

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日、休日	計	1日平均
4月	196	234	183	155	179	217	266	1,430	47.7
5月	166	169	170	235	201	235	393	1,569	50.6
6月	203	193	187	176	201	259	285	1,504	50.1
7月	211	244	226	206	226	239	350	1,702	54.9
8月	154	188	168	251	258	273	306	1,598	51.5
9月	130	183	192	169	185	218	404	1,481	49.4
10月	139	214	216	242	209	226	331	1,577	50.9
11月	157	180	169	178	256	295	266	1,501	50.0
12月	233	196	217	218	239	261	579	1,943	62.7
1月	151	162	162	183	201	276	655	1,790	57.7
2月	131	127	158	163	183	200	371	1,333	47.6
3月	242	165	187	112	211	248	328	1,493	48.2
合計	2,113	2,255	2,235	2,288	2,549	2,947	4,534	18,921	
平均	176.1	187.9	186.3	190.7	212.4	245.6	377.8	1,576.8	51.8
%	11.2	11.9	11.8	12.1	13.5	15.6	24.0	100.0	

## (7) 月別救急患者数

	入 院			外 来			合 計
	時間内	時間外	深 夜	時間内	時間外	深 夜	
4 月	( 114 ) 160	( 150 ) 256	( 77 ) 120	( 80 ) 216	( 163 ) 494	( 84 ) 184	( 668 ) 1,430
5 月	( 100 ) 144	( 130 ) 258	( 70 ) 124	( 112 ) 268	( 174 ) 574	( 81 ) 201	( 667 ) 1,569
6 月	( 99 ) 162	( 126 ) 237	( 70 ) 114	( 106 ) 252	( 213 ) 555	( 74 ) 184	( 688 ) 1,504
7 月	( 110 ) 167	( 146 ) 258	( 79 ) 121	( 133 ) 300	( 207 ) 643	( 96 ) 213	( 771 ) 1,702
8 月	( 106 ) 166	( 142 ) 251	( 86 ) 129	( 105 ) 282	( 200 ) 595	( 92 ) 175	( 731 ) 1,598
9 月	( 90 ) 131	( 111 ) 229	( 99 ) 137	( 101 ) 250	( 191 ) 533	( 94 ) 201	( 686 ) 1,481
10 月	( 110 ) 176	( 136 ) 251	( 87 ) 133	( 111 ) 251	( 178 ) 561	( 95 ) 205	( 717 ) 1,577
11 月	( 102 ) 163	( 138 ) 264	( 92 ) 119	( 106 ) 253	( 146 ) 509	( 69 ) 193	( 653 ) 1,501
12 月	( 133 ) 186	( 177 ) 311	( 94 ) 137	( 155 ) 315	( 232 ) 746	( 116 ) 248	( 907 ) 1,943
1 月	( 93 ) 162	( 160 ) 271	( 90 ) 126	( 111 ) 263	( 217 ) 759	( 82 ) 209	( 753 ) 1,790
2 月	( 93 ) 145	( 100 ) 194	( 63 ) 101	( 78 ) 191	( 152 ) 529	( 64 ) 173	( 550 ) 1,333
3 月	( 92 ) 151	( 141 ) 240	( 74 ) 110	( 110 ) 237	( 182 ) 546	( 108 ) 209	( 707 ) 1,493
合計	( 1,242 ) 1,913	( 1,657 ) 3,020	( 981 ) 1,471	( 1,308 ) 3,078	( 2,255 ) 7,044	( 1,055 ) 2,395	( 8,498 ) 18,921
1 日平均	( 3.4 ) 5.2	( 4.5 ) 8.3	( 2.7 ) 4.0	( 3.6 ) 8.4	( 6.2 ) 19.3	( 2.9 ) 6.6	( 23.3 ) 51.8

※ ( ) 内、救急車及びパトカーでの搬入件数再掲

## (8) 地域別救急患者数

地域		患者数	地域		患者数
名古屋市内	中村区	6,194	名古屋市以外	清須市	994
	中川区	2,961		津島市	297
	西区	1,143		北名古屋市	111
	北区	358		稲沢市	158
	中区	403		愛西市	152
	その他	1,283		あま市	2,252
	小計	12,342		その他	642
海部郡	大治町	1,265	西春日井郡	小計	4,606
	蟹江町	172		豊山町	4
	その他	2		その他	0
	小計	1,439		小計	4
			その他	県外	466
				不明	64

## 2. 栄養課

### (1) 食種別食数一覧

	一 般 食	5 ・ 7 分 粥	0 ・ 3 分 粥	糖 尿 食	*1 エ ネ コ ン	*2 蛋 白 コ ン	*3 脂 肪 コ ン	幼 児 食	鼻 腔 食	嚥 下 食	胃 切 術 後 食
4月	13,732	524	684	3,120	9,991	897	578	1,780	1,884	4,949	85
5月	13,501	612	964	3,694	10,452	891	647	1,938	2,041	4,746	186
6月	16,031	596	583	3,341	10,151	681	727	1,598	2,148	4,956	38
7月	17,041	605	594	3,146	9,812	807	544	1,864	2,020	6,040	89
8月	17,672	487	588	2,955	9,919	747	715	1,795	1,666	5,815	91
9月	16,929	489	546	2,831	9,614	602	414	1,425	1,372	5,262	157
10月	16,213	523	665	2,062	9,985	511	511	1,762	1,067	5,616	120
11月	15,570	561	526	2,590	10,820	436	619	1,645	1,533	5,722	122
12月	16,739	461	756	2,740	10,456	469	449	1,782	2,062	5,677	200
1月	15,842	497	655	2,341	10,440	671	495	1,775	1,791	6,421	2
2月	15,350	556	668	2,539	9,513	418	547	1,868	1,596	5,210	131
3月	16,781	714	633	2,506	10,218	905	522	2,310	1,820	5,854	109
総延食数	191,401	6,625	7,862	33,865	121,371	8,035	6,768	21,542	21,000	66,268	1,330
一食平均	175	6	7	31	111	7	6	20	19	61	1

### (2) 栄養部門加算算定数

	NST加算	個別栄養食事管理加算 (緩和)	早期栄養介入管理加算		周術期栄養管理実施加算
			早期経腸栄養	その他	
4月	26	8	308	283	287
5月	28	10	278	212	270
6月	17	9	279	243	226
7月	28	13	303	239	265
8月	23	9	314	209	241
9月	14	7	340	204	206
10月	14	8	298	308	245
11月	21	5	371	290	217
12月	11	1	384	310	243
1月	11	3	288	336	227
2月	22	4	232	379	228
3月	32	7	321	339	268
合 計	247	84	3,716	3,352	2,923
月平均	21	7	310	279	244

[ 単位＝食 ]

低 残 渣 食	腸 検 査 食	検 査 後 食	*4 B C 食	そ の 他	一 般 食	特 別 食	合 計
500	34	64	576	3,008	13,732	28,674	42,406
439	34	60	493	3,005	13,501	30,202	43,703
697	41	71	533	2,869	16,031	29,030	45,061
376	44	68	681	3,013	17,041	29,703	46,744
427	34	71	522	2,846	17,672	28,678	46,350
554	49	70	490	2,992	16,929	26,867	43,796
487	33	85	678	2,798	16,213	26,903	43,116
426	45	108	366	3,315	15,570	28,834	44,404
426	23	108	671	2,752	16,739	29,032	45,771
401	34	91	474	2,722	15,842	28,810	44,652
372	37	76	561	2,313	15,350	26,405	41,755
294	45	92	486	2,556	16,781	29,064	45,845
5,399	453	964	6,531	34,189	191,401	342,202	533,603
5	0	1	6	31	175	313	488

\*1:エネルギーコントロール食 \*2: 蛋白コントロール食 \*3: 脂肪コントロール食 \*4: パーセンタース食

### (3) 栄養指導集計表

【 個人指導 】

[ 単位=件 ]

		糖 尿 病 食	心 臓 病 食	脂 質 異 常 症	腎 臓 病 食	胃 切 術 後 食	潰 瘍 食	低 残 渣 食	痛 風 食	肝 臓 食	そ の 他	合 計
入 院	5 年度	415	357	160	94	93	112	17	1	46	1,570	2,865
	6 年度	339	439	183	72	97	117	9	1	44	2,404	3,705
外 来	5 年度	290	41	47	124	34	1	3	2	19	361	922
	6 年度	242	65	54	137	36	0	1	0	20	362	917
合 計	5 年度	705	398	207	218	127	113	20	3	65	1,931	3,787
	6 年度	581	504	237	209	133	117	10	1	64	2,766	4,622

【 集団指導 】

[ 単位=人 ]

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病	5 年度	0	0	2	2	5	2	5	0	3	3	0	5	27
	6 年度	0	5	0	4	6	2	0	4	4	2	2	7	36

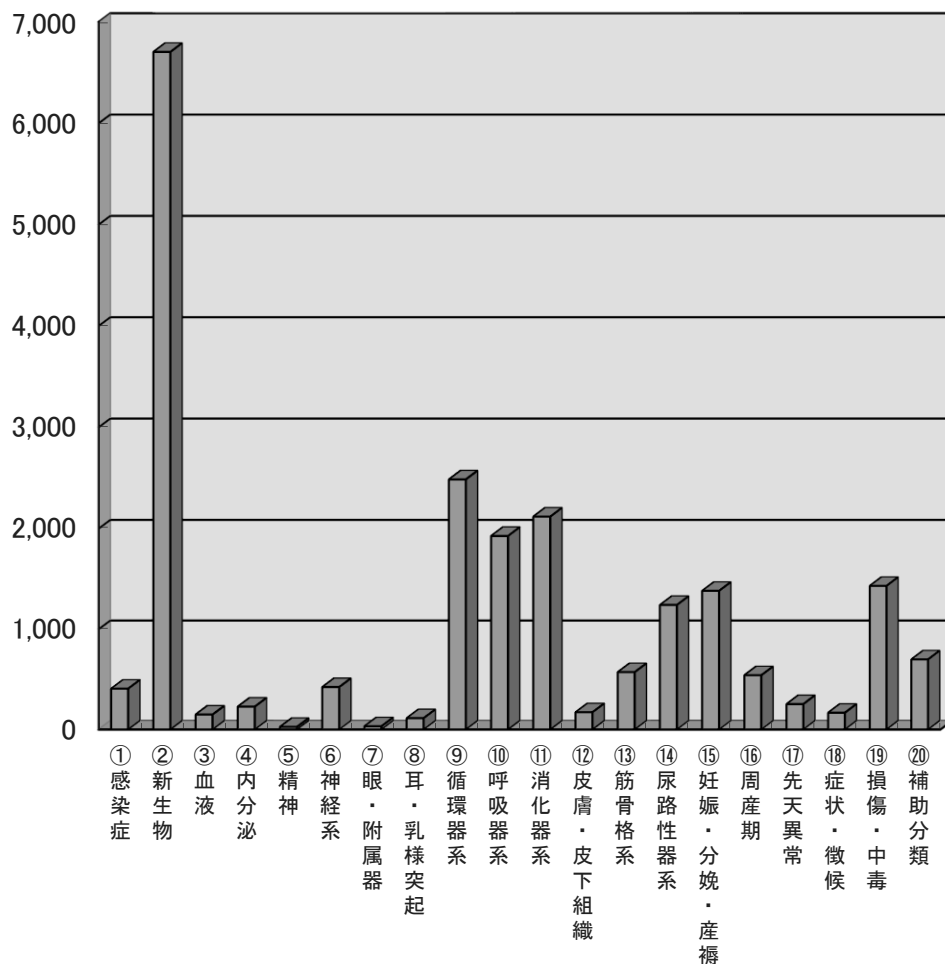
### 3. 診療情報管理課

#### 退院患者に関する諸統計

##### (1) 大分類別退院患者数

##### <基準>

- ・2024/4/1～2025/3/31 退院
- ・患者数⇒延人数
- ・退院時診療科



国際大分類	患者数	国際大分類	患者数
①感染症	407	⑪消化器系	2,119
②新生物	6,705	⑫皮膚・皮下組織	172
③血液	149	⑬筋骨格系	572
④内分泌	228	⑭尿路性器系	1,242
⑤精神	26	⑮妊娠・分娩・産褥	1,383
⑥神経系	423	⑯周産期	541
⑦眼・附属器	32	⑰先天異常	253
⑧耳・乳様突起	113	⑱症状・徴候	167
⑨循環器系	2,486	⑲損傷・中毒	1,432
⑩呼吸器系	1,928	⑳補助分類	699
合計		21,077	

## (2) 大分類別退院患者数の推移(直近10年間)

※「2015」から「2022」までは各年1月から12月までの患者数、「2023」は2023年1月から2024年3月までの患者数、「2024」以降は各年4月から翌年3月までの患者数です。

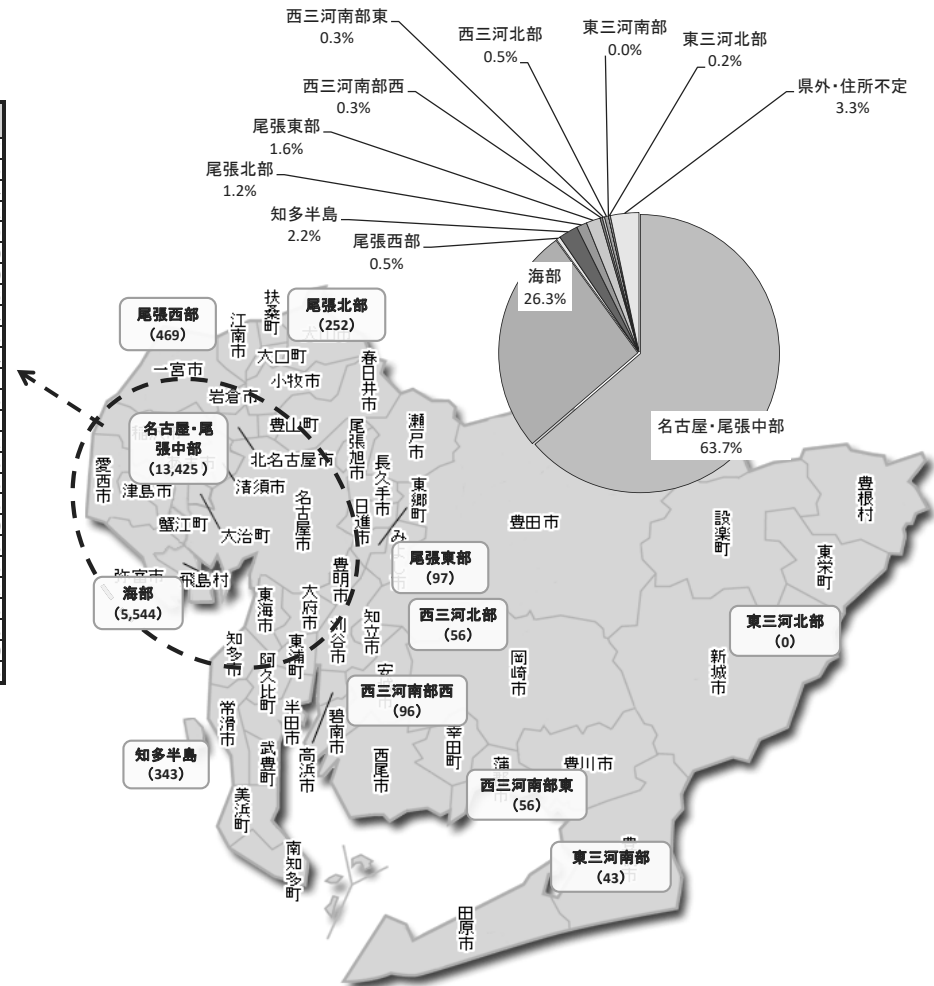
大分類 / 年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
①感染症	463	429	390	369	410	324	289	296	410	407
②新生物	6,557	6,786	6,758	7,088	6,879	6,413	6,575	6,547	8,138	6,705
③血液	175	182	164	167	159	121	133	115	173	149
④内分泌	306	342	346	331	321	259	277	256	245	228
⑤精神	6	19	20	16	17	17	14	20	22	26
⑥神経系	463	422	432	493	521	463	366	388	492	423
⑦眼および 付属器	27	48	40	56	53	31	27	31	48	32
⑧耳・乳様 突起	177	154	148	155	151	139	157	148	133	113
⑨循環器系	2,738	2,799	2,826	2,762	2,661	2,511	2,397	2,280	2,882	2,486
⑩呼吸器系	1,811	1,708	1,747	1,842	1,754	1,138	1,196	1,131	1,870	1,928
⑪消化器系	2,043	2,033	1,993	2,142	2,066	1,913	2,050	1,875	2,497	2,119
⑫皮膚・ 皮下組織	197	165	155	180	175	154	125	111	184	172
⑬筋骨格系	496	518	514	553	604	574	462	441	605	572
⑭尿路性器系	1,233	1,292	1,254	1,198	1,330	1,214	1,176	1,219	1,410	1,242
⑮妊娠・ 分娩・産褥	2,044	2,013	1,841	1,771	1,729	1,540	1,460	1,419	1,781	1,383
⑯周産期	659	629	543	643	641	554	551	573	688	541
⑰先天異常	223	221	261	256	244	194	216	230	330	253
⑱症状・ 診断不明確	93	138	135	198	214	123	173	170	231	167
⑲損傷・中毒	1,083	1,148	1,173	1,309	1,261	1,079	1,076	1,113	1,483	1,432
⑳補助分類	545	437	460	419	357	430	520	548	832	699
合 計	21,339	21,483	21,200	21,948	21,547	19,191	19,240	18,911	24,454	21,077



### (3) 住所別退院患者数

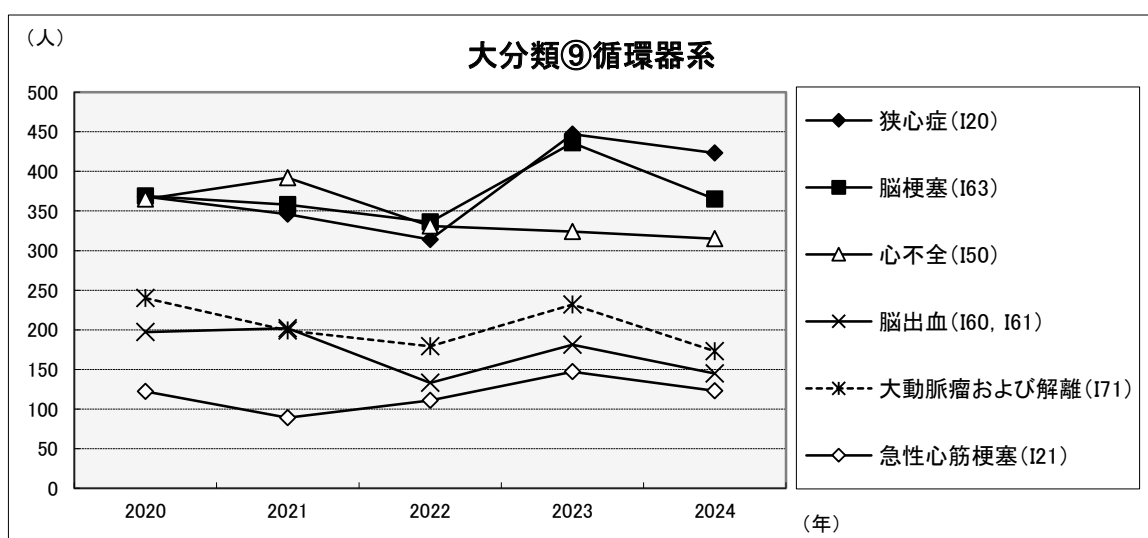
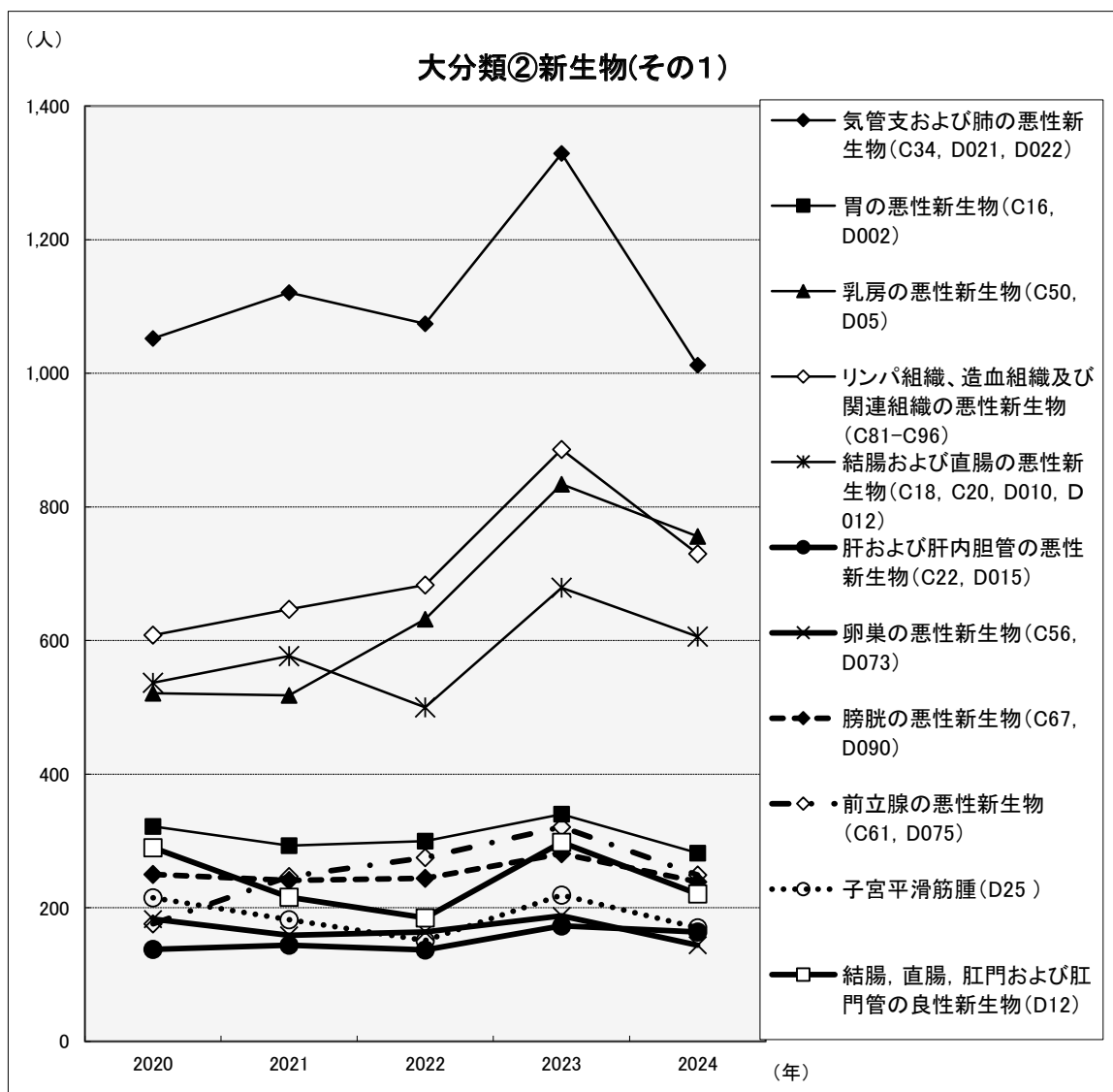
県内・外	二次医療圏	合計	① 感染症	② 新生児	③ 血液	④ 内分泌	⑤ 精神	⑥ 神経系	⑦ 眼および付属器	⑧ 耳・乳・鼻突起	⑨ 循環器系	⑩ 呼吸器系	⑪ 消化器系	⑫ 皮膚・皮下組織	⑬ 筋骨格系	⑭ 尿路性器系	⑮ 妊娠・分娩・産褥	⑯ 周産期	⑰ 先天異常	⑱ 症状・診断不明確	⑲ 損傷・中毒	⑳ 補助分類
県内	名古屋・尾張中部	13,425	266	4,024	100	161	14	286	21	80	1,606	1,289	1,359	123	395	761	873	314	147	117	998	491
	海部	5,544	122	2,000	42	53	8	103	10	18	671	528	617	33	138	334	219	84	53	41	319	151
	尾張東部	97		36		1				1	5	4	5	1		11	13	6	7	1	4	2
	尾張西部	469	6	178	2	2		10		1	31	43	34	3	9	35	46	25	7		25	12
	尾張北部	252	1	66	1	1		4			20	17	26	2	5	16	36	28	7	1	18	3
	知多半島	343	2	97	2	3	1	7			59	11	21	1	10	11	59	33	6	1	12	7
	西三河北部	56	1	27	1	1		4		1	3	2	1	1	2	4	3		3			2
	西三河南部東	56		29				2			5		1			3	7	2			1	3
	西三河南部西	96	1	32				2	1		6	5	7	1	1	5	20	3	2		6	4
	東三河北部	0																				
	東三河南部	43		9			1	1			1		3			5	4	1	1		17	
	小計	20,381	399	6,498	148	222	24	419	32	101	2,407	1,899	2,074	165	560	1,185	1,280	496	236	161	1,400	675
県外	岐阜	209	1	76	1	2	1	2			24	9	14	3	6	24	17	6	7	2	7	7
	三重	231	4	95						9	31	9	16	1	6	25	11	2	3	1	10	8
	静岡	25		3							2	1		1		1	7	4	3		1	2
	その他	212	3	33		4		1		3	19	8	15	2		7	64	30	4	1	11	7
	住所不定	19					1	1			3	2					4	3		2	3	
	小計	696	8	207	1	6	2	4	0	12	79	29	45	7	12	57	103	45	17	6	32	24
総計		21,077	407	6,705	149	228	26	423	32	113	2,486	1,928	2,119	172	572	1,242	1,383	541	253	167	1,432	699

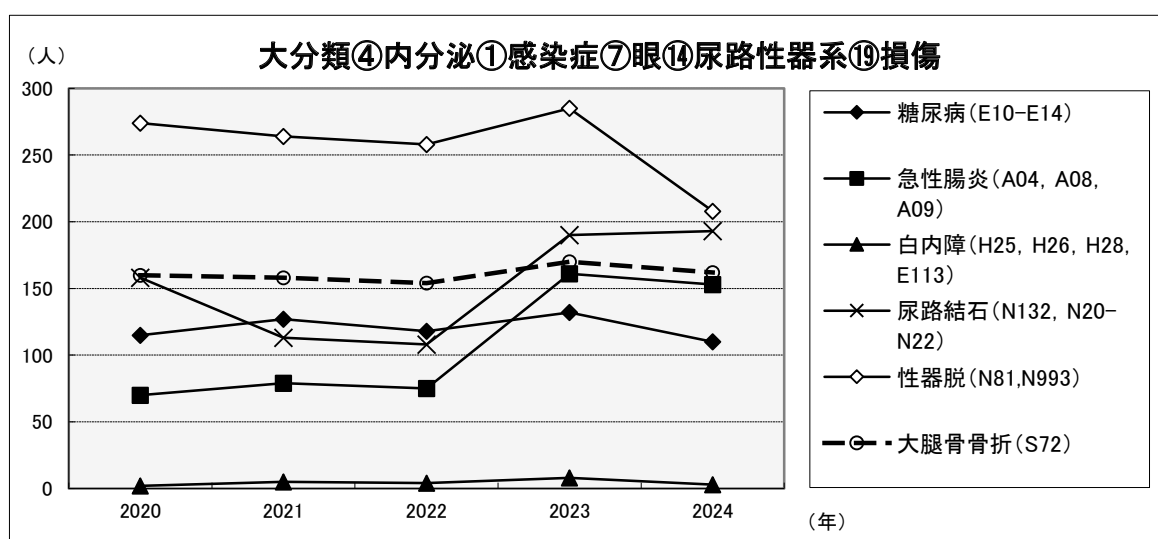
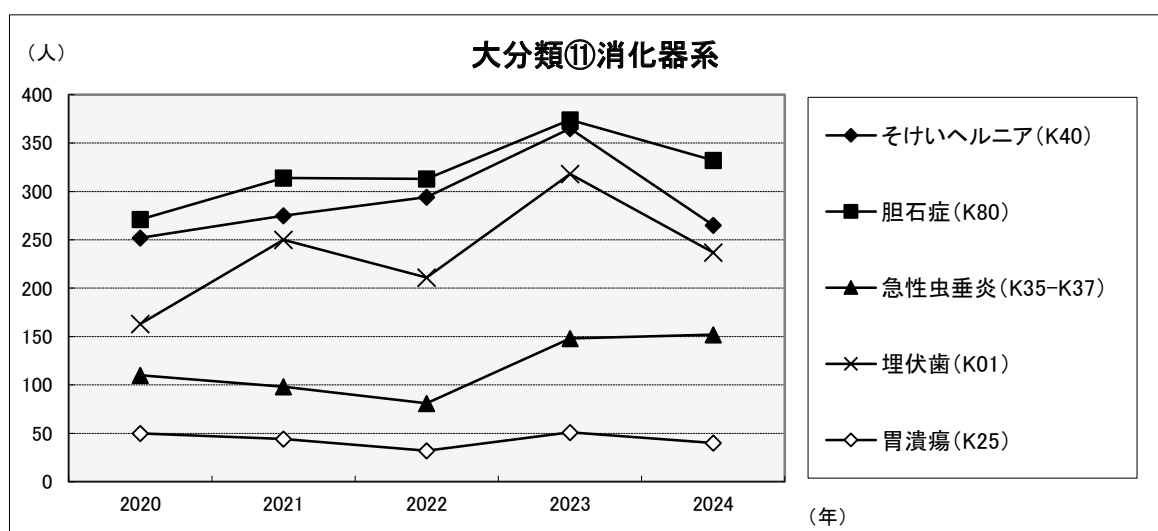
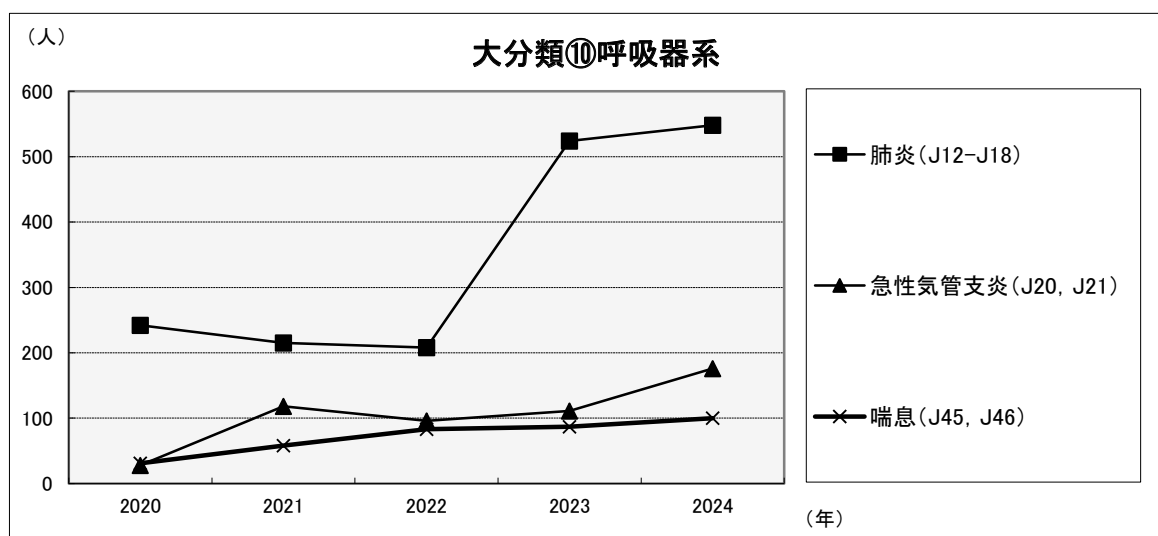
二次医療圏	地区	延人数
名古屋・尾張中部	中村区	5,427
	中川区	3,245
	西区	1,224
	港区	372
	中区	369
	北区	280
	緑区	100
	千種区	166
	熱田区	134
	守山区	93
	名東区	94
	南区	61
	東区	143
	瑞穂区	61
	天白区	72
海部	昭和区	98
	清須市	1,238
	北名古屋市	238
	豊山町	10
	あま市	2,788
	大治町	1,455
	津島市	552
	愛西市	333
	蟹江町	318
	弥富市	90
	飛島村	8



#### (4) 主要疾患別退院患者数の推移（直近5年間）

※ 「2020」から「2022」までは各年1月から12月までの患者数、「2023」は2023年1月から2024年3月までの患者数、「2024」以降は各年4月から翌年3月までの患者数です。





## (5) 診療科別上位疾患別科別退院患者数及び平均在院日数

(上段：患者数、下段：平均在院日数)

診療科	1 病名		2 病名		3 病名		4 病名		5 病名	
総合診療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0		0.0		0		0		0
化学療法内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
呼吸器内科	C34：気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	704	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	110	J84：その他の間質性肺疾患	106	J69：固形物及び液状物による肺臓炎	86	J18：肺炎、病原体不詳	57
		12.8		13.0		18.3		19.4		12.9
循環器内科	I20：狭心症	360	I50：心不全	284	I48：心房細動及び粗動	260	I21：急性心筋梗塞	109	T82：心臓及び血管のプロステシス、挿入物及び移植片の合併症	49
		3.4		21.4		4.5		14.3		6.9
消化器内科	D12：結腸、直腸、肛門及び肛門管の良性新生物＜腫瘍＞	220	K80：胆石症	214	C25：膵の悪性新生物＜腫瘍＞	185	C16：胃の悪性新生物＜腫瘍＞	176	G22：肝及び肝内胆管の悪性新生物＜腫瘍＞	141
		2.7		12.0		16.6		13.8		13.4
脳神経内科	I63：脳梗塞	338	I61：脳内出血	92	G20：パーキンソン＜Parkinson＞病	44	G40：てんかん	43	J69：固形物及び液状物による肺臓炎	33
		18.0		23.0		23.0		17.2		24.8
血液内科	C83：非ろく濾＞胞性リンパ腫	197	C92：骨髄性白血病	133	C91：リンパ性白血病	97	C90：多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物＜腫瘍＞	62	D46：骨髄異形成症候群	54
		20.8		39.1		32.1		22.6		34.5
内分泌内科	E11：2型＜インスリン非依存性＞糖尿病＜NIDDM＞	81	E87：その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	17	J69：固形物及び液状物による肺臓炎	17	E10：1型＜インスリン依存性＞糖尿病＜IDDM＞	15	E27：その他の副腎障害	7
		12.1		13.8		18.4		8.7		7.7
腎臓内科	N18：慢性腎不全	145	N04：ネフローゼ症候群	27	N02：反復性及び持続性血尿	23	N10：急性尿管管間質性腎炎	17	U07：エマーゼンシーコードU07	15
		13.2		10.0		3.4		11.2		15.4
一般消化器外科	C18：結腸の悪性新生物＜腫瘍＞	256	K40：そけい＜鼠径＞ヘルニア	178	C20：直腸の悪性新生物＜腫瘍＞	127	K80：胆石症	117	C16：胃の悪性新生物＜腫瘍＞	102
		11.9		2.9		16.2		6.5		13.8
血管外科	I70：アテローム＜じゅく＞粥＞状＞硬化(症)	78	I71：大動脈瘤及び解離	48	I83：下肢の静脈瘤	34	I72：その他の動脈瘤及び解離	20	T82：心臓及び血管のプロステシス、挿入物及び移植片の合併症	6
		7.7		12.6		2.0		9.0		3.2
乳腺外科	C50：乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	669	D05：乳房の上皮内癌	61	D24：乳房の良性新生物＜腫瘍＞	22	C82：ろく濾＞胞性リンパ腫	3	L03：蜂巣炎＜蜂窩織炎＞	2
		6.7		7.3		3.0		2.0		6.0
呼吸器外科	C34：気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	287	J93：気胸	97	C78：呼吸器及び消化器の続発悪性新生物＜腫瘍＞	33	S27：その他及び詳細不明の胸腔内臓器の損傷	25	J86：膿胸(症)	22
		10.0		7.2		7.7		12.5		24.2
小児外科	K40：そけい＜鼠径＞ヘルニア	86	K42：臍ヘルニア	36	Q53：停留精巣＜辜丸＞	36	Q43：腸のその他の先天奇形	14	K35：急性虫垂炎	11
		2.3		3.0		3.0		6.4		10.3
心臓血管外科	I71：大動脈瘤及び解離	107	I34：非リウマチ性僧帽弁障害	92	I35：非リウマチ性大動脈弁障害	69	I20：狭心症	62	I08：連合弁膜症	19
		17.2		10.3		11.5		13.0		16.2
産婦人科	O70：分娩における会陰裂傷＜laceration＞	534	O25：子宮平滑筋腫	170	O34：既知の母体骨盤臓器の異常又はその疑いのための母体ケア	153	Z39：分娩後のケア及び検査	148	O56：卵巣の悪性新生物＜腫瘍＞	140
		7.6		6.9		10.6		3.4		9.1
小児科	P07：妊娠期間短縮及び低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの	277	T78：有害作用、他に分類されないもの	179	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	100	J20：急性気管支炎	96	J18：肺炎、病原体不詳	84
		40.4		1.2		4.9		4.6		5.4
整形外科	S72：大腿骨骨折	162	Z47：その他の整形外科的経過観察＜フォローアップ＞ケア	153	S52：前腕の骨折	139	M48：その他の脊椎障害	118	S42：肩及び上腕の骨折	95
		16.7		2.4		2.8		13.2		7.3
脳神経外科	S06：頭蓋内損傷	142	I60：くも膜下出血	36	I67：その他の脳血管疾患	32	C71：脳の悪性新生物＜腫瘍＞	24	I63：脳梗塞	24
		12.9		34.2		8.7		21.3		30.9
泌尿器科	C61：前立腺の悪性新生物＜腫瘍＞	238	C67：膀胱の悪性新生物＜腫瘍＞	130	N20：腎結石及び尿管結石	107	Z03：疾病及び病態の疑いに対する医学的観察及び評価	102	D09：その他及び部位不明の上皮内癌	91
		6.9		10.1		8.8		2.8		4.8
女性泌尿器科	N81：女性性器脱	185	N99：腎尿路生殖器系の処置後障害、他に分類されないもの	23	D09：その他及び部位不明の上皮内癌	15	N39：尿路系のその他の障害	11	Z03：疾病及び病態の疑いに対する医学的観察及び評価	11
		5.1		4.9		4.7		3.0		3.1
耳鼻咽喉科	J32：慢性副鼻腔炎	57	J03：急性扁桃炎	53	J35：扁桃及びアデノイドの慢性疾患	52	J36：扁桃周囲膿瘍	40	H65：非化膿性中耳炎	27
		6.2		8.2		7.6		6.8		3.2
眼科	H25：老人性白内障	2	E11：2型＜インスリン非依存性＞糖尿病＜NIDDM＞	1	T81：処置の合併症、他に分類されないもの	1	H59：眼及び付属器の処置後障害、他に分類されないもの	1	0	0
		4.5		2.0		2.0		2.0		0.0
皮膚科	L03：蜂巣炎＜蜂窩織炎＞	27	B02：帯状疱疹〔帯状ヘルペス〕	13	C44：皮膚のその他の悪性新生物＜腫瘍＞	10	L12：類天疱瘡	8	L27：摂取物質による皮膚炎	7
		13.0		14.6		8.3		55.6		8.0
形成外科	D17：良性脂肪腫性新生物＜腫瘍＞(脂肪腫を含む)	31	H02：眼瞼のその他の障害	23	C50：乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	16	L72：皮膚及び皮下組織の毛包のうく囊＞胞	11	L75：アポクリン汗腺の障害	6
		3.1		3.1		7.9		3.4		5.5
歯科口腔外科	K01：埋伏歯	237	K07：歯顎顔面(先天)異常〔不正咬合を含む〕	33	K09：口腔部のうく囊＞胞、他に分類されないもの	30	C02：舌のその他及び位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	24	K10：顎骨のその他の疾患	20
		2.1		9.5		3.6		14.9		6.6

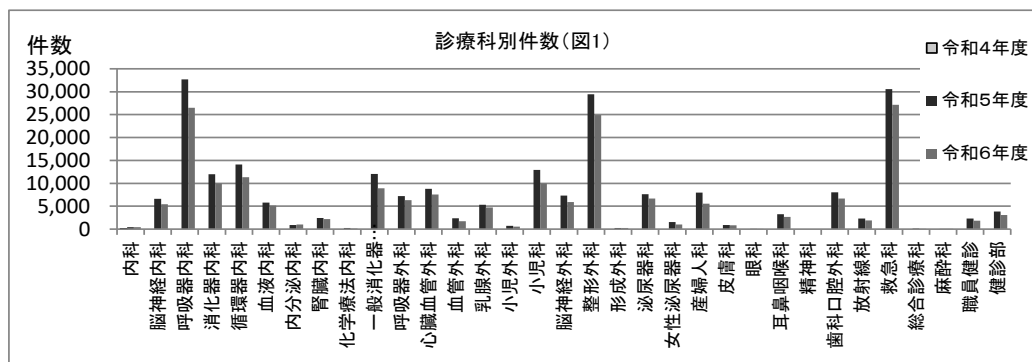
診療科	6 病名		7 病名		8 病名		9 病名		10 病名	
総合診療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0		0.0		0.0		0.0		0
内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0		0		0		0		0
化学療法内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
呼吸器内科	J93：気胸	44	J44：その他の慢性閉塞性肺炎患	40	A31：その他の非結核性抗酸菌による感染症	27	Z03：疾病及び病態の疑いに対する医学的観察及び評価	25	J46：喘息発作重積状態	22
		12.9		14.9		5.6		3.9		9.3
循環器内科	I44：房室ブロック及び左脚ブロック	47	I35：非リウマチ性大動脈弁障害	34	I49：その他の不整脈	34	I47：発作性頻拍(症)	34	I71：大動脈瘤及び解離	17
		11.3		11.3		14.7		9.1		20.6
消化器内科	C15：食道の悪性新生物<腫瘍>	136	K57：腸の憩室性疾患	120	C18：結腸の悪性新生物<腫瘍>	119	C20：直腸の悪性新生物<腫瘍>	57	K70：アルコール性肝疾患	51
		11.5		8.2		11.1		8.9		14.5
脳神経内科	G45：一過性脳虚血発作及び関連症候群	26	G61：炎症性多発(性)ニューロパチ<シ>ー	18	G03：その他及び詳細不明の原因による髄膜炎	13	B02：帯状疱疹〔帯状ヘルペス〕	12	U07：エマーゼンシーコードU07	11
		9.5		23.5		11.8		15.8		29.0
血液内科	C82：ろく漣>胞性リンパ腫	33	D69：紫斑病及びその他の出血性病態	23	C84：成熟T/NK細胞リンパ腫	21	J69：固形物及び液状物による肺臓炎	21	U07：エマーゼンシーコードU07	20
		20.5		16.3		15.7		27.0		12.6
内分泌内科	U07：エマーゼンシーコードU07	6	E05：甲状腺中毒症〔甲状腺機能亢進症〕	6	N39：尿路系のその他の障害	5	C73：甲状腺の悪性新生物<腫瘍>	4	I50：心不全	4
		17.5		15.0		11.4		40.0		12.0
腎臓内科	J69：固形物及び液状物による肺臓炎	11	N17：急性腎不全	10	T82：心臓及び血管のプロステーシス、挿入物及び移植片の合併症	9	J18：肺炎、病原体不詳	8	M31：その他のえく壊>死性血管障害	8
		20.6		10.9		6.4		23.0		12.5
一般消化器外科	K35：急性虫垂炎	92	K91：消化器系の処置後障害、他に分類されないもの	87	C19：直腸S状結腸移行部の悪性新生物<腫瘍>	50	C25：膵の悪性新生物<腫瘍>	45	K56：麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	25
		9.3		12.6		11.5		21.2		10.0
血管外科	I74：動脈の塞栓症及び血栓症	4	T81：処置の合併症、他に分類されないもの	3	I77：動脈及び細動脈のその他の障害	2	S75：股関節部及び大腿の血管損傷	1	N18：慢性腎不全	1
		10.8		10.7		2.0		2.0		2.0
乳腺外科	J69：固形物及び液状物による肺臓炎	2	U07：エマーゼンシーコードU07	2	T81：処置の合併症、他に分類されないもの	2	C77：リンパ節の結核性及び部位不明の悪性新生物<腫瘍>	2	C73：甲状腺の悪性新生物<腫瘍>	2
		18.5		2.0		4.5		7.0		9.5
呼吸器外科	C37：胸腺の悪性新生物<腫瘍>	16	D02：中耳及び呼吸器系の上皮内癌	13	Z03：疾病及び病態の疑いに対する医学的観察及び評価	12	J84：その他の間質性肺疾患	7	J85：肺及び縦隔の腫瘍	7
		6.6		7.2		7.1		10.9		13.7
小児外科	N43：精巣<辜丸>水腫及び精液瘤	8	Q40：上部消化管のその他の先天奇形	5	Q44：胆のう<嚢>、胆管及び肝の先天奇形	4	D18：血管腫及びリンパ管腫、全ての部位	4	Q18：顔面及び頸部のその他の先天奇形	3
		2.1		6.0		14.5		2.3		4.3
心臓血管外科	I21：急性心筋梗塞	13	I50：心不全	10	T81：処置の合併症、他に分類されないもの	9	Q21：心(臓)中隔の先天奇形	8	I33：急性及び亜急性心内膜炎	7
		33.5		18.9		36.1		7.3		25.1
産婦人科	C54：子宮体部の悪性新生物<腫瘍>	139	C53：子宮頸部の悪性新生物<腫瘍>	128	O27：卵巣の良性新生物<腫瘍>	115	O68：胎児ストレス〔仮死<ジストレス>〕を合併する分娩	109	O60：切迫早産及び早産	86
		8.3		10.9		6.1		12.4		21.4
小児科	C91：リンパ性白血病	78	P22：新生児の呼吸窮<促>迫	77	U21：急性細気管支炎	68	P59：その他及び詳細不明の原因による新生児黄疽	67	J12：ウイルス肺炎、他に分類されないもの	67
		33.0		9.7		5.6		3.4		5.1
整形外科	S82：下腿の骨折、足首を含む	76	S32：腰椎及び骨盤の骨折	70	M51：その他の椎間板障害	49	M17：膝関節症〔膝の関節症〕	48	M47：脊椎症	43
		9.5		12.5		5.9		18.3		14.3
脳神経外科	I61：脳内出血	16	D32：髄膜の良性新生物<腫瘍>	15	G40：てんかん	15	I65：脳実質外動脈(脳底動脈、頸動脈、椎骨動脈)の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	11	Q76：脊柱及び骨性胸郭の先天奇形	8
		21.9		16.2		12.5		9.7		6.6
泌尿器科	N13：閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	75	C64：腎盂を除く腎の悪性新生物<腫瘍>	74	C65：腎盂の悪性新生物<腫瘍>	49	N10：急性尿細管間質性腎炎	40	N40：前立腺肥大(症)	32
		10.9		10.3		9.3		12.1		7.3
女性泌尿器科	C61：前立腺の悪性新生物<腫瘍>	9	C67：膀胱の悪性新生物<腫瘍>	5	C66：尿管の悪性新生物<腫瘍>	3	T81：処置の合併症、他に分類されないもの	3	C65：腎盂の悪性新生物<腫瘍>	3
		4.2		10.0		2.7		5.0		4.3
耳鼻咽喉科	C32：喉頭の悪性新生物<腫瘍>	25	J34：鼻及び副鼻腔のその他の障害	22	C73：甲状腺の悪性新生物<腫瘍>	21	H71：中耳真珠腫	20	D11：大唾液腺の良性新生物<腫瘍>	20
		18.2		5.8		10.1		11.7		7.2
眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
皮膚科	D17：良性脂肪腫性新生物<腫瘍>(脂肪腫を含む)	6	L63：円形脱毛症	4	L10：天疱瘡	4	L51：多形紅斑	3	D04：皮膚の上皮内癌	2
		2.5		3.0		28.3		8.0		9.0
形成外科	Q17：耳のその他の先天奇形	6	C44：皮膚のその他の悪性新生物<腫瘍>	5	L89：じょく<瘡>瘍性潰瘍及び圧迫領域	4	D22：メラニン細胞性母斑	4	D18：血管腫及びリンパ管腫、全ての部位	4
		2.8		8.2		19.8		3.5		6.8
歯科口腔外科	K04：歯髄及び根尖部歯周組織の疾患	20	C03：歯肉の悪性新生物<腫瘍>	19	K05：歯肉炎及び歯周疾患	17	S02：頭蓋骨及び顔面骨の骨折	15	K11：唾液腺疾患	9
		3.0		25.5		2.1		6.3		4.7

## 4. 放射線科部

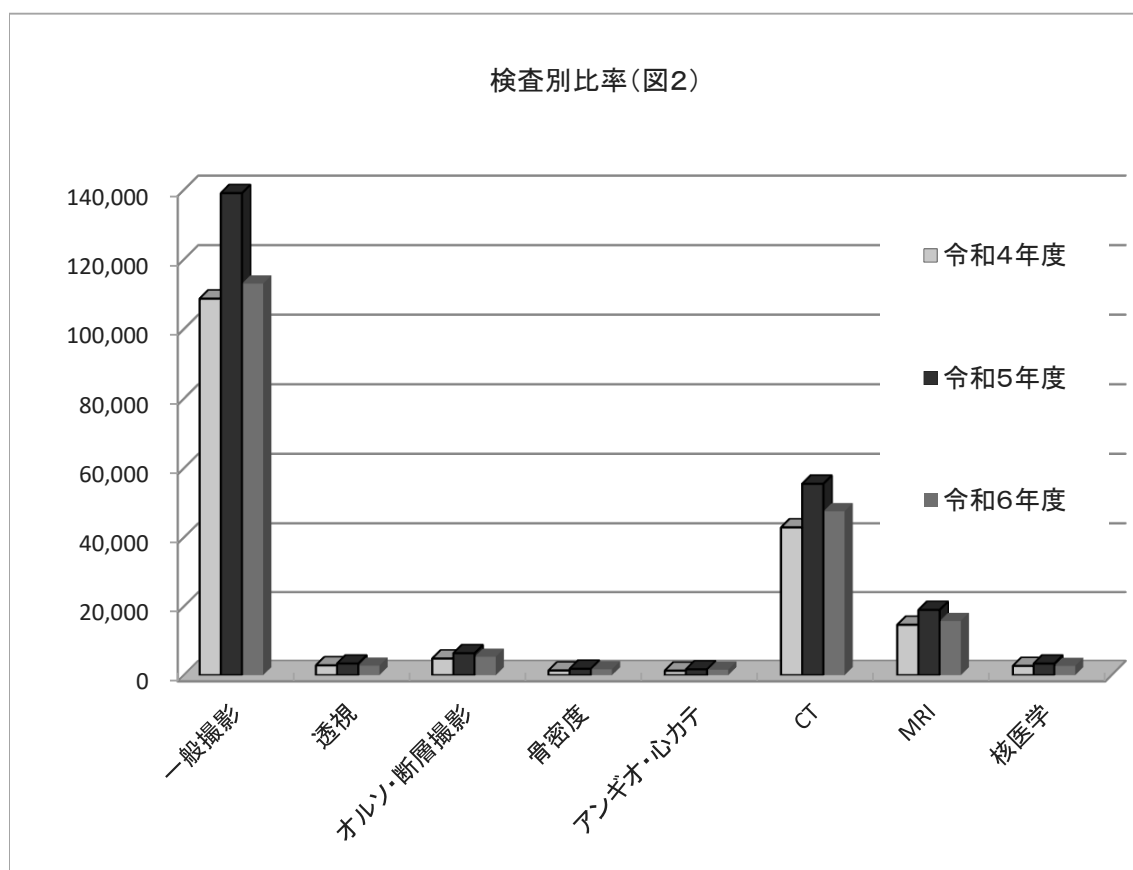
### (1) 診療科別被検者数 (外来＋入院)

検査種	一般撮影			透視撮影			オルソ・断層撮影			骨密度			アンギオ・心カテ		
科名／年度	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6
内科	156	238	204	2		1		2		1			9	1	
脳神経内科	1,156	1,804	1,490	6	21	19	1			32	36	36			
呼吸器内科	15,564	23,275	19,182	38	54	41				10	25	9	2	2	
消化器内科	2,350	2,741	2,142	329	443	426				6	19	8	25	38	44
循環器内科	9,171	10,842	8,338	2	2					3	7	5	810	1,148	1,166
血液内科	2,563	2,827	2,501	192	324	239				159	205	190		1	
内分泌内科	232	263	355		1					35	41	45			
腎臓内科	1,524	1,799	1,589	16	25	79				61	61	84	5	5	14
化学療法内科	165	201	92		1										
一般消化器外科	6,176	7,064	5,367	689	695	377						1	11	9	3
呼吸器外科	3,772	4,839	4,300	10	7	3						1		1	2
心臓血管外科	6,093	7,457	6,419										63	70	68
血管外科	888	1,072	760	2	3	2							179	194	142
乳腺外科	2,667	3,379	2,956		3	4				335	497	458	1	1	
小児外科	533	611	431	75	89	60									
小児科	9,209	11,197	8,769	37	60	34	12	21	1	66	74	60	19	20	10
脳神経外科	1,427	1,764	1,388	9	18	8							135	140	101
整形外科	19,232	24,565	20,500	202	238	195				519	664	646	1		1
形成外科	87	93	88												
泌尿器科	2,789	3,254	2,734	675	806	807				1	1	4	1	5	2
女性泌尿器科	988	1,109	692	27	12	15				1	2	1			
産婦人科	4,027	5,047	3,324	34	42	38				13	33	28	12	21	10
皮膚科	293	376	405		2	6				18	42	32			
眼科	9	10	2												
耳鼻咽喉科	899	1,161	890	12	9	4		3	2						
精神科															
歯科口腔外科	753	913	777	27	29	25	4,804	6,314	5,282						
放射線科	44	54	64	3		1	1			1			5	10	9
救急科	12,308	16,415	13,544	11	21	13	29	40	57				23	44	25
総合診療科	56	63	61							3	7	2			
麻酔科	52	57	71											1	2
職員健診	1,682	2,330	1,843												
健診部	1,897	2,263	1,818	469	482	374				102	153	107			
合計	108,762	139,083	113,096	2,867	3,387	2,771	4,847	6,380	5,342	1,366	1,867	1,717	1,301	1,711	1,599

CT			MRI			核医学（SPECT・シンチ）			核医学（PET）			合計			検査種
R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	R4	R5	R6	科名／年度
124	196	187	4	1	11							296	438	403	内科
1,161	1,523	1,055	1,980	2,819	2,556	320	411	264	4	3	11	4,660	6,617	5,431	脳神経内科
5,533	7,315	5,837	1,056	1,374	964	2	2	5	485	614	475	22,690	32,661	26,513	呼吸器内科
5,116	6,340	5,304	1,594	2,275	1,975	13	8	3	89	125	72	9,522	11,989	9,974	消化器内科
1,395	1,774	1,520	51	55	62	256	294	248	2	4	3	11,690	14,126	11,342	循環器内科
1,445	2,012	1,786	119	206	182			1	199	236	226	4,677	5,811	5,125	血液内科
360	442	463	77	134	130	29	37	35				733	918	1,028	内分泌内科
405	523	380	20	33	37	2	1					2,033	2,447	2,183	腎臓内科
52	62	44	1	1	2	1	2		1	3	1	220	270	139	化学療法内科
3,350	4,034	3,010	133	150	125	6	2		56	60	58	10,421	12,014	8,941	一般消化器外科
1,685	2,145	1,818	100	106	77		1	1	58	99	95	5,625	7,198	6,297	呼吸器外科
994	1,271	1,098	13	16	5	3	2					7,166	8,816	7,590	心臓血管外科
930	1,086	814	22	21	4							2,021	2,376	1,722	血管外科
673	857	731	98	171	219	289	348	332	20	35	36	4,083	5,291	4,736	乳腺外科
6	17	10	7	8	15		1	2				621	726	518	小児外科
464	607	395	672	869	654	65	66	41	14	26	16	10,558	12,940	9,980	小児科
1,600	1,952	1,637	2,789	3,409	2,779	10	40	13	1	4	5	5,971	7,327	5,931	脳神経外科
1,296	1,835	1,868	1,663	2,111	1,712	1	3	1	1	2	1	22,915	29,418	24,924	整形外科
29	42	40	79	114	96							195	249	224	形成外科
2,155	2,716	2,404	522	550	448	214	268	228	15	21	22	6,372	7,621	6,649	泌尿器科
224	263	220	81	104	53	18	27	10		1		1,339	1,518	991	女性泌尿器科
1,325	1,694	1,327	840	1,099	809	1	1	1	29	31	33	6,281	7,968	5,570	産婦人科
221	281	288	113	171	127				1	2	3	646	874	861	皮膚科
11	12	9	47	76	48							67	98	59	眼科
1,268	1,671	1,409	374	395	325	1			49	34	35	2,603	3,273	2,665	耳鼻咽喉科
												0	0	0	精神科
530	701	496	34	44	36		2	1	42	59	45	6,190	8,062	6,662	歯科口腔外科
1,192	1,435	1,188	574	725	566	13	9	11	47	60	37	1,880	2,293	1,876	放射線科
9,259	12,507	12,116	1,281	1,550	1,389							22,911	30,577	27,144	救急科
14	42	30	2	2								75	114	93	総合診療科
1		2										53	58	75	麻酔科
												1,682	2,330	1,843	職員健診
121	150	124	309	386	352				341	423	324	3,239	3,857	3,099	健診部
42,939	55,505	47,610	14,655	18,975	15,758	1,244	1,525	1,197	1,454	1,842	1,498	179,435	230,275	190,588	合計



## (2) 年度別検査項目別件数



年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般撮影	108,762	139,083	113,096
透視	2,867	3,387	2,771
オルソ・断層撮影	4,847	6,380	5,342
骨密度	1,366	1,867	1,717
アンギオ・心カテ	1,301	1,711	1,599
CT	42,939	55,505	47,610
MRI	14,655	18,975	15,758
核医学	2,698	3,367	2,695

## (3) 年度別放射線治療患者数

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
3DCRT	551	640	483
強度変調放射線治療(IMRT)	96	170	129
定位照射(SRS, SRT)	56	60	46
全身照射(TBI)	27	41	28



## 5. 病理部・細胞診分子病理診断部

### (1) 診療科別生検検体数

診療科名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
内科	0	1	3
消化器内科	3,510	3,438	3,810
血液内科	972	984	885
呼吸器内科	526	553	531
循環器内科	20	17	27
内分泌内科	1	1	0
脳神経内科	1	1	0
腎臓内科	30	31	34
小児科	376	298	239
一般・消化器外科	653	563	572
小児外科	42	51	54
心臓血管外科	37	23	31
呼吸器外科	499	552	535
乳腺外科	1,229	1,096	1,379
産婦人科	1,755	1,785	1,721
泌尿器科	564	530	682
女性泌尿器科	217	228	136
脳神経外科	144	129	134
整形外科	66	82	94
皮膚科	882	1,087	1,226
形成外科	171	206	280
耳鼻咽喉科	546	507	518
歯科口腔外科	487	499	512
血管外科	2	4	7
眼科	1	2	3
救急科	6	4	3
総合診療科	0	0	0
健診部	0	0	0
化学療法内科	0	0	0
合計	12,737	12,672	13,416

### (2) 病理特殊検査検体数

特殊検査	令和4年度	令和5年度	令和6年度
免疫染色	4,096	3,554	3,492
コンサルテーション症例数	154	111	97

### (3) 院外受託検査

受託検査	令和4年度	令和5年度	令和6年度
骨髄病理検査	168	127	102
テレパソロジー検査	0	0	0

#### (4) 剖検検体数（科別検体数、月別検体数）

##### 科別検体数

診療科名	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般消化器外科	0	0	0
血液内科	6	4	4
呼吸器内科	4	2	1
循環器内科	0	1	1
小児科	1	2	2
消化器内科	0	3	5
脳神経内科	5	5	5
呼吸器外科	1	0	0
内分泌内科	0	0	1
産婦人科	1	0	2
心臓血管外科	0	0	0
脳神経外科	0	0	0
腎臓内科	0	0	0
整形外科	0	0	0
耳鼻科	0	0	0
救急科	1	0	1
泌尿器科	0	0	0
乳腺外科	0	0	1
合計	19	17	23

##### 月別検体数

月	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4月	3	1	1
5月	1	2	0
6月	6	0	2
7月	1	1	1
8月	1	4	4
9月	0	2	0
10月	0	0	4
11月	1	1	8
12月	2	0	1
1月	3	1	2
2月	1	2	0
3月	0	3	0
合計	19	17	23

#### (5) 細胞診件数（検体種別検体数）

細胞診件数	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一般細胞診	4,530	4,575	4,625
婦人科細胞診	3,346	3,117	3,092
ドック細胞診	460	418	390
合計	8,336	8,110	8,107

#### (6) 遺伝子件数

特殊検査	令和4年度	令和5年度	令和6年度
FISH・遺伝子検査	25,834	6,482	3,532
受託遺伝子検査	101	79	56

## 6. 輸血部

### (1) 検査年報集計

		件 数			点 数		
		当年度	前年度	比 (%)	当年度	前年度	比 (%)
輸血管理	入院	11,385	11,283	0.9	363,626	345,165	5.3
	外来	14,636	14,470	1.1	377,445	366,054	3.1
	他	164	160	2.5	0	0	-
	小計	26,185	25,913	1.0	741,071	711,219	4.2
分子細胞検査	入院	766	895	-14.4	1,170,032	1,425,278	-17.9
	外来	983	929	5.8	910,010	836,722	8.8
	小計	1,749	1,824	-4.1	2,080,042	2,262,000	-8.0
合 計	入院	12,151	12,178	-0.2	1,533,658	1,770,443	-13.4
	外来	15,619	15,399	1.4	1,287,455	1,202,776	7.0
	他	164	160	2.5	0	0	-
総 合 計		27,934	27,737	0.7	2,821,113	2,973,219	-5.1

上の表に含まれる輸血管理時間外検査（入院、外来）

件数	点数
2,391	26,855

加算・管理料

		件 数			点 数		
		入院	外来	件数合計	当年度	前年度	比 (%)
輸血管理料Ⅰ		2,348	1,079	3,427	1,152,580	1,201,520	-4.1
不規則抗体検査加算		3,689	985	4,674	920,778	894,971	2.9
輸血に伴う血液型加算		1,026	65	1,091	58,914	54,216	8.7
総 合 計		7,063	2,129	9,192	2,132,272	2,150,707	-0.9

### (2) 院内廃棄血集計（輸血管理室）

血液製剤総購入額 405,819,277円の 0.040%  
 血液製剤総使用数 10,788バッグの 0.074%

品 名	略 号	廃棄数（本）	薬 価（円）	合 計（円）	処理日	廃棄理由
新鮮凍結血漿「日赤」	FFP-LR-480	2	24,210	48,420	4月1日	クリオプレシピレート作成製剤の有効期限切れ。
照射赤血球液-LR「日赤」	IrRBC-LR-2	1	18,132	18,132	7月20日	緊急ではないのに、ノンクロスの異型製剤を取り寄せた。
照射赤血球液-LR「日赤」	IrRBC-LR-2	1	18,132	18,132	11月18日	交換輸血中に瀉血ルートが閉塞。事前開封の2本目中止。
照射赤血球液-LR「日赤」	IrRBC-LR-2	1	18,132	18,132	11月29日	副作用（発熱）出現のため、2本目中止。
照射赤血球液-LR「日赤」	IrRBC-LR-2	1	18,132	18,132	12月4日	交換輸血中に瀉血ルートが閉塞。事前開封の2本目中止。
新鮮凍結血漿「日赤」	FFP-LR-480	1	24,210	24,210	1月6日	融解後、患者死亡の為中止。
照射赤血球液-LR「日赤」	IrRBC-LR-2	1	18,132	18,132	1月18日	4単位輸血予定であったが、出庫後2単位中止となった。
総 計		8		163,290		

### (3) 造血幹細胞移植症例数（分子細胞検査室）

#### 造血幹細胞移植関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
細胞保存	41	31	38	52	46	47	46	45	47	54	40	58	545
末梢血幹細胞保存	4	1	0	0	2	3	1	0	3	1	4	3	22
骨髓液保存	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドナーリンパ球保存	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3
CD34測定	12	8	7	2	12	16	4	8	13	8	17	15	122
末梢血幹細胞輸注	1	2	3	1	1	3	1	2	1	0	4	0	19
臍帯血輸注	0	1	3	2	1	1	0	2	1	2	1	0	14
ドナーリンパ球輸注	1	1	1	1	1	0	0	2	2	2	2	3	16
テムセル	0	8	18	2	0	0	0	0	0	0	0	0	28
CAR-T細胞輸注	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	5
クリオ調整	12	24	30	18	6	6	12	12	18	0	6	18	162
合 計	72	76	101	79	69	76	64	73	85	67	75	99	936

	移 植 症 例 数				保険点数小計
	内科	小児科	合計	保険点数	
血縁者間骨髓移植	2	0	2	66,450	132,900
非血縁者間骨髓移植	6	1	7	66,450	465,150
血縁者末梢血幹細胞移植	9	0	9	66,450	598,050
自家末梢血幹細胞移植	5	2	7	30,850	215,950
非血縁者末梢血幹細胞移植	3	0	3	66,450	199,350
臍帯血	14	0	14	66,450	930,300
自家骨髓移植	0	0	0	25,850	0
合 計	39	3	42		2,541,700

	症例数		保険点数	保険点数小計
ドナーリンパ球輸注	1回目	3	750	2,250
	2回目以降	13	760	9,880
合 計		16		12,130

### (4) 成分採血室稼働状況

#### 細胞治療関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	保険点数	保険点数小計
自己血採取	1	1	0	3	3	1	0	0	0	1	1	1	12	250	3,000
骨髓採取術*	0	1	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	6	21,640	129,840
末梢血幹細胞採取	4	2	1	0	3	4	1	2	3	2	3	3	28	21,640	605,920
骨髓濃縮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リンパ球採取(ドナー)	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3	0	0
リンパ球採取(CAR-T)	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4	14,480	57,920
体外フォトフェレーシス	16	8	10	29	23	16	21	23	29	29	22	17	243	2,000	486,000
合 計	22	13	11	33	31	22	22	28	32	33	27	22	296	60,010	1,282,680

\* 手術室で実施

## 7. 健診部

### 健診実績

(人) / (千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一日ドック	34	46	36	71	58	47	60	53	65	45	35	39	589
	2,130	2,997	2,313	4,617	4,262	3,317	4,519	4,062	5,085	3,414	2,597	2,735	42,048
総合ドック	26	24	20	25	18	20	21	23	15	14	14	26	246
	4,888	4,287	3,776	4,502	3,334	3,562	3,763	4,275	2,882	2,620	2,728	5,117	45,734
PETドック	4	2	4	6	8	7	0	5	2	6	5	7	56
	506	288	516	734	1,015	833	0	651	262	734	611	898	7,048
宿泊ドック	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0	0	495	0	0	0	0	0	0	0	0	0	495
企業健診	23	54	69	69	40	32	63	62	44	49	57	43	605
	1,388	2,853	4,133	4,789	2,708	2,044	3,748	3,635	2,298	2,887	3,204	2,386	36,073
日赤健保	5	0	3	3	5	5	10	6	5	5	6	6	59
	270	0	199	132	245	197	300	388	194	195	378	238	2,736
福島県民健康診査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
HB0C検診	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	4
	0	73	0	0	44	0	0	0	0	0	0	6	123
特定保健指導	1	0	0	0	0	2	0	1	1	2	1	1	9
	11	0	0	0	0	9	0	11	7	8	3	7	56
合計（人）	93	127	133	174	131	113	154	150	132	121	118	123	1,569
合計（千円）	9,193	10,498	11,432	14,774	11,608	9,962	12,330	13,022	10,728	9,858	9,521	11,387	134,313

## 8. 薬剤部

### (1) 入院・外来処方せん枚数

	入院		外来		合計総枚数	
	5年度	6年度	5年度	6年度	5年度	6年度
月平均枚数	14,283	14,727	14,674	14,579	28,957	29,306
年間合計枚数	171,407	176,727	176,094	174,958	347,501	351,685
院外処方せん発行率			72.10%	71.81%		

### (2) 入院薬剤管理指導料算定数

	薬剤管理指導料算定数	
	5年度	6年度
月平均人数(名)	1,534.33	1,511.25
月平均件数(件)	1,857.00	1,716.60
年間合計人数(名)	18,412	18,135
年間合計件数(件)	22,284	20,599

### (3) 妊娠と薬外来の相談件数

	相談件数(件)	
	5年度	6年度
妊娠前	3	2
妊娠後	1	2
授乳	0	0

### (4) 薬学生実務実習受け入れ人数

	受け入れ人数(人)	
	5年度	6年度
第二期	0	0
第三期	4	3
第四期	4	2

### (5) 抗がん剤調製延患者数

	延調製患者数(人)	
	5年度	6年度
外来	14,016	11,922
入院	8,488	6,039

### (6) 新規の治験・製造販売後調査受託件数

	新規の受託件数(件)	
	5年度	6年度
治験	5	5
製造販売後調査	18	13
製造販売後臨床試験	0	0

### (7) 専門薬剤師資格取得薬剤師数

	取得薬剤師数(人)	
	6年度	
薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師	15	
日本病院薬剤師会 認定実務実習指導薬剤師	4	
日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師	26	
日本病院薬剤師会 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	3	
日本病院薬剤師会 感染制御認定・指導薬剤師	認定: 1	指導: 1
日本医療薬学会 専門・指導薬剤師	専門: 4	指導: 1
日本医療薬学会 薬物療法専門・指導薬剤師	専門: 2	指導: 2
日本医療薬学会 がん専門・指導薬剤師	専門: 5	指導: 4
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定・指導薬剤師	認定: 2	指導: 1
日本医薬品情報学会 医薬品情報専門薬剤師	1	
日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師	1	
日本腎臓病薬物療法学会 腎臓病薬物療法認定薬剤師	1	
日本くすりと糖尿病学会 糖尿病薬物療法認定薬剤師	2	
日本薬剤師研修センター 小児薬物療法認定薬剤師	3	
日本栄養治療学会 栄養サポート(NST)専門療養士	8	

## 9. 検査部

### (1) 検査種別稼働集計

臨床検査		件数			点数		
		当年度	前年度	比 (%)	当年度	前年度	比 (%)
血液	入院	40,654	46,962	-13.4	1,401,154	1,713,385	-18.2
	外来	253,165	266,183	-4.9	5,655,793	6,057,467	-6.6
	その他	6,090	6,040	0.8	0	0	-
	時間外入院	146,311	157,438	-7.1	3,562,669	4,033,452	-11.7
	時間外外来	52,061	55,335	-5.9	1,193,066	1,317,776	-9.5
	小計	498,281	531,958	-6.3	11,812,682	13,122,080	-10.0
一般	入院	7,230	7,720	-6.3	218,916	231,991	-5.6
	外来	53,511	52,076	2.8	1,395,610	1,354,598	3.0
	その他	6,076	6,072	0.1	0	0	-
	時間外入院	5,869	5,949	-1.3	158,225	161,846	-2.2
	時間外外来	13,578	14,585	-6.9	362,462	385,938	-6.1
	小計	86,264	86,402	-0.2	2,135,213	2,134,373	0.0
生化学	入院	271,004	278,511	-2.7	4,314,207	4,310,594	0.1
	外来	1,927,919	1,873,778	2.9	18,175,246	17,690,352	2.7
	その他	57,732	54,421	6.1	0	0	-
	時間外入院	927,948	902,934	2.8	9,981,895	9,744,627	2.4
	時間外外来	410,689	402,795	2.0	5,928,452	4,314,404	37.4
	小計	3,595,292	3,512,439	2.4	38,399,800	36,059,977	6.5
薬物血中濃度	入院	3,255	3,556	-8.5	特定薬剤治療管理料として算出		
	外来	2,118	2,230	-5.0			
	その他	0	0	-			
	小計	5,373	5,786	-7.1			
免疫血清	入院	18,205	18,230	-0.1	3,554,088	3,391,023	4.8
	外来	166,750	165,298	0.9	22,980,101	22,934,539	0.2
	その他	10,720	10,740	-0.2		0	-
	時間外入院	18,986	18,898	0.5	3,065,294	3,198,018	-4.2
	時間外外来	27,926	27,065	3.2	5,738,168	5,739,313	0.0
	小計	242,587	240,231	1.0	35,337,651	35,262,893	0.2
細菌	入院	37,063	40,196	-7.8	6,264,059	6,479,081	-3.3
	外来	31,220	32,722	-4.6	4,909,234	4,906,637	0.1
	その他	486	460	5.7	0	0	-
	時間外入院	0	0	-	0	0	-
	時間外外来	0	0	-	0	0	-
	小計	68,769	73,378	-6.3	11,173,293	11,385,718	-1.9

☆細菌検査は、平成24年度から件数の集計方法が変わりました。

☆生化学検査は、平成29年度から件数の集計方法が変わりました。

☆その他の内訳（心カテ・ECG、聴力、血流検査以外のドック検査・職員健診・当院健診等）

☆血液、一般、生化学、薬物血中濃度、免疫血清検査は、令和5年1月から件数の集計方法が変わりました。

生理検査		件数			点数		
		当年度	前年度	比 (%)	当年度	前年度	比 (%)
脳波	入院	943	870	8.4	794,390	736,630	7.8
	外来	956	1,118	-14.5	910,570	1,082,710	-15.9
	小計	1,899	1,988	-4.5	1,704,960	1,819,340	-6.3
筋電図	入院	553	534	3.6	504,470	467,670	7.9
	外来	1,265	1,286	-1.6	1,154,790	1,156,150	-0.1
	小計	1,818	1,820	-0.1	1,659,260	1,623,820	2.2
心電図	入院	7,299	7,215	1.2	1,712,220	1,715,090	-0.2
	外来	23,233	24,557	-5.4	4,713,840	4,816,240	-2.1
	その他	2,102	1,954	7.6	0	0	-
	小計	32,634	33,726	-3.2	6,426,060	6,531,330	-1.6
心大血管リハビリ	入院	9	10	-10.0	10,200	9,440	8.1
	外来	763	813	-6.2	603,545	677,591	-10.9
	小計	772	823	-6.2	613,745	687,031	-10.7
肺機能	入院	804	731	10.0	88,130	80,180	9.9
	外来	6,455	6,026	7.1	726,940	662,540	9.7
	その他	854	0	-	0	0	-
	小計	8,113	6,757	20.1	815,070	742,720	9.7
超音波	入院	8,342	8,310	0.4	6,843,940	6,806,560	0.5
	外来	19,300	18,595	3.8	12,710,370	12,326,040	3.1
	その他	1,851	1,843	0.4	0	0	-
	小計	29,493	28,748	2.6	19,554,310	19,132,600	2.2
ドック（ECG・聴力）検査	その他	2,990	3,028	-1.3	0	0	-

		件数			点数		
		当年度	前年度	比%	当年度	前年度	比%
総合計	入院	395,361	412,845	-4.2	25,705,774	25,473,981	0.9
	外来	2,486,655	2,444,682	1.7	73,936,039	72,508,718	2.0
	その他	88,901	84,558	5.1	0	0	-
	時間外入院	1,099,114	1,085,219	1.3	16,768,083	17,137,943	-2.2
	時間外外来	504,254	499,780	0.9	13,222,148	11,757,431	12.5
	合計	4,574,285	4,527,084	1.0	129,632,044	126,878,072	2.2



## (2) 判断料

### 1. 包括前後

保険 点数	項目	件数		点数		
		包括前	包括後	包括前	包括後	比 (%)
34	尿・糞便検査判断料	21,146	18,149	718,964	617,066	-14.2
125	血液学的判断料	109,100	94,912	13,637,500	11,864,000	-13.0
144	生化学的判断料Ⅰ	110,016	95,506	15,842,304	13,752,864	-13.2
144	生化学的判断料Ⅱ(RI)	34,635	29,808	4,987,440	4,292,352	-13.9
144	免疫血清学的判断料	85,579	72,215	12,323,376	10,398,960	-15.6
150	微生物学的判断料	16,814	11,110	2,522,100	1,666,500	-33.9
130	病理学的判断料	2,728	2,728	354,640	354,640	0.0
140	呼吸機能学的判断料	2,499	2,271	349,860	317,940	-9.1
350	脳波検査判断料Ⅰ	1,281	1,030	448,350	360,500	-19.6
180	神経・筋検査判断料	1,134	894	204,120	160,920	-21.2
100	遺伝子関連・染色体検査判断料	3,787	3,399	378,700	339,900	-10.2
	合計	388,719	332,022	51,767,354	44,125,642	-14.8

### 2. 包括後前年比

保険 点数	項目	件数		点数		
		当年度	前年度	当年度	前年度	比 (%)
34	尿・糞便検査判断料	18,149	18,064	617,066	614,176	0.5
125	血液学的判断料	94,912	94,243	11,864,000	11,780,375	0.7
144	生化学的判断料Ⅰ	95,506	94,865	13,752,864	13,660,560	0.7
144	生化学的判断料Ⅱ(RI)	29,808	29,101	4,292,352	4,190,544	2.4
144	免疫血清学的判断料	72,215	76,894	10,398,960	11,072,736	-6.1
150	微生物学的判断料	11,110	13,918	1,666,500	2,087,700	-20.2
130	病理学的判断料	2,728	2,700	354,640	351,000	1.0
140	呼吸機能学的判断料	2,271	1,919	317,940	268,660	18.3
350	脳波検査判断料Ⅰ	1,030	1,154	360,500	403,900	-10.7
180	神経・筋検査判断料	894	867	160,920	156,060	3.1
100	遺伝子関連・染色体検査判断料	3,399	3,113	339,900	311,300	9.2
	合計	332,022	336,838	44,125,642	44,897,011	-1.7

### (3) 検査加算・管理料(検査部)

#### 1. 包括前

加算・ 管理料 点数	加算項目	件数		合計	点数		合計
		入院	外来		入院	外来	
470・740	特定薬剤治療管理料	3,107	1,922	5,029	1,461,640	903,340	2,364,980
280	薬剤初回算定月加算	209	77	286	58,520	21,560	80,080
2740	臓器移植後免疫抑制剤加算	96	0	96	263,040	0	263,040
20	血液化学入院初回加算	11,849	0	11,849	236,980	0	236,980
10	外来迅速検体検査加算	16,511	456,263	472,774	165,110	4,562,630	4,727,740
200	時間外緊急院内検査加算	3,680	6,091	9,771	736,000	1,218,200	1,954,200
240	骨髓像診断加算	528	342	870	126,720	82,080	208,800
500	検体検査管理加算Ⅳ	18,403	0	18,403	9,201,500	0	9,201,500
40	検体検査管理加算Ⅰ	0	103,898	103,898	0	4,155,920	4,155,920
	総合計	54,383	568,593	622,976	12,249,510	10,943,730	23,193,240

#### 2. 包括後

加算・ 管理料 点数	加算項目	件数		合計	点数		合計
		入院	外来		入院	外来	
470・740	特定薬剤治療管理料	865	1,905	2,770	407,360	895,350	1,302,710
280	薬剤初回算定月加算	0	0	0	0	0	0
2740	臓器移植後免疫抑制剤加算	0	0	0	0	0	0
20	血液化学入院初回加算	924	0	924	18,480	0	18,480
10	外来迅速検体検査加算	723	456,263	456,986	7,230	4,562,630	4,569,860
200	時間外緊急院内検査加算	104	6,078	6,182	20,800	1,215,600	1,236,400
240	骨髓像診断加算	120	3	123	28,800	720	29,520
500	検体検査管理加算Ⅳ	2,281	0	2,281	1,140,500	0	1,140,500
40	検体検査管理加算Ⅰ	0	103,898	103,898	0	4,155,920	4,155,920
	総合計	5,017	568,147	573,164	1,623,170	10,830,220	12,453,390

## 10. 看護部

### （１）看護部の理念

赤十字の看護師として、おひとりおひとりの患者さんを大切にした看護を目指しす。

### （２）基本方針

1. 安全で安楽な看護技術を提供します
2. 継続教育を充実させ看護の専門性を追求します
3. 地域の皆様の健康保持増進を支援します
4. 他部門と協働し病院の健全な運営に取り組みます
5. 救護活動や赤十字の講習会の普及に努めます

### （３）看護部目標

1. 安全・安楽なベッドサイドケアを提供する  
～なかむら日赤看護ケア提供方式の推進～

(4) 看護部行事・看護職員対象研修等一覧

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 看護部 令和6年4月16日

開催月	研修会・勉強会・実践委員会等	開催日	会場	対象	主催
4月	新入看護職員採用時研修会Ⅰ	4/3 (水) ～4/12 (金) 終日	演習室 1 他	新入看護職員	看護部
	赤十字概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	4/4 (木) 終日、4/9 (火) 12:40～16:40	名古屋市公会堂 演習室 1	新入看護職員・未受講者	看護部
	病院説明会	4/13 (土)・4/20 (金) 9:30～13:00	演習室 1 他	入職希望者・看護職員	看護部
	新入看護職員採用時研修Ⅱ	5/7 (火)・5/8 (水) 終日	演習室 1・演習室 2・研修室 3	新入看護職員	看護部
5月	看護業務実践委員会	5/9 (木) 16:30～17:30	演習室 2・研修室 3	実践委員	看護部
	空気感染防止対策研修会＋フィットテスト *夏祭日は休演習了	5/20 (月) ～5/24 (金) 13:00～14:30	演習室 2・研修室 3	看護職員	感染対策委員会
	ナーシング リサーチカフェⅠ	5/20 (月) 17:00～17:30	研修室 2	看護職員	看護部
	経験者語り合う会①	5/21 (火) 15:00～17:00	研修室 1	新入看護職員 (経験者)	看護部
	新人語り合う会①	5/23 (木)・24 (金) 13:30～17:00	演習室 1	新入看護職員 (新卒者)	看護部
	トリアージブラッシュ	5/27 (月) 17:30～18:30	演習室 1	救急外来トリアージナース	看護部
	褥瘡勉強会「ヤマガタ」の役割・褥瘡診療予防計画書の記入法」	5/31 (金) 16:30～17:30	演習室 1	2024年度新規スキルケアナース	褥瘡対策チーム
	看護事務・助手・介護士研修会 ①	5/30 (木)・6/11 (火) 15:30～16:30	演習室 1	看護事務・看護助手・介護士	看護部
	プリセプターシップ振り返りの会	6/3 (月)・6/4 (火) 13:30～17:00	演習室 1	プリセプター (レベルⅡ相当)	看護部
	I CM研修会	6/3 (月) 16:30～17:30	内ヶ島講堂	I CM	感染対策委員会
6月	看護記録効率化実践委員会 ①	6/10 (月) 16:30～17:30	演習室 2・研修室 3	実践委員	看護部
	新入看護職員研修会Ⅰ(呼吸管理・廃用症候群の予防ケア・DM基礎・褥瘡予防)	6/13 (木)・6/14 (金)・6/17 (月)・6/18 (火) 終日	演習室 1	新入看護職員	看護部
	ナーシング リサーチカフェⅠ	6/17 (月) 17:00～17:30	研修室 2	看護職員	看護部
	RST勉強会「薬業療法とデバイス」	6/17 (月) 17:30～18:30	内ヶ島講堂	全職員	呼吸器・モニター管理チーム
	赤十字フォロアアップ研修 (院外)	6/24 (月) 終日	日赤名古屋第2病院	実践者ラダーレベルⅡ・Ⅲ	総務課社会係
	防災備品説明会	6/26 (水) 16:00～17:00	内ヶ島講堂他	防災係・業務担当係長	看護部
	緩和ケアアリンクナース会	6/28 (金) 16:30～17:30 *または7/26 (金) と調整中	内ヶ島講堂他	緩和ケアアリンクナース	緩和ケアチーム
	リーダーシップ研修会	7/1 (月)・7/2 (火) 終日	演習室 1	実践者ラダーレベルⅡ・Ⅲ	看護部
	医療安全・感染対策研修会①	上映:7/1 (月) ～7/5 (金) Eラーニング:7月中	内ヶ島講堂	全職員	医療安全管理委員会/感染対策委員会
	病院説明会	7/6 (土) 9:30～13:00	演習室 1 他	入職希望者・看護職員	看護部
7月	NST勉強会 ①	7/8 (月) 17:45～18:45	内ヶ島講堂	全職員	栄養サポートチーム
	摂食嚥下勉強会①	7/9 (火) 17:30～18:30	演習室 1	摂食嚥下リンクナース・看護職員	摂食・嚥下障害ケアチーム
	新入看護職員研修会Ⅱ (心電図Ⅰ・救命救急処置・新人語り合う会)	7/18 (木)・7/19 (金)・7/22 (月)・7/23 (火) 8/30～15:00	演習室 1	新入看護職員	看護部
	新人語り合う会①	7/18 (木)・7/19 (金)・7/22 (月)・7/23 (火) 15:00～17:00	演習室 1	新入看護職員 (新卒者)	看護部
	医療安全 ワークショップ	7/3 (水) 16:00～17:30	内ヶ島講堂	全職員	医療安全推進チーム
	看護技術研修 (摘便・浣腸)	7/11 (木)・7/26 (金) 17:15～18:30	演習室 2・研修室 3	看護職員	看護部
	RST勉強会「人工呼吸器の基本」	7/16 (火) 17:30～18:30	内ヶ島講堂	全職員	呼吸器・モニター管理チーム
	院内看護研究発表会	7/22 (月) 18:00～19:00	内ヶ島講堂	看護職員	看護部
	防災訓練 (東5・東6・東8・化療C/内視鏡C・NICU/GCU)	7/24 (水) 15:00～16:00	各看護単位	新人・実践者ラダーレベルⅠ・Ⅱ	看護部
	ナーシングスキル活用実践委員会①	7/26 (金) 16:30～17:30	研修室 3	実践委員	看護部

開催月	研修会・勉強会・実践委員会等	開催日	会場	対象	主催
8月	各看護単位BLS技術指導者講習会	8/5(月) 13:00～17:00	演習室1	実践者ラダーレベルⅡ・ⅢかつICLS受講者・今年度受講予定者	看護部
	看護技術研修(導尿)	8/6(火)・8/15(木) 17:15～18:30	演習室2・研修室3	看護職員	看護部
	RST勉強会「人工呼吸器の構造、グラフィックモニター」	8/13(火) 17:30～18:30	内ヶ島講堂	全職員	呼吸器・モニター管理チーム
	ナーシングリサーチカフェⅠ	8/19(月) 17:00～17:30	研修室2	看護職員	看護部
	臨地実習指導者研修会	8/19(月) 8:30～17:00	演習室1	実践者ラダーレベルⅡ・Ⅲ	看護部
	防災訓練(救命A・西8A・西9A・西10A・西11A・西12A・手術室)	8/28(水) 15:00～16:00	各看護単位	新人・実践者ラダーレベルⅠ・Ⅱ	看護部
	家族看護研修会	8/29(木) 13:00～17:00	演習室1	実践者ラダーレベルⅡ・Ⅲ	看護部
	事例で学ぶ対象理解	8/17(土) 8:30～17:00	演習室1	実践者ラダーレベルⅠ・Ⅱ	看護部
	第1回 排尿ケア研修会	8/8(木) 17:45～18:45	内ヶ島講堂	全職員	排尿ケアチーム
	初級研修:救護員養成研修(院内)	講義 8/14(水) *または8/16(金)のどちらかで調整中 実技 8/27(火)・8/28(水)のどちらかに出席	内ヶ島講堂 演習室1・演習室2	実践者ラダーレベルⅡ・Ⅲ	総務課社会係
	心電図Ⅱ	9/5(木)・9/24(火) 17:30～18:30	演習室1	看護職員	看護部
	感染対策研修会Ⅱ「医療器具関連感染防止対策」	9/9(月)・9/17(火) 16:00～17:00	演習室1	実践者ラダーレベルⅠ・Ⅱ	看護部
	NST勉強会②	9/9(月) 17:45～18:45	内ヶ島講堂	全職員	栄養サポートチーム
	摂食嚥下勉強会②	9/10(火) 17:30～18:30	演習室1	摂食嚥下リンクナース・看護職員	摂食・嚥下障害ケアチーム
9月	看護技術研修(口腔ケア)	9/11(水)・9/19(木) 17:15～18:30	演習室2・研修室3	看護職員	看護部
	経験者語り合う会②	9/13(金) 15:00～17:00	演習室1	新入看護職員(経験者)	看護部
	RST勉強会「人工呼吸器トラブルシューティング、呼吸音の聴取」	9/17(月) 17:30～18:30	内ヶ島	看護職員	呼吸器・モニター管理チーム
	防災備品説明会	9/25(水) 16:00～17:00	内ヶ島講堂他	防災係・業務担当係長	看護部
	第1回 認知症の基礎講座「疾患・治療薬について」	9/26(木) 17:30～18:30	内ヶ島講堂	全職員	認知症ケアチーム
	2日目研修(痛みのケア・看取りの看護・症状観察・PPE技術・看護倫理Ⅱ)	9/27(金)・9/30(月)・10/1(火) 8:30～17:00	演習室1	卒後2年目看護師	看護部
	看護業務実践委員会	10/3(木) 16:30～17:30	演習室2・研修室3	実践委員	看護部
	災害看護論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	10/17(木) 13:00～17:00	演習室1	未受講者	看護部
	摂食嚥下勉強会③	10/8(火) 17:30～18:30	演習室1	摂食嚥下リンクナース・看護職員	摂食・嚥下障害ケアチーム
	医療安全 ワークショップ	10/9(火) 16:00～17:30	内ヶ島講堂	全職員	医療安全推進チーム
10月	看護技術研修(吸引・開放式・閉鎖式)	10/11(金)・10/16(火) 17:30～18:30	演習室2・研修室3	看護職員	看護部
	事例検討会	10/25(金)・10/28(月) 8:30～17:00	演習室1	「令和6年度 事例で学ぶ対象理解」受講者	看護部
	ナーシング リサーチカフェ 「文献検索ワークショップ」	10/21(月) 16:30～17:30	研修室2	実践者ラダーレベルⅡ・Ⅲ	看護部
	RST勉強会「人工呼吸器装着中の看護、VAP予防と口腔ケア」	10/15(火) 18:00～19:00	内ヶ島講堂	全職員	呼吸器・モニター管理チーム
	看護記録効率化実践委員会②	10/21(月) 16:30～17:30	演習室2・研修室3	実践委員	看護部
	第2回 認知症の基礎講座「睡眠マネジメントについて」	10/17(木) 17:30～18:30	内ヶ島講堂	全職員	認知症ケアチーム
	感染対策研修会Ⅲ「注意すべき病原体の感染防止対策」	10/21(月) 16:00～17:00	演習室1	実践者ラダーレベルⅡ以上	看護部
	防災訓練(救命B・HQ1・西8B・西9B・西10B・西11B・西12B)	10/23(水) 15:00～16:00	各看護単位	新人・実践者ラダーレベルⅠ・Ⅱ	看護部
	看護助手・介護士研修会②	10/24(木)・11/26(火) 15:30～16:30	演習室1・2・研修室3	看護助手・介護士	看護部

開催月	研修会・勉強会・実践委員会等	開催日	会場	対象	主催
11月	医療安全・感染対策研修会②	上映：11/5（火）～11/8（金） Eラーニング：11月中	内ヶ島講堂	全職員	医療安全管理委員会/感染対策委員会
	RST勉強会「呼吸リハビリ」	11/5（火） 17:30～18:30	内ヶ島講堂	全職員	呼吸器・モニター管理チーム
	看護技術研修（死後処置）	11/6（水）・22（金） 17:15～18:30	演習室1・2・研修室3	看護職員	看護部
	NST勉強会③	11/11（月） 17:45～18:45	内ヶ島講堂	全職員	栄養サポートチーム
	摂食嚥下勉強会④	11/12（火） 17:30～18:30	演習室1	摂食嚥下リクナース・看護職員	摂食・嚥下障害ケアチーム
	新入看護職員研修Ⅲ （静脈注射STEP3、4・認知症とせん妄症状アセスメントと看護ケア・症状観察）	11/14（木）・11/15（金）・11/18（月）・11/19（火） 8:30～15:30	演習室1	新入看護職員	看護部
	新人語り合う会②	11/14（木）・11/15（金）・11/18（月）・11/19（火） 15:30～17:00	演習室1	新入看護職員（新卒者）	看護部
	第3回 認知症の基礎講座「ケア方法や関わり方について」	11/14（木） 17:30～18:30	内ヶ島講堂	全職員	認知症ケアチーム
	ナーシング リサーチカフェⅡ	11/18（月） 17:00～17:30	研修室2	看護職員	看護部
	災害看護論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	11/22（金） 13:00～17:00	演習室1	未受講者	看護部
12月	防災訓練（ICU・西6A・MFICU・バースC・西7・初療室）	11/27（水） 15:00～16:00	各看護単位	新人・レベルⅠ・レベルⅡ	看護部
	RST勉強会「NPPVとV6O」	12/3（火） 17:30～18:30	内ヶ島講堂	全職員	呼吸器・モニター管理チーム
	ナーシングリ サーチカフェⅡ	12/16（月） 17:00～17:30	研修室2	看護職員	看護部
	防災訓練（入退院支援C）	12/25（水） 10:00～11:00	各看護単位	新人・実践者ラダーレベルⅠ・Ⅱ	看護部
	看護技術研修（気管挿管介助）	1/10（金）・1/15（火） 17:15～18:30	演習室2・研修室3	看護職員	看護部
1月	摂食嚥下勉強会⑤	1/14（火） 17:30～18:30	演習室1	摂食嚥下リクナース・看護職員	摂食・嚥下障害ケアチーム
	ナーシング リサーチカフェⅠ	1/20（月） 17:00～17:30	研修室2	看護職員	看護部
	リーダーシップ実践報告会	1/20（月） 10:00～17:00	演習室1	令和6年度リーダーシップ研修会受講者	看護部
	ナーシングスキル活用実践委員会②	1/24（金） 16:30～17:30	研修室3	実践委員	看護部
	緩和ケアリンクナース会	1/24（金） 16:30～17:30	演習室1	緩和ケアリンクナース	緩和ケアチーム
	トリアージブラッシュアップ研修	1/27（月） 17:30～18:30	演習室1	救急外来トリアージナース	看護部
	看護技術研修（包帯法）	2/12（水）・2/20（木） 17:30～18:30	演習室2・研修室3	看護職員	看護部
	医療安全 ワークショップ	2/19（水） 16:00～17:30	内ヶ島講堂他	全職員	医療安全推進チーム
	後輩指導Ⅲ OJリーダー養成研修会	2/14（金） 8:30～17:00	演習室1	令和7年度 OJリーダー予定者	看護部
	赤十字救急法	2/12（水）・2/13（木）・2/14（金） 終日	演習室1	実践者ラダーレベルⅠ・Ⅱ・Ⅲ	総務課社会係/看護部
2月	ナーシング リサーチカフェⅡ	2/17（月） 17:00～17:30	研修室2	看護職員	看護部
	心電図Ⅲ	2/18（火） 17:30～18:30	演習室1	看護職員	看護部
	意識向上実践委員会 ②	2/27（木） 16:30～17:30	研修室3	実践委員	看護部
	第2回 排尿ケア研修会	日未定	演習室2・研修室3他	全職員	排尿ケアチーム
	後輩指導Ⅰ ブリセプター研修会	3/3（月）・3/4（火） 13:30～17:00	演習室1	令和7年度 ブリセプター予定者	看護部
3月	NST勉強会④	3/10（月） 17:45～18:45	内ヶ島講堂	全職員	栄養サポートチーム
	後輩指導Ⅱ 新人指導者研修会	3/13（木）・3/14（金） 13:00～17:00	演習室1	令和7年度 新人指導者予定者	看護部
	赤十字ファローアップ研修（院内）	3/18（火） 終日	内ヶ島講堂	実践者ラダーレベルⅡ・Ⅲ	看護部
	看護部事前説明会	3/7（金）・3/10（月）・3/11（火） 予定	演習室1	令和7年度 新入看護職員	総務課社会係/看護部

## (5) 学会発表先一覧

日本クリティカルケア看護学会
日本老年看護学会
日本病院学会
日本乳癌学会学術総会
日本看護管理学会
赤十字健康管理事業研究会
日本人間ドック・予防医療学会
日本赤十字社医学会
日本医療マネジメント学会愛知県支部
日本手術看護学会東海地区
愛知県看護学会
日本赤十字看護学会学術集会
日本緩和医療学会
日本サイコオンコロジー学会

## (6) 看護部委員会活動

### 教育企画委員会 活動評価

目的：看護職員の資質向上のための教育活動を企画・実施・評価する

目標：1. 『赤十字の看護師の看護実践能力《指標》』に沿って、レベルⅠ以上の教育計画を企画・実施・評価する

2. 新人・経験者段階別到達目標に沿った新人・経験者の教育体制を支援する

3. 新人・経験者の職場への適応状況を把握し支援する

実践結果：

開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
4/3～4/12	新入看護職員採用時研修Ⅰ	R6 年度新入看護職員	106 名	肯定的評価：99% 全体の満足度：「満足」92% 研修期間：「ちょうどよい」89% 「短い」10%
5/7. 8	新入看護職員採用時研修Ⅱ	R6 年度新入看護職員	106 名 5/8:104 名	新人は 5/7：全員参加 5/8：2 名欠席 経験者は経験、希望に合わせて参加とし全員参加
5/21	経験者語り合う会Ⅰ	R6 新入看護職員（経験者）、令和 5 年度中途採用者	6 名	満足度：「満足」100% 時間：「ちょうどよい」100% 時期：「ちょうどよい」100%
5/23. 24	新人語り合う会Ⅰ	新入看護職員（新人）	101 名	肯定的評価：93% 満足度：「満足」83% 「やや満足」16% 時間：「ちょうどよい」93% 「短い」6%
5/27	トリアージ・フラッシュアップ研修	救急トリアージナース	11 名	肯定的評価：100% 満足度：「満足」100% 時間：「ちょうどよい」91%
5/30. 6/11	看護事務・助手・介護士研修①	看護事務・看護助手・介護士	153 名	満足度：「大変満足」「やや満足」97% 「不満」3% 時間：「ちょうどよい」89% 「長い」11%
6/3. 4	プリセプターシップ振り返りの会	R6 年度プリセプター（新規）	69 名	肯定的評価：100% 満足度：「満足」88% 「やや満足」10% 時間：「ちょうどよい」96%
6/13. 14. 17. 18	新入看護職員研修Ⅰ	R6 年度新入看護職員	103 名	肯定的評価：97% 満足度：「満足」93% 「やや満足」7% 時間：「ちょうどよい」100%
7/1. 2	リーダーシップ研修会	リーダーレベルⅡ以上	26 名	肯定的評価：100% 「組織論」：（大体）「理解できた」100% システム論：「（大体）理解できた」100% 満足度：「満足」96% 時間：「ちょうどよい」92%
7/18. 19. 22. 23	新入看護職員研修会Ⅱ	R6 年度新入看護職員	98 名	肯定的評価：96% 満足度：「満足」92% 「やや満足」8% 時間：「ちょうどよい」99%
7/18. 19. 22. 23	新人語り合う会Ⅱ	R6 年度新入看護職員（新人）	94 名	満足度：「満足」77% 「やや満足」22% 時間：「ちょうどよい」94% 時期：「ちょうどよい」97%



開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
7/11. 26	看護技術研修 (摘便・浣腸)	全看護職員	61 名	技術の習得:「できた」75% 「大体できた」25% 自分から参加:38% 時間:「ちょうどよい」98%
7/30	日常生活援助技術研修会Ⅱ	5段階レベルⅡ～Ⅲ	25 名	肯定的評価:96% 満足度:「満足」96%「やや満足」4% 時間:「ちょうどよい」96%
8/5	BLS 技術指導者講習会	5段階レベルⅡ～Ⅲ	29 名	指導評価方法:「(大体)理解できた」100% BLS 評価方法:「理解できた」83% 時間:「ちょうどよい」97%
8/6. 15	看護技術研修 (導尿)	全看護職員	50 名	技術の習得:「できた」65% 「大体できた」33% 自分から参加:22% 時間:「ちょうどよい」100%
8/17	事例で学ぶ対象理解	5段階レベルⅠ～Ⅱ	60 名	講義:「理解できた」82% 演習:「役に立った」90% 時間:「ちょうどよい」92% 「長い」8%
8/19	臨地実習指導者研修会	5段階レベルⅡ～Ⅲ	28 名	肯定的評価:100% 講義:「理解できた」57% 満足度:「満足」75% 時間:「ちょうどよい」86%
8/29	家族看護研修	5段階レベルⅡ～Ⅲ	21 名	肯定的評価:95% 講義:「理解できた」72% 満足度:「満足」86% 時間:「ちょうどよい」95%
9/5. 24	心電図Ⅱ	全看護職員	55 名	肯定的評価:98% 満足度:「満足」74% 「やや満足」26% 自分から参加:22% 時間:「ちょうどよい」91%
9/9. 17	感染対策Ⅱ	5段階レベルⅠ～Ⅱ	54 名	肯定的評価:94% 満足度:「満足」78%「やや満足」22% 時間:「ちょうどよい」91% 「短い」9%
9/11. 19	看護技術研修 (口腔ケア)	全看護職員	56 名	技術の習得:「できた」73% 「大体できた」:25% 自分から参加:22% 時間:「ちょうどよい」100%
9/13	経験者語り合う会Ⅱ	R6 年度新入看護職員(経験者)・R5 年度中途採用者	5 名	満足度:「満足」80% 時期:「ちょうどよい」100% 時間:「ちょうどよい」80%
9/27. 30. 10/1	2 年目研修	2 年目	90 名	肯定的評価:100% 満足度:「満足」87%「やや満足」13% 時間:「丁度よい」93%「短い」4%「長い」3%
10/11. 16	看護技術研修(吸引)	全看護職員	65 名	技術の習得:「できた」68% 「大体できた」28% 自分から参加:31% 時間:「ちょうどよい」97%

開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
10/17	災害看護論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	全看護職員	57 名	内容：「理解できた」98% 「やや難しい」2% 満足度：「満足」82% 時間：「丁度よい」96%
10/21	感染対策Ⅲ	3段階レベルⅡ～Ⅲ	27 名	肯定的評価：100% 時間：「ちょうどよい」100% 内容：「理解できた」81% 「やや理解できた」15%
10/25. 28	事例検討会	「事例で学ぶ対象理解」受講者	53 名	肯定的評価：98% 満足度：「満足」79% 「やや満足」21% 研修時間：「ちょうどよい」：91% 「長い」9%
10/24. 11/26	看護助手・介護士研修②	看護助手・介護士	108 名	肯定的評価：96% 満足度：「満足」88% 「やや満足」11% 時間「丁度よい」：92% 「短い」7%
11/11	委員会	委員	8 名	中間報告・評価 次年度の採用時研修計画について検討
11/6. 22	看護技術研修 (死後処置)	全看護職員	68 名	技術の習得：「できた」67% 「大体できた」31% 自分から参加：36% 時間：「ちょうどよい」99%
11/15. 18. 19	新入看護職員研修会Ⅲ	R6 年度新入看護職員	95 名	肯定的評価：96% 満足度：「満足」93% 「やや満足」7% 時間：「ちょうどよい」99%
11/15. 18. 19	新人語り合う会Ⅲ	R6 年度新入看護職員（新人）	90 名	満足度：「満足」91% 「やや満足」9% 時間：「ちょうどよい」99%
11/22	災害看護論 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	全看護職員	33 名	内容：「理解できた」98% 「やや難しい」2% 満足度：「満足」88% 時間：「丁度よい」97%
12/16	委員会	委員	6 名	R7 年度新入看護職員採用時研修スケジュールとレベル別研修日程調整、年度末評価
R7. 1/8	委員会	委員	7 名	令和7年度採用時研修役割分担
R7. 1/10. 15	看護技術研修 (挿管管理)	全看護職員	68 名	技術の習得：「できた」61% 「大体できた」36% 自分から参加：36% 時間：「ちょうどよい」91%
R7. 1/20	リーダーシップ研修実践報告会	リーダーシップ研修会受講者	26 名	肯定的評価：92% 満足度：「満足」73% 「やや満足」27% 時間：「丁度よい」96%
R7. 1/27	トリアージプラッシュアップ研修	救急トリアージナース	26 名	肯定的評価：100% 満足度：「満足」92% 時間：「ちょうどよい」100%
R7. 2/14	OJT リーダー養成研修会	R7 年度 OJT リーダーの役割を担う者（3段階レベルⅡ～Ⅲ）	23 名	肯定的評価：100% 満足度：「満足」91% 「やや満足」5% 時間：「ちょうどよい」91% 「長い」9% 教育システムの理解：「できた」87% 指導方法・教育的関わりの理解：「できた」91%

開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
R7. 2/18	心電図Ⅲ	全看護職員	34 名	肯定的評価：94% 満足度：「満足」76% 「やや満足」24% 自分から参加：18% 時間：「ちょうどよい」97%
R7. 2/12. 20	看護技術研修 (包帯法)	全看護職員	56 名	技術の習得：「できた」91% 「大体できた」9% 自分から参加：29% 時間：「ちょうどよい」96%
R7. 2/12. 13. 14	救急法	ラダーレベルⅡ～Ⅲ相当	14 名	救護員としての赤十字救急法に関する基礎知識・技術を習得する（講義・演習）
R7. 3/3. 4	プリセプター 研修会	R7 年度プリセプターの役割を担う者（ラダーレベルⅠ）	80 名	肯定的評価：100% 満足度：「満足」95% 教育体制の理解：「できた」99% 段階別到達目標の理解：「できた」96% 時間：「ちょうどよい」96%
R7. 3/13. 14	新人指導者 研修会	R7 年度新人指導者の役割を担う者（ラダーレベルⅠ～Ⅱ）	59 名	肯定的評価：100% 満足度：「満足」86% 教育体制の理解：「できた」87% 指導方法の理解：「できた」83% 時間：「ちょうどよい」97%
R7. 3/18	赤十字フォロ アップ研修会	ラダーレベルⅡ～Ⅲ	13 名	満足度：「満足」62% 「やや満足」38% 内容の理解：「できた」92% 時間：「丁度よい」92%

## 全体評価

### 目標 1：

- ・研修の肯定的評価は 90%以上、看護技術研修の技術について「できた」は約 70%で昨年と同様だった。
- ・看護技術研修は、年間のべ 400 名を超える参加で、1 回の研修は 40 名となることもあり、研修時間を 17:00 開始・演習コーナーを増やす等で、演習・テスト待ちを 10 分以内に収めることができた。
- ・倫理カンファレンスのツールとしてジョンセンの倫理 4 分割法が導入となり、ファシリテーターの育成目的で倫理 4 分割法をリーダーシップ研修の「看護倫理Ⅲ」の講義・グループワークに取り入れることができた。
- ・レベル別の各研修では、開催要項に研修の目的・目標を示し、研修開催時には研修内容がキャリア開発ラダーのどの指標が該当するのか目指す状態・到達目標を研修生にオリエンテーションし、目指すラダーレベルの意識付けをした。
- ・後輩指導を高める研修機会として、ラダーレベルⅢ取得者 8 名を看護技術研修の指導者に起用できた。

### 目標 2・3：

- ・新人看護師語り合う会からの課題である①指導者による指導の違い、②シャドウイング期間における与薬インシデントについて教育担当係長会議で、現状把握・問題点とその改善策を検討した。次年度の新人教育で検討に基づいた実施ができるよう新人教育体制を支援する。
- ・11 月の新入看護職員研修会での新人の段階別到達目標の達成度、進捗状況は例年と同様であったが、担当看護師としての役割（「自己の役割を学ぶ」段階）をすでに開始している新人が散見した。新人は評価設定時期に評価して次段階に進むことを周知する必要がある。
- ・令和 7 年度の新人看護師の退職率は 8.8%（9/102 名）だった。令和 5 年度：3.15%／令和 4 年度：2.4%で新人看護師の離職率は高まりの傾向がある。新人の職場適応について、教育担当者や精神的支援をリエゾン精神看護専門看護師の協力を得て、現場教育の進め方、並びに「新人語り合う会」「新入看護職員研修」の充実を図り継続する。

#### 次年度の課題

- ・ 事前課題や事後課題等にナーシングスキルや YouTube 等の動画視聴を取り入れ、時間を有効に使って効果的に学習できる環境を整える
- ・ 2 年目研修の内容見直し、及び、OJT における 2 年目教育計画の運用を推進する
- ・ 新人教育研修プログラムに則った「新人（経験者）段階別到達目標」の評価・進め方が実践できるように新人（経験者）、実地指導者、教育担当者に働きかけ支援する

看護研究委員会 活動評価

目的：看護職員の質向上の為に看護研究に関する活動を推進する

- 目標： 1. 臨床における看護研究の視点を明確にし、看護研究活動を推進、支援できる  
2. 院外の学会への参加を促進する

実践結果

開催 月日	実践委員会 研修会等	対象	参加 人数	結果
4月15 日（月）	委員会	委員 全看護職員	4名	今年度目標、活動計画を決定。看護研究発表会の準備、ナースリサーチカフェ（以下 NRC）準備を行った。NRC 開催日でも相談が受けられるようにした。参加可能な学会リストを作成した。
5月20 日（月）	委員会 ナースリ サーチカフェ	委員 全看護職員	5名 2名	看護研究発表会の当日の役割、アンケートを検討した。NRC では、内視鏡センタースタッフより外部の研修会で発表予定のないようにについて検討した。ICU スタッフより「ICU 入室中の重症患者に対する看護師の睡眠評価の視点に関する研究」について発表時間内に納めるための工夫について検討した。
6月17 日（月）	委員会 ナースリ サーチカフェ	委員 全看護職員	5名 1名	看護研究発表会の進捗状況の確認、当日の役割について検討した。 NRC では、西棟 12 階 B 病棟スタッフより 7 月の学会で発表する、「混合病棟における乳癌看護の質の向上を目指す取り組み」「乳癌術後出血を早期に発見するための取り組み」のパワーポイントの検討を行った。
7月22 日 （月）	看護研究発表 会	全看護職員	68名	外来化学療法センター、西 7 看護師が研究発表を行った。68名と例年同様の参加人数であった。参加者の 73% がラダーレベル 1 またはレベル 2 であった。アンケート結果では、95%が「大満足」もしくは「やや満足」であった。発表により、院内で様々な取り組みが行われていることが知れてよかった、勉強になった、業務改善も兼ねた研究が行われていることを知れてモチベーションが上がったなど、参加者のモチベーションに影響を与えた機会になった。
8月19 日（月）	委員会 ナースリ サーチカフェ	委員 全看護職員	5名 0名	看護研究発表会の評価、文献検索ワークショップ <sup>※</sup> の検討を行った。 看護研究綴りの内容および各部署に紙保管ではなく看護部ガールーン内で活用することを検討した。
10月21 日（月）	文献検索ワー クショップ 16：30～17： 30	全看護職員	2名	希望者 4 名であったが当日の勤務状況で 2 名であった。目標とした文献検索の目的、方法については 100%が理解した。満足度も全員が「大変満足」、活用度も「役立てる」と回答した。今後は、研究だけでなく日常の業務にも活用できる文献検索の参加者を増やすための方法を検討する。

開催 月日	実践委員会 研修会等	対象	参加 人数	結果
11月18 日（月）	委員会 ナーシングリ サーチカフェ	委員 全看護職 員	5名 1名	文献検索ワークショップの評価、次年度の活動日程を確認した。今年度の学術奨励賞の候補者を選定した。NRCでは、西12B病棟より次年度の学会発表および研究チームについて相談に応じた。
12月16 日（月）	委員会 ナーシングリ サーチカフェ	委員 全看護職 員	5名 2名	年度末評価、次年度活動計画を検討した。NRCでは、緩和ケア医師、看護師チームより「ACPにおける患者の希望とその背景」についての相談に応じた。
1月20 日（月）	委員会 ナーシングリ サーチカフェ	委員 全看護職 員	5名 0名	次年度活動計画を立案した。NRCについて前回相談のあった研究について、研究全般を見直すとの報告があった。
2月17 日（月）	委員会 ナーシングリ サーチカフェ	委員 全看護職 員	4名 0名	次年度委員会目標、計画を見直し、看護研究発表会を7月、文献検索WSを8月に行うこととした。令和7年度院内看護研究発表会にて、発表者の選定を行った。NRCではリーダーシップ研修でのまとめを院外での発表をしていけるよう推進中との報告があった。
3月17 日（月）	委員会	委員	4名	令和7年度院内看護研究発表会の準備、NRCの進捗状況、令和7年度の学会案内について検討した。

## 全体評価

### 目標1：臨床における看護研究の視点を明確にし、看護研究活動を推進、支援できる

看護師のキャリア開発ラダー「研究的視点を持ち看護上の課題に取り組むこと」を支援するため、看護研究発表会、文献検索ワークショップ、NRCを行った。看護研究発表会では、2題の発表を行い、参加者の満足度、理解度も高く、日頃の看護実践の中に、研究的視点、研究の種があることを理解した。日頃の看護実践の中の疑問から看護研究につなげられるよう研究発表会の内容の検討を継続し行っていく。文献検索ワークショップは、参加者の満足度、活用度は高いが参加者が少ないため、参加しやすい日程や参加者数を増やす工夫をしていく。NRCでは、4月～12月に7件の相談を実施。研究内容、方法、分析方法、学会での発表内容の検討、研究活動の進め方などの相談に応じた。月1回の固定の相談日以外でも相談に応じることができるよう案内や調整を行った。今後も様々な内容の相談に応じられるような体制を継続していく。

### 目標2：院外の学会への参加を促進する

参加可能な学会リストを年度初めに作成し各部署へ配布したが、その評価は行っていない。今後は評価方法を検討し、効果的な促進方法を検討していく。

以上の活動を通して、研究的な視点を明確にし、それぞれのニーズに応じた支援を行い目標は達成したと考える。今後さらに院外の学会や研究会にも積極的に参加できるよう支援を行う。

## 次年度の課題

1. 研究的視点を持ち看護上の問題に取り組めるよう、ナーシングリサーチカフェ（NRC）、文献検索ワークショップ、看護研究発表会など一連の看護研究活動の支援を継続、参加者への案内を充実する。
2. 必要な時に看護研究の相談に応じられる体制を継続する。
3. 院外の学会、研究会への参加を促していく。

ラダー認定委員会 活動評価

目的：キャリア開発ラダー認定の監査・実施・評価に関する審議を行う

目標：1.「赤十字医療施設のキャリア開発ラダー」の申請を支援し、認定者が全看護職員の67%以上（2024年度末）を占めるよう推進する

2. 同僚評価会の質向上に向けての支援をする

1) 評価会前の書類確認とフィードバックの実施

2) 解釈のずれの多い評価指標を明確にし、適切な指標理解に導く

実践結果：

開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加 人数	結果
4月18日	委員会	委員	9名	今年度目標管理 活動計画について 申請書類の確認・監査 3月認定者8名
5月16日	委員会	委員	10名	① 今年度のラダー申請予定者・書類確認方法 ② 申請書類の確認・監査 4月認定者3名
6月20日	委員会	委員	10名	① 申請書類の確認・監査 5月認定者1名 ② ラダー申請における課題について検討
7月18日	委員会	委員	8名	① 申請書類の確認・監査 6月認定者9名 ② ラダー申請における課題について検討
8月15日	委員会	委員	9名	① 申請書類の確認・監査 7月認定者8名 ② ラダー申請における課題について検討
9月19日	委員会	委員	10名	① 申請書類の確認・監査 8月認定者12名 ② ラダー申請における課題について検討 ③ 中間評価
10月17日	委員会	委員	9名	① 申請書類の確認・監査 9月認定者15名 ② ラダー申請における課題について検討 ラダーⅣ取得に向けた検討開始
11月21日	委員会	委員	10名	① 申請書類の確認・監査 10月認定者12名 ② ラダー申請における課題について検討 ラダーⅣの指標解釈の具体例の検討
12月19日	委員会	委員	10名	① 申請書類の確認・監査 11月認定者7名 ② ラダー申請における課題について検討 ③ 年度末評価

開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加 人数	結果
1月16日	委員会	委員	10名	① 申請書類の確認・監査 12月認定者7名 ② ラダー申請における課題について検討
2月20日	委員会	委員	7名	① 申請書類の確認・監査 1月認定者12名 ② ラダー申請における課題について検討
3月18日	委員会	委員	9名	① 申請書類の確認・監査 2月認定者12名 ② ラダー申請における課題について検討

## 全体評価

### 目標：1

- ・令和7年度の実践者ラダー認定者数は、ラダーⅢ：12名、ラダーⅡ：45名、ラダーⅠ：62名、合計119名であった。
- ・3月31付の実践者ラダー認定者数はのべ639名、全看護職員数971名に対する取得率は65%で目標値には達成しなかった。令和7年度の申請予定者は133名であったが、感染症の流行等に伴う勤務調整による同僚評価会の延期・中止が要因として挙げられる。しかしながら、実践者ラダー対象の看護職員（看護管理者、新人看護職員、パート・再雇用看護師除外）738名での割合は、86%と昨年度と同様の結果だった。
- ・申請予定計画を立案して同僚評価会が進められるよう促してはいるが、申請者の30%（41/120名）が申請月の延長となった。その要因として、必須研修未受講による延期は減少したが、申請者の書類準備不足や勤務調整による同僚評価会の日程変更が増えていることが挙げられた。

### 目標：2

- ・評価会前の書類監査で、具体的でない或いは指標に沿っていない自己評価については、一つ一つ望まれるコメントを付けてフィードバックを行った。司会者が書類監査のコメントを考慮しながら同僚評価会を実施していることが評価会後の書類監査で確認できた。
- ・様式7の事例の記述がナラティブで記述できていると、評価者が指標に沿ったわかりやすい内容で様式8の評価ができています。一方で、事例記述が看護のまとめになっていると自己評価の根拠が曖昧、具体性に乏しいなどズレが生じる要因の一つにもなっている。そのため、申請者がナラティブで様式7を記述できるように司会者の指導を支援する必要がある。

## 次年度の課題

1. 「赤十字医療施設のキャリア開発ラダー」の申請を支援し、認定者が全看護職員の65%以上（2025年度末）を維持できるようにする
2. ラダーレベルⅣ以上の申請の推進について検討する
3. 申請者のナラティブ記述について、司会者が申請前に指導できるように支援する



ナーシングスキル活用委員会 活動評価

目的：1. 看護基準・手順の整備をおこなう

2. ナーシングスキルの活用について周知する

目標：1. ナーシングスキルと看護基準・手順、検査・処置との整合性を図り、見直しと修正の実施

2. ナーシングスキルを日常的に活用できるよう支援する

実践結果：

開催月日	委員会 実践委員会	対象	参加 人数	結果
4月8日 (月)	委員会	新人看護師		看護基準手順の説明 ナーシングスキルの活用方法の説明
4月26日 (金)	委員会	委員	9名	・活動計画立案・共有 ・検査・処置ファイルの撤収日程調整 ・基準手順Ⅰファイル内容の最終チェック、目次修正
5月31日 (金)	委員会	委員	10名	・検査・処置ファイル更新、全部署ファイル回収 ・基準手順Ⅰ更新日程調整 ・ナーシングスキルお勧め動画周知開始及び内容検討 ・第1回実践委員会 内容検討
6月28日 (金)	委員会	委員	9名	・全部署基準手順Ⅰファイル回収 ・第1回実践委員会 内容検討 ・臨時会議(6/3) 基準手順Ⅰ更新時インフォメーション内容 検討
7月26日 (金)	委員会 実践委員会	委員 実践委員	8名 28名	「実践委員会」 ・今年度の活動計画を実践委員と共有 ・ナーシングスキルの活用の周知(使用方法、注意事項 の説明) ・臨時会議(7/4)
9月6日 (金) メール会議	委員会	委員	10名	・実践委員会アンケート結果把握 ・MRI 手順について他部署との協議
10月17日 (木)	委員会	委員	6名	・実践委員会アンケート結果フィードバック方法の検討 ・ナーシングスキルお勧め動画内容検討
11月22日 (金)	委員会	委員	7名	・基準手順Ⅱファイル更新内容の確認 ・機能評価受審進捗確認 ・1月以降の検討内容確認
12月27日 (金) メール会議	委員会	委員	10名	・1月実践委員会の内容検討

開催月日	委員会 実践委員会	対象	参加 人数	結果
1 月 24 日 (金)	委員会 実践委員会	委員 実践委員	10 名 27 名	・ 検査処置ファイルの見直し・修正計画 「実践委員会」
2 月 28 日 (金)	委員会	委員	9 名	・ 今年度の課題、次年度目標、活動計画 ・ 新入看護職員採用時研修会内容検討
3 月 28 日 (金)	委員会	委員	8 名	・ 新入看護職員採用時研修会内容最終確認 ・ 次年度委員会開催時間調整 ・ 手順修正, 更新

#### 全体評価

##### 目標 1

- ・ 基準手順Ⅰ・Ⅱファイル、検査・処置ファイルを全部署から回収した。3つのファイルは印刷し看護部に保管した。機能評価受審の際に各部門で見直し・修正のあった項目について更新した。

##### 目標 2

- ・ 第 1 回実践委員会（7 月）でナーシングスキルの活用について周知した。ナーシングスキルの手技のアクセス数は 4 月～9 月の期間で令和 5 年 5428 件、令和 6 年 4773 件であり、約 10%減少していた。動画講義のアクセス数は令和 5 年 1223 件、令和 6 年 2492 件となっており、2 倍増の利用であった。身体的拘束や倫理等、その時々に必要な知識に合わせて師長会お知らせでアナウンスしたこと、各部署の実践委員の活躍によりアクセス数が増加したと推察できる。

#### 次年度の課題

- ・ 活用しやすい基準・手順に向けて整備を行う。検査・処置ファイル更新予定。
- ・ ナーシングスキルのアクセス数が伸びるよう活動する。

※定例委員会：毎月第 4 金曜日 15 時～16 時 研修室 3

※実践委員会：年 2 回（7 月、1 月）第 4 金曜日 15:30～16:30 研修室 3・演習室 2

## 業務委員会 活動評価

**目的：**看護業務の標準化と改善

- 目標：**
1. なかむら日赤看護ケア提供方式の定着に向けて実践委員を支援する
  2. 看護職員に看護必要度の内容を周知し、評価基準の正しい理解を促す
  3. 看護業務管理ノートの修正・見直しを実施する  
(標準業務内容・看護用具の整備・点検表、看護助手業務)
  4. 看護補助者との更なる協働を推進する

**活動計画：**

( ) 内の数字は目標の番号

開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加人数	内容
4月3日 (水)	委員会 新入看護職員 採用時研修会	新入看護職員	7名 106名	新人オリエンテーション (看護業務・看護必要度)
4月4日 (木)	委員会	委員	7名	年間計画、新人オリエンテーション振り返り 必要度研修の内容検討 第1回実践委員会開催要項作成
5月2日 (木)	委員会	委員	9名	必要度研修の内容決定(診療報酬改訂と必要度 評価) 第1回実践委員会 必要度研修準備
5月9日 (木)	実践委員会	委員 実践委員	9名 30名	第1回実践委員会開催(1・2・4) (必要度研修・部署内での研修実施の働きか け)
6月6日 (木)	委員会	委員	9名	業務管理ノート見直し① 看護単位 PHS 表の 作成 必要度研修・看護補助者への依頼内容の検討
7月4日 (木)	委員会	委員	9名	業務管理ノート見直し②(3・4) 看護補助者への依頼内容の記録について検討 「看護補助者との更なる協働」e-ラーニング方 法検討
8月1日 (木)	委員会	委員	9名	業務管理ノート見直し③ 必要度研修集計結 果確認 看護補助者への依頼内容記録検討・伝達メモ用 紙の検討 (1・2・3)
9月5日 (木)	委員会	委員	8名	患者移送依頼票作成 実践委員会準備 患者ボ ード検討 看護補助者への依頼内容と記録について検討 業務管理ノート見直し④ (1・3・4)
10月10日 (木)	委員会 実践委員会	委員	9名 30名	当日受け持ち看護師名の表示方法検討 (1・2) 第2回実践委員会 業務管理ノート差し替え (各看護単位の実践状況の共有と課題確認・標 準化支援)

開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加人数	内容
11月7日 (木)	委員会	委員	9名	当日受け持ち看護師名の表示方法検討 実践委員会の振り返り・標準化に向けた提案事項検討 必要度研修評価 (1・2・3・4)
12月5日 (木)	委員会	委員	7名	機能評価振り返り e-ラーニング実施状況確認 委員会年度末評価 (1・2・3・4)
1月9日 (木)	委員会	委員	9名	e-ラーニング実施状況確認 (4)
2月6日 (木)	委員会	委員	9名	新入看護職員採用時研修会準備 (1)
3月6日 (木)	委員会	委員	9名	新入看護職員採用時研修会準備 (看護用具点検表確認) 次年度委員会目標 (1)

## 活動評価

### 全体評価

#### 1. なかむら日赤看護方式の導入と定着に向けて実践委員を支援する

業務実践委員会を2回開催した。初回は、なかむら日赤看護ケア提供方式について説明した。2回目は、各部署での進捗状況を全体で共有し、ペアで実施する業務・二人で実施する業務にたいする基本の考え方の確認と、実践に向けた動機づけを行うことができた。

#### 2. 看護職員に看護必要度の内容を周知し、評価基準の正しい理解を促す

初回の業務実践委員会で、今年度の診療報酬改定に伴い、A項目創傷処置、呼吸管理、ドレーン管理の処置オーダの確実な入力的重要性を説明した。同時に引き続きB項目の確実な評価が正しく行えるよう研修を実施した。

2回実施した必要度の研修では、10項目のテストのうち、1回目を上回り80%を超えた正解率となった項目は5項目。5項目は80%を超えなかったが、1回目よりは正解率は高くなった。今年度も、研修を繰り返すことで正しい評価基準の理解が高まったと評価できた。看護必要度の評価は、100%の正確性が求められる。次年度も看護必要度の研修は継続し、スタッフ全体で正確な判断ができるようになる必要がある。

#### 3. 看護業務管理ノートの修正・見直しを実施する

##### (看護用具の整備・点検表、看護助手業務、患者ボード)

2024年度の看護用具の備品・点検表について、機能評価の評価項目に合わせて見直し更新した。看護業務管理ノートは、『なかむら日赤看護ケア提供方式』と『標準二交替』の業務内容となるよう改訂し、実践委員会で差替えるとともに、ガルーン上のデータも更新することができた。

看護補助者(看護助手業務等)の業務について、業者の仕様書の更新にともない差し替えた。また、インシデントがきっかけではあるが、看護補助者への患者移送依頼票を作成し運用した。

ホワイトボードに掲示している患者ボードの更新を検討したが、物品確保困難により更新に至らなかった。劣化が著しい部署もあるため、再度検討しわかりやすいボードへの更新を目指したい。

機能評価受審に向け、評価項目となる当日受け持ち看護師の表示方法を検討し、当日受け持ち看護師カードの運用を決定し、機能評価までに整え実施できた。

看護補助者業務マニュアルを整備した。各看護単位へ配布予定である。

#### 4. 看護補助者との更なる協働を推進する

昨年度未受講の看護師と新人看護師を対象に e-ラーニングを実施し、全看護師・助産師が研修を受けられるようにした。研修は、12 月末時点で休職者等含む未実施者 165 名の内、71 名（43.0%）の実施率であった。年度末の最終結果は、休職者や復帰プログラム以外の看護師・助産師の研修実施率は 100%であり、目標を達成した。次年度も診療報酬上の基準に則り、研修を計画し実施する。

看護補助者による依頼業務の実施記録について検討し、患者 1 名に対しケア予定を印刷し、その用紙に実施した看護補助者が押印、1 日分を DARTS スキャンで記録に残す方法が妥当と考え試行した。その結果は、看護師の業務負担、DARTS スキャンにかかるデータ処理の負担など課題があることがわかり、全体での運用には至らなかった。今後、介護士がスマートデバイスによる実施入力可能かを検討し、具体的な実施方法、運用手順を整備し、全体周知につなげていきたい。

#### 5. その他

- ・「せん妄ハイリスク患者ケア加算 リスク因子」の処置オーダー入力を確実に実施できるよう、表示方法を変更した。
- ・各看護単位の PHS 表を再作成した。

#### 次年度の課題

- ・なかむら日赤看護ケア提供方式、運営の原則に基づいた各看護単位の業務内容の整備状況と「ペアで実施する業務」「二人で実施する業務」の実施状況を確認し、さらなる定着をめざし推進する。
- ・患者ボードを更新する。
- ・看護必要度は次年度も研修を継続し、スタッフ全体での評価精度を高める。
- ・看護補助者との協働における記録のあり方について引き続き検討する。
- ・看護師の個人情報保護も踏まえ、当日受け持ち看護師カードへの氏名の掲示について検討する。

看護記録効率化委員会 活動評価

目的： 看護記録の標準化を図る  
看護記録の効率化を図る  
看護記録の質を向上する

- 目標： 1. 看護記録記載基準の見直し→特殊部門の見直しと修正後、基準を差替え完了  
2. クリニカルパスの新規作成と適切な運用を支援→新規作成件数, 患者用パスの作成件数, 適応率 66%, アウトカム評価率 80%  
3. ケアセット、テンプレートの変更、見直し→件数  
4. オーディットの推進 →全部署 10 件以上  
5. 看護サマリーを 2 週間以内に記載→記載率 100%

実践結果

開催 月日	実践委員会 研修会等	対象	参加 人数	結果
4 月 6 日	新入看護職員 採用時研修	新人		「看護記録とは」30 分 看護記録の基礎知識・当院の看護記録
4 月 8 日	委員会	委員	7	・ 特殊部門記載基準見直し依頼 ・ 新入看護職員採用時研修評価 ・ 年間計画立案
5 月 13 日	委員会	委員	10	・ 実践委員会準備 ・ 記載基準見直し ・ 看護サマリシステムへの要望まとめ ・ アウトカム集計 医療情報課と検討 ・ 看護サマリー記載率集計
6 月 10 日	委員会	委員	10	・ 特殊部門記載基準の見直し ・ クリニカルパス監査 ・ テンプレート監査（1 件）
6 月 10 日	第 1 回実践委員会	実践委員	29	・ 実践委員の役割について ・ クリニカルパスについて ・ 実践委員取組み課題 ・ 記載基準差替え
7 月 8 日	委員会	委員	9	・ 特殊部門記載基準見直し ・ クリニカルパス研究会報告 ・ 実践委員取組み課題の支援について ・ アウトカム評価率 ・ クリニカルパス監査 ・ 看護サマリー記載率集計
8 月 19 日	委員会	委員	10	・ 特殊部門記載基準の見直し ・ 実践委員取組み課題進捗状況 ・ テンプレート タイトル変更 ・ 外来看護計画についての相談 ・ クリニカルパス監査

開催 月日	実践委員会 研修会等	対象	参加 人数	結果
9月9日	委員会	委員	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践委員取組み課題進捗状況</li> <li>・記載基準変更（アレルギー 身体的拘束）</li> <li>・身体的拘束 ケア項目</li> <li>・クリニカルパス監査</li> <li>・看護サマリー記載率集計</li> </ul>
10月21日	委員会	委員	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価</li> <li>・クリニカルパス監査</li> </ul>
10月21日	第2回実践委員会	実践委員	29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組み課題中間評価 発表</li> <li>・記載基準差替え</li> </ul>
11月11日	委員会	委員	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記載基準 略語集表紙</li> <li>・クリニカルパス監査</li> <li>・看護サマリー記載率</li> <li>・アウトカム評価率</li> </ul>
12月9日	委員会	委員	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末評価 次年度課題</li> <li>・クリニカルパス監査</li> </ul>
1月20日	委員会	委員	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テンプレート審査（手術室）</li> <li>・新採用者オリエンテーション内容</li> <li>・来年度委員会活動</li> </ul>
2月10日	委員会	委員	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルパス</li> <li>・看護サマリー記載率集計</li> <li>・クリニカルパス監査</li> </ul>
3月10日	委員会	委員	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新採用者オリエンテーション内容</li> <li>・クリニカルパス監査</li> <li>・ケア項目監査</li> </ul>

## 全体評価

### 1. 看護記録記載基準の見直し

「結果」全部門の看護記録記載基準の見直し・差替え完了した。

特殊部門のシステム変更、機能評価審査等現状に即して適宜修正を行なった。評価結果を踏まえて、修正の必要があれば検討する。

### 2. クリニカルパスの新規作成と適切な運用を支援

「結果」パス新規作成件数：26 件（内訳：循内 3. 消内 2. 腎内 1. 呼内 6. 消外 7. 形成 1. 眼科 1. 乳外 1 脳外 1. 心外 1. 口外 2.）

修正件数：23 件（内訳：消内 4. 腎内 1. 消外 5. 整形 3. 産科 7. 消内 3. 心外 3.）

アウトカム評価率：65.8%（最終） パス適応率：61.8%（4 月～11 月）

クリニカルパス新規作成件数は昨年度（3 件）より増加し、適応率は 1.2%上昇したが目標値には達成できなかった。全国平均適応率は 44%（2020 年パス学会）であり、当院はそれに比べ高い適応率ではある。もともとパスを運用している診療科の新規作成はあるが、パスを持たない部署もあり偏りがある。特に内科のパス適応率が依然低い現状である。パス改善チームとともに、パス作成可能な疾患・治療の検索を行なう。また、患者用パスの標準化と作成を支援するために、パスの監査基準を作成していく。

アウトカム評価率の平均は初回 41.9%から 65.8%と改善はしたが、目標達成はできなかった。部署毎にみると評価率 22.3%から 97.7%と部署間で差があった。アウトカム評価の実施がまだ定着できておらず、今後も継続する。

### 3. ケアセット、テンプレートの変更、見直し

「結果」ケアセット新規作成：2 件 ケア項目：2 件 テンプレート新規作成：2 件 の承認依頼。

### 4. オーディットの推進

「結果」オーディット件数：平均 26 件/月ではあるが、全部署 10 件/月は達成できなかった。

オーディット実施を実践委員取組み課題にしている部署は 15 部署があった。実践委員活動前は 10 件/月を達成した部署の割合は 64.5%であったが、活動後の 7～11 月は 83.9%の部署が 10 件/月を達成でき、改善した。実践委員の働きによるものが大きい。

### 5. 看護サマリーを 2 週間以内に記載

「結果」記載率結果：95.8%（定点） 97.8%（9/1～10/27）

89.5%（定点） 99.0%（11/1～1/27）

目標は達成できなかったが、記載率は改善した。実践委員取組み部署は 19 部署あり、実践委員の取組みが功を奏した。今後も継続できるよう記載率をフィードバックする。

## 次年度の課題

1. 看護記録記載基準の修正とその周知
2. 新規クリニカルパスの作成推進 運用支援
3. オーディットの推進
4. 看護サマリーの 2 週間以内記載



リスクマネジメント委員会 活動評価

目的：医療事故の予防に努め、安全な組織をつくる

目標：

1. 実践委員（看護単位リスクマネージャー）を支援し、医療安全教育を推進する

①各看護単位の医療事故、IA レポートを分析し傾向を把握する

②繰り返されるインシデントに対する対応策を考え実行できるよう導く

2. 実際の事例に基づいたリスクマネジメントニュースを発行し、事故防止を啓蒙する

実践結果

開催 月日	実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
4月7日	新人看護職員採用時研修会	新入看護職員委員	106名 7名	安全確保の技術；転倒転落 点滴・内服確認方法 安全確保；講義と実演で説明
5月9日	委員会	委員	8名	新入オリエンテーションの振り返り 委員会目的・目標、年間活動計画の検討 リスクマネージャー会説明内容検討 （IA レポート分析方法を含む） 転倒・転落予防スクリーニングと転倒後の記録の課題について検討
6月12日	第1回 リスクマネージャー会	リスクマネージャー委員	31名 8名	看護単位での活動内容共有 一般病棟：転倒転落 その他：繰り返されるインシデント
6月20日	委員会	委員	7名	リスクマネージャー活動支援、対応策確認 リスクマネージャーの取り組みのグループ分け
7月11日	委員会	委員	8名	一般病棟における転倒転落に関する IA レポート分析状況の確認（6/12 以前に発生した直近 10 件） 転倒・転落防止対策（5 事例）の中間評価
8月8日	委員会	委員	8名	一般病棟における転倒転落に関する IA レポート分析状況の確認 リスクマネージャー活動支援、対応策確認
9月12日	委員会	委員	7名	リスクマネージャー活動支援、対応策確認
10月10日	委員会	委員	7名	リスクマネージャー活動支援、対応策確認 内服与薬手順の見直し リスクマネジメントニュースの内容検討 小児科における転倒転落スクリーニングの見直し
11月14日	委員会	委員	7名	リスクマネージャー活動支援、対応策確認 第2回リスクマネージャー会の進行確認 小児科における転倒転落スクリーニングの見直し 内服与薬手順の見直し

開催 月日	実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
12月12日	委員会	委員	8名	次年度新人オリエンテーション動画案検討 リスクマネージャー活動支援、対応策確認 内服与薬手順の見直し 小児科における転倒転落スクリーニングの見直し 活動計画の年度末評価について 転倒・転落防止対策(5事例)の年度末評価
1月9日	委員会	委員	8名	次年度新人オリエンテーション内容確認 内服与薬手順の見直し リスクマネジメントニュースの内容検討 小児科における転倒転落スクリーニングの見直し
2月13日	第2回 リスクマネージャー 会 委員会	リスクマネージャー 委員	29名 8名	看護単位取り組み結果内容確認、リスクマネージャーで共有 リスクマネジメントニュースの内容検討 小児科における転倒転落スクリーニングの見直し
3月13日	委員会	委員	8名	次年度新人オリエンテーション準備 次年度活動計画案立案

## 全体評価

### 1. 実践委員（看護単位リスクマネージャー）を支援し、医療安全教育を推進する

#### 1) 各看護単位の医療事故、IA レポートを分析し傾向を把握する

一般病棟：昨年の転倒転落に関する直近の IA レポートを、①防ぎ得た②防ぎ得なかった③防ぎ得たかどうか曖昧の視点で病棟係長のサポートのもと分析した。

特殊病棟：昨年度の IA レポートから検討し、その事例について分析した。

#### 2) 繰り返されるインシデントに対する対応策を考え実行できるよう導く

一般病棟：上記①②③について検討された対策が妥当かどうか一緒に検討し、目標設定においても支援した。

特殊病棟：現状分析と目標に乖離がないよう支援した。

毎月、担当の委員会メンバーがメール等で進捗を確認し、係長やスタッフの協力を得ながら取り組んでいる状況を確認できた。8 月から 12 月までの取り組みをまとめ、第 2 回リスクマネージャー会で共有した。アンケート結果より、一般病棟においては、所属師長・係長の支援と委員会担当者からの支援を受けて取り組みを進めることができたことに 97%（28 名）で満足度が高かった。現状分析をしっかりと行って対策を検討したことが結果に繋がったとの回答が多かった。西 8 A の取り組み「離床センサーの選択基準」を使用した OJT については、標準化できるかどうか委員会で検討して進めいく。他意見として、取り組みのまとめに時間を要した。時間外業務として申請できる用にしてほしいとの要望があったため看護部と共有し対応を検討する必要がある。

#### 3) 新内服手順（処方指示・スマートデバイスを導入した手順）の遵守状況を確認し課題を明確にする。

遵守状況の確認：昨年度、師長会の「指示受け・指示確認チーム」で使用した【内服薬（経口）における指示受けから実施まで】評価表を用いて調査予定であったが、IA レポートの内容から、手順の遵守状況に問題ありと判断した。そのため、IA レポートの振り返りに、手順に沿ってチェックできるようリスト化した用紙を用いてチェックし提出してもらい（2 月～4 月分）、その結果を集計し問題を明確にし対策を検討することとした。

#### 4) 小児科における転倒転落スクリーニングの見直し

未就学児の転倒転落スクリーニングを新規作成した。小児科関連と連携し作成～運用と進めていきたい。当院以外の状況や有識者のご意見を伺いながら進めている。来年度早々に運用開始とする。

### 2. 実際の事例に基づいたリスクマネジメントニュースを発行し、事故防止を啓蒙する

処方指示・スマートデバイスを導入した手順に関する内容を年度内に発行予定としていたが、新手順の遵守状況を発生したインシデントに基づいて確認中。その結果を踏まえて手順の周知目的で発行することとした。

## 次年度の課題

以下昨年記載した内容

### 1. 実践委員（看護単位リスクマネージャー）を支援し、医療安全教育を推進する

各看護単位の医療事故、IA レポートを分析し傾向を把握した上で、リスクマネージャーが中心になって改善に向けて取り組めるよう支援する体制を整備する。

TeamSTEPPS だけでなく RCA 分析や KYT も活用し医療安全に取り組む支援を体制を整える。

与薬手順が遵守できるよう各看護単位の現状を共有し、対策を検討し与薬に関するインシデント件数の減少を目指す。

### 2. 実際の事例に基づいたリスクマネジメントニュースを発行し、事故防止を啓蒙する

与薬手順が見直し、周知の目的でニュースを発行する。

今年度リスクマネージャーが取り組んだ内容で効果的かつ再現性のある内容を共有できるツールとしてもニュースを活用していけるよう検討し、転倒転落予防目的に、離床センサー選択基準標準化できるようにする。

ZERO レベル報告のすすめ、IA レポート事例から事故防止につなげられるようにする。

看護支援システム管理委員会 活動評価

目的：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院情報システム「病院情報運用マニュアル」「電子カルテ操作マニュアル看護編」に遵守した看護支援システムの適正な運用、システム更新後の整備を行なう

目標：1. 電子カルテ更新後の整備

- 1) 「病院情報運用マニュアル」「電子カルテ操作マニュアル看護編」「スマートデバイスらくらく看護師」の見直し
- 2) 「一般指示」「処方指示」の適正な運用の周知
2. 診療報酬改定に向けた各診療科、各部門からの要望に応じた適正な看護支援マスタ管理  
ケア項目、セット、テンプレート、処置マスタ等
3. 安全・効率的な看護支援システムの運用  
システム運用に関する困りごと、不便さ、要望などの抽出と改善
4. 病院情報運用マニュアルの周知  
個人情報取扱いの周知、電子カルテシステムで取り扱う電子機器の適正な管理の周知
5. サイバー攻撃時のシステム障害時マニュアル作成と周知

実践結果

開催 月日	実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
4月5日 4月12日	新入看護職員採用時研修	新採用者 委員	106名 9名	・新入看護職員採用時研修 講義：「安全な医療情報システムの活用方法」(4/5) 操作訓練演習：「電子カルテ操作・入力・閲覧」(4/12)
4月18日	委員会	委員	9名	・看護支援システム管理委員会規定等の見直し ・年間活動計画立案、当番等決定 ・新入看護職員採用者研修の振り返り・評価
5月16日	委員会	委員	9名	・新入看護職員採用者研修の評価の情報共有 ・マニュアル等の見直し ・システム運用に関する意見書の内容の検討
6月20日	委員会	委員	9名	・マニュアル等の見直し ・システム運用に関する意見書の内容の検討 ・「一般指示」「処方指示」の運用状況の確認 ・サイバー攻撃時のシステム障害時 BCP：本社より 6月公開の BCP 雛形の確認
7月18日	委員会	委員	8名	・マニュアル等の見直し ・システム運用に関する意見書の書式作成 ・「一般指示」「処方指示」の運用状況の確認
8月15日	委員会	委員	9名	・マニュアル等の見直し ・システム運用に関する意見書の運用開始 ・実態調査：ラウンド実施①
9月19日	委員会	委員	9名	・マニュアル等の見直し ・システム運用に関する意見書に対する改善策の検討 ・実態調査：ラウンド集計、結果報告①

開催 月日	実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
10 月 17 日	委員会	委員	9 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアル廃止・回収、必要資料を配付</li> <li>・実態調査：自己評価（アンケート実施）</li> <li>・IT-BCP とサイバー攻撃時のシステム障害時マニュアル【総論編】の確認</li> </ul>
11 月 21 日	委員会	委員	9 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム運用に関する意見書に対する改善策の検討</li> <li>・実態調査：ラウンド実施② ：自己評価（アンケート）結果報告</li> <li>・サイバー攻撃時のシステム障害時マニュアル改訂、BCP 初版完成</li> </ul>
12 月 19 日	委員会	委員	9 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入看護職員再照射研修会の準備：資料作成</li> <li>・年度末評価</li> <li>・実態調査：ラウンド集計、結果報告② 改善策検討</li> <li>・定期メンテナンスのお知らせ内容の確認</li> <li>・サイバー攻撃時のシステム障害時マニュアル【看護編】追加修正</li> </ul>
1 月 16 日	委員会	委員	9 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入看護職員再照射研修会準備：資料作成、NEC ヘダミー患者仕込み依頼</li> <li>・定期メンテナンスのお知らせ、対応の周知</li> </ul>
2 月 20 日	委員会	委員	8 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入看護職員採用時研修会準備：資料作成、ダミー患者の確認と資料とのすり合わせ、担当者決定</li> <li>・定期メンテナンスの評価</li> </ul>
3 月 27 日	委員会	委員	9 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入看護職員採用時研修会準備：最終打ち合せ</li> <li>・最終年度末評価</li> <li>・次年度委員会目標設定、活動計画、方向性の確認</li> </ul>

## 全体評価

### 目標１：電子カルテ更新後の整備

アンケート調査を実施し「電子カルテ操作マニュアル(看護編)」ファイルを廃止、「病院情報システム障害時マニュアル」に障害時の看護記録方法等の資料を追加・移行した。今後は、キャビネット内の電子カルテ操作マニュアル等更新時に周知していく。「一般指示」「処方指示」の運用については、日々の業務の中で発生した事象や問題に対し、適正な運用かどうか、システムの問題か確認し、必要時対応した。

### 目標２：診療報酬改定に向けた各診療科、各部門からの要望に応じた適正な看護支援マスタ管理

診療報酬改定や機能評価受審に伴う各診療科、各看護単位、認定看護師、病院委員会からの依頼に対し、依頼者の要望、要件にあった処置オーダーやテンプレート等を支援し、作成・追加修正した。

	2023 年度	2024 年 4～11 月
看護ケア・観察項目ケアセット	16 件	3 件/6 件
テンプレート	4 件	21 件
処置マスタ	9 件	29 件

### 目標３：安全・効率的な看護支援システムの運用

「システム運用に関する意見書」を作成し、9 月より運用開始した。困ったことや要望などの意見より現状確認を行い、改善に向けて診療情報管理課や外部業者へ調査依頼し、安全・効率的な看護支援システムの運用を検討中及び対応した。看護サマリーの入院日の修正を師長・係長に権限付与したことにより、削除・修正依頼が 122 件→68 件(12 月時点)まで減少した。

### 目標４：病院情報運用マニュアルの周知

「病院情報システム利用者の責務 実態調査」の他者評価(病棟ラウンド)を 8 月と 11 月に実施し、アンケートによる自己評価を 10 月に実施。昨年と比較すると他者評価は 81%→86.5%、自己評価は平均 4.7→4.8(5 段階評価)と遵守率は上昇し、看護部全体の遵守率の向上が図れた。しかし、「個人情報(バイダー、ワークシート、処方箋)を表向きに置いていない」と「ノート PC の上に物を置いていない」については遵守率が低く、PC の不適切な取扱いによる数百枚ほどの出力や水没による PC 破損 2 件、またスマートデバイス破損 1 件発生しており、看護部全体での情報共有と対策を検討した。次年度も引き続き、実態調査を実施し病院情報運用マニュアルの周知・徹底を図る。

### 目標５：サイバー攻撃時のシステム障害時マニュアル作成と周知

本社からの雛形をもとに、診療情報管理課が作成した当院の「IT-BCP」と「サイバー攻撃による大規模システム障害時マニュアル【総論編】」を委員会メンバーで確認した。今後は、これをもとに、昨年作成した「サイバー攻撃による大規模システム障害時マニュアル【詳細編】」を見直し次年度完成予定である。

## 次年度の課題

1. 安全・効率的な電子カルテ・看護支援システムの運用
  - 1) 「電子カルテ操作マニュアル看護編」「スマートデバイスらくらく看護師」のマニュアル、障害時伝票を見直し整備し、病院情報システム定期メンテナンス実施時には、円滑に業務が遂行し安全に看護が提供できるよう支援する
  - 2) 「システム運用に関する意見書」より現状確認し、改善に向けて取り組み、必要な情報は看護部全体で共有していく。また、「システム運用に関する意見書」の現状より改善点や課題を明らかにし、次期システム更新に向けて意見や要望など留める
2. 病院情報システムおよび看護支援システムに関するマニュアルの周知・徹底
  - 1) (1) 「電子カルテ操作マニュアル-看護編」「らくらく看護師さん操作マニュアル」：更新時お知らせ  
(2) 「病院情報システム障害時運用マニュアル」：メンテナンス実施時に安全かつ円滑に業務が遂行できるよう事前にお知らせと計画的に準備ができるよう支援する  
(3) 「サイバー攻撃による大規模システム障害時マニュアル（詳細編）」初版作成と概要等について説明、周知を図る
  - 2) 個人情報の取扱いおよび電子カルテシステムで取り扱う電子機器の管理について、次年度も継続、他者・自己評価の実態調査を実施し、更なる遵守率の向上を目指す
3. 適正な看護支援マスタの管理
  - 1) 看護記録効率化委員会と協働しケア項目、ケアセット、テンプレート、処置マスタ等の見直しと追加・修正による記録の標準化・効率化を図り看護の質向上に繋げる
  - 2) 診療報酬算定に必要な項目・処置は随時対応する



防災救護研修委員会 活動評価

目的：防災および救護体制の整備と看護師の「救護員としての赤十字看護師」の教育活動を推進する

目標：１．防災訓練を通して防災マニュアル（火災・地震）を検証する

２．防災・救護に関する実践能力の向上を図る

次年度の課題実践結果

開催月日	実践委員会 研修会等	対象	参加 人数	備考
4月9日 (火)	赤十字概論研 修	新入看護職員 未受講者	107 名	アンケート結果（回収率 100%） 「赤十字の現況と課題」 理解度：理解できた 88% やや理解でき た 12% 「基本原則と国際人道法」 理解度：理解できた 87% やや理解でき た 13%
4月24日 (水)	委員会	委員	9名	目標の共有・年間計画の調整
5月22日 (水)	委員会	委員	9名	防災備品説明会の準備 シナリオに頼らない訓練ができるよう 防災訓練計画書内容の見直しした
6月26日 (水)	委員会	委員	9名	防災備品点検表差し替え 防災訓練事前説明会の内容検討
6月26日 (水) 9月25日 (水)	防災備品説明 会	全看護単位防災 係 業務担当係長	56名	各看護単位の防災係と係長1名が参加 機械室加藤係長、社会課浦野氏の協力を 得、スタッフに指導できるよう消火器・ 消火栓等の取り扱いの体験とエアース トレッチャーの使用体験とデモンスト レーションの見学を行った。
7月～12月	防災訓練	全看護単位	140 名	令和5年度はリーダーと係長2人だけシ ナリオ共有したブラインド訓練を実施 したが、今年度はシナリオを全てなしに して出火場所も防災委員が開始直後に 設定し訓練を実施した。リーダーが的確 に指示を出すことができ、スタッフも指 揮命令系統に従い訓練に取り組んでい た。
8月9日 (金) 8月27日 (火) 8月28日(水)	救護員養成研 修	レベルⅡ以上	22名	愛知県支部救護員研修修了証 22名取得 した。

開催月日	実践委員会 研修会等	対象	参加 人数	備考
10月17日 (木) 11月22日 (金)	災害看護論	レベルⅠ・Ⅱ相 当	57名	アンケート結果（回収率100%） 満足度：大変満足82% やや満足18% 理解度：理解できた98% やや難しい2% 課題レポート：受講者の多くから救護員 としての心構えと災害看護師としての 自己の課題が明確にされていた。
12月25日 (水)	防災訓練 委員会	患者相談センタ ー 委員	9名	患者相談センター防災訓練実施予定 年度末評価
1月15日 (水)	フォローアッ プ研修	レベルⅢを目指 す者と未受講者	4名	八事主催の救護員フォローアップ研修 に参加予定。受講生4名
1月22日 (水)	委員会	委員	8名	フォローアップ研修準備等 来年度課 題整理
2月未定	PCU 水害訓練			
2月26日 (水)	委員会	委員	8名	フォローアップ研修準備等 来年度課 題整理
3月7日 (木)	フォローアッ プ研修	レベルⅢを目指 す者と未受講者	13名	アンケート結果（回収率100%） 満足度：大変満足62% やや満足38% 理解度：理解できた92% やや難しい8%
3月26日 (水)	委員会	委員	8名	来年度目標設定 4月新入職員研修準備

## 全体評価

### 目標 1：防災訓練を通して防災マニュアルを検証する

- ・令和 6 年度の防災訓練（火災）はシナリオを作成せず、出火場所も直前に委員メンバーが指定する訓練方法にした。昨年度より難易度を上げた訓練となったが、概ねリーダーが的確に指示を出すことができおり、スタッフも指示に従い行動することができていた。一部の病棟で 2 区画形成ができていなかったため助言を要した。
- ・西 6 と MFICU 以外、今年度は同一フロアで訓練が被らないように設定し、2 区画水平移動を速やかにおこなうことができた。水平 2 区画をわかりやすくするために、各病棟に見取り図を配布した。病棟ごとに防火扉、消火栓、消火器の位置を明示するなど活用されていた。
- ・防災マニュアルは火災用のみであったため、今年度地震用マニュアルを追加し改定した。今年度は機能評価の関係で大規模災害訓練が 10 月（通常 12 月）であったため地震マニュアルの検証ができなかった。クラークや看護助手との協働について明文化されたマニュアルがないため、作成を検討し来年度の大規模災害訓練で検証したい。

### 目標 2：防災・救護に関する実践能力の向上を図る

- ・「赤十字概論」「災害看護論」のアンケート結果や課題レポートの内容から救護班要員としての基礎的知識の習得につなげることができた。
- ・「救護員養成研修」では、参加者全員が 2 日間全日程に参加し、「赤十字概論」「災害看護論」で得た知識の確認と、救護に必要な技術（トリアージ・無線の取り扱い・EMIS 操作等）の習得につなげることができた。
- ・事前に防災備品説明会で消火器・消火栓の実技訓練を行うことで、防災訓練時に各看護単位で消火器・消火栓の使用が適確にできた。
- ・未経験の看護師全員にエアーストレッチャーの実技訓練を行い、手技を習得できた。

1. 研修については、アンケート内容や最近の災害事情・トピックを踏まえ内容を検討する。
2. 防火訓練は引き続きシナリオなしの訓練を継続し、全ての病棟で 2 区画形成ができるようする
3. 防災マニュアルに大規模災害時コメディカル（クラーク、看護助手）との協働を追加、検討する。
4. 地震発災時、輸液ポンプや椅子、ワゴン他、ロック機能がない器材を把握し「転倒・落下・移動」リスク対応策を考えていく
5. 防災訓練の結果を次年度活かされていないため、防災訓練の動画撮影を行う。
6. フォローアップ研修の内容検討

意識向上委員会 活動評価

目的： 接遇マナーの向上に努め、看護専門職としての自覚を高める

- 目標： 1. 挨拶・身だしなみを整えることができる  
2. 更衣室の環境を整えることができる  
3. 看護の専門職として職能団体の役割を理解できる

実践結果

開催月日	委員会 実践委員会 研修会等	対象	参加人数	結果
4月3日	新入看護職員研修委員会	新入看護職員	106名+5名 6名(R5メンバー)	新入オリエンテーション(接遇・身だしなみ・更衣室利用の仕方など) 来年度に向けての振り返り 活動計画確認、同方会手続き・集金準備
5月23日	同方会手続き(ベッドコントロール後)委員会	委員	8名	同方会手続き・集金(ベッドコントロール後)、来年度に向けての振り返り 目標・活動計画の確認 担当者決定 身だしなみ評価・チェックの見直し 更衣室点検を新委員へ説明 実践委員の更衣室点検準備
6月27日	委員会	委員	8名	実践委員会の内容確認 高校生1日看護体験の打ち合わせ 実践委員の準備(更衣室点検準備など)
7月25日	委員会 実践委員会	委員 実践委員	29名+7名	高校生1日看護体験スケジュール検討 実践委員会進行打ち合わせ 実践委員会の役割・今年度の活動について スタッフへの注意事項連絡
8月7日(水)	高校生1日体験	委員	8名	高校生1日看護体験
9月26日	委員会	委員	8名	中間評価 高校生1日看護体験評価 更衣室の点検報告 更衣室コンテナ運用検討 身だしなみ集計表作成・結果報告
10月24日	委員会	委員	8名	実践委員会の内容検討 新入オリエンテーション内容変更検討 更衣室の点検報告
11月28日	委員会	委員	6名	身だしなみチェック 更衣室点検報告 2月実践委員会内容検討
12月26日	委員会	委員	8名	年度末評価・次年度課題検討 実践委員会の内容検討 身だしなみ年度末評価 更衣室の点検報告
1月23日	委員会	委員	8名	次年度課題検討 実践委員会の内容検討 更衣室の点検報告 新入オリエンテーション内容検討
2月27日	委員会 実践委員会	委員 実践委員	7名 29名	新入オリエンテーションの内容確認 身だしなみチェック結果報告 更衣室の点検報告 看護単位身だしなみチェック実施、結果報告
3月27日	委員会	委員	8名	新入オリエンテーション読み合わせ、 同方会集金検討 更衣室の点検報告

## 全体評価

### 目標１：挨拶・身だしなみ

- ・ 8 月・11 月に身だしなみチェック自己評価（係長チェック）を実施した。11 月 0 にならなかったのは「ポケット・ポシェットに物を入れすぎている」1%のみだった。
- ・ 9 月・12 月に身だしなみチェック他者評価を委員会メンバーで各病棟をラウンドし 3 名の身だしなみチェックを実施した。×はポシェット 16%、髪 8%、爪 5%、シューズ 1%、ピアス 1% だった。12 月の×はポシェット 35%、髪 8%、爪 8%、シューズ 0%、ピアス 4%の結果だった。
- ・ 接遇に関しては、挨拶は師長グループ「心理的安全性チーム」からの挨拶の掲示物を病棟や更衣室に掲示し啓発した。挨拶をすれば返す人が増えている。自ら挨拶できるよう引き続き啓発していく。

挨拶、会釈、電話対応など、職場内でお互いが気持ちよく業務ができるように更に意識の向上を図りたい。

### 目標２：更衣室の環境整備

- ・ 実践委員が更衣室の担当場所を毎月点検し、ロッカー上に置いてある物品に片付けを依頼する紙を貼ることで置きっぱなしになることがなくなった。2 週間に 1 回委託清掃業者にロッカー上の清掃をしてもらう事になり、置かれていた物を入れるコンテナを準備した。当初ゴミ箱となってしまったため蓋付きのコンテナに張り紙をして表示（8 月 4 名）し 1 名のみ廃棄することになった。昨年度より改善された。

### 目標３：看護専門職としての職能団体の役割の理解

- ・ 看護協会 856 名の会員数に、新入職員・再入会 93 名の入会があった。計 949 名となり昨年度より 3 名減ったのみで会員数を維持できた。
- ・ 同方会は 916 名の入会（新規+継続）があった。昨年より 1 名減ったのみで協力を得られた。
- ・ 通常総会に各看護単位 1 名参加した。参加していない看護師には要綱を回覧して理解を得るようにした。

## 次年度の課題

1. 身だしなみチェックを他者評価として委員会メンバーで各病棟をラウンドした。今後は実践委員がみだしなみチェックに参加できるようにしていく。
2. 更衣室ロッカー上の点検を毎月実施し、昨年度より減少している。今後も継続していく。
3. 総会や講演会により、看護の専門職としての役割の理解を深める。

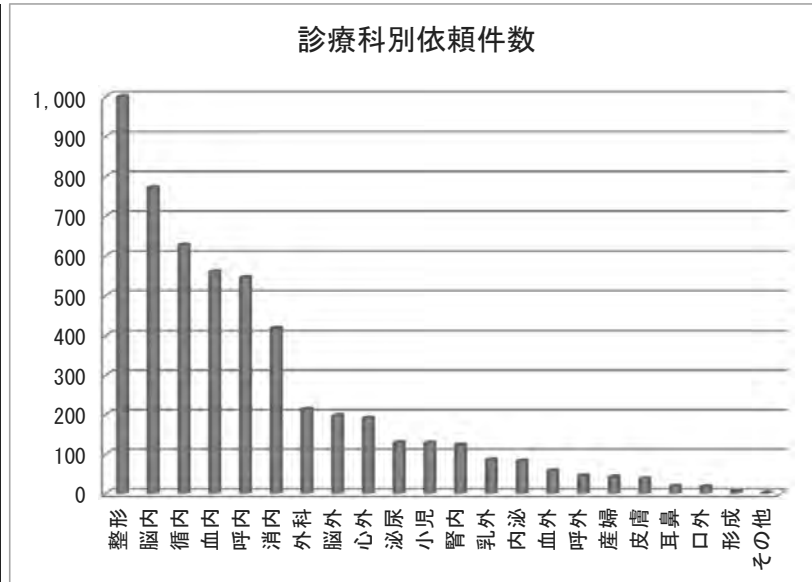
## 11. リハビリテーション科部

### (1) リハビリ依頼件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入院	4,480	4,717	5,215
外来	182	180	202

### (2) 診療科別依頼件数

整形	1,112
脳内	772
循内	628
血内	561
呼内	546
消内	418
外科	214
脳外	197
心外	191
泌尿	129
小児	128
腎内	123
乳外	86
内泌	82
血外	58
呼外	45
産婦	42
皮膚	38
耳鼻	19
口外	18
形成	6
その他	2



### (3) PT/OT/ST別 処方件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
PT	4,274	4,521	5,027
OT	1,029	1,156	1,107
ST	691	824	1,019

### (4) リハビリ延べ実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管疾患等リハ料	3,310	3,108	2,767	2,764	2,827	2,244	2,628	2,932	3,156	2,970	2,645	2,907	34,258
廃用症候群リハ料	839	951	1,159	1,144	966	943	1,236	1,009	905	688	842	910	11,592
運動器リハ料(I)	892	890	1,048	1,244	1,207	819	922	772	1,045	934	984	1,123	11,880
呼吸器リハ料	580	671	769	834	765	568	686	719	637	1,026	787	774	8,816
心大血管疾患リハ料	421	403	363	397	580	510	437	467	585	551	455	466	5,635
がん患者	839	746	704	779	884	867	1,144	1,171	1,048	715	850	1,009	10,756
基本診療	151	183	223	152	200	136	168	166	208	224	179	150	2,140
緩和ケア	0	0	11	18	1	17	4	17	2	1	4	0	75
緩和ケア(基本診療)	0	0	1	7	0	3	1	0	0	4	9	1	26
早期加算(14日)	4,971	4,348	4,407	4,598	4,672	3,985	5,533	5,053	5,132	3,929	3,749	4,159	54,536
早期加算(30日)	2,520	2,493	2,439	2,570	2,827	2,058	2,303	2,696	2,591	2,719	2,396	2,479	30,091
退院時リハビリ指導料	229	208	205	225	211	208	212	220	276	168	203	209	2,574
リハ総合計画評価料	476	495	480	505	520	462	502	519	514	469	497	518	5,957
リハ総合計画評価料(介護へ)	0	0	1	1	2	2	2	3	3	2	0	3	19
精密知覚機能検査	25	20	23	19	26	19	22	2	2	15	20	14	207
目標設定加算(初回)	1	2	4	7	2	4	5	5	2	5	5	5	47
目標設定加算(2回目以降)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	5	0	0	7
摂食機能療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

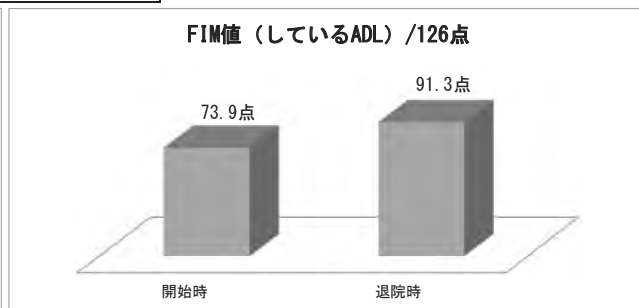
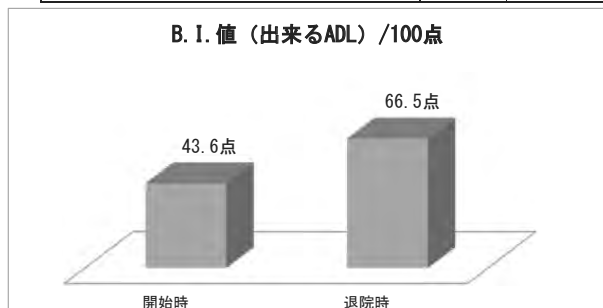
### (5) リハビリ稼働集計(点数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管疾患等リハ料	1,327,410	1,236,760	1,114,505	1,102,010	1,149,785	989,310	1,204,175	1,212,260	1,235,045	1,146,355	1,050,070	1,159,095	13,926,780
廃用症候群リハ料	224,100	258,840	303,480	305,280	258,408	269,208	361,080	270,360	244,620	183,780	211,680	230,400	3,121,236
運動器リハ料(Ⅰ)	317,535	312,860	360,760	433,640	410,275	313,745	357,610	289,380	356,005	315,905	348,490	397,785	4,213,990
呼吸器リハ料	155,050	179,725	207,375	228,375	211,950	165,725	208,250	212,450	176,225	281,400	209,825	200,200	2,436,550
心大血管疾患リハ料	150,265	137,555	123,000	138,170	194,340	181,220	153,340	167,895	194,955	183,065	146,780	153,955	1,924,540
がん患者	258,300	200,080	201,515	225,705	252,355	258,505	357,520	365,310	318,365	235,340	255,840	306,065	3,234,900
基本診療	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア(基本診療)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
早期加算(14日)	149,130	130,440	110,175	114,950	116,800	99,625	138,325	126,325	128,300	98,225	93,725	103,975	1,409,995
早期加算(30日)	75,600	74,790	60,975	64,250	70,675	51,450	57,575	67,400	64,775	67,975	59,900	61,975	777,340
退院時リハビリ指導料	68,700	62,400	61,500	67,500	63,300	62,400	63,600	66,000	82,800	50,400	60,900	62,700	772,200
リハ総合計画評価料	142,800	148,500	144,000	151,500	156,000	138,600	150,600	155,700	154,200	140,700	149,100	155,400	1,787,100
リハ総合計画評価料(分種へ)	0	0	240	240	480	480	480	720	720	480	0	720	4,560
精密知覚機能検査	7,000	5,600	6,440	5,320	7,280	5,320	6,160	6,160	4,200	5,600	3,920	4,480	67,480
目標設定加算(初回)	250	500	1,000	1,750	500	1,000	1,250	1,250	500	1,250	1,250	1,250	11,750
目標設定加算(2回目以降)	0	0	0	0	0	100	0	100	0	0	0	0	200
摂食機能療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(点)	2,876,140	2,748,050	2,694,965	2,838,690	2,892,148	2,536,688	3,059,965	2,941,310	2,960,710	2,710,475	2,591,480	2,838,000	33,688,621

### (6) ADLの改善状況 (開始時 ⇒ 退院時)

入院患者 5,190 人の平均

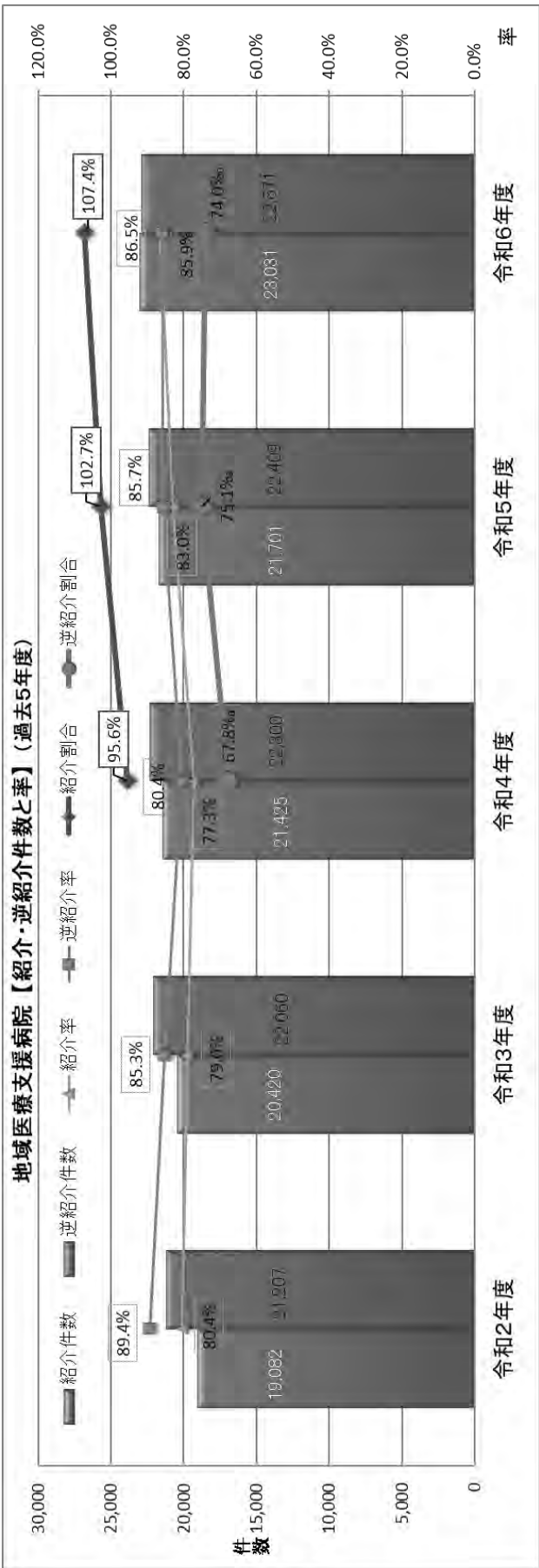
B. I. 値(出来るADL)	開始時	43.6 点 /100点
	退院時	66.5 点 /100点
FIM値(しているADL)	開始時	73.9 点 /126点
	退院時	91.3 点 /126点



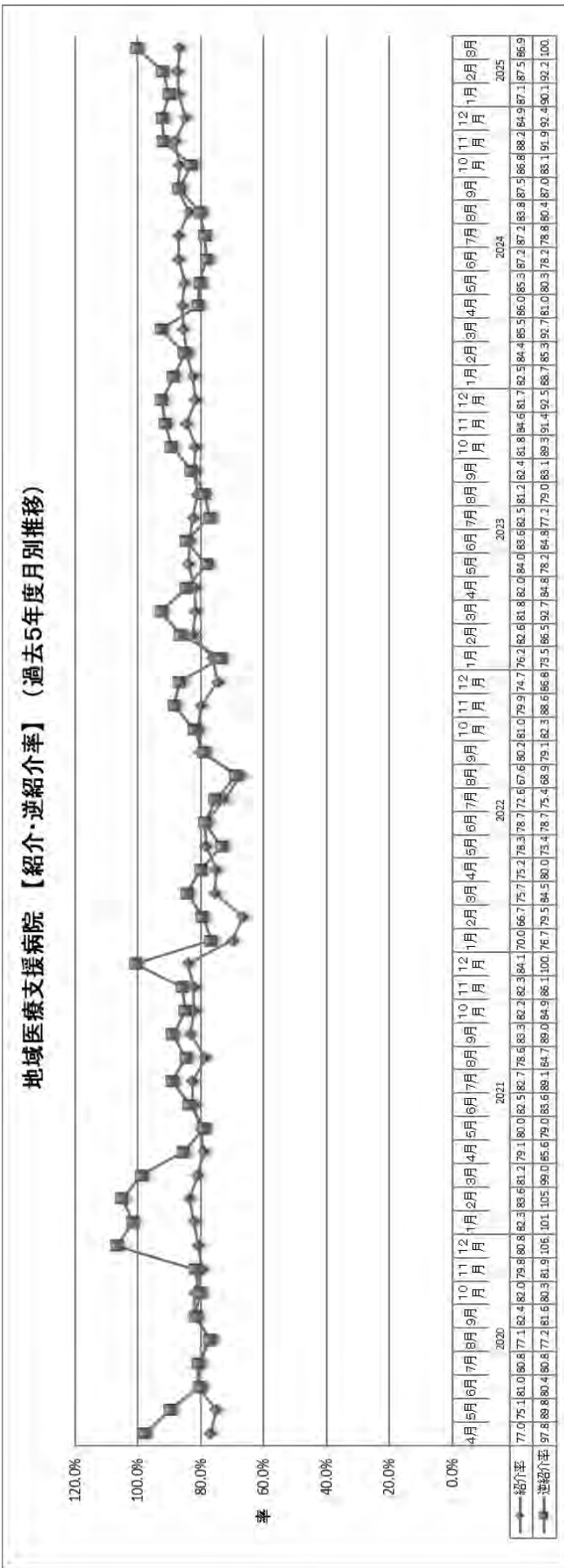
病棟	B. I. (100点)		FIM (126点)	
	初期	退院時	初期	退院時
西棟12階A	37.1	61.3	65.5	85.0
西棟12階B	44.6	63.3	75.1	89.2
西棟11階A	40.1	57.8	68.3	81.8
西棟11階B	36.4	71.8	68.0	95.0
西棟10階A	33.4	58.5	59.7	78.8
西棟10階B	40.0	57.7	67.1	80.4
西棟9階A	25.3	74.7	59.2	98.0
西棟9階B	45.3	66.2	75.7	91.9
西棟8階A	35.4	59.2	67.2	85.8
西棟8階B	33.0	66.1	67.8	93.0
東棟8階	86.4	92.1	116.8	119.3
東棟6階	52.6	63.2	82.9	89.6
東棟5階	57.3	73.0	88.0	98.8

12. 地域医療連携室

(1) 地域医療支援病院【紹介・逆紹介件数と率（年度別推移）】



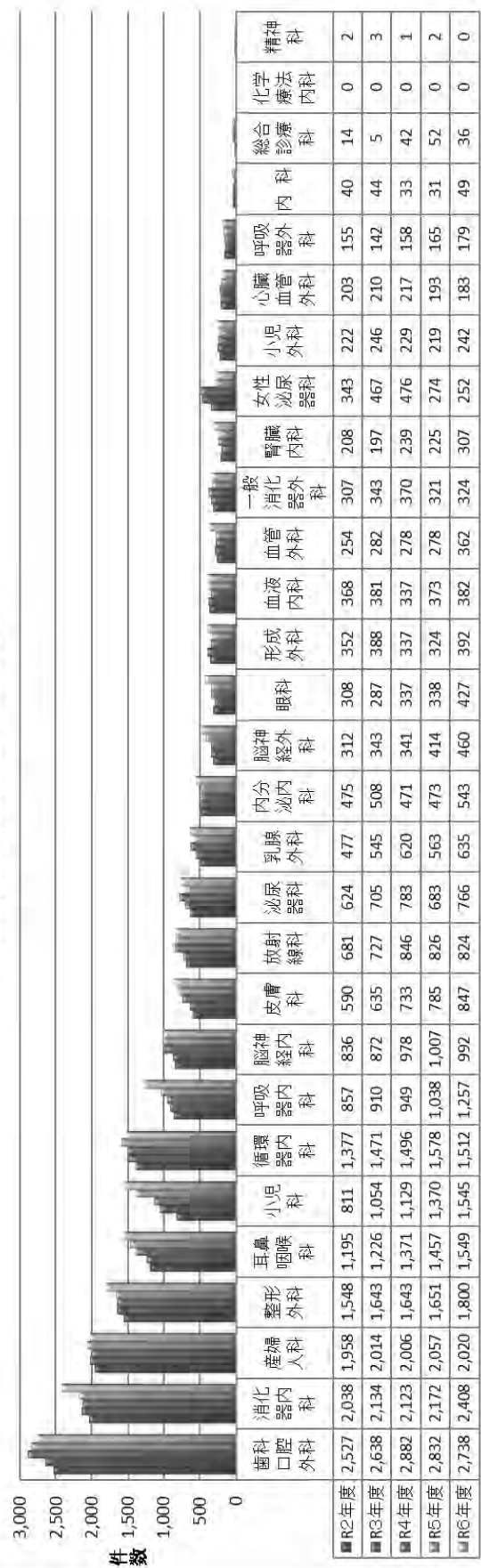
(2) 地域医療支援病院【紹介率・逆紹介率（年度月別推移）】





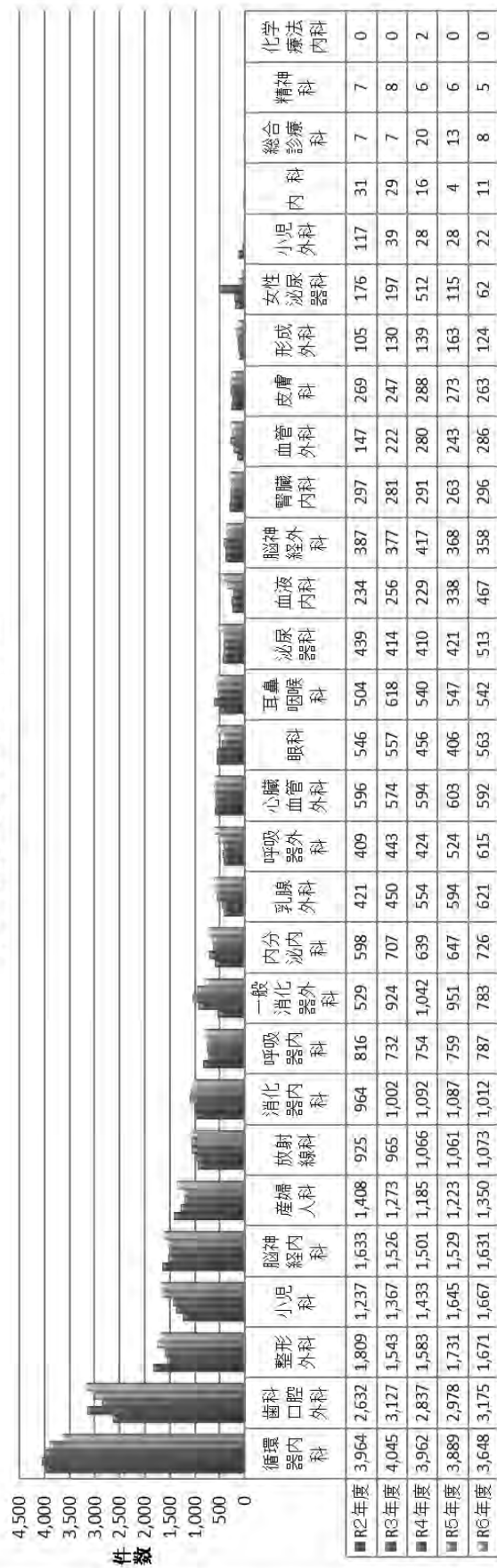
### (3) 【診療科別】紹介件数（過去5年度比較）

【診療科別】紹介件数（過去5年度）



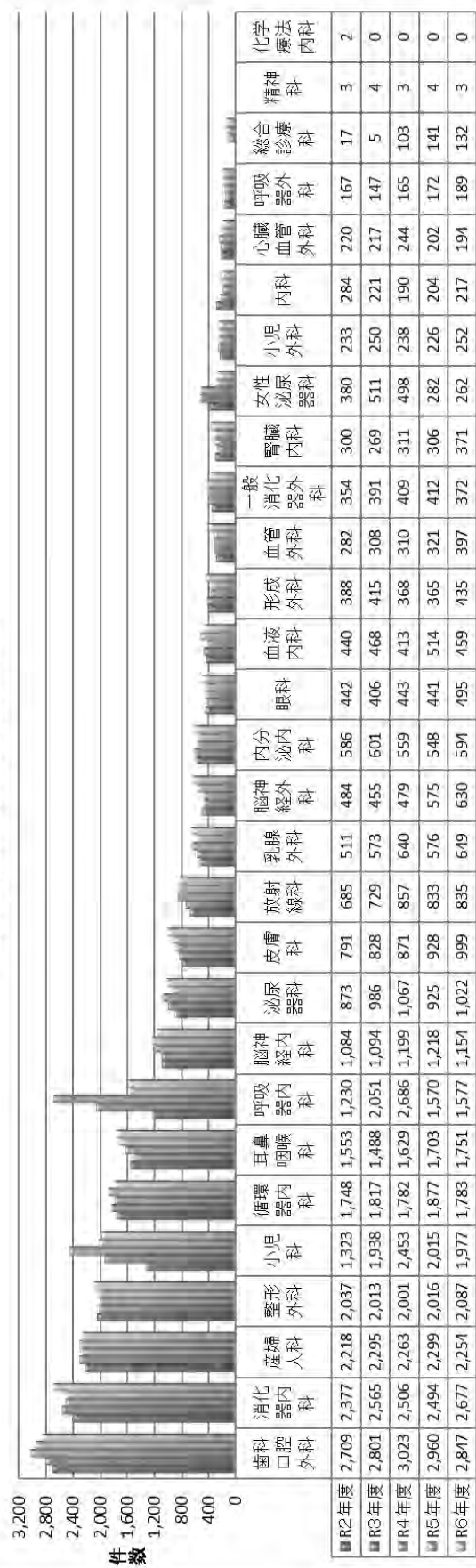
### (4) 【診療科別】逆紹介件数（過去5年度比較）

【診療科別】逆紹介件数（過去5年度）



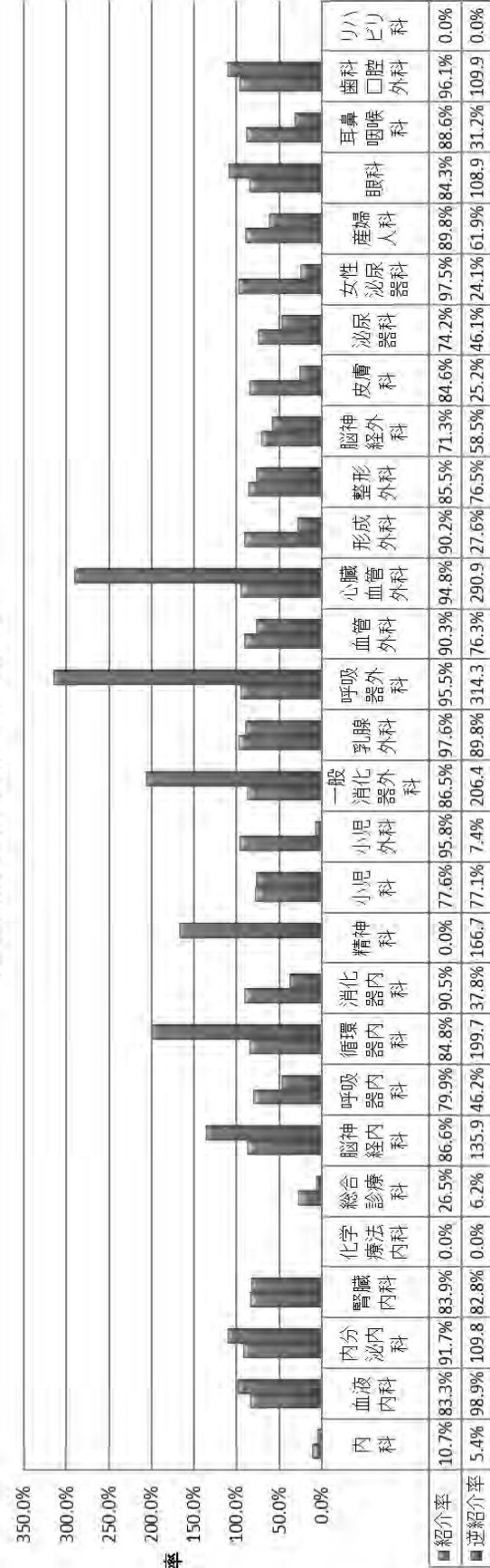
# (5) 【診療科別】初診件数（過去5年度比較）

【診療科別】初診件数（過去5年度）



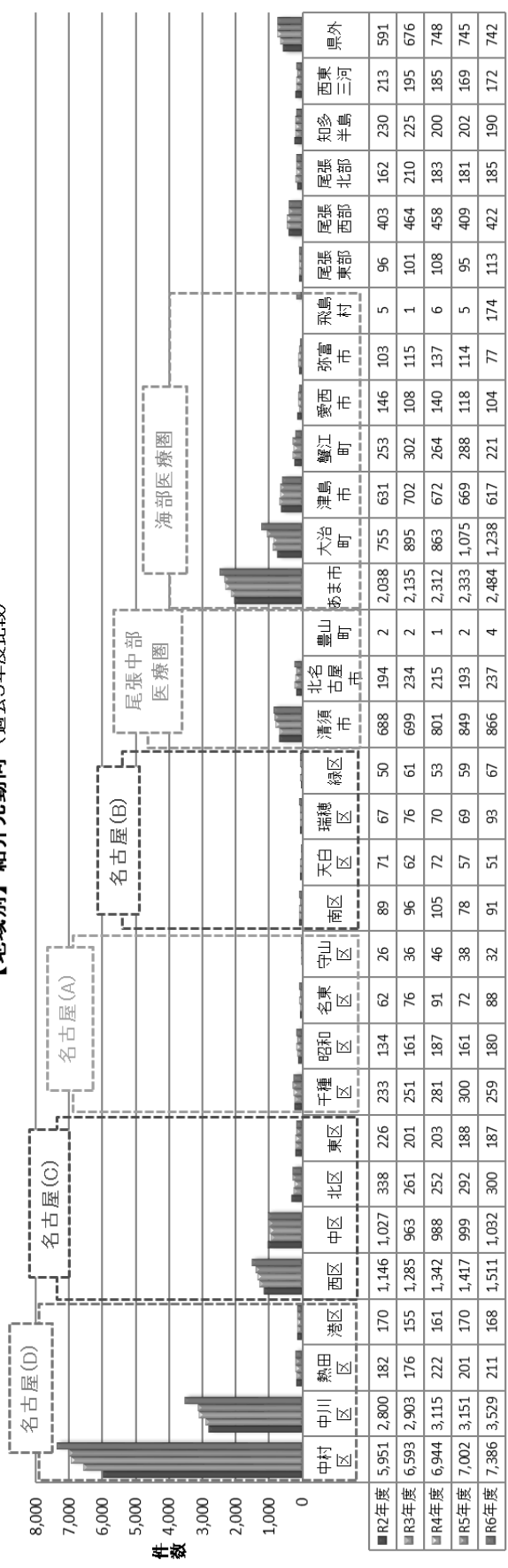
# (6) 【診療科別】紹介・逆紹介率（R6年度）

【診療科別】紹介・逆紹介率（令和6年度）



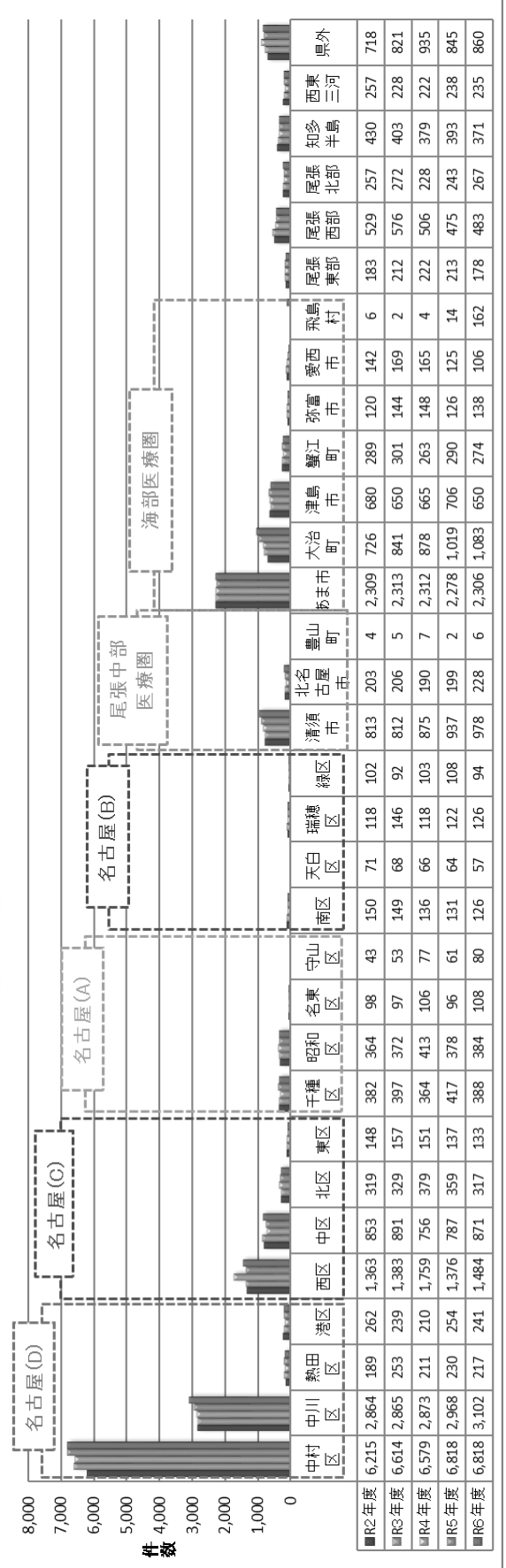
(7) 【地域、医療圏別】2次医療圏別紹介元動向（過去5年度比較）

【地域別】紹介元動向（過去5年度比較）



(8) 【地域、医療圏別】2次医療圏別逆紹介元動向（過去5年度比較）

【地域別】逆紹介元動向（過去5年度比較）



## (9) 医療機器等の共同利用の実績

### 1 共同利用の実績

共同利用を行った開設者と直接関係のない医療機関延べ数(令和6年4月～令和7年3月)

検 査 項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内視鏡（上部消化管）	6	7	5	7	9	3	8	9	8	2	5	2	71
脳波		1											1
MR（頭頸部）	28	19	31	37	18	22	31	38	17	22	26	27	316
MR（躯幹）	14	10	12	14	9	12	16	9	5	13	6	12	132
MR（四肢）	4	3	8	5	3	8	5	4	7	1	9	10	67
CT（頭頸部）	1	4	4	4	2	5	6	5	1	3	4	3	42
CT（躯幹）	35	30	33	32	38	42	54	43	37	23	39	42	448
CT（四肢）													0
64列マルチスライスCT	3	2		1	4	3	5	4	1	1	1	4	29
PET-CT	5	3	3	4	2	3		7	3	2	2		34
シンチグラム	2		1	1	1		2		2	1	1		11
放射線治療	2	1	7		3	3	2	3	5	4	4	4	38
合 計	100	80	104	105	89	101	129	122	86	72	97	104	1,189

### 2 共同利用実績（開放型病床）

共同利用による病床利用率(令和6年4月～令和7年3月)

区 分	開放病床		利用した医師数	共同指導回数	利用率
	新入院患者数	入院患者延人数			
4月	1	3	1	0	2.0%
5月	0	0	0	0	0.0%
6月	0	0	0	0	0.0%
7月	0	0	0	0	0.0%
8月	2	20	2	0	12.9%
9月	1	11	1	0	7.3%
10月	0	3	0	0	1.9%
11月	0	0	0	0	0.0%
12月	0	0	0	0	0.0%
1月	0	0	0	0	0.0%
2月	0	0	0	0	0.0%
3月	3	25	3	0	16.1%
年間合計・年間病床利用率	7	62	7	0	3.4%
月平均	0.4	4.1	0.4	0.0	

# (10) 病診連携システム学術セミナー開催状況

## ① 医科病診連携システム学術セミナー

回 数	開 催 日 : 会 場	開 催 内 容	講 師 等
第25回	令和6年7月27日(土)  午後4時30分～午後6時  名古屋観光ホテル2階	骨粗鬆症連携 ～地域全体で患者さんを診ていくために～  講演Ⅰ「経皮的椎体形成術(BKP)における骨粗鬆症 治療の介入」  講演Ⅱ「二次骨折予防と骨粗鬆症連携～回復期の 立場から～」  講演Ⅲ「クリニックにおける二次性骨折予防継続管理 料取得への取り組み」  講演Ⅳ「地域で支える骨粗鬆症診療ーリーゾンサ ービスによる力の集積ー」	第1部座長: 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 副院長 井上 英則 演者: 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 脊椎脊髄外科部長 八木秀樹 演者: 鶴飼リハビリテーション病院 副院長 倉知英志先生 演者: はせ川外科 院長 長谷川和也先生 第2部座長: 羽賀糖尿病内科整形外科 院長 羽賀 達也 先生 演者: 藤田医科大学医学部 内分泌・代謝内科学 鈴木 敦詞 教授

## ② 歯科病診連携システム学術セミナー

回 数	開 催 日 : 会 場	開 催 内 容	講 師 等
第21回	令和7年2月6日(木)  午後6時～午後7時  日赤名古屋第一病院 内ヶ島講堂	講演Ⅰ「尾陽包括ケアの会との関わりについて」  講演Ⅱ「先欠(部分無歯症)の謎を解き明かす: 臨床像から治療の最前線へ」	座長: 日赤名古屋第一病院 歯科口腔外科副部長 長縄 憲亮 演者: 海部歯科医師会会長 渡辺 治 先生 演者: トヨタ記念病院 歯科口腔外科部長 町田 純一郎 先生

## ③ 日本赤十字社愛知医療センター 病診連携セミナー

回 数	開 催 日 : 会 場	開 催 内 容	講 師 等
第7回	令和6年9月19日(木)  午後6時～午後7時30分  日赤名古屋第二病院	I. 一般演題  「当院における最新トピックスについて MRI-US fusion 前立腺生検、光線力学診断補助下TUR-Bt」  「前立腺癌検診・治療 ～最近の話題/当院の現状～」  II. 特別演題  「新時代のPSA検査を使いこなそう 新規バイオマ ーカーS2,3PSA%検査のKnownとUnknown」	座長: 日赤名古屋第一病院 泌尿器科部長 加藤 真史 演者: 日赤名古屋第二病院 泌尿器科 長坂 有里子 先生 演者: 日赤名古屋第一病院 泌尿器科部長 加藤 真史 座長: 日赤名古屋第二病院 泌尿器科部長 錦見 俊徳 先生 演者: 弘前大学大学院医学研究科 泌尿器科学講座 教授 畠山 真吾 先生

# (11) 研修会・検討会開催実績

開催年月日	曜日	時間	症例検討会・研修会・勉強会等記録	備考
2024年4月15日	月	20:00 ～ 21:00	中村区・海部医師会・日赤名古屋第一病院合同カンファランス 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日赤名古屋第一病院 泌尿器科部長 加藤 真史
2024年5月20日	月	20:00 ～ 21:00	中村区・海部医師会・日赤名古屋第一病院合同カンファランス 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日赤名古屋第一病院 一般・消化器外科 浅井周平 ほか
2024年7月22日	月	20:00 ～ 21:00	中村区・海部医師会・日赤名古屋第一病院合同カンファランス 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日赤名古屋第一病院 循環器内科部長 安田 健一郎
2024年9月30日	月	20:00 ～ 21:00	中村区・海部医師会・日赤名古屋第一病院合同カンファランス 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日赤名古屋第一病院 第一呼吸器内科部長 横山 俊彦 ほか
2024年11月18日	月	20:00 ～ 21:00	中村区・海部医師会・日赤名古屋第一病院合同カンファランス 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日赤名古屋第一病院 内分泌内科部長 清田 篤志
2025年1月20日	月	20:00 ～ 21:00	中村区・海部医師会・日赤名古屋第一病院合同カンファランス 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日赤名古屋第一病院 第一脳神経外科部長 波多野 寿 ほか
2025年3月17日	月	20:00 ～ 21:00	中村区・海部医師会・日赤名古屋第一病院合同カンファランス 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日赤名古屋第一病院 乳腺外科第一部長 後藤 康友 ほか
2024年10月26日	土	16:00 ～ 17:00	なかむらKOLLOQUIUM 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 脳神経内科 伊藤 理樹 国立循環器病センター 脳血管内科部長 古賀 政利 先生
2025年1月20日	土	15:30 ～ 16:55	なかむらKOLLOQUIUM 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 内分泌内科部長 清田 篤志 日赤名古屋第一病院 総合診療科部長 川部 直人
2025年3月22日	土	16:00 ～ 17:00	なかむらKOLLOQUIUM 参加対象：医師	研修会・症例検討会 演者：そえだ腎・泌尿器科クリニック 院長 副田 雄也 先生 日赤名古屋第一病院 泌尿器科部長 加藤 真史
2024年6月20日	木	14:30 ～ 15:30	令和6年度第1回地域医療連携における感染対策についてのカンファランス 参加対象：医療従事者	検討会 演者：日赤名古屋第一病院 感染制御部・伊藤亮太ほか
2024年10月3日	木	14:30 ～ 15:30	令和6年度第2回地域医療連携における感染対策についてのカンファランス 及び令和6年度新興感染症等の発生を想定した訓練 参加対象：医療従事者	検討会・訓練 演者：日赤名古屋第一病院 感染制御部・伊藤亮太ほか
2024年12月19日	木	14:30 ～ 15:30	令和6年度第3回地域医療連携における感染対策についてのカンファランス 参加対象：医療従事者	演者：日赤名古屋第一病院 感染制御部・伊藤亮太ほか
2025年3月6日	木	14:30 ～ 15:30	令和6年度第4回地域医療連携における感染対策についてのカンファランス 参加対象：医療従事者	演者：日赤名古屋第一病院 感染制御部・伊藤亮太ほか

開催年月日	曜日	時間	症例検討会・研修会・勉強会等記録	備考
2024年4月24日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一呼吸器内科部長 横山 俊彦
2024年5月22日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第二呼吸器内科部長 竹山 佳宏
2024年6月26日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第二呼吸器内科部長 竹山 佳宏
2024年7月24日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第二呼吸器内科部長 竹山 佳宏
2024年8月28日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一呼吸器内科部長 横山 俊彦
2024年9月25日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第二呼吸器内科部長 竹山 佳宏
2024年10月30日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第二呼吸器内科部長 竹山 佳宏
2024年11月27日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第二呼吸器内科部長 竹山 佳宏
2024年12月25日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一呼吸器内科部長 横山 俊彦
2025年1月22日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一呼吸器内科部長 横山 俊彦
2025年2月26日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一呼吸器内科部長 横山 俊彦
2025年3月26日	水	14:30 ～ 15:30	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、肺癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一呼吸器内科部長 横山 俊彦
2024年5月24日	金	15:00 ～ 16:00	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、胃癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一消化器内科部副部长 藤吉 俊尚
2024年7月26日	金	15:00 ～ 16:00	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、胃癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一消化器内科部副部长 藤吉 俊尚
2024年9月27日	金	15:00 ～ 16:00	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、胃癌二重読影研修会 参加対象：医師	講師：日赤名古屋第一病院 第一消化器内科部副部长 藤吉 俊尚

開催年月日	曜日	時間	症例検討会・研修会・勉強会等記録	備考
2024年11月29日	金	15:00 ～ 16:00	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、胃癌二重読影研修会 参加対象:医師	講師:日赤名古屋第一病院 第一消化器内科部副部長 藤吉 俊尚
2025年1月24日	金	15:00 ～ 16:00	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、胃癌二重読影研修会 参加対象:医師	講師:日赤名古屋第一病院 第一消化器内科部副部長 藤吉 俊尚
2025年3月28日	金	15:00 ～ 16:00	中村区医師会・日赤名古屋第一病院、胃癌二重読影研修会 参加対象:医師	講師:日赤名古屋第一病院 第一消化器内科部副部長 藤吉 俊尚
2024年7月25日	木	19:00 ～ 20:30	名古屋西部 病診地域連携会 参加対象:医療従事者	演者:日赤名古屋第一病院 緩和ケア科部副部長 河合 奈津子 ほか すぎもと在宅クリニック 杉本 由佳 先生
2024年8月31日	土	9:05 ～ 17:20	令和6年度緩和ケア研修会 参加対象:医師	演者:日赤名古屋第一病院 薬剤部 秋田 桂汰 市立大津市民病院 腎臓内科 中澤 純 先生
2024年10月21日	月	17:45 ～ 18:45	地域医療連携学術講演会(緩和ケア) 参加対象:医療従事者	演者:帝京大学医学部外科学講座Acute Care Surgery部門 病院准教授 伊藤 香 先生
2024年11月27日	水	18:15 ～ 19:25	日赤名古屋第一病院 産婦人科 地域連携の会 参加対象:医療従事者	演者:日赤名古屋第一病院 第一小児科部副部長 齊藤 明子 ほか
2025年2月20日	木	9:05 ～ 17:20	第3回西名古屋耳鼻咽喉科懇話会 参加対象:医師	演者:日赤名古屋第一病院 耳鼻咽喉科 降旗 敏熙 国立病院機構名古屋医療センター 臨床検査部長・耳鼻咽喉科医長 寺西 正明 先生 ほか
2024年4月23日	火	18:50 ～ 20:00	タバリス錠WEBセミナー ITP領域における再診の医学的知見の普及 参加対象者:医療従事者 キッセイ薬品工業(株) 名古屋第一営業所	演者:日赤名古屋第一病院 第一脳神経内科部長 後藤 洋二
2024年5月25日	土	14:30 ～ 16:00	中村区薬剤師会講演会 これからの認知症の早期診断と治療 参加対象者:薬剤師 エーザイ株式会社 地域連携東海本部	
2024年6月19日	水	19:00 ～ 20:20	愛知県におけるVWD診療を考える 参加対象者:医療従事者 武田薬品工業(株) 東海北陸A	演者:日赤名古屋第一病院 輸血部副部長 後藤 辰徳
2024年6月22日	土	14:30 ～ 16:00	中村区薬剤師会講演会 シームレスな医療連携で目指すCKD対策 参加対象者:薬剤師 協和キリン株式会社 名古屋支店	
2024年6月25日	火	19:30 ～ 20:30	お昼の不眠症WEBセミナー 参加対象者:医療従事者 MSD株式会社 名古屋営業所	演者:日赤名古屋第一病院 総合診療科副部長 宮川 慶
2024年6月26日	日	19:00 ～ 20:30	「Fungal Infection Symposium in Nagoya」血液疾患の診断学の向上等について 参加対象者:医療従事者 旭化成ファーマ株式会社 医薬営業本部	演者:日赤名古屋第一病院 輸血部副部長 後藤 辰徳
2024年7月17日	水	19:00 ～ 20:00	若手医師と考えるこれからのAD治療戦略 アトピー性皮膚炎の最新情報の提供 参加対象者:医師 日本イーライリリー(株)	演者:日赤名古屋第一病院 皮膚科部医長 吉川 真人



開催年月日	曜日	時間	症例検討会・研修会・勉強会等記録	備考
2024年7月18日	木	19:30 ～	「RA Switch lecture」よりいりウマチ診療を目指して 参加対象者：医療従事者 田辺三菱製薬株式会社 名古屋西営業所	演者：日赤名古屋第一病院 関節リウマチ科副部長 祖父江 康司
2024年8月3日	土	18:30 ～	第60回愛知県糖尿病療養法研究会 糖尿病薬物療法認定薬剤師からの提言ほか 参加対象者：医療従事者 愛知県糖尿病薬物療法研究会	演者：日赤名古屋第一病院 薬剤部 野村 浩夫
2024年8月22日	木	20:00 ～	第2回Neurology and Neurosurgery ctostalk 参加対象者：医療従事者 エーザイ名古屋CO	演者：日赤名古屋第一病院 脳神経内科部 大河内 健
2024年8月28日	水	18:00 ～	RTOH Centago WEBカンファレンス 造影CT時の様々な生理食塩水活用法 参加対象者：医療従事者 バイエル薬品株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 放射線診断科部救急技術係長 平井 文晴
2024年8月28日	水	20:00 ～	医科歯科連携講演会 骨粗鬆症治療と顎骨壊死を考える 参加対象者：医師・歯科医師 第一三共株式会社 名古屋西営業所	演者：日赤名古屋第一病院 関節リウマチ科副部長 祖父江 康司
2024年8月29日	木	21:00 ～	不眠症診療セミナー 不眠症の診断と治療の向上 参加対象者：医療従事者 エーザイ株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 総合診療科副部長 宮川 慶
2024年9月3日	火	19:10 ～	実例から服薬指導を学ぶ会 薬物・栄養療法の服薬時の留意点 参加対象者：医療従事者 田辺製薬株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 薬剤部 野村 浩夫
2024年9月4日	水	20:30 ～	タハリス錠Webセミナー ITP領域における最新の医学的知見の普及 参加対象者：医師 キッセイ薬品工業株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 輸血部副部長 後藤 辰徳
2024年9月5日	木	20:00 ～	地域連携推進セミナー 泌尿器領域における最新の医学的知見の普及 参加対象者：医療従事者 キッセイ薬品工業株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 総合診療科副部長 宮川 慶
2024年9月14日	土	11:00 ～	Special Lecture on Cancer Rehabilitation 当院における造血管細胞移植前後のリハビリ 参加対象者：医療従事者 協和キリン株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 リハビリテーション第二課長 中村 和司
2024年9月25日	水	18:00 ～	RTOH IPM WEBカンファレンス 低管電圧CTによる造影剤通減の基礎 参加対象者：医療従事者 バイエル薬品株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 放射線診断科部救急技術係長 平井 文晴
2024年9月26日	木	18:30 ～	第23回名古屋血液eセミナー CAR-T療法の代謝に関する研究について 参加対象者：医師 中外製薬株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 血液内科部 竹内 裕貴
2024年10月19日	土	20:00 ～	天白区医師会臨床懇話会 高齢者睡眠障害に関する病態と治療に関する知識の向上 参加対象者：医師 天白区休日急病診療所	演者：日赤名古屋第一病院 総合診療科副部長 宮川 慶
2024年11月6日	水	19:00 ～	ワン・ツーカンファレンス 「治療に難渋した膝蓋骨骨折術後感染の一例」 参加対象者：医師 第一三共(株)	演者：日赤名古屋第一病院 整形外科部 小牧 健太郎
2024年11月20日	水	20:10 ～	Allylam Web Seminar 「救急で役に立つ！Rare Emergency Seminar」 参加対象者：医師 Alnylam Japan株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 副院長 尾崎 信暁

開催年月日	曜日	時間	症例検討会・研修会・勉強会等記録	備考
2024年11月30日	土	14:30 ～ 17:00	愛知県産婦人科医会第1回学術研修会「妊娠時から留意する新生児感染症の新所見」 参加対象者：医師 富士製薬株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 第一小児科部長 大城 誠
2024年11月16日	土	16:00 ～ 17:30	天白区医師会臨床相談会「2型糖尿病診療におけるGLP-1受容体作動薬の可能性～経口・注射製剤の活用～」 参加対象者：医師 天白区休日急病診療所	演者：日赤名古屋第一病院 内分泌内科部長 清田 篤志
2024年12月6日	金	18:30 ～ 20:00	愛知CART細胞療法セミナー「CART細胞療法の病病連携」 参加対象者：医療従事者 キリアドサイエンス(株)	演者：日赤名古屋第一病院 輸血部副部长 後藤 辰徳
2024年12月20日	金	18:50 ～ 20:00	TaishoWebセミナー リウマチコロモとオゾライズマブの可能性について 参加対象者：医療従事者 大正製薬(株)	演者：日赤名古屋第一病院 関節リウマチ科部副部长 祖父江 康司
2024年12月25日	水	12:20 ～ 13:00	不眠症治療Webセミナー 高齢者睡眠障害に対する適正治療の普及 参加対象者：医療従事者 第一三共(株)(株)	演者：日赤名古屋第一病院 総合診療科副部长 宮川 慶
2025年1月10日	金	19:00 ～ 20:10	医療安全セミナー 医療安全の観点からの不眠症治療の向上 参加対象者：医師 エーザイ(株)	演者：日赤名古屋第一病院 総合診療科副部长 宮川 慶
2025年1月21日	火	19:00 ～ 20:00	チームで診る乳癌診療Webセミナー 乳癌治療に伴う有害事象マネジメントについての情報提供 参加対象者：医療従事者 中外製薬(株)	演者：日赤名古屋第一病院 看護部 外来係長 對比地 三枝
2025年1月25日	土	19:00 ～ 20:30	フレイル・不眠症セミナー リウマチ・不眠症の診断と治療の向上 参加対象者：医療従事者 エーザイ(株)	演者：日赤名古屋第一病院 関節リウマチ科部副部长 祖父江 康司
2025年1月30日	木	18:30 ～ 20:00	第2回日赤他職種連携セミナーin東海 東海エリアの日本赤十字病院連携と院内医療安全の取り組み共有 参加対象者：医療従事者 エーザイ(株)	演者：日赤名古屋第一病院 看護部 入退院支援センター看護師長 杉浦 朋子
2025年1月30日	木	19:00 ～ 20:00	Nagoya Spine Forum for Under40s 脊椎脊髄血管外科疾患における最新情報の普及 参加対象者：医療従事者 第一三共(株)	演者：日赤名古屋第一病院 脊椎脊髄外科部副部长 大石 遼太郎
2025年2月2日	日	10:00 ～ 12:00	中小病院実践セミナー in Nagoya「病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方」 参加対象者：医療従事者 エーザイ(株)	演者：日赤名古屋第一病院 総合診療科副部长 宮川 慶
2025年2月12日	水	18:50 ～ 20:15	OLSを考える会 in 名古屋 当院での栄養士の取り組みと栄養介入の必要性 参加対象者：医療従事者 帝人ヘルスケア(株)	演者：日赤名古屋第一病院 栄養課 柴田 彩
2025年2月28日	金	19:00 ～ 20:30	第2回名古屋消化器病セミナー 消化器内科医に知ってほしいがん治療 ～胆道癌編～ 参加対象者：医療従事者 MSD株式会社	演者：日赤名古屋第一病院 第二消化器内科部長 鷺見 肇
2025年2月28日	金	20:30 ～ 21:30	西区学術講演会 高齢者睡眠障害に対する適性治療の普及 参加対象者：医療従事者 第一三共(株)	演者：日赤名古屋第一病院 総合診療科副部长 宮川 慶
2025年3月10日	月	18:30 ～ 19:40	第4回経口抗がん剤薬連携セミナー 抗がん剤副作用マネジメントの向上 参加対象者：医療従事者 エーザイ(株)	演者：日赤名古屋第一病院 化学療法内科部長 中野 祐往

開催年月日	曜日	時間	症例検討会・研修会・勉強会等記録	備考
2025年3月10日	月	18:30 ～ 19:40	Hematology Web Seminar 参加対象者:医療従事者 武田薬品工業(株)	演者:日赤名古屋第一病院 輸血部副部长 後藤 辰徳
2025年3月15日	土	14:50 ～ 17:00	医療看護ITセミナー in TOKAI 血糖値連携システム導入の経緯及び現在の運用 参加対象者:医療従事者 テルモ(株)	演者:日赤名古屋第一病院 看護部副部长 作間 千夏
2025年3月19日	水	12:10 ～ 12:50	睡眠マネジメントWebセミナー 良い睡眠で導く医療安全 参加対象者:医療従事者 第一三共(株)	演者:日赤名古屋第一病院 総合診療科副部长 宮川 慶
2025年3月25日	火	19:00 ～ 20:20	肝細胞癌の集学的治療を考える会 肝細胞癌の診断と治療の向上 参加対象者:医療従事者 エーザイ(株)	演者:日赤名古屋第一病院 第二消化器内科部副部长 吉岡 直輝
2025年3月27日	木	18:30 ～ 19:35	不眠症セミナー 不眠症の診断と治療の向上 参加対象者:医療従事者 エーザイ(株)	演者:日赤名古屋第一病院 総合診療科副部长 宮川 慶

# 13. 医療社会事業課

## (1) 年間援助件数

### 1. 取り扱い件数

月実件数	5,766
継続実件数	361
新規実件数	入院 3,621 外来 1,784

### 2. 新規ケースの紹介経路

区分	件数
医師	1,673
看護職	409
リハビリ職	4
その他院内職員	91
本人	657
家族・親戚縁者	401
院外関係機関	111
近隣者・知人	16
医療チーム	2,011
援助者	32
合計	5,405

### 3. 社会的背景

区分	件数
独居	972
経済困窮	139
家族疎遠・身寄りなし	202
ハイリスク妊産婦	29
精神疾患	73
認知症	1,086
家庭内暴力・虐待	38
自殺企図	8
無保険	32
身元不明	13
ホームレス	12
外国人	24

### 4. 援助内容

区分	実件数	延件数
受診・受療	1,331	2,682
経済的問題	345	1,298
制度活用	1,769	3,346
入院療養生活	201	396
退院支援	2,718	22,742
在宅療養・介護	550	1,742
医療者との関係	23	40
家族関係	22	30
日常生活	491	754
就労・就学	128	475
身元保証・権利擁護	106	448
死後対応	130	513
その他	56	93
合計	7,870	34,559

### 5. 援助方法

方法	実件数
面談	本人 7,841 家族 4,030 友人・知人 70
電話	本人 984 家族 7,786 友人・知人 177
訪問	家庭 3 その他 3
同行・同伴・代行	31
連絡調整・院内	21,873
院外：面会	330
院外：電話	28,459
院外：文書他 メール他	7,772
カンファレンス(院内職種のみ)	136
カンファレンス(院外職種含む)	58
合同カンファレンス(院内職種のみ)	7
合同カンファレンス(院外職種含む)	278

### 6. チーム医療

チーム名	症例数
退院支援チーム	18,803
認知症ケアチーム	628
倫理コンサルテーションチーム	5
緩和ケア受入検討	212
虐待対策チーム	28
患者サポートチーム	145
その他	177

(2) 科別援助件数

		受診・受療	経済的問題	制度活用	入院療養生活	退院支援	在宅療養・介護	医療者との関係	家族関係	日常生活	就労・就学	身元保証・権利擁護	死後の対応	その他	小計	合計	新規退院支援案件数(再掲)
内科	入院		1												1	29	
	通院	16		1	1		1	1				1	7		28		
血液内科	入院	65	45	225	17	1,329	40	1	7	52	86	4	23	8	1,902	2,485	107
	通院	164	16	144		31	105	3		48	45	11	15	1	583		
内分泌内科	入院	4	17	19	5	501	13				3		10		574	670	55
	通院	17	1	32		13	31			2					96		
腎臓内科	入院	5	17	82	1	936	1				1		1	3	1,047	1,235	104
	通院	2	17	135	1	8	7			1	5		11	1	188		
脳神経内科	入院	13	112	135	68	4,105	24		2	4	1	3	2	11	4,480	5,158	398
	通院	171	30	196	9	66	169		1	20	4	2	8	2	678		
循環器内科	入院	10	80	200	57	1,746	9	3		4	1	5	11	4	2,130	2,288	158
	通院	20	24	48	1	17	22			1		1	20	4	158		
呼吸器内科	入院	27	93	98	50	2,507	20		5	11	1	5	52	15	2,884	3,563	271
	通院	134	21	208	3	75	182	4		20	1	2	21	8	679		
消化器内科	入院	30	78	85	37	2,137	28		3	11	6	4	38	7	2,464	3,227	231
	通院	198	37	191	11	82	152	4	4	34	6	1	40	3	763		
一般消化器外科	入院	140	18	68	15	670	11	1		72	4	1	10	3	1,013	1,463	82
	通院	164	44	53	4	33	116			22	3		9	2	450		
心臓血管外科	入院	4	13	143	10	481	1						6		658	721	35
	通院	5	29	19		4	2						4		63		
血管外科	入院		2	23	1	128	1				1	1			157	184	13
	通院		5	2		8	12								27		
呼吸器外科	入院	5	3	9	3	205	9					1	2	1	238	330	21
	通院	40	1	17	7	7	2			18					92		
小児外科	入院			9		4	1								14	38	1
	通院	1		14		1	8								24		
整形外科	入院	20	39	61	16	4,109	2					1	7	3	4,258	4,592	472
	通院	62	44	91	3	60	42	1		4	7	4	12	4	334		
形成外科	入院	1		3		56	3								63	73	6
	通院	8		2											10		
脳神経外科	入院	23	25	30	27	1,467	4			1	6	19	6	6	1,614	1,742	135
	通院	17	10	40	1	16	18	2			20	3	1		128		
乳腺外科	入院	435	15	32	2	139	17			243	21	1	1	1	907	1,625	13
	通院	371	23	148	1	74	1	1	67	29			1	1	718		
小児科	入院	14	10	118	9	335	11	2			69	51	5		624	1,505	61
	通院	105	43	90		27	352			38	88	137		1	881		
皮膚科	入院	1	21	21		197	2								242	393	12
	通院	26	17	91	1	4	11					1			151		
泌尿器科	入院	17	13	64	10	750	9		1	4			20		888	1,086	82
	通院	55	28	51		11	36	6		6			5		198		
女性泌尿器科	入院		2	2		10	1					6			21	57	3
	通院	3	5	4			7	2	1	3		11			36		
産婦人科	入院	28	81	34	8	158	39		2	18	19	82	5		474	1,041	36
	通院	132	127	93	9	10	46	8	3	30	42	64	1	2	567		
眼科	入院	2										1			3	35	
	通院	7	1	6			4					14			32		
耳鼻咽喉科	入院	4	9	49	3	168	15			6			1		255	542	19
	通院	64	41	111	3	10	34	1		6	4	4	7	2	287		
歯科口腔外科	入院		4	4		96	2			1		2	3		112	197	11
	通院	19	2	9		16	36			2	1				85		
総合診療科	入院														0	2	
	通院			1			1								2		
精神科	入院														0	3	
	通院			2							1				3		
放射線科	入院														0	1	
	通院			1											1		
化学療法内科	入院														0	3	
	通院	1					1			1					3		
救急科	入院		8	4	1	8							28		49	253	
	通院	28	26	20	1		7					2	120		204		
その他	入院														0	0	
	通院														0		
小計	入院	848	706	1,518	340	22,242	263	7	20	429	219	187	231	62	27,072	2,326	
	通院	1,830	592	1,820	56	500	1,478	33	10	323	256	258	282	31	7,469		
合計		2,678	1,298	3,338	396	22,742	1,741	40	30	752	475	445	513	93	34,541		

(3) がん相談支援センター援助件数

1. 相談者の状況

	相談形式			相談者続柄			
	面接	電話	FAX	その他	本人	本人と付添 家族親戚のみ	知人・友人 のみ
院内患者	3,904	1,453	46	46	2,496	1,022	17
院外患者	7	76	0	25	0	47	0
計	3,911	1,529	124	46	2,521	1,022	17

本人	2,496	1,549	304	不明
その他	46	59	2	2
計	2,542	1,608	306	2

2. 現在の治療状況

診断なし	155
治療前	641
治療中	3,132
治療後	182
経過観察中	357
緩和ケア	1,131
不明	11
死亡	0
その他	1
計	5,610

3. がんの状況

初発	3,120
再発・転移	2,390
その他	19
不明	81
計	5,610

4. 対応内容

傾聴・語りの促進・支援的対応	1,337
助言・提案	694
情報提供	2,624
自施設受診の説明	27
他施設受診の説明	490
自施設他部門への連携	46
他施設への連携	359
ピアサポート機能の紹介	2
苦情・要望への対応	2
判断不明	0
その他	29
計	5,610

5. 相談内容

	眼 脳 神経	耳鼻 咽喉 口腔	胃	食道	大腸 肛門	小腸 肛門	肝 胆	脾	肺	縦隔 心臓	乳房	卵巢 外陰部	子宮	精巣	前立腺	腎 尿管 膀胱	甲状腺	副腎	リンパ 血液 ATL	リンパ 血液 その他	皮膚	骨 軟部 組織	後腹膜 腹膜	中皮腫	原発 不明	診断 無し	その他	計
がんの治療-手術			5		28		1	1	2		42	2	3	1		1				1								87
がんの治療-放射線治療		1						2	2		13				2					1								21
がんの治療-薬物療法		1	8	2	21			2	6		169	6	1		1	1	2			24								244
がんの治療-免疫療法		1							1																			2
がんの治療-免疫療法 (薬物)																												0
がんの治療-ゲノム医療		5	3		25		10	9	21		22	2	6		8	8	3			2						3		127
がんの治療-その他					1		1	2	2		6		1		1				3							1		19
がんの検査		1	1		5				3		16	1				1												28
症状・副作用・後遺症 -妊産性・生殖機能								1			1		1						2									5
症状・副作用・後遺症 -アピララクス			1						2	6	30	5	4							5						1		54
症状・副作用・後遺症 -晩期合併症					2				1		5								3									11
症状・副作用・後遺症 -長期フォローアップ																			4									4
症状・副作用・後遺症 -その他											1																	1
セカンドオピニオン (一般)	1	1	1	1	1		2	1			9	1	2		2	2				6								30
セカンドオピニオン (要入)				5	1			3	3		7		1		3				14									37
セカンドオピニオン (他へ紹介)			2	8	3	4	13	8	1	6	17	6		4	3				15									90
治療実績					1						1			1														3

診療科目・サービス		眼 脳 神経	耳鼻 咽喉 口腔	胃	食道	大腸 肛門	小腸 肛門	肝 胆	脾	肺	縦隔 心臓	乳房 外陰部	子宮	精巣	前立腺	腎 尿管 膀胱	甲状腺	副腎	リンパ 血液 ATL	リンパ 血液 その他	皮膚	骨 軟部 組織	後腹膜 腹膜	原発 不明	診断 無し	その他	計
臨床治療・先進医療	臨床治療・先進医療					1				1																	2
	受診方法・入院		4	9	1	3		1	5	11		19	1	2		2	6	3			9		1				78
	転院	26	64	67	22	97	5	43	64	225		92	31	38		53	53	4		25	99	2		9	1	10	1,030
医療機関の紹介	医療機関の紹介		3	25		77	1			23		309	2								4						444
	がん予防・検診																										0
	在宅医療	15	62	49	23	109		40	82	150	2	50	44	12		31	72	4		18	172	1	2	2	1	1	942
ホスピス・緩和ケア	ホスピス・緩和ケア	1	11	11	7	22	3	9	27	23		9	3	3		1	3		1		20		6	1	2	4	167
	食事・服薬・入浴・ 運動・外出等	1	33	30	7	143	1	8	28	41		68	11	11	2	9	11	1		3	102	1		2		1	514
	介護・看護・養育-介護					15		2	1	27		1	3				1				1						51
介護・看護・養育	介護・看護・養育-看護					4	2		3	15		1															25
	介護・看護・養育-養育											1	1							2						4	
	社会生活-就労					1						6	7	1				1	2		25			2			45
社会生活-就労と 仕事の両立	社会生活-就労と 仕事の両立		1			2						12	2							16							33
	社会生活-就学・就園	15						2					4							2	29						52
	社会生活-学業・学校生活	1											18								31						50
医療費・生活費・社会 保険制度-介護保険	医療費・生活費・社会 保険制度-介護保険	5	5	3	3	5	1	2	4	18		12		3		6	4			1	10	3	1	1			87
	医療費・生活費・社会 保険制度-医療保険																										61
	医療費・生活費・社会 保険制度-傷病手当			4	1	7	1	1		14		14	1	6							12						
医療費・生活費・社会 保険制度-その他	医療費・生活費・社会 保険制度-その他	7	57	30	9	76	3	45	17	143	3	109	13	44		41	54	1		10	220	3	4	3	1	1	897
	補完代替療法																										0
	生きがい・価値観		2			3			2	6				1						1	3						18
不安・精神的苦痛	不安・精神的苦痛	1	10	7	3	23	1	10	14	44		62	12	18			5	3		1	44			2			260
	告知					3				1										1	5						10
	医療者との関係・ コミュニケーション		1		1	2				4		5		3		1	1				7						25
患者・家族間の関係・ コミュニケーション	患者・家族間の関係・ コミュニケーション	1	2		1					1		1															
	患者・家族間の関係・ コミュニケーション-その他		1							1		2									2						6
	友人・知人・職場の人間 関係・コミュニケーション							1												1							2
患者・家族会 (ピア情報)	患者・家族会 (ピア情報)																			4							4
	グリーフケア									3										1							4
	不明		1													1					1						3
その他	その他		4			3				10		3				3				1	3						27
	計	73	270	256	87	690	21	182	283	816	6	1,104	187	167	4	166	230	22	3	63	903	10	14	21	5	13	5,610

国立がん研究センターがん対策情報センターが提示している相談支援センター相談記録に沿って集計しています。

## 相談援助内容と件数計上の説明

相談援助の内容と件数の計上については下記の通りである。

### ① 受診・受療

クライアントが適切な医療を受けることができるよう、クライアントや家族に行う受診時の情報提供や調整、医師等へ患者の心理・社会的背景や問題の情報提供を行う、あるいは、社会的背景を含め、自院の入院診療機能を利用するための、いわゆる転院・入院の受け入れに係る支援を実施した場合、ここに計上する。受診・受療に関する不安解消のための援助や、医師等から依頼のあった治療拒否のクライアントに対する援助もこの項目に計上する。  
尚、単なる受診科案内業務等は計上しない。また、転院・入院の受け入れに係る業務において、クライアント及びその家族等に関わることなく、情報の収集、これに係る院内協議等を実施した場合は、チーム医療に計上し、ここには計上しない。  
在宅療養中のクライアントに対する訪問診療・訪問看護等の相談・調整については、⑥在宅療養生活に計上し、ここでは計上しない。

### ② 経済的問題

入院・入院外を問わず、クライアントが医療費・生活費に困窮している場合に、社会保障関係法を活用し問題解決に向けた援助や具体的調整を行った、あるいは医療費支払方法に関する相談を行った場合に計上する。特に経済的問題を抱えているとは判断できないクライアントに対し社会保障関係法を活用する場合は③制度活用に計上しここには計上しない。

### ③ 制度活用

②に計上する経済的な問題解決のための制度活用以外、特に経済的問題はないが、社会保障関係法を紹介・活用する等の場合はこれに計上する。

### ④ 入院療養生活

クライアントが医療費・生活費に困窮している場合、保険・福祉関係法を活用し、問題解決に向けた援助や具体的調整を行う。  
金銭管理等困難者について、地域福祉権利擁護事業・成年後見人等制度の利用をはかるとともに、必要者には事務管理等の援助を実施する。

### ⑤ 退院支援（在宅・転院・施設入所）

退院支援に係る支援を実施した場合に計上する。

### ⑥ 在宅療養生活

在宅（自宅を含めた居宅を示す、居住系施設入所中を含む）療養を行っているクライアントに対する介護関連の相談、在宅療養生活に対する心理・社会的援助を行った場合に計上する。外来通院中のクライアントの施設入所・入院相談もこの項目に計上する（入院中の場合は⑤退院支援に計上する）。

### ⑦ 医療者との関係

クライアントと医療者との関係調整を行った場合に計上する。医療対話促進に代表されるメディエーションマインドをもった支援、あるいは医療事故及びカルテ開示等も含む。

### ⑧ 家族関係

クライアントの傷病が起因となり表面化あるいは顕在化した家族関係の悪化、家族機能の低下がクライアントの治療継続を困難にしている場合の家族関係の調整を指す。クライアントの今後の治療方針を決める際に、家族間で意見統一ができない、家族に相談ができないことが原因でクライアントが悩んでいる場合等が想定される。クライアントが介護・育児等行っており、これがクライアントの治療継続に係る問題になる等の場合は、⑨日常生活（家事・育児・介護等）を選択し、この項目に含めない。

### ⑨ 日常生活（家事・育児・介護・社会活動等）

前記、⑥在宅療養・介護に該当しない、クライアントが行っている家事・育児・介護・社会活動等に対し、傷病に起因する問題への支援を実施した場合に計上する。

### ⑩ 就労・就学

クライアント自身の職業選択、就職問題などの相談をはじめ、職場における人間関係や環境等の調整等クライアントの社会復帰を目的とする就労に関する援助、クライアントに適した就労・就学の確保、復学等に関する相談援助、療養中の教育の確保や学校での人間関係の調整を含む就学に関する支援を実施した場合に計上する。

### ⑪ 身元保証・権利擁護

入院・入所等にあたり求められる身元保証への対応、あるいは高齢者権利擁護事業・成年後見人制度等に代表される判断能力が低下した場合でも適切な自己決定や選択ができるための支援、金銭管理・財産保全等に係る支援を実施した場合に計上する。

### ⑫ 死後対応

グリーフケアの実施、あるいは、親族疎遠・身元不詳等による埋火葬等に係る支援等を実施した場合に計上する。本項目は、支援が死後に行われたことから一律にここに計上するものではなく、行った援助に従い、適切な援助項目に計上することに留意する。

### ⑬ その他

上記①～⑫に該当しない場合、施設の実情にあわせて計上する。



# 14. 総務課

## (1) 災害救護訓練・研修派遣実績（派遣者一覧）

I. 臨時救護・行政訓練等への協力事業

NO.	区分	事業名	実施日（予定）	場所	職種	人数	所属
1	臨時救護	子ども新聞プロジェクト取材	6月22日（土） ～ 6月23日（日）	大阪府、兵庫県	看護師	1	西 9 A
2	臨時救護	尾張地区 L. T. C	7月29日（月） ～ 7月30日（火）	春日井市	看護師	1	健康管理C
3	臨時救護	中村公園夏まつり	7月24日（水）	中村公園	看護師	2	東 8
							東 5
			7月25日（木）			2	GCU
							救命A
			7月26日（金）			2	西 7
							MFICU
4	行政等訓練	中部国際空港消火救難総合訓練 （図上シミュレーション訓練）	8月8日（木）	常滑市	医師	1	皮膚科
					主事	1	総務課
5	臨時救護	支部小中 L. T. C	8月7日（水） ～ 8月8日（木）	美浜町	看護師	1	西 1 2 B
6	行政等訓練	愛知県・阿久比町総合防災訓練 （中止）	9月1日（日）	阿久比町	医師	1	泌尿器科
					看護師長	1	西 8 A
					看護師	2	外来 2
							初療室
					主事	2	医療安全管理課
							医療社会事業課
7	行政等訓練	中部国際空港消火救難総合訓練	10月10日（木）	常滑市	医師	1	皮膚科
					看護師長	1	西 9 A
					看護師	2	中央手術室
							緩和C
					主事	2	総務課
							栄養課
8	臨時救護	中村区区民まつり	10月26日（土）	中村公園一帯	看護師	2	西 8 B
8	行政等訓練	「地域のための防災・減災訓練」 医療救護実動訓練	10月27日（日）	豊田市	医師	1	形成外科
					看護師長	1	初療室
					看護師	2	西 8 A
							西 1 1 A
					主事	2	入院業務課
							会計管理課
					薬剤師	1	薬剤部
					災害医療コーディネーター	1	災害対策C
					企画運営スタッフ	5	初療室
							薬剤部
							放射線科部
							総務課
9	第3 ブロック 支部	第3ブロック支部 災害救護訓練	11月16日（土） ～ 11月17日（日）	静岡県浜松市	医師	1	消化器内科
					看護師長	1	西 1 1 A
					看護師	2	東 6
							救命A
					主事	2	医事業務管理課
							検査部
10	行政等訓練	愛知県警主催 中部管区警察局広緊隊訓練	11月20日（水）	尾張旭市	医師	1	血液内科
					看護師長	1	西 6 A
					看護師	2	西 1 0 B
							西 9 A
					主事	2	総務課
							放射線科部

11	臨時救護	マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知	3月9日（日）	名古屋市	医師	1	乳腺外科
					看護師	2	西10A 初療室
					主事	1	医事業務管理課
12	行政等訓練	第四管区海上保安部 旅客船事故対応訓練 （中止）	未定	名古屋市	医師	1	耳鼻咽喉科
					看護部長	1	中央手術室
					看護師	2	外来3 西7
					主事	2	入院業務課
							リハビリテーション科

II. 赤十字救護員としての研修

No.	区分	事業名	実施日	会場	職種	人数	所属
1	院内研修	救護員養成研修（基礎）	8月9日（金）等	当院	合計45名		
2	本社研修	日赤災害医療コーディネート研修	11月23日（祝） ～ 11月24日（日）	本社	研修生	1	一般・消化器外科
3	支部研修	救護班要員養成研修Ⅰ （旧：中級研修）	1月27日（月） ～ 1月29日（水）	当院、支部	医師	2	小児科 麻酔科
					研修医	2	教育研修推進室
					看護部長	2	西8B 中央手術室
					看護師	4	初療室 NICU 外来3 救命B
							西6A
					助産師	1	
					薬剤師	2	薬剤部
					主事	4	放射線科部 栄養課 救急部 医事業務管理課
					災害医療コーディネーター	1	災害対策C
					企画運営スタッフ	10	一般・消化器外科 救急部 HCU ICU 看護部 西11A 初療室 総務課 放射線科部 薬剤部 総務課
4	第3ブロック支部研修	救護班要員養成研修Ⅱ （旧：全国赤十字救護班研修会）	2月8日（土） ～ 2月9日（日）	第二病院	医師	1	産婦人科
					看護師	1	MFICU
					主事	2	管財課 診療情報管理課
					企画運営スタッフ	7	災害対策C 初療室 総務課 薬剤部 救命B 放射線科部 総務課

5	本社研修	日赤災害コーディネート フォローアップ研修	2月15日（土）	オンライン	本社コーディネートスタッフ	3	災害対策C
					救護担当者	1	初療室 総務課 総務課
6	本社研修	こころのケア研修	3月3日（月）	支部	救護員登録者	9	西10B 救命A MFICU 救命B 緩和C 検査部 医療社会事業課 医事業務管理課 医事業務管理課
							西11A 精神科部 西8A
					スタッフ （こころのケア指導者）	3	西11A 精神科部 西8A
							西9A 医療社会事業課 看護部 精神科部
							西9A 医療社会事業課 看護部 精神科部
							西9A 医療社会事業課 看護部 精神科部
							西9A 医療社会事業課 看護部 精神科部
							西9A 医療社会事業課 看護部 精神科部
							西9A 医療社会事業課 看護部 精神科部
							西9A 医療社会事業課 看護部 精神科部

### Ⅲ. 病院訓練

No.	区分	事業名	実施日	会場	職種	人数	所属
1	院内訓練	大規模災害時医療救護活動訓練	10月31日（木）	当院	合計	153名	
2	院内訓練	災害対策本部机上シミュレーション訓練	7月24日（水）	当院	合計	26名	
			9月26日（木）		合計	26名	
			10月31日（木）		合計	25名	
			2月14日（金）		合計	23名	

### Ⅳ. 日本DMAT・愛知DMAT隊員養成研修

No.	区分	事業名	実施日	会場	職種	人数	所属
1	研修	日本DMAT隊員養成研修	7月24日（水） ～ 7月26日（金）	東京都	業務調整員	1	総務課
2	研修	日本DMAT隊員養成研修	3月11日（火） ～ 3月13日（木）	香川県	看護師	1	NICU
3	研修	愛知DMAT隊員養成研修	3月29日（土） ～ 3月30日（日）	愛知医科大学	業務調整員	1	薬剤部
					看護師	1	初療室
4	研修	中部ブロックDMAT登録者 技能維持研修	随時	随時	日本DMAT隊員	6	外来2 看護部 麻酔科 救急部 初療室 救急部

## V. 日本DMAT隊員研修・訓練

No.	区分	事業名	実施日	会場	職種	人数	所属
1	DMAT訓練	政府主催広域搬送訓練	9月28日（土）	東京都	コントローラー	1	災害対策C
					医師	1	一般・消化器外科
					看護師	2	西10A 救命B
					業務調整員	2	放射線科部 臨床工学技術課
2	DMAT訓練	自衛隊航空機を利用した 広域医療搬送実機研修	11月26日（火）	県営小牧空港	医師	2	救急部 救急部
					看護師	2	HCU 初療室
					業務調整員	1	総務課
3	DMAT訓練	中部ブロックDMAT実動訓練	1月31日（金） 2月1日（土） 2月8日（土）	三重県 オンライン	コントローラー	1	災害対策C
					医師	1	救急部
					看護師	2	HCU NICU
					業務調整員	1	放射線科部
4	その他	第30回日本災害医学会総会 学術記念大会関連行事	3月7日（金）	名古屋港	医師	1	救急部
					看護師	2	外来2 西8A
					業務調整員	1	臨床工学技術課

## VI. その他

No.	区分	事業名	実施日	会場	職種	人数	所属
1	研修	都道府県災害医療コーディネート研修	7月21日（日）	東京都	—	1	一般・消化器外科
2	研修	MCLS大量殺傷型テロ 対応病院コース	10月20日（日）	当院	看護師	4	救命A 初療室 初療室 NICU
3	研修	愛知県DPAT研修 （オブザーバー参加）	12月21日（土） ～ 12月22日（日）	愛知県	こころのケア指導員	1	西11A
4	研修	災害保健医療コーディネート研修	3月9日（日）	当院	—	1	一般・消化器外科

## （２）災害救護活動 派遣実績

救護班・DMAT等の派遣について

派遣日	救護名	場所	派遣者			特記事項
			職種	人数	院内職名	
4月17日 ～ 4月23日	令和6年能登半島地震災害救護 （愛知県支部こころのケア班：第1班）	石川県珠洲市	こころのケア指導者	1	医療社会事業課長	支部・第二病院 との混合編成

### (3) 病院ボランティア活動状況

#### 1. 病院ボランティア活動状況（その1）

活動項目	令和6年度活動報告	
	具体的活動内容〔主催者等〕	備考
広報媒体等を活用した 地域住民に対する共生 意識・ノーマライゼー ション理念の普及啓発	1. 中村日赤よこいと (1) 病院内 ①外来受診者の車椅子移送の補助 ②入院患者の荷物移送の補助 ③患者サロンにおける本の整理整頓 ④慢性疾患児家族宿泊施設(めばえ)清掃 ⑤衛生材料作成 ⑥当院機関紙等発送作業 ⑦車椅子点検整備 ⑧赤十字健康教室手伝い ⑨患者図書室での活動 (2) 役員会等活動 ①総会 令和6年5月21日(火) 内ヶ島講堂 ②役員会・委員会 随時 ③勉強会 ・当院大規模災害救護訓練 令和6年10月31日 ・個人情報、車椅子講習会 令和7年 3月28日 (3) 関係各機関への協力(病院外) ①日本病院ボランティア協会との連携 ・活動時間等の報告 ・オンライン交流会 令和6年5月30日(木) ③名古屋市社会福祉協議会との連携 ・団員募集の掲示とボランティア保険加入	
	2. 同朋大学学生 「あんぱんまんサークル」 保育指導ボランティア	活動方法検討中
	3. 日本ホスピタルクラウン協会 ホスピタルクラウンボランティア 毎月第2木曜日15時～16時	令和6年4月～活動再開
	4. 特定非営利活動法人「ぷくぷくばるーん」 ばるーんで遊ぼう！ボランティア	活動方法検討中
	5. 緩和ケアセンターボランティア 個人ボランティア、音楽療法、日常生活支援 喫茶、ハンドマッサージ、傾聴ボランティア等	

#### 2. 患者慰問活動

活動項目	令和6年度活動報告	
	具体的活動内容〔主催者等〕	備考
その他地域福祉活動に 関すること	1. 小児医療センター慰問 ・夏祭り 令和6年 8月 8日(木) ・ハロウィンパーティー 令和6年10月21日(月) ・クリスマス会 令和6年12月26日(木)	
	2. 緩和ケアセンター慰問 ・夏祭り 令和6年 8月15日(木) ・クリスマス会 令和6年12月19日(木) ・春祭り 令和7年 3月14日(金)	

## (4) 地域福祉活動状況

### 1. 赤十字健康教室開催状況

回 数	開催日	講演テーマ	講師 (職名)	参加 人員
第 192 回	令和6年 5月9日(木)	【がんの薬物療法】	【座長】中野 祐往 (化学療法内科部長)	42名
		講演 1 がん薬物療法の最近の話題、新規薬剤や遺伝子パネル検査について	中野 祐往 化学療法内科部長	
		講演 2 がんと薬物療法について	榎原 秀之 がん専門薬剤師 教育研修課長	
		講演 3 治療中の生活で気をつけること	大路 小千代 がん化学療法看護認定看護師 看護師長	
		講演 4 がん治療と食事について	伴野 広幸 がん病態栄養専門管理栄養士 栄養課長	
		講演 5 がんのリハビリテーション	中村 和司 がんリハビリテーション係長	
第 193 回	令和6年 7月16日(火)	【緩和ケア～心と身体のつらさを和らげる医療～】	【座長】河合 奈津子 (緩和ケア科副部長)	68名
		講演 1 緩和ケアとは・緩和ケアチームについて	尾関 美代子 がん性疼痛看護認定看護師 係長	
		講演 2 診断された時からの緩和ケア	八木 美樹 がん看護専門看護師	
		講演 3 緩和ケアセンターについて	武藤 直美 緩和ケア認定看護師 看護師長	
		講演 4 もしもの時の心の備え	南平 好美 日本尊厳死協会東海北陸支部副支部長	
第 194 回	令和6年 9月12日(木)	【救急医療 『急変』に備える ～ご自身やご家族の対策～】	【座長】都築 通孝 (救命救急センター長兼集中治療部長兼救急部長)	75名
		講演 1 『急変』に備える	都築 通孝 救命救急センター長兼集中治療部長兼救急部長	
		講演 2 大切な命を守るために ～救急車を呼ぶ前に 知っておくべきこと～	吉原 信吾 救命救急士	
		講演 3 ～もしもの時の、大切な備え～	山北 奈美 初療室看護係長	
		講演 3 アドバンス・ケア・プランニングーいざという ときのために	河合 奈津子 緩和ケア科副部長	
第 195 回	令和6年 11月15日(金)	【糖尿病】	【座長】清田 篤志 (内分泌内科部長)	78名
		講演 1 糖尿病と併存疾患 ーさまざまな病気とのかかわりー	林 祐里 内分泌内科医師	
		講演 2 糖尿病と慢性腎臓病 (CKD) ー腎臓 を守るために今からできることー	日野 佐智子 透析看護認定看護師・腎臓病療養指導士 係長	
		講演 3 糖尿病と食事 ー食事で目指す健康寿命の延伸ー	炭竈 優太 管理栄養士	
第 196 回	令和7年 2月20日(木)	【認知症かな？と思ったら】	【座長】後藤 洋二 (第一脳神経内科部長)	102名
		講演 1 認知症の予防	杉浦 朋子 認知症看護認定看護師 看護師長	
		講演 2 認知症と軽度認知障害 (MCI)	後藤 洋二 第一脳神経内科部長	

## 2. なかむら健やかゼミナール開催状況

回 数	開催日	講演テーマ	講師 (職名)	参加 人員
第 1 回	令和6年 6月29日(土)	【膝関節症】	【座長】井上 英則 (副院長兼医療社会事業部長)	93名
		講演 1 膝関節症の保存治療	山本 英樹 関節外科リウマチ部長兼リハビリテーション科部長	
		講演 2 膝関節症のリハビリとロコモティブ 症候群	山川 桂子 運動器リハビリテーション係長	
		体験	ロコモ度チェック・筋量測定会 (In body)	
第 2 回	令和6年 10月5日(土)	【乳がんの歴史と食生活】	【座長】角田 伸行 (乳腺外科第二部長)	30名
		講演 1 乳がん治療の変遷 ～過去から現在まで～	角田 伸行 乳腺外科第二部長	
		講演 2 がんと食生活について	柴田 彩 管理栄養士	
		体験	ベジチェックで推定野菜摂取量を計測 (明治安田生命)	
第 3 回	令和7年 2月2日(日)	【ママさん全力応援しよう！】 in イオンモールNagoyaNoritakeGarden	【座長】安藤 智子 (副院長兼第一産婦人科部長)	23名
		第 1 部 楽しく学ぼう！ 元氣なママでいるために	安藤 智子 副院長兼第一産婦人科部長	
		第 2 部 赤十字幼児安全法 いざという時のために知っておこう	鶴飼 美由紀 看護師長	
			大島 和美 看護師長	
			柴田 幸子 係長	
		体験	ミニ相談会	
		体験	骨密度測定、ベジチェック、自律神経チェック (明治安田生命)	

## 3. 慢性疾患児家族宿泊施設「めばえ」利用状況

利用月 部屋号	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1													0
2	30	28											58
3													0
5													0
6													0
合 計	30	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58
備 考	総日数 365 日 × 5 = 1,825 利用日数 58 日 利用率 3.178 %												

## Ⅱ. 業 績

### 1. 著 書

令和6年4月～令和7年3月



## 精神科

巻頭言 被告人と被害者の主張が対立する事案の鑑定経験から

舟橋龍秀

司法精神医学 20(1):1,2025 代表者 五十嵐禎人 編集 岡田幸之 日本司法精神医学会 発行

## 小児科

新生児の入院中にお母さんによく聞かれる Q:疾患 新生児仮死

杉山裕一朗

with NEO37 巻 3 号【シーンで整理 答え方がわかる!赤ちゃんのギモン Q&A 家族説明シート・動画つき】 314-318,2024

豊奈々絵 編 メディカ出版 発行

MRSA を主とする細菌感染

大城誠

周産期医学第 54 巻第 9 号【新生児のケア,検査,治療の工夫-筆者はこうしている】ケアの工夫 感染対策 1218-1221,2024

周産期医学編集委員会 編 東京医学社 発行

基礎知識 新生児の早発型感染症

大城誠

小児看護 47 巻 11 号【新生児看護における感染管理】 1290-1293,2024 長谷川潤 編 へるす出版 発行

遺伝性骨髄不全症候群の診断と治療

吉田奈央

EBM 血液疾患の治療 2025-2026 21-25,2024 中外医学社 発行

骨髄異形成症候群, 骨髄増殖性疾患

吉田奈央

小児血液疾患診療マニュアル 200-205,2025 中外医学社 発行

## 産婦人科

救急外来からのコールの受け方

津田弘之

臨床婦人科産科 2024 増刊号 8-12,2024 医学書院 発行

最強の胎児心拍数モニタリング(CTG)判読メソッド ケース 3

手塚敦子

ペリネイタルケア 534-535,2025 メディカ出版 発行

## 耳鼻咽喉科

特集:難聴・めまい 難聴者への補聴器装用～導入と注意点～

柘植勇人

現代医学 71(2):63-67,2024 愛知県医師会 発行

補聴器の満足度を決めるのはフィッティング、効果測定も必要

柘植勇人

朝日新聞 2024 年 9 月 19 日朝刊

増える耳のトラブル大丈夫ですか? あなたの“きこえ” 総集編

補聴器の満足度を決めるのはフィッティング

柘植勇人

朝日新聞 2024 年 11 月 21 日朝刊

## 栄養課

病棟のプロフェッショナルたち

林衛

臨床栄養 144(7):1046-1047,2024 医歯薬出版 発行

「DIETITIAN からの新着 MAIL」

林衛

愛知の国保 1:19 2025

## 臨床工学技術課

人工呼吸器の落とし穴

- ・自発呼吸による落とし穴
- ・気道内圧による落とし穴
- ・コラム:人工呼吸療法のトラブルに強くなろう!
- ・コラム:多くの生命維持管理装置を用いている際は特に1つの機器だけを見ないこと

開正宏

人工臓器治療の落とし穴 152-155,2024 日本人工臓器学会編集委員会 監修 南江堂 発行

### チーム医療推進に関する手引き ー第3版ー

佐藤公治<sup>1</sup>,白石浩<sup>2</sup>,富安正典<sup>3</sup>,箱石陽子<sup>4</sup>,小林敦<sup>5</sup>,荒井一正<sup>6</sup>,真下照子<sup>7</sup>,松川勇<sup>8</sup>,開正宏<sup>9</sup>,伴野広幸<sup>10</sup>,中井正江<sup>5</sup>,横江正道<sup>11</sup>,濱谷寿子<sup>11</sup>

1:日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 2:日本理学療法士協会 3:釧路赤十字病院 4:八戸赤十字病院 5:前橋赤十字病院 6:和歌山赤十字医療センター 7:京都第二赤十字病院 8:足利赤十字病院 9:臨床工学技術課 10:栄養課 11:日本赤十字社医療事業推進本部

日本赤十字社医療事業推進本部 2025年3月 日本赤十字社 発行

### チーム医療の推進に関する手引き 実践的事例集 ー第2.3版ー

佐藤公治<sup>1</sup>,富安正典<sup>2</sup>,箱石陽子<sup>3</sup>,小林敦<sup>4</sup>,荒井一正<sup>5</sup>,真下照子<sup>6</sup>,松川勇<sup>7</sup>,開正宏<sup>8</sup>,伴野広幸<sup>9</sup>,中井正江<sup>4</sup>,横江正道<sup>10</sup>,濱谷寿子<sup>10</sup>

1:日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 2:釧路赤十字病院 3:八戸赤十字病院 4:前橋赤十字病院 5:和歌山赤十字医療センター 6:京都第二赤十字病院 7:足利赤十字病院 8:臨床工学技術課 9:栄養課 10:日本赤十字社医療事業推進本部

令和6年度チーム医療の推進に関する検討部会 2025年3月 日本赤十字社 発行

## 検査部

尿中に認める太く短いグラム陰性桿菌と白血球

服部拓哉<sup>1</sup>,伊藤亮太<sup>2</sup>

1:検査部 2:感染制御部

Medical Technology 52(11):1097-1101,2024 医歯薬出版株式会社 発行

## Ⅱ. 業 績

### 2. 論 文

令和6年4月～令和7年3月

## 腎臓内科

### Low skeletal muscle mass index is independently associated with low bone mineral density in kidney transplant recipients: a retrospective observational cohort study

Nishihira M<sup>1,2</sup>, Matsuoka K<sup>3</sup>, Hori M<sup>4</sup>, Tsujita M<sup>4</sup>, **Yasuda K<sup>5</sup>**, Ashimine S<sup>6</sup>, Ishiyama K<sup>6</sup>, Uchida K<sup>3</sup>, Morozumi K<sup>4</sup>, Kobayashi T<sup>6</sup>

1:Department of Nephrology, Yuuai Medical Center 2:Department of Renal Transplant Surgery, Aichi Medical University School of Medicine 3:Department of Transplantation, Masuko Memorial Hospital 4:Department of Nephrology, Masuko Memorial Hospital 5:Department of Nephrology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 6:Department of Renal Transplant Surgery, Aichi Medical University School of Medicine  
Journal of Nephrology 37:1577–1587 2024

## 血液内科

### Glasdegib with intensive/nonintensive chemotherapy in Japanese patients with untreated acute myeloid leukemia or high-risk myelodysplastic syndromes

Izutsu K<sup>1</sup>, Ubukawa K<sup>2</sup>, **Morishita T<sup>3</sup>**, Onishi Y<sup>4</sup>, Ishizawa K<sup>5</sup>, Fujii Y<sup>6</sup>, Kimura N<sup>6</sup>, Yokochi M<sup>6</sup>, Naoe T<sup>7</sup>

1:Department of Hematology, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 2:Department of Hematology, Nephrology and Rheumatology, Akita University Hospital, Akita, Japan 3:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Aichi, Japan 4:Department of Hematology, Tohoku University Hospital, Sendai, Miyagi, Japan 5:Department of Internal Medicine III, Yamagata University Hospital, Yamagata, Japan 6:Pfizer R&D Japan, Tokyo, Japan 7:National Hospital Organization Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan  
Cancer Science 115(4):1250–1260 2024

### Machine Learning Prediction Model for Neutrophil Recovery after Unrelated Cord Blood Transplantation

Kuwatsuka Y<sup>1</sup>, Kasajima R<sup>2</sup>, Yamaguchi R<sup>3</sup>, Uchida N<sup>4</sup>, Konuma T<sup>5</sup>, Tanaka M<sup>6</sup>, Shingai N<sup>7</sup>, Miyakoshi S<sup>8</sup>, Kozai Y<sup>9</sup>, Uehara Y<sup>10</sup>, Eto T<sup>11</sup>, Toyosaki M<sup>12</sup>, **Nishida T<sup>13</sup>**, Ishimaru F<sup>14</sup>, Kato K<sup>15</sup>, Fukuda T<sup>16</sup>, Imoto S<sup>17</sup>, Atsuta Y<sup>18</sup>, Takahashi S<sup>5</sup>

1:Department of Advanced Medicine, Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan 2:Division of Health Medical Intelligence, Human Genome Center, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan; Molecular Pathology and Genetics Division, Kanagawa Cancer Center Research Institute, Yokohama, Japan 3:Division of Health Medical Intelligence, Human Genome Center, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan; Division of Cancer Systems Biology, Aichi Cancer Center Research Institute, Nagoya, Japan; Division of Cancer Informatics, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan 4:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 5:Department of Hematology/Oncology, The Institute of Medical Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan 6:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 7:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 8:Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Institute for Geriatrics and Gerontology, Tokyo, Japan 9:Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, Fuchu, Japan 10:Department of Hematology, Kitakyushu City Hospital Organization, Kitakyushu Municipal Medical Center, Kitakyushu, Japan 11:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 12:Department of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 13:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 14:Japanese Red Cross Kanto–Koshinetsu Block Blood Center, Atsugi, Japan 15:Central Japan Cord Blood Bank, Seto, Japan 16:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 17:Division of Health Medical Intelligence, Human Genome Center, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan 18:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan; Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan  
Transplantation and Cellular Therapy 30(4):444.e1–444.e11 2024

### Impact of Different Fludarabine Doses in the Fludarabine-Based Conditioning Regimen for Unrelated Bone Marrow Transplantation

Kuriyama K<sup>1</sup>, Fuji S<sup>2</sup>, Ito A<sup>3</sup>, Doki N<sup>4</sup>, Katayama Y<sup>5</sup>, Ohigashi H<sup>6</sup>, **Nishida T<sup>7</sup>**, Serizawa K<sup>8</sup>, Eto T<sup>9</sup>, Uchida N<sup>10</sup>, Kanda Y<sup>11</sup>, Tanaka M<sup>12</sup>, Matsuoka K<sup>13</sup>, Nakazawa H<sup>14</sup>, Kanda J<sup>15</sup>, Fukuda T<sup>3</sup>, Atsuta Y<sup>16</sup>, Ogata M<sup>17</sup>

1:Department of Hematology, Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital, Kyoto, Japan 2:Department of Hematology, Osaka International Cancer Institute, Osaka, Japan 3:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 4:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 5:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 6:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 7:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 8:Division of Hematology and Rheumatology, Department of Internal Medicine, Kindai University Hospital, Osaka, Japan 9:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 10:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 11:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 12:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 13:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 14:Department of Hematology and Medical Oncology, Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan 15:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 16:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan; Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 17:Department of Hematology, Oita University Hospital, Oita, Japan  
Transplantation and Cellular Therapy 30(5):514.e1–514.e13 2024

### Impact of Early Cytomegalovirus Reactivation After Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation on Relapse in Patients With Myelodysplastic Syndrome: A Nationwide Retrospective Study From Adult Myelodysplastic Syndrome Working Group of the JSTCT

Konishi T<sup>1</sup>, Matsuda K<sup>2</sup>, Itonaga H<sup>3</sup>, Doki N<sup>4</sup>, **Nishida T<sup>5</sup>**, Matsuoka K<sup>6</sup>, Ikeda T<sup>7</sup>, Kanda Y<sup>8</sup>, Fukuda T<sup>9</sup>, Kanda J<sup>10</sup>, Nakamae H<sup>11</sup>, Imada K<sup>12</sup>, Ueda Y<sup>13</sup>, Ichinohe T<sup>14</sup>, Atsuta Y<sup>15</sup>, Ishiyama K<sup>16</sup>

1:Department of Hematology, Clinical Immunology and Infectious Diseases, Ehime University Graduate School of Medicine, Ehime, Japan 2:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan 3:Transfusion and Cell Therapy Unit, Nagasaki University Hospital, Nagasaki, Japan 4:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 5:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Aichi, Japan 6:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 7:Division of Hematology and Stem Cell Transplantation, Shizuoka Cancer Center, Shizuoka, Japan 8:Division of Hematology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan 9:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital,

Tokyo, Japan 10:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 11:Department of Hematology, Osaka Metropolitan University Hospital, Osaka, Japan 12:Department of Hematology, Japanese Red Cross Osaka Hospital, Osaka, Japan 13:Department of Hematology/Oncology and Transfusion and Hemapheresis Center, Kurashiki Central Hospital, Okayama, Japan 14:Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, Hiroshima, Japan 15:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Aichi, Japan; Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Aichi, Japan 16:Department of Hematology, Center Hospital of the National Cancer for Global Health and Medicine, Japan Transplantation and Cellular Therapy 30(7):685.e1–685.e12 2024

#### **Real-World Outcomes of Graft-versus-Host Disease after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Japan: Retrospective Analysis of the Transplant Registry Unified Management Program Registry**

Kanda J<sup>1</sup>, Mitsuyoshi T<sup>2</sup>, Sakurai M<sup>3</sup>, Nishimori H<sup>4</sup>, Murata M<sup>5</sup>, Uchida N<sup>6</sup>, Doki N<sup>7</sup>, Inamoto Y<sup>8</sup>, **Nishida T<sup>9</sup>**, Tanaka M<sup>10</sup>, Katayama Y<sup>11</sup>, Eto T<sup>12</sup>, Matsuoka K<sup>4</sup>, Yoshihara S<sup>13</sup>, Sawa M<sup>14</sup>, Kawakita T<sup>15</sup>, Jun G<sup>16</sup>, Kurata M<sup>17</sup>, Ichinohe T<sup>18</sup>, Fukuda T<sup>8</sup>, Teshima T<sup>19</sup>, Atsuta Y<sup>17</sup>, Terakura S<sup>20</sup>

1:Department of Hematology and Oncology, Kyoto University, Kyoto, Japan 2:Department of Hematology and Oncology, Kyoto University, Kyoto, Japan 3:Department of Hematology, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan 4:Department of Hematology, Hiroshima City Hiroshima Citizens Hospital, Hiroshima, Japan 5:Department of Hematology, Shiga University of Medical Science, Otsu, Japan 6:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 7:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 8:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 9:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 10:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 11:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 12:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 13:Department of Hematology, Hyogo Medical University Hospital, Nishinomiya, Japan 14:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 15:Department of Hematology, National Hospital Organization Kumamoto Medical Center, Kumamoto, Japan 16:Novartis Pharma K.K., Tokyo, Japan 17:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 18:Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, Hiroshima, Japan 19:Department of Hematology, Hokkaido University, Sapporo, Japan 20:Department of Hematology, Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan Transplantation and Cellular Therapy 30(9):907.e1–907.e16 2024

#### **Superior Survival After Unrelated Allogeneic Stem Cell Transplantation With Low-Dose ATG Compared to Low-Dose TBI in Myeloablative Fludarabine/Busulfan-Based Regimen for MDS on Behalf of the Adult MDS Working Group of the JSTCT**

Fujioka M<sup>1</sup>, Itonaga H<sup>2</sup>, Nakazawa H<sup>3</sup>, **Nishida T<sup>4</sup>**, Kataoka K<sup>5</sup>, Ikeda T<sup>6</sup>, Kako S<sup>7</sup>, Matsuoka K<sup>8</sup>, Adachi K<sup>9</sup>, Fujiwara S<sup>10</sup>, Aotsuka N<sup>11</sup>, Kawakita T<sup>12</sup>, Sakaida E<sup>13</sup>, Kanda Y<sup>14</sup>, Ichinohe T<sup>15</sup>, Atsuta Y<sup>16</sup>, Miyazaki Y<sup>17</sup>, Ishiyama K<sup>18</sup>

1:Department of Hematology, Sasebo City General Hospital, Sasebo, Japan; Department of Hematology, Atomic Bomb Disease and Hibakusha Medicine Unit, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Science, Nagasaki, Japan 2:Transfusion and Cell Therapy Unit, Nagasaki University Hospital, Nagasaki, Japan 3:Department of Hematology, Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan 4:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 5:Division of Hematology, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan 6:Division of Hematology and Stem Cell Transplantation, Shizuoka Cancer Center, Shizuoka, Japan 7:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 8:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 9:Department of Hematology and Oncology, National Hospital Organization, Yonago Medical Center, Yoneko, Japan 10:Division of Hematology, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 11:Division of Hematology–Oncology, Japanese Red Cross Society Narita Hospital, Narita, Japan 12:Department of Hematology, NHO Kumamoto Medical Center, Kumamoto, Japan 13:Department of Hematology, Chiba University Hospital, Chiba, Japan 14:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan; Division of Hematology, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 15:Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, Hiroshima, Japan 16:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan; Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 17:Department of Hematology, Atomic Bomb Disease and Hibakusha Medicine Unit, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Science, Nagasaki, Japan; Department of Hematology, Nagasaki University Hospital, Nagasaki, Japan 18:Department of Hematology, Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan Transplantation and Cellular Therapy 31(1):18.e1–18.e12 2025

#### **Impact of antithymocyte globulin usage and risk stratification for posttransplant lymphoproliferative disorders in aplastic anemia patients after allogeneic hematopoietic cell transplantation**

Yamamoto R<sup>1</sup>, Hiramoto N<sup>2</sup>, Fujimoto A<sup>3</sup>, Yamazaki H<sup>4</sup>, Mori T<sup>5</sup>, Uchida N<sup>6</sup>, Doki N<sup>7</sup>, Kato J<sup>8</sup>, Nishikubo M<sup>1</sup>, Kako S<sup>9</sup>, **Nishida T<sup>10</sup>**, Ota S<sup>11</sup>, Onizuka M<sup>12</sup>, Eto T<sup>13</sup>, Onodera K<sup>14</sup>, Ikegame K<sup>15</sup>, Matsuoka K<sup>16</sup>, Kanda Y<sup>17</sup>, Fukuda T<sup>18</sup>, Atsuta Y<sup>19,20</sup>, Onishi Y<sup>14</sup>

1:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan 2:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan 3:Department of Hematology, Shimane University Hospital, Izumo, Japan 4:Division of Transfusion Medicine, Kanazawa University Hospital, Kanazawa, Japan 5:Department of Hematology, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan 6:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 7:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 8:Division of Hematology, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan 9:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 10:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 11:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 12:Department of Hematology and Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 13:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 14:Department of Hematology, Tohoku University Hospital, Sendai, Japan 15:Department of Hematology, Hyogo Medical University Hospital, Hyogo, Japan 16:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 17:Division of Hematology, Department of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan 18:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 19:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 20:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan Bone Marrow Transplantation 59(5):688–691 2024

#### **Prognostic impact of the conditioning intensity on outcomes after allogeneic transplantation for MDS with low blasts: a nationwide retrospective study by the adult MDS working group of the Japan Society for Transplantation and Cellular Therapy**

Itonaga H<sup>1</sup>, Miyazaki Y<sup>2,3</sup>, Fujioka M<sup>3,4</sup>, Aoki J<sup>5</sup>, Doki N<sup>6</sup>, **Nishida T<sup>7</sup>**, Fukuda T<sup>8</sup>, Uchida N<sup>9</sup>, Ueda Y<sup>10</sup>, Uehara Y<sup>11</sup>, Katayama Y<sup>12</sup>, Ota S<sup>13</sup>, Kawakita T<sup>14</sup>, Kato J<sup>15</sup>, Matsuoka K<sup>16</sup>, Eto T<sup>17</sup>, Onizuka M<sup>18</sup>, Ichinohe T<sup>19</sup>, Atsuta Y<sup>20,21</sup>, Ishiyama K<sup>5</sup>

1:Transfusion and Cell Therapy Unit, Nagasaki University Hospital, Nagasaki, Japan 2:Department of Hematology, Nagasaki University Hospital, Nagasaki, Japan 3:Department of Hematology, Atomic Bomb Disease and Hibakusha Medicine Unit, Atomic Bomb Disease Institute, Nagasaki University, Nagasaki, Japan 4:Department of Hematology, Sasebo City

General Hospital, Sasebo, Japan 5:Department of Hematology, Center Hospital of the National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan 6:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 7:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 8:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 9:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 10:Department of Hematology/Oncology and Transfusion and Hemapheresis Center, Kurashiki Central Hospital, Kurashiki, Japan 11:Department of Hematology, Kitakyushu City Hospital Organization, Kitakyushu Municipal Medical Center, Kitakyushu, Japan 12:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 13:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 14:Department of Hematology, National Hospital Organization Kumamoto Medical Center, Kumamoto, Japan 15:Division of Hematology, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan 16:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 17:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 18:Department of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 19:Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, Hiroshima, Japan 20:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 21:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan  
Bone Marrow Transplantation 59(8):1107–1117 2024

#### Association between human herpesvirus-6 encephalitis and antiviral prophylaxis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in the letermovir era

Terao T<sup>1,2</sup>, Matsuo K<sup>3,4</sup>, Fuji S<sup>5</sup>, Kawamura S<sup>6,7</sup>, Toya T<sup>8</sup>, Doki N<sup>8</sup>, Uchida N<sup>9</sup>, Tanaka M<sup>10</sup>, Fukuda T<sup>11</sup>, Sawa M<sup>12</sup>, Ishikawa J<sup>5</sup>, **Nishida T<sup>13</sup>**, Ohigashi H<sup>14</sup>, Maruyama Y<sup>15</sup>, Fujiwara S<sup>16</sup>, Kanda Y<sup>6,16</sup>, Ota S<sup>17</sup>, Ishimaru F<sup>18</sup>, Atsuta Y<sup>19,20</sup>, Kanda J<sup>21</sup>, Ogata M<sup>22</sup>, Yakushijin K<sup>23</sup>, Nakasone H<sup>6,7</sup>  
1:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 2:Department of Hematology, Oncology and Respiratory Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan 3:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 4:Department of Hematology, Oncology and Respiratory Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan 5:Department of Hematology, Osaka International Cancer Institute, Osaka, Japan 6:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 7:Division of Emerging Medicine for Integrated Therapeutics, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 8:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 9:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 10:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Kanagawa, Japan 11:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 12:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Aichi, Japan 13:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Aichi, Japan 14:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Hokkaido, Japan 15:Department of Hematology, University of Tsukuba Hospital, Ibaraki, Japan 16:Division of Hematology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan 17:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Hokkaido, Japan 18:Japanese Red Cross Kanto-Koshinetsu Block Blood Center, Tokyo, Japan 19:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Aichi, Japan 20:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Aichi, Japan 21:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 22:Department of Medical Oncology and Hematology, Oita University Faculty of Medicine, Oita, Japan 23:Department of Medical Oncology and Hematology, Kobe University Hospital, Hyogo, Japan  
Bone Marrow Transplantation 59(9):1224–1231 2024

#### Trends in allogeneic hematopoietic cell transplantation survival using population-based descriptive epidemiology method: analysis of national transplant registry data

Kuwatsuka Y<sup>1</sup>, Ito H<sup>2</sup>, Tabuchi K<sup>3</sup>, Konuma T<sup>4</sup>, Uchida N<sup>5</sup>, Inamoto Y<sup>6</sup>, Inai K<sup>7</sup>, **Nishida T<sup>8</sup>**, Ikegame K<sup>9</sup>, Eto T<sup>10</sup>, Katayama Y<sup>11</sup>, Kataoka K<sup>12</sup>, Tanaka M<sup>13</sup>, Takahashi S<sup>4</sup>, Fukuda T<sup>6</sup>, Ichinohe T<sup>14</sup>, Kimura F<sup>15</sup>, Kanda J<sup>16</sup>, Atsuta Y<sup>3,17</sup>, Matsuo K<sup>18</sup>  
1:Department of Advanced Medicine, Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan. 2:Division of Cancer Information and Control, Department of Preventive Medicine, Aichi Cancer Center Research Institute, Nagoya, Japan 3:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 4:Department of Hematology/Oncology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan 5:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 6:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 7:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 8:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 9:Department of Hematology, Hyogo Medical University Hospital, Nishinomiya, Japan 10:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 11:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-Bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 12:Division of Hematology, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan 13:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 14:Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, Hiroshima, Japan 15:Division of Hematology, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Tokorozawa, Japan 16:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 17:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 18:Division of Cancer Epidemiology and Prevention, Aichi Cancer Center Research Institute, Nagoya, Japan  
Bone Marrow Transplantation 59(9):1295–1301 2024

#### First complete remission favours haploidentical haematopoietic stem cell transplantation with post-transplant cyclophosphamide over cord blood transplantation in acute lymphoblastic leukaemia

Jo T<sup>1,2</sup>, Ueda T<sup>3</sup>, Akahoshi Y<sup>4</sup>, Kondo T<sup>1,5</sup>, Uchida N<sup>6</sup>, Tanaka M<sup>7</sup>, Nakamae H<sup>8</sup>, Doki N<sup>9</sup>, Ota S<sup>10</sup>, Sawa M<sup>11</sup>, Ohigashi H<sup>12</sup>, Maruyama Y<sup>13</sup>, Takayama N<sup>14</sup>, **Nishida T<sup>15</sup>**, Hiramoto N<sup>5</sup>, Katayama Y<sup>16</sup>, Kanda Y<sup>17</sup>, Ichinohe T<sup>18</sup>, Atsuta Y<sup>19,20</sup>, Arai Y<sup>1,2</sup>  
1:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 2:Center for Research and Application of Cellular Therapy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan 3:Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Japan 4:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 5:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan 6:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 7:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Kanagawa, Japan 8:Department of Hematology, Osaka Metropolitan University Hospital, Osaka, Japan 9:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 10:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 11:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 12:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 13:Department of Hematology, University of Tsukuba Hospital, Tsukuba, Japan 14:Department of Hematology, Kyorin University Hospital, Mitaka, Japan 15:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 16:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital and Atomic-bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 17:Division of Hematology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan 18:Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, Hiroshima, Japan 19:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagoya, Japan 20:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan  
British Journal of Haematology 204(5):1913–1919 2024

### Frequent loss of HLA-B\*40:02 from leucocytes in male patients with hepatitis-associated aplastic anaemia

Katagiri T<sup>1</sup>, Takahashi R<sup>1</sup>, Zaimoku Y<sup>2</sup>, Hosokawa K<sup>2</sup>, Ogawa S<sup>3,4,5</sup>, Takahashi Y<sup>6</sup>, Miyamura T<sup>7</sup>, Onishi Y<sup>8</sup>, Koike T<sup>9</sup>, **Nishida T**<sup>10</sup>, Uchida N<sup>11</sup>, Doki N<sup>12</sup>, Tanaka M<sup>13</sup>, Eto T<sup>14</sup>, Itagaki M<sup>15</sup>, Sawa M<sup>16</sup>, Fukuda T<sup>17</sup>, Onizuka M<sup>18</sup>, Atsuta Y<sup>19,20</sup>, Nakao S<sup>2</sup>

1:Department of Clinical Laboratory Science, Graduate School of Medical Science, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa, Japan 2:Department of Hematology, Faculty of Medicine, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa, Japan 3:Department of Pathology and Tumor Biology, Kyoto University, Kyoto, Japan 4:Institute for the Advanced Study of Human Biology (WPI-ASHBi), Kyoto University, Kyoto, Japan 5:Department of Medicine, Centre for Hematology and Regenerative Medicine, Karolinska Institute, Stockholm, Sweden 6:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Aichi, Japan 7:Department of Pediatrics, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Osaka, Japan 8:Department of Hematology, Tohoku University Hospital, Sendai, Miyagi, Japan 9:Department of Pediatrics, Tokai University School of Medicine, Isehara, Kanagawa, Japan 10:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Aichi, Japan 11:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 12:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 13:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Kanagawa, Japan 14:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 15:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital and Atomic-Bomb Survivors Hospital, Naka-ku, Hiroshima, Japan 16:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Aichi, Japan 17:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 18:Department of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Kanagawa, Japan 19:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Aichi, Japan 20:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Aichi, Japan

British Journal of Haematology 205(5):2084–2088 2024

### Comparison of HLA-haploidentical donors with post-transplant cyclophosphamide versus HLA-matched unrelated donors in peripheral blood stem cell transplantation for acute myeloid leukaemia

Moriguchi M<sup>1</sup>, Nakamae H<sup>1</sup>, Nishimoto M<sup>1</sup>, Sugita J<sup>2</sup>, Yanada M<sup>3</sup>, Toubai T<sup>4</sup>, Hasegawa Y<sup>5</sup>, Hino M<sup>1</sup>, **Nishida T**<sup>6</sup>, Kurita N<sup>7</sup>, Sawa M<sup>8</sup>, Fukuda T<sup>9</sup>, Jinguji A<sup>10</sup>, Ota S<sup>2</sup>, Matsuoka K<sup>11</sup>, Eto T<sup>12</sup>, Hiramoto N<sup>13</sup>, Ando T<sup>14</sup>, Kawamura K<sup>15</sup>, Kanda Y<sup>16</sup>, Atsuta Y<sup>17 18</sup>, Ohbiki M<sup>17 18 19</sup>, Nakasone H<sup>20 21</sup>, Konuma T<sup>22</sup>

1:Department of Hematology, Osaka Metropolitan University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan 2:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 3:Department of Hematology and Oncology, Nagoya City University East Medical Center, Nagoya, Japan 4:Department of Hematology and Cell Therapy, Yamagata University Hospital, Yamagata, Japan 5:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 6:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 7:Department of Hematology, Institute of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan 8:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 9:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 10:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 11:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 12:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 13:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan 14:Division of Hematology, Respiratory Medicine, and Oncology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Saga University, Saga, Japan 15:Division of Clinical Laboratory Medicine, Department of Multidisciplinary Internal Medicine, Tottori University, Yonago, Japan 16:Division of Hematology, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 17:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 18:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 19:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate, School of Medicine, Nagoya, Japan 20:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 21:Division of Emerging Medicine for Integrated Therapeutics (EMIT), Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 22:Department of Hematology/Oncology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan

British Journal of Haematology 205(6):2376–2386 2024

### RhD mismatch does not affect haematopoietic recovery, graft-versus-host disease and survival in allogeneic haematopoietic cell transplantation: A Japanese registry-based study

Konuma T<sup>1</sup>, Uchida N<sup>2</sup>, Takeda W<sup>3</sup>, Doki N<sup>4</sup>, Yoshihara S<sup>5</sup>, **Nishida T**<sup>6</sup>, Kuriyama T<sup>7</sup>, Tanaka M<sup>8</sup>, Ohigashi H<sup>9</sup>, Nakamae H<sup>10</sup>, Katayama Y<sup>11</sup>, Ota S<sup>12</sup>, Hashii Y<sup>13</sup>, Ishimaru F<sup>14</sup>, Fukuda T<sup>3</sup>, Ohbiki M<sup>15 16,17</sup>, Atsuta Y<sup>15,16</sup>

1:Department of Hematology/Oncology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan 2:Department of Hematology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 3:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 4:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 5:Department of Hematology, Hyogo Medical University Hospital, Nishinomiya, Japan 6:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 7:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 8:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 9:Department of Hematology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan 10:Department of Hematology, Osaka Metropolitan University Hospital, Osaka, Japan 11:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-Bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 12:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 13:Department of Pediatrics, Osaka International Cancer Institute, Osaka, Japan 14:Japanese Red Cross Society Kanto-Koshinetsu Cord Blood Bank, Tokyo, Japan 15:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 16:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 17:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan

Vox Sanguinis 119(6):612–618 2024

### Associations between acute and chronic graft-versus-host disease

Tamaki M<sup>1,2</sup>, Akahoshi Y<sup>1,3</sup>, Inamoto Y<sup>4</sup>, Morita K<sup>5</sup>, Uchida N<sup>6</sup>, Doki N<sup>7</sup>, Tanaka M<sup>8</sup>, **Nishida T**<sup>9</sup>, Ohigashi H<sup>10</sup>, Nakamae H<sup>11</sup>, Onizuka M<sup>12</sup>, Katayama Y<sup>13</sup>, Matsuoka K<sup>14</sup>, Sawa M<sup>15</sup>, Ishimaru F<sup>16</sup>, Kanda Y<sup>1,5</sup>, Fukuda T<sup>17</sup>, Atsuta Y<sup>18,19</sup>, Terakura S<sup>20</sup>, Kanda J<sup>21</sup>

1:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 2:Division of Emerging Medicine for Integrated Therapeutics, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University Shimotsuke, Japan 3:Division of Hematology/Medical Oncology, The Tisch Cancer Institute, Icahn School of Medicine at Mount Sinai, New York, NY 4:Department of Bone and Marrow Transplantation & Cellular Therapy, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake, Japan 5:Division of Hematology, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 6:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 7:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 8:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 9:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 10:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 11:Department of Hematology, Osaka Metropolitan University Hospital, Osaka, Japan 12:Department of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 13:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 14:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 15:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 16:Technical Department, Japanese Red Cross Society Blood Service

Headquarters, Tokyo, Japan 17:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 18:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 19:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 20:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan 21:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan  
Blood advances 8(16):4250–4261 2024

### **Long-Term Outcome of Eltrombopag With First-Line Immunosuppressive Therapy for Newly Diagnosed Severe Aplastic Anemia**

Yokota H<sup>1,2</sup>, Miyao K<sup>1</sup>, Sawa M<sup>1</sup>, Terakura S<sup>2</sup>, Kurahashi S<sup>3</sup>, Ikoma Y<sup>4,5</sup>, Imahashi N<sup>6</sup>, **Morishita T<sup>7</sup>**, Okamoto A<sup>8</sup>, Kajiguchi T<sup>9</sup>, Ono T<sup>10</sup>, Narita T<sup>11</sup>, Kanemura N<sup>5</sup>, Ozeki K<sup>12</sup>, Kojima Y<sup>13</sup>, Naito K<sup>14</sup>, Uchino K<sup>15</sup>, Tomita A<sup>8</sup>, Iida H<sup>6</sup>, Imoto N<sup>3</sup>, Kasahara S<sup>4</sup>, Inagaki Y<sup>1</sup>, **Nishida T<sup>7</sup>**, Murata M<sup>2</sup>  
1:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 2:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan 3:Division of Hematology and Oncology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, Japan 4:Department of Hematology, Gifu Municipal Hospital, Gifu, Japan 5:Department of Hematology and Infectious Disease, Gifu University Hospital, Gifu, Japan 6:Department of Hematology, NHO Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan 7:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 8:Department of Hematology, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake, Japan 9:Department of Hematology and Oncology, Tosei General Hospital, Seto, Japan 10:Department of Internal Medicine, School of Medicine, Hamamatsu University, Hamamatsu, Japan 11:Department of Hematology and Oncology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, Nagoya, Japan 12:Department of Hematology and Oncology, Konan Kosei Hospital, Konan, Japan 13:Department of Hematology, Nagoya Ekisaikai Hospital, Nagoya, Japan 14:Department of Hematology, Hamamatsu Medical Center, Hamamatsu, Japan 15:Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan  
Journal of Hematology 13(4):142–149 2024

### **Significance of absolute neutrophil count before allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in adult patients with aplastic anemia**

Nakamura Y<sup>1</sup>, Zaimoku Y<sup>2</sup>, Yamaguchi H<sup>3</sup>, Yamazaki H<sup>4</sup>, Kanaya M<sup>5</sup>, Uchida N<sup>6</sup>, Doki N<sup>7</sup>, Sakurai M<sup>8</sup>, Hiramoto N<sup>9</sup>, Kako S<sup>10</sup>, Onizuka M<sup>11</sup>, Onodera K<sup>12</sup>, Maruyama Y<sup>13</sup>, Ohigashi H<sup>14</sup>, **Nishida T<sup>15</sup>**, Yoshihara S<sup>16</sup>, Matsuoka K<sup>17</sup>, Eto T<sup>18</sup>, Kanda Y<sup>10,19</sup>, Fukuda T<sup>20</sup>, Atsuta Y<sup>21,22</sup>, Onishi Y<sup>12</sup>  
1:Third Department of Internal Medicine, Yamaguchi University Hospital, Yamaguchi, Japan 2:Department of Infection Control and Prevention, Kanazawa University Hospital, Ishikawa, Japan 3:Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan 4:Division of Transfusion Medicine, Kanazawa University Hospital, Ishikawa, Japan 5:Blood Disorders Center, Aikku Hospital, Hokkaido, Japan 6:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 7:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 8:Division of Hematology, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan 9:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Hyogo, Japan 10:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 11:Department of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, Kanagawa, Japan 12:Department of Hematology, Tohoku University Hospital, Miyagi, Japan 13:Department of Hematology, University of Tsukuba Hospital, Ibaraki, Japan 14:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Hokkaido, Japan 15:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Aichi, Japan 16:Department of Hematology, Hyogo Medical University Hospital, Hyogo, Japan 17:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 18:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 19:Division of Hematology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan 20:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 21:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Aichi, Japan 22:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Aichi, Japan  
Annals of Hematology 103(8):3121–3133 2024

### **Reappraising the prognostic relevance of cytogenetic risk in patients with acute myeloid leukemia undergoing allogeneic hematopoietic cell transplantation**

Mizuno S<sup>1</sup>, Hosoi H<sup>2</sup>, Takami A<sup>1</sup>, Kawata T<sup>3</sup>, Doki N<sup>4</sup>, Takeda W<sup>5</sup>, Tanaka M<sup>6</sup>, **Nishida T<sup>7</sup>**, Uchida N<sup>8</sup>, Hasegawa T<sup>9</sup>, Sawa M<sup>10</sup>, Ota S<sup>11</sup>, Onizuka M<sup>12</sup>, Nakamae H<sup>13</sup>, Asada N<sup>14</sup>, Fukuda T<sup>5</sup>, Yoshimitsu M<sup>15</sup>, Kanda Y<sup>16</sup>, Ohbiki M<sup>1,17,18</sup>, Atsuta Y<sup>1,17</sup>, Konuma T<sup>19</sup>, Yanada M<sup>20</sup>  
1:Aichi Medical University, Nagakute, Japan 2:Wakayama Medical University, Wakayama, Japan 3:Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center, Amagasaki, Japan 4:Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 5:National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 6:Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 7:Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 8:Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 9:Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 10:Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 11:Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 12:Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 13:Osaka Metropolitan University Hospital, Osaka, Japan 14:Okayama University Hospital, Okayama, Japan 15:Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, Kagoshima, Japan 16:Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 17:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 18:Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan 19:The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan 20:Nagoya City University East Medical Center, Nagoya, Japan  
Annals of Hematology 103(12):5903–5913 2024

### **Asciminib in Patients With CML–CP Previously Treated With $\geq 2$ Tyrosine Kinase Inhibitors: 96-Week Results From the Japanese Subgroup Analysis of the ASCEMBL Study**

Minami Y<sup>1</sup>, Doki N<sup>2</sup>, Matsuoka H<sup>3</sup>, Yokota T<sup>4,5</sup>, Tomita A<sup>6</sup>, Takahashi N<sup>7</sup>, Kubo K<sup>8</sup>, **Goto T<sup>9</sup>**, Kirito K<sup>10</sup>, Maki A<sup>11</sup>, Aoki M<sup>11</sup>, Ktiouet Dawson M<sup>12</sup>, Matsumura I<sup>13</sup>  
1:Department of Hematology, National Cancer Center Hospital East, Chiba, Japan 2:Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 3:Kobe University Hospital, Kobe, Japan 4:Osaka University Hospital, Osaka, Japan 5:Osaka International Cancer Institute, Osaka, Japan 6:Fujita Health University School of Medicine, Toyoake, Japan 7:Akita University Hospital, Akita, Japan 8:Aomori Prefectural Central Hospital, Aomori, Japan 9:Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 10:University of Yamanashi Hospital, Yamanashi, Japan 11:Novartis Pharma K.K., Tokyo, Japan 12:Novartis Pharma AG, Basel, Switzerland 13:Kindai University Hospital, Osaka, Japan  
International Journal of Hematology 120(3):305–313 2024

### **Ruxolitinib for steroid-refractory chronic graft-versus-host disease: Japanese subgroup analysis of REACH3 study**

Shiratori S<sup>1</sup>, Fukushima K<sup>2</sup>, Onishi Y<sup>3</sup>, Doki N<sup>4</sup>, **Goto T<sup>5</sup>**, Okada M<sup>6</sup>, Nakamae H<sup>7</sup>, Maeda Y<sup>8</sup>, Kato K<sup>9</sup>, Ishikawa T<sup>10</sup>, Kondo T<sup>10,11</sup>, Toyosaki M<sup>12</sup>, Ikeda T<sup>13</sup>, Uchida N<sup>14</sup>, Maki A<sup>15</sup>, Shimada F<sup>15</sup>, Tajima T<sup>15</sup>, Stefanelli T<sup>16</sup>, Teshima T<sup>17</sup>  
1:Department of Hematology, Faculty of Medicine, Hokkaido University, Sapporo, Japan 2:Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan 3:Department of Hematology, Tohoku University Hospital, Miyagi, Japan 4:Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, Tokyo, Japan 5:Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Aichi, Japan 6:Hyogo College of Medicine, Kansai Medical University Medical Center, Hyogo, Japan 7:Department



of Hematology, Osaka Metropolitan University, Osaka, Japan 8:Department of Hematology, Oncology and Respiratory Medicine, Graduate School of Medicine, Dentistry, and Pharmaceutical Sciences, Okayama University, Okayama, Japan 9:Department of Hematology, Oncology and Cardiovascular Medicine, Kyushu University Hospital, Fukuoka, Japan 10:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Hyogo, Japan 11:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 12:Department of Hematology and Oncology, Tokai University School of Medicine, Kanagawa, Japan 13:Division of Hematology and Stem Cell Transplantation, Shizuoka Cancer Center, Shizuoka, Japan 14:Department of Hematology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 15:Novartis Pharma K.K, Tokyo, Japan 16:Novartis Pharma AG, Basel, Switzerland 17:Department of Hematology, Faculty of Medicine, Hokkaido University, Sapporo, Japan  
International Journal of Hematology 120(6):705–716 2024

#### Association between early anti-cytomegalovirus therapy and the incidence of chronic graft-versus-host disease

Miyao K<sup>1</sup>, Murata M<sup>2</sup>, **Nishida T<sup>3</sup>**, **Ozawa Y<sup>3</sup>**, Uchida N<sup>4</sup>, Fukuda T<sup>5</sup>, Doki N<sup>6</sup>, Eto T<sup>7</sup>, Kawakita T<sup>8</sup>, Mori Y<sup>9</sup>, Takada S<sup>10</sup>, Ohigashi H<sup>11</sup>, Tanaka M<sup>12</sup>, Kanda Y<sup>13</sup>, Matsuoka K<sup>14</sup>, Ishimaru F<sup>15</sup>, Atsuta Y<sup>16,17</sup>, Kanda J<sup>18</sup>, Terakura S<sup>19</sup>

1:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 2:Department of Hematology, Shiga University of Medical Science, Otsu, Japan 3:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 4:Department of Hematology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 5:Division of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 6:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 7:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 8:Department of Hematology, National Hospital Organization Kumamoto Medical Center, Kumamoto, Japan 9:Department of Hematology, Oncology and Cardiovascular Medicine, Kyushu University Hospital, Fukuoka, Japan 10:Leukemia Research Center, Saiseikai Maebashi Hospital, Maebashi, Japan 11:Department of Hematology, Faculty of Medicine, Hokkaido University, Sapporo, Japan 12:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 13:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 14:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 15:Japanese Red Cross Kanto-Koshinetsu Block Blood Center, Atsugi, Japan 16:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 17:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 18:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 19:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan  
International Journal of Hematology 121(1):110–125 2025

#### Machine learning evaluation of intensified conditioning on haematopoietic stem cell transplantation in adult acute lymphoblastic leukemia patients

Jo T<sup>1,2,3</sup>, Inoue K<sup>4,5</sup>, Ueda T<sup>6</sup>, Iwasaki M<sup>7</sup>, Akahoshi Y<sup>8</sup>, Nishiwaki S<sup>9</sup>, Hatsusawa H<sup>10</sup>, **Nishida T<sup>11</sup>**, Uchida N<sup>12</sup>, Ito A<sup>13</sup>, Tanaka M<sup>14</sup>, Takada S<sup>15</sup>, Kawakita T<sup>16</sup>, Ota S<sup>17</sup>, Katayama Y<sup>18</sup>, Takahashi S<sup>19</sup>, Onizuka M<sup>20</sup>, Hasegawa Y<sup>21</sup>, Kataoka K<sup>22</sup>, Kanda Y<sup>8,23</sup>, Fukuda T<sup>13</sup>, Tabuchi K<sup>24</sup>, Atsuta Y<sup>24,25</sup>, Arai Y<sup>26,27,28</sup>

1:Department of Hematology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 2:Center for Research and Application of Cellular Therapy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan 3:Department of Cytotherapy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan 4:Department of Social Epidemiology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 5:Hakubi Center for Advanced Research, Kyoto University, Kyoto, Japan 6:Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, Japan 7:Department of Hematology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 8:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 9:Department of Advanced Medicine, Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan 10:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 11:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 12:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 13:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 14:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 15:Leukemia Research Center, Saiseikai Maebashi Hospital, Maebashi, Japan 16:Department of Hematology, NHO Kumamoto Medical Center, Kumamoto, Japan 17:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 18:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 19:Department of Hematology and Oncology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan 20:Department of Hematology and Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 21:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 22:Division of Hematology, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, Tokyo, Japan 23:Division of Hematology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan 24:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 25:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 26:Department of Hematology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 27:Center for Research and Application of Cellular Therapy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan 28:Department of Cytotherapy, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan  
Communications Medicine 4(1):247 2024

#### Real-world status of treatment for lymphoid neoplasms developed during the course of myeloproliferative neoplasms in Japan

Edahiro Y<sup>1,2,3</sup>, Ochiai T<sup>1,2,3</sup>, Hashimoto Y<sup>1,4</sup>, Ichii M<sup>5</sup>, Okatani T<sup>6</sup>, Omura H<sup>4</sup>, Nakajima K<sup>7</sup>, Sasaki M<sup>2</sup>, Ando J<sup>2,8</sup>, Takaku T<sup>2</sup>, Koike M<sup>9</sup>, Izumiya K<sup>10</sup>, Hiraga J<sup>11</sup>, Yano T<sup>12</sup>, Usuki K<sup>13</sup>, Ohtsuka E<sup>14</sup>, Yokoyama K<sup>15</sup>, Oyake T<sup>16</sup>, Takahashi N<sup>17</sup>, **Nishida T<sup>18</sup>**, Nakao T<sup>19</sup>, Fukuda Y<sup>20</sup>, Akasaka T<sup>21</sup>, Mugitani A<sup>22</sup>, Ando M<sup>2</sup>, Komatsu N<sup>1,2,3,23</sup>

1:Department of Advanced Hematology, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan 2:Department of Hematology, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan 3:Laboratory for the Development of Therapies against MPN, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan 4:Department of Hematology, Tottori Prefectural Central Hospital, Tottori, Japan 5:Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan 6:Division of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital and Atomic-bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 7:Department of Hematology/Oncology, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan 8:Division of Cell Therapy & Blood Transfusion Medicine, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan 9:Department of Hematology, Juntendo University Shizuoka Hospital, Shizuoka, Japan 10:Blood Disorders Center, Aikku Hospital, Hokkaido, Japan 11:Department of Hematology, Toyota Kosei Hospital, Aichi, Japan 12:Internal Medicine Department, Okayama Rosai Hospital, Okayama, Japan 13:Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan 14:Department of Hematology, Oita Prefectural Hospital, Oita, Japan 15:Department of Hematology/Oncology, Tokai University Hachioji Hospital, Tokyo, Japan 16:Division of Hematology and Oncology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University School of Medicine, Iwate, Japan 17:Department of Hematopoietic Tumor, International Medical Center, Saitama Medical University, Saitama, Japan 18:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Aichi, Japan 19:Department of Hematology, Osaka City General Hospital, Osaka, Japan 20:Department of Hematology, Juntendo University Nerima Hospital, Tokyo, Japan 21:Department of Hematology, Tenri Hospital, Nara, Japan 22:Department of Hematology, Seichokai Fuchu Hospital, Osaka, Japan 23:PharmaEssentia Japan KK, Tokyo, Japan  
Hematology 29(1):2340149 2024

#### Superiority of BM over PBSC for recipients with pre-transplant lung dysfunction in HLA-matched allogeneic HCT

Kawamura S<sup>1</sup>, Tamaki M<sup>1</sup>, Konuma T<sup>2</sup>, Onizuka M<sup>3</sup>, Sakaida E<sup>4</sup>, Hayashi H<sup>5</sup>, Doki N<sup>6</sup>, **Nishida T<sup>7</sup>**, Sawa M<sup>8</sup>, Ohigashi H<sup>9</sup>, Fukuda T<sup>10</sup>, Ishikawa J<sup>11</sup>, Matsuoka K<sup>12</sup>, Kawakita T<sup>13</sup>, Tanaka M<sup>14</sup>, Ishimaru F<sup>15</sup>, Ichinohe T<sup>16</sup>, Atsuta Y<sup>17</sup>, Kanda Y<sup>18</sup>, Yakushijin K<sup>19</sup>, Kanda J<sup>5</sup>, Nakasone H<sup>20</sup>

1:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan; Division of Emerging Medicine for Integrated Therapeutics, Center for Molecular Medicine,

Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 2:Department of Hematology/Oncology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan. 3:Department of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 4:Department of Hematology, Chiba University Hospital, Chiba, Japan 5:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan 6:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 7:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 8:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 9:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 10:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 11:Department of Hematology, Osaka International Cancer Institute, Osaka, Japan 12:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 13:Department of Hematology, National Hospital Organization Kumamoto Medical Center, Kumamoto, Japan 14:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 15:Japanese Red Cross Kanto-Koshinetsu Block Blood Center, Tokyo, Japan 16:Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, Hiroshima, Japan 17:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan; Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 18:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan; Division of Hematology, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 19:Department of Medical Oncology and Hematology, Kobe University Hospital, Kobe, Japan 20:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan; Division of Emerging Medicine for Integrated Therapeutics, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan

Cytotherapy 26(11):1353–1361 2024

### Outcome of donor lymphocyte infusion after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in relapsed myelodysplastic syndrome

Marumo A<sup>1</sup>, Nagata Y<sup>2</sup>, Fujioka M<sup>3</sup>, Kurosawa S<sup>4</sup>, Najima Y<sup>5</sup>, Sakaida E<sup>6</sup>, Doki N<sup>5</sup>, Fukushima K<sup>7</sup>, Ota S<sup>8</sup>, Shono K<sup>9</sup>, Ito A<sup>10</sup>, Uchida N<sup>11</sup>, Nishida T<sup>12</sup>, Sawa M<sup>13</sup>, Tsunemine H<sup>14</sup>, Matsuoka K<sup>15</sup>, Onizuka M<sup>16</sup>, Kanda Y<sup>17</sup>, Fukuda T<sup>10</sup>, Atsuta Y<sup>18</sup>, Itonaga H<sup>19</sup>

1:Department of Hematology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan 2:Department of Hematology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan 3:Department of Hematology, Sasebo City General Hospital, Nagasaki, Japan 4:Department of Hematology, Yokohama Municipal Citizen's Hospital, Kanagawa, Japan 5:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 6:Department of Hematology, Chiba University Hospital, Chiba, Japan 7:Department of Hematology and Oncology, Osaka University Hospital, Tokyo, Japan 8:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Hokkaido, Japan 9:Department of Hematology, Chiba Aoba Municipal Hospital, Chiba, Japan 10:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 11:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations TORANOMON HOSPITAL, Tokyo, Japan 12:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Tokyo, Japan 13:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Aichi, Japan 14:Department of Hematology, Shinko Hospital, Kobe, Japan 15:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 16:Department of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, Kanagawa, Japan 17:Division of Hematology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan 18:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagoya, Japan; Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Aichi, Japan 19:Transfusion and Cell Therapy Unit, Nagasaki University Hospital, Nagasaki, Japan

Cytotherapy 27(2):222–228 2025

### Different impacts of granulocyte colony-stimulating factor administration on allogeneic hematopoietic cell transplant outcomes for adult acute myeloid leukemia according to graft type

Konuma T<sup>1</sup>, Kameda K<sup>2</sup>, Morita K<sup>3</sup>, Kondo T<sup>4</sup>, Kimura F<sup>5</sup>, Nakasone H<sup>2,6</sup>, Ouchi F<sup>7</sup>, Uchida N<sup>8</sup>, Tanaka M<sup>9</sup>, Nishida T<sup>10</sup>, Fukuda T<sup>11</sup>, Hasegawa Y<sup>12</sup>, Sakata-Yanagimoto M<sup>13</sup>, Onizuka M<sup>14</sup>, Sawa M<sup>15</sup>, Ota S<sup>16</sup>, Asada N<sup>17</sup>, Fujiwara S<sup>3</sup>, Yoshihara S<sup>18</sup>, Ishimaru F<sup>19</sup>, Yoshimitsu M<sup>20</sup>, Kanda Y<sup>3</sup>, Ohbiki M<sup>21,22,23</sup>, Atsuta Y<sup>21,22</sup>, Yanada M<sup>24</sup>

1:Department of Hematology/Oncology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan 2:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 3:Division of Hematology, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 4:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan 5:Division of Hematology, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Tokorozawa, Japan 6:Division of Stem Cell Regulation, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 7:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 8:Department of Hematology, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 9:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 10:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 11:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 12:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 13:Department of Hematology, University of Tsukuba Hospital, Tsukuba, Japan 14:Department of Hematology and Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 15:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 16:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 17:Department of Hematology and Oncology, Okayama University Hospital, Okayama, Japan 18:Department of Hematology, Hyogo Medical University Hospital, Nishinomiya, Japan 19:Technical Department, Japanese Red Cross Society Blood Service Headquarters, Tokyo, Japan 20:Department of Hematology and Rheumatology, Kagoshima University Hospital, Kagoshima, Japan 21:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 22:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 23:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan 24:Department of Hematology and Oncology, Nagoya City University East Medical Center, Nagoya, Japan

American Journal of Hematology 100(1):66–77 2025

### Comparing de novo chronic myeloid leukemia in blastic phase with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia after allogeneic hematopoietic cell transplantation

Okada Y<sup>1</sup>, Tachi N<sup>2</sup>, Shimazu Y<sup>3</sup>, Murata M<sup>4</sup>, Nishiwaki S<sup>5</sup>, Onishi Y<sup>6</sup>, Jinguji A<sup>7</sup>, Uchida N<sup>8</sup>, Tanaka M<sup>9</sup>, Hasegawa Y<sup>10</sup>, Ito A<sup>11</sup>, Kako S<sup>1</sup>, Nishida T<sup>12</sup>, Onodera K<sup>6</sup>, Sawa M<sup>13</sup>, Nakamae H<sup>14</sup>, Toyosaki M<sup>15</sup>, Kanda Y<sup>1,16</sup>, Onizuka M<sup>15</sup>, Fukuda T<sup>11</sup>, Ohbiki M<sup>17,18,19</sup>, Atsuta Y<sup>17,18</sup>, Arai Y<sup>20</sup>, Tachibana T<sup>9</sup>

1:Division of Hematology, Jichi Medical University Saitama Medical Center, Saitama, Japan 2:Division of Hematology, National Defense Medical College Hospital, Saitama, Japan 3:Department of Early Clinical Development, Kyoto University Hospital, Kyoto, Japan 4:Department of Hematology, Shiga University of Medical Science, Otsu, Japan 5:Department of Advanced Medicine, Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan 6:Department of Hematology, Tohoku University Hospital, Sendai, Japan 7:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 8:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 9:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 10:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 11:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 12:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 13:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital, Anjo, Japan 14:Department of Hematology, Osaka Metropolitan University Hospital, Osaka, Japan 15:Department of Hematology/Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 16:Division of Hematology, Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan 17:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 18:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 19:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan 20:Department of

Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan  
Cancer 131(1):e35627 2025

**HLA-matched related peripheral blood stem cell and bone marrow transplantation with RIC regimens yield comparable outcomes for adult AML**  
Mitsuyoshi T<sup>1</sup>, Arai Y<sup>1</sup>, Kondo T<sup>1</sup>, Kawata T<sup>1</sup>, Hirabayashi S<sup>2</sup>, Tanaka M<sup>3</sup>, Mori Y<sup>4</sup>, Doki N<sup>5</sup>, **Nishida T**<sup>6</sup>, Kotani T<sup>7</sup>, Ogata M<sup>8</sup>, Tabayashi T<sup>9</sup>, Eto T<sup>10</sup>, Sawa M<sup>11</sup>, Imada K<sup>12</sup>, Kanda J<sup>1</sup>, Ichinohe T<sup>13</sup>, Atsuta Y<sup>14,15</sup>, Yanada M<sup>16</sup>

1:Department of Hematology Kyoto University Kyoto Japan 2:Division of Precision Medicine Kyushu University Graduate School of Medical Science Fukuoka Japan 3:Department of Hematology Kanagawa Cancer Center Kanagawa Japan 4:Hematology Oncology & Cardiovascular medicine Kyushu University Hospital Fukuoka Japan 5:Hematology Division Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital Tokyo Japan 6:Department of Hematology Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital Aichi Japan 7:Department of Hematology Ishikawa Prefectural Central Hospital Ishikawa Japan 8:Department of Hematology Oita University Hospital Oita Japan 9:Department of Hematology Saitama Medical Center Saitama Medical University Saitama Japan 10:Department of Hematology Hamanomachi Hospital Fukuoka Japan 11:Department of Hematology and Oncology Anjo Kosei Hospital Aichi Japan 12:Department of Hematology Japanese Red Cross Osaka Hospital Osaka Japan 13:Department of Hematology and Oncology Research Institute for Radiation Biology and Medicine Hiroshima University Hiroshima Japan 14:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation Aichi Japan 15:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy Aichi Medical University School of Medicine Aichi Japan 16:Department of Hematology and Oncology Nagoya City University East Medical Center Aichi Japan  
eJHaem 6(1):e21088 2025

**Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in adult acute myeloid leukemia with t(16;21)(p11;q22)/FUS::ERG**  
Mitsuyuki S<sup>1</sup>, Shimomura Y<sup>2,3</sup>, Mizumaki H<sup>4</sup>, Yanada M<sup>5</sup>, Mizuno S<sup>6</sup>, Uchida N<sup>7</sup>, Doki N<sup>8</sup>, Ito A<sup>9</sup>, Tanaka M<sup>10</sup>, **Nishida T**<sup>11</sup>, Katayama Y<sup>12</sup>, Yoshihara S<sup>13</sup>, Eto T<sup>14</sup>, Takada S<sup>15</sup>, Ota S<sup>16</sup>, Toyosaki M<sup>17</sup>, Hasegawa Y<sup>18</sup>, Nakamae H<sup>19</sup>, Kawamura K<sup>20</sup>, Onizuka M<sup>17</sup>, Fukuda T<sup>9</sup>, Ohbiki M<sup>21,22,23</sup>, Atsuta Y<sup>21,22</sup>, Konuma T<sup>24</sup>

1:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan 2:Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan 3:Department of Environmental Medicine and Population Science, Graduate School of Medicine, Osaka University, Osaka, Japan 4:Department of Hematology, Kanazawa University, Kanazawa, Japan 5:Department of Hematology and Oncology, Nagoya City University East Medical Center, Nagoya, Japan 6:Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 7:Department of Hematology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations, Toranomon Hospital, Tokyo, Japan 8:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, Japan 9:Department of Hematopoietic Stem Cell Transplantation, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan 10:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan 11:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya, Japan 12:Department of Hematology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-Bomb Survivors Hospital, Hiroshima, Japan 13:Department of Hematology, Hyogo Medical University Hospital, Nishinomiya, Japan 14:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital, Fukuoka, Japan 15:Leukemia Research Center, Saiseikai Maebashi Hospital, Maebashi, Japan 16:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital, Sapporo, Japan 17:Department of Hematology and Oncology, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan 18:Department of Hematology, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan 19:Department of Hematology, Osaka Metropolitan University Hospital, Osaka, Japan 20:Division of Clinical Laboratory Medicine, Department of Multidisciplinary Internal Medicine, Tottori University, Tottori, Japan 21:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation, Nagakute, Japan 22:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine, Nagakute, Japan 23:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan 24:Department of Hematology/Oncology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan  
Leukemia 39(2):495-498 2025

## 脳神経内科

**Degeneration of olivospinal tract in the upper cervical spinal cord of multiple system atrophy patients: Reappraisal of Helweg's triangular tract**  
Ando T<sup>1,2</sup>, Riku Y<sup>2,3</sup>, Akagi A<sup>2</sup>, Miyahara H<sup>2</sup>, Uematsu T<sup>3</sup>, Aiba I<sup>4</sup>, Sone J<sup>2</sup>, Katsuno M<sup>3,5</sup>, Yoshida M<sup>2</sup>, Iwasaki Y<sup>2</sup>

1:Department of Neurology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Neuropathology, Institute for Medical Science of Aging, Aichi Medical University 3:Department of Neurology, Nagoya University Graduate School of Medicine 4:Department of Neurology, National Hospital Organization Higashinagoya National Hospital 5:Department of Clinical Research Education, Nagoya University Graduate School of medicine  
Brain Pathology 34(3):e13226 2024

【この1冊でもう安心!-内科医が押さえておきたい「しびれ・ふるえ・めまい」の診かた】しびれの診かた 患者の訴える「しびれ」とは何か? しびれの評価にはまず病歴聴取が重要

安藤孝志

Medicina 61(7):1016-1021 2024

**Hyperintense vessels sign を早期に認め治療経過中に脳出血を合併した可逆性脳血管攣縮症候群の60歳女性例**

高阪 勇輔<sup>1</sup>, 坪井崇<sup>1</sup>, 勝野雅央<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>2</sup>, 後藤洋二<sup>2</sup>

1:名古屋大学医学部神経内科 2:脳神経内科

神経治療学 41(6):S293 2024

**筋疾患と神経疾患の狭間の疾患 Valosin-containing protein(VCP)遺伝子変異による多系統蛋白質症**

安藤孝志<sup>1,2</sup>, 鈴木将史<sup>3</sup>, 勝野雅央<sup>4</sup>

1:脳神経内科 2:愛知医科大学加齢医科学研究所 3:名古屋大学医学部附属病院検査部 4:名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学

臨床神経生理学 52(5):464 2024

**Guillain-Barre Syndrome 様の経過で発症したパレコウイルス A3 型による流行性筋痛症の一例**

長谷川智哉<sup>1</sup>, 安藤孝志<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>1</sup>, 中村保尚<sup>2</sup>, 柴田伸一郎<sup>2</sup>, 後藤洋二<sup>1</sup>

1:脳神経内科 2:名古屋市衛生研究所

臨床神経学 64(7):502 2024

**痙攣を伴わず進行性の半球機能障害と片側性脳萎縮を呈し、成人発症ラスマッセン脳炎が疑われた 1 例**  
片岡真由美<sup>1</sup>, 高橋幸利<sup>2</sup>, 安藤孝志<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>1</sup>, 後藤洋二<sup>1</sup>

1:脳神経内科 2:静岡てんかん神経医療センター  
臨床神経学 64(7):503 2024

**髄膜炎の経過を呈した長期化学療法後 EB ウイルス関連リンパ増殖性疾患の 1 例**  
小谷慧<sup>1</sup>, 福野貴仁<sup>1</sup>, 坂堂美央子<sup>2</sup>, 土門洋祐<sup>3</sup>, 安藤孝志<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>1</sup>, 後藤洋二<sup>1</sup>

1:脳神経内科 2:産婦人科 3:血液内科  
臨床神経学 64(7):512 2024

**髄液抗 CCP 抗体が診断および病勢評価に寄与したリウマチ性髄膜炎の 1 例**  
二上和也<sup>1</sup>, 宮川慶<sup>2</sup>, 安藤孝志<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>1</sup>, 後藤洋二<sup>1</sup>

1:脳神経内科 2:総合診療科  
臨床神経学 64(7):512 2024

**クリプトコッカス髄膜炎治療経過中に大脳皮質白質病変が出現し、遅発性増悪が疑われた 1 例**  
高阪勇輔<sup>1</sup>, 井口洋平<sup>1</sup>, 勝野雅央<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>2</sup>, 後藤洋二<sup>2</sup>

1:名古屋大学医学部神経内科 2:脳神経内科  
臨床神経学 64(9):686 2024

**重度四肢麻痺を呈した片側の延髄および上位頸髄梗塞の一例**  
山本満里奈, 三澤尚史, 安藤孝志, 渡邊はづき, 後藤洋二

臨床神経学 64(9):687 2024

**中枢神経系に晩期再発した乳癌患者 3 例の臨床的検討**  
福野貴仁<sup>1</sup>, 安藤孝志<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>1</sup>, 後藤洋二<sup>1</sup>, 藤野雅彦<sup>2</sup>

1:脳神経内科 2:病理部  
臨床神経学 64(Suppl.):S297 2024

**治療抵抗性のてんかん重積発作で発症した橋本脳症の 1 例**  
片岡真由美<sup>1</sup>, 飯塚高浩<sup>2</sup>, 安藤孝志<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>1</sup>, 後藤洋二<sup>1</sup>

1:脳神経内科 2:北里大学脳神経内科学  
臨床神経学 65(1):79 2025

**免疫グロブリン大量静注療法後に遅発性片側顔面神経麻痺が出現した Guillain-Barré 症候群 (GBS) の 1 例**  
朝倉知海<sup>1</sup>, 片岡真由美<sup>1</sup>, 岩村祥平<sup>2</sup>, 安藤孝志<sup>1</sup>, 渡邊はづき<sup>1</sup>, 後藤洋二<sup>1</sup>

1:脳神経内科 2:耳鼻咽喉科  
臨床神経学 65(1):80 2025

**両側後大脳動脈領域梗塞により Dide-Botcazo 症候群を呈した 1 例**  
伊藤理樹, 渡邊はづき, 安藤孝志, 後藤洋二

臨床神経学 65(1):81 2025

**両側大脳皮質病変を伴った Wernicke 脳症の 1 例**  
橋本寛子, 片岡真由美, 朝倉知海, 安藤孝志, 渡邊はづき, 後藤洋二

臨床神経学 65(1):88 2025

## 循環器内科

**Transcatheter mitral valve repair for a patient with double inferior vena cava: case report**

Kato R<sup>1</sup>, Hosoba S<sup>1</sup>, Kuroda M<sup>2</sup>, Yasuda K<sup>2</sup>

1:Department of Cardiovascular Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Cardiology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
European Heart Journal Case Reports 8(5):ytae221 2024

**Redox state of human serum albumin as a post-discharge prognostic marker in patients hospitalized for heart failure**

Nishikawa T<sup>1,2</sup>, Ueyama J<sup>1</sup>, Shimizu S<sup>3</sup>, Shibata Y<sup>4</sup>, Yamada S<sup>5</sup>

1:Department of Biomolecular Sciences, Field of Omics Health Sciences, Nagoya University Graduate School 2:Department of Rehabilitation, Japan Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 3:Department of Cardiology, Kariya Toyota General Hospital 4:Department of Cardiology, Japan Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 5:Department of Cardiology, Aichi Medical University  
International Journal of Cardiology 416:132497 2024

## 呼吸器内科

### A Case of Recurrent Verruconis Gallopava Infection at 1 Year after Excision of a Solitary Pulmonary Lesion

Kodama Y, Matsuura A, Shirahige A, Hiroshima M, Tsushima Y, Tanaka M, Inagaki M, Ito R, Yokoyama T

Internal Medicine 63(10):1499–1503 2024

### 当院における胸腺癌 34 症例の臨床的検討

小玉勇太, 白髭彩, 松浦彰彦, 廣島正雄, 都島悠佑, 山田悠貴, 田中麻里, 稲垣雅康, 竹山佳宏, 横山俊彦

肺癌 64(4):283–289 2024

### Recurrent Idiopathic Tracheal Stenosis Treated with Sequential Endoscopic Tracheoplasty for Two Different Modalities: A Case Report

Nakase A<sup>1</sup>, Oki M<sup>2</sup>, Matsuura A<sup>1</sup>, Shirahige A<sup>1</sup>, Tsushima Y<sup>1</sup>, Goto N<sup>1</sup>, Tanaka M<sup>1</sup>, Inagaki M<sup>1</sup>, Kodama Y<sup>1</sup>, Ito R<sup>1</sup>, Yokoyama T<sup>1</sup>

1:Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Respiratory Medicine, NHO Nagoya Medical Center  
Respiratory Endoscopy 23(3):167–172 2024

## 消化器内科

### Initial clinical experience with durvalumab plus tremelimumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma in real-world practice

Shimose S<sup>1</sup>, Saeki I<sup>2</sup>, Tomonari T<sup>3</sup>, Ito T<sup>4</sup>, Tani J<sup>5</sup>, Takeuchi Y<sup>6</sup>, Yoshioka N<sup>7</sup>, Naito T<sup>8</sup>, Takeuchi M<sup>9</sup>, Kakizaki S<sup>10</sup>, Hatanaka T<sup>11</sup>, Sasaki K<sup>12</sup>, Yasunaka T<sup>13</sup>, Sakata M<sup>14</sup>, Iwamoto H<sup>1,15</sup>, Itano S<sup>16</sup>, Shirono T<sup>1</sup>, Tanabe N<sup>17</sup>, Yamamoto T<sup>4</sup>, Naganuma A<sup>18</sup>, Nishina S<sup>12</sup>, Otsuka M<sup>19</sup>, Kawashima H<sup>4</sup>, Takayama T<sup>3</sup>, Takami T<sup>2</sup>, Kawaguchi T<sup>1</sup>

1:Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Kurume University School of Medicine 2:Department of Gastroenterology and Hepatology, Yamaguchi University Graduate School of Medicine 3:Department of Gastroenterology and Oncology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School of Medicine 4:Department of Gastroenterology and Hepatology, Nagoya University Graduate School of Medicine 5:Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University, Faculty of Medicine, 6:Department of Regenerative Medicine, Center for Innovative Clinical Medicine, Okayama University Hospital 7:Department of Gastroenterology and Hepatology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 8:Department of Gastroenterology, Toyohashi Municipal Hospital 9:Department of Gastroenterology, Anjo Kosei Hospital 10:Department of Clinical Research, National Hospital Organization Takasaki General Medical Center 11:Department of Gastroenterology, Gunma Saiseikai Maebashi Hospital 12:Department of Gastroenterology, Kawasaki Medical School 13:Department of Gastroenterology, Fukuyama City Hospital 14:Department of Gastroenterology, Fukuyama Medical Center 15:Department of Gastroenterology and Hepatology, Iwamoto Internal Medical Clinic 16:Department of Gastroenterology and Hepatology, Kurume Central Hospital 17:Division of Laboratory, Yamaguchi University Hospital 18:Department of Gastroenterology, National Hospital Organization Takasaki General Medical Center 19:Department of Gastroenterology and Hepatology, Okayama University Hospital  
Oncology Letters 28(2):397 2024

### Alpha-fetoprotein and des-gamma-carboxy prothrombin can predict the objective response of patients with hepatocellular carcinoma receiving durvalumab plus tremelimumab therapy

Saeki I<sup>1</sup>, Shimose S<sup>2</sup>, Tomonari T<sup>3</sup>, Ito T<sup>4</sup>, Tani J<sup>5</sup>, Takeuchi Y<sup>6</sup>, Yoshioka N<sup>7</sup>, Naito T<sup>8</sup>, Takeuchi M<sup>9</sup>, Kakizaki S<sup>10</sup>, Hatanaka T<sup>11</sup>, Sasaki K<sup>12</sup>, Yasunaka T<sup>13</sup>, Sakata M<sup>14</sup>, Iwamoto H<sup>2,15</sup>, Itano S<sup>16</sup>, Shirono T<sup>2</sup>, Tanabe N<sup>1,17</sup>, Yamamoto T<sup>4</sup>, Kanayama Y<sup>11</sup>, Naganuma A<sup>18</sup>, Nishina S<sup>12</sup>, Otsuka M<sup>19</sup>, Kobara H<sup>5</sup>, Kawashima H<sup>4</sup>, Takayama T<sup>3</sup>, Kawaguchi T<sup>2</sup>, Yamasaki T<sup>20</sup>, Takami T<sup>1</sup>

1:Department of Gastroenterology and Hepatology, Yamaguchi University Graduate School of Medicine 2:Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Kurume University School of Medicine 3:Department of Gastroenterology and Oncology, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School of Medicine 4:Department of Gastroenterology and Hepatology, Nagoya University Graduate School of Medicine 5:Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University, Faculty of Medicine 6:Department of Regenerative Medicine, Center for Innovative Clinical Medicine, Okayama University Hospital 7:Department of Gastroenterology and Hepatology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 8:Department of Gastroenterology, Toyohashi Municipal Hospital 9:Department of Gastroenterology, Anjo Kosei Hospital 10:Department of Clinical Research, NHO Takasaki General Medical Center 11:Department of Gastroenterology, Gunma Saiseikai Maebashi Hospital 12:Department of Gastroenterology and Hepatology, Kawasaki Medical School 13:Department of Gastroenterology, Fukuyama City Hospital 14:Department of Gastroenterology, NHO Fukuyama Medical Center 15:Iwamoto Internal Medical Clinic 16:Department of Gastroenterology and Hepatology 17:Division of Laboratory, Yamaguchi University Hospital 18:Department of Gastroenterology, NHO Takasaki General Medical Center 19:Department of Gastroenterology and Hepatology, Okayama University Hospital 20:Department of Oncology and Laboratory Medicine, Yamaguchi University Graduate School of Medicine  
PLOS One 19(9):e0311084 2024

### Change in Liver Function in Durvalumab Plus Tremelimumab Treatment for Unresectable Hepatocellular Carcinoma

Tamaki N<sup>1</sup>, Mori N<sup>2</sup>, Takaki S<sup>2</sup>, Tsuji K<sup>2</sup>, Tada T<sup>3</sup>, Nakamura S<sup>3</sup>, Ochi H<sup>4</sup>, Mashiba T<sup>4</sup>, Doisaki M<sup>5</sup>, Marusawa H<sup>6</sup>, Kobashi H<sup>7</sup>, Fujii H<sup>8</sup>, Ogawa C<sup>9</sup>, Nonogi M<sup>10</sup>, Arai H<sup>11</sup>, Uchida Y<sup>12</sup>, Urawa N<sup>13</sup>, Narita R<sup>14</sup>, Akahane T<sup>15</sup>, Kondo M<sup>16</sup>, Yasui Y<sup>1</sup>, Tsuchiya K<sup>1</sup>, Izumi N<sup>1</sup>, Kurosaki M<sup>17</sup>

1:Department of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital 2:Department of Gastroenterology Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital 3:Department of Internal Medicine, Japanese Red Cross Society Himeji Hospital 4:Center for Liver-Biliary-Pancreatic Disease, Matsuyama Red Cross Hospital 5:Department of Gastroenterology and Hepatology, Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hospital 6:Department of Gastroenterology and Hepatology, Osaka Red Cross Hospital 7:Department of Gastroenterology, Japanese Red Cross Okayama Hospital 8:Department of Gastroenterology, Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital 9:Department of Gastroenterology and Hepatology, Takamatsu Red Cross Hospital 10:Department of Gastroenterology, Tokushima Red Cross Hospital 11:Department of Gastroenterology, Maebashi Red Cross Hospital 12:Department of Gastroenterology, Matsue Red Cross Hospital 13:Department of Gastroenterology and Hepatology, Ise Red Cross Hospital 14:Department of Gastroenterology, Oita Red Cross Hospital 15:Department of Gastroenterology, Ishinomaki Red Cross Hospital 16:Department of Gastroenterology, Otsu Red Cross Hospital 17:Department of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital  
Anticancer Research 44(9):3913–3918 2024

## Treatment response to durvalumab plus tremelimumab after progression with previous immune checkpoint inhibitor in unresectable hepatocellular carcinoma

Mori N<sup>1</sup>, Tamaki N<sup>2</sup>, Takaki S<sup>1</sup>, Tsuji K<sup>1</sup>, Tada T<sup>3</sup>, Nakamura S<sup>3</sup>, Ochi H<sup>4</sup>, Mashiba T<sup>4</sup>, **Doisaki M<sup>5</sup>**, Marusawa H<sup>6</sup>, Kobashi H<sup>7</sup>, Fujii H<sup>8</sup>, Ogawa C<sup>9</sup>, Nonogi M<sup>10</sup>, Arai H<sup>11</sup>, Uchida Y<sup>12</sup>, Urawa N<sup>13</sup>, Narita R<sup>14</sup>, Akahane T<sup>15</sup>, Kondo M<sup>16</sup>, Yasui Y<sup>2</sup>, Tsuchiya K<sup>2</sup>, Izumi N<sup>2</sup>, Kurosaki M<sup>17</sup>

1:Department of Gastroenterology, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-Bomb Survivors Hospital 2:Department of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital 3:Department of Internal Medicine, Japanese Red Cross Society Himeji Hospital 4:Center for Liver-Biliary-Pancreatic Disease, Matsuyama Red Cross Hospital 5:Department of Gastroenterology and Hepatology, Japanese Red Cross Nagoya Daiichi Hospital 6:Department of Gastroenterology and Hepatology, Osaka Red Cross Hospital 7:Department of Gastroenterology, Japanese Red Cross Okayama Hospital 8:Department of Gastroenterology, Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital 9:Department of Gastroenterology and Hepatology, Takamatsu Red Cross Hospital 10:Department of Gastroenterology, Tokushima Red Cross Hospital 11:Department of Gastroenterology, Maebashi Red Cross Hospital 12:Department of Gastroenterology, Matsue Red Cross Hospital 13:Department of Gastroenterology and Hepatology, Ise Red Cross Hospital 14:Department of Gastroenterology, Oita Red Cross Hospital 15:Department of Gastroenterology, Ishinomaki Red Cross Hospital 16:Department of Gastroenterology, Otsu Red Cross Hospital 17:Department of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital  
Investigational New Drugs 42(5):559-565 2024

## Late-onset disseminated BCG infection with hepatosplenomegaly after intravesical BCG immunotherapy in a non-immunocompromised patient

Hotta Y<sup>1</sup>, Yoshioka N<sup>1</sup>, Sakamoto A<sup>1</sup>, Inagaki M<sup>2</sup>, Ito R<sup>2</sup>, Shiraki K<sup>3</sup>, Kiriyaama A<sup>3</sup>, Yokoyama T<sup>2</sup>, Fujino M<sup>3</sup>, **Doisaki M<sup>1</sup>**

1:Department of Gastroenterology and Hepatology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 3:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Clinical Journal of Gastroenterology 18(2):337-342 2025

## 精神科

### 臨床心理士に対して知能検査を訓練できる児童型ロボットの実現可能性

石川育恵<sup>1</sup>, ジメネス フェリックス<sup>2</sup>, 三谷真優<sup>3</sup>, 中島卓裕<sup>4</sup>, 吉田翔子<sup>5</sup>

1:愛知県立大学大学院情報科学研究科 2:愛知県立大学情報科学部 3:名古屋大学心の発達支援研究実践センター 4:名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 5:精神科  
知能と情報 36(4):687-694 2024

## 小児科

### Hydrogen gas can ameliorate seizure burden during therapeutic hypothermia in asphyxiated newborn piglets

Tsuchiya T<sup>1</sup>, Nakamura S<sup>2</sup>, **Sugiyama Y<sup>3</sup>**, Nakao Y<sup>1</sup>, Mitsue T<sup>4</sup>, Inoue K<sup>1</sup>, Inoue E<sup>1</sup>, Htun Y<sup>1</sup>, Arioka M<sup>5</sup>, Ohta K<sup>6</sup>, Morita H<sup>5</sup>, Fuke N<sup>1</sup>, Kondo S<sup>1</sup>, Koyano K<sup>5</sup>, Miki T<sup>6</sup>, Ueno M<sup>7</sup>, Kusaka T<sup>1</sup>

1:Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University 2:Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University 3:Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 4:Medical Engineering Equipment Management Center, Kagawa University Hospital, Kagawa University 5:Maternal Perinatal Center, Faculty of Medicine, Kagawa University 6:Department of Anatomy and Neurobiology, Faculty of Medicine, Kagawa University 7:Department of Pathology and Host Defense, Faculty of Medicine, Kagawa University  
Pediatric Research 95(6):1536-1542 2024

### Body composition and motor function in children born large for gestational age at term

Ito Y<sup>1,2</sup>, Ito T<sup>3</sup>, Narahara S<sup>4</sup>, Sugiura H<sup>5</sup>, **Sugiyama Y<sup>6</sup>**, Hattori T<sup>7</sup>, Kidokoro H<sup>8</sup>, Tsuji T<sup>4</sup>, Kubota T<sup>7</sup>, Natsume J<sup>8,9</sup>, Noritake K<sup>10</sup>, Ochi N<sup>4</sup>

1:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Pediatrics, Aichi Prefecture Mikawa Aitori Medical and Rehabilitation Center for Developmental Disabilities 3:Three-Dimensional Motion Analysis Laboratory, Aichi Prefecture Mikawa Aitori Medical and Rehabilitation Center for Developmental Disabilities 4:Department of Pediatrics, Aichi Prefecture Mikawa Aitori Medical and Rehabilitation Center for Developmental Disabilities 5:Department of Physical Therapy, Nagoya University Graduate School of Medicine 6:Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Nagoya 7:Department of Neonatology, Anjo Kosei Hospital 8:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 9:Department of Developmental Disability Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine 10:Department of Orthopedic Surgery, Aichi Prefecture Mikawa Aitori Medical and Rehabilitation Center for Developmental Disabilities  
Pediatric Research 96(4):1030-1036 2024

## Total Hydrocortisone Dosage in the Neonatal Period May Be Related to Low Developmental Quotient in Extremely Low Birth Weight Infants: A Retrospective Cohort Study

Taniguchi A<sup>1,2</sup>, Nishida K<sup>3</sup>, Suzuki T<sup>1</sup>, Kataoka E<sup>4</sup>, Fujishiro N<sup>5</sup>, Kato E<sup>6</sup>, Yamamoto H<sup>7</sup>, Takemoto K<sup>8</sup>, Ito M<sup>9</sup>, Hayashi S<sup>10</sup>, **Sugiyama Y<sup>11</sup>**, Maeda T<sup>1,2</sup>, Takahashi Y<sup>2</sup>, Sato Y<sup>1</sup>

1:Division of Neonatology, Center for Maternal-Neonatal Care, Nagoya University Hospital 2:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 3:Biostatistics Section, Department of Advanced Medicine, Nagoya University Hospital 4:Department of Pediatrics, Anjo Kosei Hospital 5:Department of Pediatrics, Nagoya Memorial Hospital 6:Department of Pediatrics, Tosei General Hospital 7:Department of Neonatology, Toyota Memorial Hospital 8:Department of Pediatrics, Konan Kosei Hospital 9:Department of Neonatology, Ogaki Municipal Hospital 10:Department of Pediatrics, Okazaki City Hospital 11:Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Neonatology 121(2):195-202 2024

### High threshold of total developmental quotient at 3 years for follow-up in extremely preterm infants

Maeda T<sup>1</sup>, Tanahashi Y<sup>2</sup>, **Asada H<sup>3</sup>**, Kidokoro H<sup>4</sup>, Takahashi Y<sup>4</sup>, Sato Y<sup>5</sup>

1:Division of Neonatology, Center for Maternal-Neonatal Care, Nagoya University Hospital 2:Department of Pediatrics, Anjo Kosei Hospital 3:Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 4:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 5:Division of Neonatology, Center for Maternal-

Neonatal Care, Nagoya University Hospital  
Early Human Development 196:106098 2024

#### 血清型 IV 型 B 群レンサ球菌による菌血症の母児例

上田真菜<sup>1</sup>, 濱崎咲也子<sup>1</sup>, 大城誠<sup>1</sup>, 中山淳<sup>1</sup>, 手塚敦子<sup>1</sup>, 伊藤由美子<sup>1</sup>, 津田弘之<sup>1</sup>, 脇本寛子<sup>2</sup>

1:小児科 2:名古屋大学大学院看護学研究科  
日本周産期・新生児医学会雑誌 60(2):283-286 2024

#### Single-Cell Transcriptomic Analysis of Epstein-Barr Virus-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis

Suzuki T<sup>1</sup>, Sato Y<sup>2</sup>, Okuno Y<sup>3</sup>, Torii Y<sup>1</sup>, Fukuda Y<sup>1</sup>, Haruta K<sup>1</sup>, Yamaguchi M<sup>1</sup>, Kawamura Y<sup>4</sup>, **Hama A**<sup>5</sup>, Narita A<sup>1</sup>, Muramatsu H<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>4</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, Kimura H<sup>2</sup>, Ito Y<sup>6</sup>, Kawada J<sup>1</sup>

1:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Virology, Nagoya University Graduate School of Medicine 3:Department of Virology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences 4:Department of Pediatrics, Fujita Health University School of Medicine 5:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 6:Departments of Pediatrics, Aichi Medical University  
Journal of Clinical Immunology 44(4):103 2024

#### Landscape of driver mutations and their clinical effects on Down syndrome-related myeloid neoplasms

Sato T<sup>1</sup>, Yoshida K<sup>2,3</sup>, Toki T<sup>1</sup>, Kanezaki R<sup>1</sup>, Terui K<sup>1</sup>, Saiki R<sup>2</sup>, Ojima M<sup>4</sup>, Ochi Y<sup>2</sup>, Mizuno S<sup>5</sup>, Yoshihara M<sup>5,6</sup>, Uechi T<sup>7</sup>, Kenmochi N<sup>7</sup>, Tanaka S<sup>8</sup>, Matsubayashi J<sup>9</sup>, Kisai K<sup>8</sup>, Kudo K<sup>1</sup>, Yuzawa K<sup>1</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Yamamoto Y<sup>1</sup>, Kobayashi A<sup>1</sup>, Kamio T<sup>1</sup>, Sasaki S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>10</sup>, Chiba K<sup>10</sup>, Tanaka H<sup>11</sup>, Muramatsu H<sup>12</sup>, **Hama A**<sup>13</sup>, Hasegawa D<sup>14</sup>, Sato A<sup>15</sup>, Koh K<sup>16</sup>, Karakawa S<sup>17</sup>, Kobayashi M<sup>17</sup>, Hara J<sup>18</sup>, Taneyama Y<sup>19</sup>, Imai C<sup>20</sup>, Hasegawa D<sup>21</sup>, Fujita N<sup>22</sup>, Yoshitomi M<sup>23</sup>, Iwamoto S<sup>24</sup>, Yamato G<sup>25</sup>, Saida S<sup>26</sup>, Kiyokawa N<sup>27</sup>, Deguchi T<sup>24,28</sup>, Ito M<sup>29</sup>, Matsuo H<sup>30</sup>, Adachi S<sup>30</sup>, Hayashi Y<sup>31,32</sup>, Taga T<sup>33</sup>, Saito AM<sup>34</sup>, Horibe K<sup>34</sup>, Watanabe K<sup>35</sup>, Tomizawa D<sup>36</sup>, Miyano S<sup>11</sup>, Takahashi S<sup>4</sup>, Ogawa S<sup>2,37,38</sup>, Ito E<sup>1,39</sup>

1:Department of Pediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine 2:Department of Pathology and Tumor Biology, Graduate School of Medicine 3:Division of Cancer Evolution, National Cancer Center Research Institute 4:Department of Anatomy and Embryology, Faculty of Medicine 5:Laboratory Animal Resource Center and Trans-border Medical Research Center 6:School of Integrative and Global Majors, University of Tsukuba 7:Department of Anatomy, Faculty of Medicine, University of Miyazaki 8:Department of Clinical Biostatistics, Graduate School of Medicine, Kyoto University 9:Center for Clinical Research and Advanced Medicine, Shiga University of Medical Science 10:Division of Genome Analysis Platform Development, National Cancer Center Research Institute 11:M and D Data Science Center, Tokyo Medical and Dental University 12:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 13:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 14:Department of Pediatrics, St. Luke's International Hospital 15:Department of Hematology and Oncology, Miyagi Children's Hospital 16:Department of Hematology/Oncology, Saitama Children's Medical Center 17:Department of Pediatrics, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences 18:Department of Hematology and Oncology, Osaka City General Hospital 19:Department of Hematology/Oncology, Chiba Children's Hospital 20:Department of Pediatrics, Niigata University Graduate School Medical and Dental Sciences 21:Department of Hematology and Oncology, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital 22:Department of Pediatrics, Hiroshima Red Cross Hospital and Atomic-bomb Survivors Hospital 23:Department of Pediatrics, Yokohama City University Graduate School of Medicine 24:Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine 25:Department of pediatrics, Gunma University Graduate School of Medicine, Maebashi City 26:Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Kyoto University 27:Department of Pediatric Hematology and Oncology Research, National Research Institute for Child Health and Development 28:Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 29:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 30:Department of Human Health Sciences, Kyoto University 31:Department of Hematology and Oncology, Gunma Children's Medical Center 32:Institute of Physiology and Medicine, Jobu University 33:Department of Pediatrics, Shiga University of Medical Science 34:Clinical Research Center, National Hospital Organization Nagoya Medical Center 35:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 36:Division of Leukemia and Lymphoma, Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 37:Department of Medicine, Center for Hematology and Regenerative Medicine, Karolinska Institute, Stockholm, Sweden 38:Institute for the Advanced Study of Human Biology, Kyoto University 39:Department of Community Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine  
Blood 143(25):2627-2643 2024

#### Integrated proteogenomic analysis for inherited bone marrow failure syndrome

Wakamatsu M<sup>1</sup>, Muramatsu H<sup>1</sup>, Sato H<sup>2,3</sup>, Ishikawa M<sup>2</sup>, Konno R<sup>2</sup>, Nakajima D<sup>2</sup>, Hamada M<sup>1,4</sup>, Okuno Y<sup>4</sup>, Kawashima Y<sup>2</sup>, **Hama A**<sup>5</sup>, Ito M<sup>6</sup>, Iwafuchi H<sup>7</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, Ohara O<sup>2</sup>

1:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Applied Genomics, Kazusa DNA Research Institute 3:Department of Pediatrics, Chiba University Graduate School of Medicine 4:Department of Virology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences 5:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 6:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 7:Department of Pathology, Shizuoka Children's Hospital  
Leukemia 38(6):1256-1265 2024

#### Highly sensitive detection of Epstein-Barr virus-infected cells by EBER flow FISH

Tomomasa D<sup>1</sup>, Tanita K<sup>1,2</sup>, Hiruma Y<sup>3</sup>, Hoshino A<sup>2,4</sup>, Kudo K<sup>5</sup>, Azumi S<sup>6</sup>, Shiota M<sup>7</sup>, Yamaoka M<sup>8</sup>, Eguchi K<sup>9</sup>, Ishimura M<sup>9</sup>, Tanaka Y<sup>10</sup>, Iwatsuki K<sup>11</sup>, Okuno K<sup>12</sup>, **Hama A**<sup>13</sup>, Sakamoto KI<sup>14</sup>, Taga T<sup>14</sup>, Goto K<sup>15,16</sup>, Ota H<sup>17</sup>, Ichiki A<sup>17</sup>, Kanda K<sup>18</sup>, Miyamura T<sup>19</sup>, Endo S<sup>20</sup>, Ohnishi H<sup>20</sup>, Sasahara Y<sup>21</sup>, Arai A<sup>22</sup>, Fornier B<sup>2,23</sup>, Imadome K<sup>24</sup>, Morio T<sup>1</sup>, Latour S<sup>2</sup>, Kanegane H<sup>4</sup>

1:Department of Pediatrics and Developmental Biology, Tokyo Medical and Dental University (TMDU) 2:Laboratory of Lymphocyte Activation and Susceptibility to EBV Infection, UMR 1163, INSERM, Imagine Institute, Paris, France 3:Faculty of Medicine, Tokyo Medical and Dental University (TMDU) 4:Department of Child Health and Development, Tokyo Medical and Dental University (TMDU) 5:Department of Pediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine 6:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 7:Department of Pediatrics, Medical Research Institute KITANO HOSPITAL, PIIF Tazuke-Kofukai 8:Department of Pediatrics, The Jikei University School of Medicine 9:Department of Pediatrics, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University 10:Department of Hematology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University 11:Department of Dermatology, Okayama University Graduate School of Medicine 12:Division of Pediatrics and Perinatology, Faculty of Medicine, Tottori University 13:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 14:Department of Pediatrics, Shiga University of Medical Science 15:Department of Hematology/Oncology, Osaka Women's and Children's Hospital, 16:Department of Virology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, 17:Department of Pediatrics, Yamaguchi University Graduate School of Medicine 18:Department of Pediatrics, Gifu Municipal Hospital 19:Department of Pediatrics, Osaka University Graduate School of Medicine 20:Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Gifu University 21:Department of Pediatrics, Tohoku University Graduate School of Medicine 22:Department of Hematology and Oncology, St. Marianna University School of Medicine 23:Paediatric Haematology-Immunology and Rheumatology Unit, Necker Hospital, AP-HP.Centre - Université Paris Cité,

Paris, France 24:Department for Advanced Medicine for Viral Infections, National Center for Child Health and Development  
International Journal of Hematology 120(2):241–251 2024

**Optimizing transplantation procedures through identification of prognostic factors in second remission for children with acute myeloid leukemia with no prior history of transplant**

Ishida H<sup>1</sup>, Tsujimoto S<sup>2</sup>, Hasegawa D<sup>3</sup>, Sakaguchi H<sup>4</sup>, Yamamoto S<sup>5</sup>, Yanagimachi M<sup>6</sup>, Koh K<sup>7</sup>, Watanabe A<sup>8</sup>, **Hama A<sup>9</sup>**, Cho Y<sup>10</sup>, Watanabe K<sup>11</sup>, Noguchi M<sup>12</sup>, Takeuchi M<sup>2</sup>, Takita J<sup>13</sup>, Washio K<sup>1</sup>, Kato K<sup>14</sup>, Koike T<sup>5</sup>, Hashii Y<sup>15</sup>, Tabuchi K<sup>16</sup>, Hino M<sup>17</sup>, Atsuta Y<sup>18,19</sup>, Okamoto Y<sup>20</sup>

1:Department of Pediatrics, Okayama University Hospital 2:Department of Pediatrics, Yokohama City University Graduate School of Medicine 3:Department of Pediatrics, St. Luke's International Hospital, 4:Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development

5:Department of Pediatrics, Tokai University 6:Division of Hematology/Oncology, Kanagawa Children's Medical Center 7:Department of Hematology and Oncology, Saitama Children's Medical Center 8:Department of Pediatrics, Niigata Cancer Center Hospital 9:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 10:Department of Pediatrics, Hokkaido University Hospital 11:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 12:Department of Pediatrics, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center, 13:Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Kyoto University 14:Division of Pediatric Hematology and Oncology, Ibaraki Children's Hospital 15:Department of Pediatrics, Osaka International Cancer Institute 16:Department of Pediatrics, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Disease Center, Komagome Hospital 17:Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Chiba University 18:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation 19:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine 20:Department of Pediatrics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University

Haematologica 109(1):312–317 2024

**High-dose cytarabine induction therapy and flow cytometric measurable residual disease monitoring for children with acute myeloid leukemia**

Tomizawa D<sup>1</sup>, Matsubayashi J<sup>2</sup>, Iwamoto S<sup>3</sup>, Hiramatsu H<sup>4</sup>, Hasegawa D<sup>5</sup>, Moritake H<sup>6</sup>, Hasegawa D<sup>7</sup>, Terui K<sup>8</sup>, **Hama A<sup>9</sup>**, Tsujimoto S<sup>10</sup>, Kiyokawa N<sup>11</sup>, Miyachi H<sup>12</sup>, Deguchi T<sup>3,13</sup>, Hashii Y<sup>14,15</sup>, Iijima-Yamashita Y<sup>16</sup>, Taki T<sup>17</sup>, Noguchi Y<sup>18</sup>, Koike K<sup>19</sup>, Koh K<sup>20</sup>, Yuza Y<sup>21</sup>, Moriya Saito A<sup>16</sup>, Horibe K<sup>16</sup>, Taga T<sup>22</sup>, Tanaka S<sup>23</sup>, Adachi S<sup>24</sup>

1:Division of Leukemia and Lymphoma, Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 2:Center for Clinical Research and Advanced Medicine, Shiga University of Medical Science 3:Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine 4:Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine Kyoto University 5:Department of Pediatrics, St. Luke's International Hospital 6:Division of Pediatrics, Faculty of Medicine, University of Miyazaki 7:Department of Hematology and Oncology, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital 8:Department of Pediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine 9:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 10:Department of Pediatrics, Yokohama City University Graduate School of Medicine 11:Department of Pediatric Hematology and Oncology Research, National Research Institute for Child Health and Development 12:Department of Laboratory Medicine, Tokai University School of Medicine, Isehara 13:Division of Cancer Immunodiagnostics, Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 14:Department of Pediatrics, Osaka University Graduate School of Medicine 15:Department of Pediatrics, Osaka International Cancer Institute 16:Clinical Research Center, NHO Nagoya Medical Center 17:Department of Medical Technology, Kyorin University Faculty of Health Sciences 18:Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Narita Hospital 19:Department of Pediatric Hematology/Oncology, Ibaraki Children's Hospital 20:Department of Hematology/Oncology, Saitama Children's Medical Center 21:Department of Hematology and Oncology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center 22:Department of Pediatrics, Shiga University of Medical Science 23:Department of Clinical Biostatistics, Graduate School of Medicine, Kyoto University 24:Human Health Science, Kyoto University

Leukemia 38(1):202–206 2024

**小児臨床検査 2024、骨髓検査  
演麻人**

小児内科 56:79–82 2024

**Cord Blood Transplantation for Nonmalignant Diseases**

Kanegane H<sup>1</sup>, Miyamoto S<sup>2</sup>, Nishimura A<sup>2</sup>, **Yoshida N<sup>3</sup>**

1:Department of Child Health and Development, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University (TMDU) 2:Department of Pediatrics and Developmental Biology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University (TMDU) 3:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital

Comprehensive Hematology and Stem Cell Research Online ahead of print 2024

**A Retrospective Study of Pediatric Patients With Low- or Intermediate-Risk Acute Myeloid Leukemia Who Underwent Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for the AML-05 Study Conducted by the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group**

Hashii Y<sup>1</sup>, Kawaguchi K<sup>2</sup>, Kurakami H<sup>3</sup>, Umeda K<sup>4</sup>, Hasegawa D<sup>5</sup>, Taki T<sup>6</sup>, Hyakuna N<sup>7</sup>, Ishida H<sup>8</sup>, Takahashi Y<sup>9</sup>, Nagasawa M<sup>10</sup>, Yabe H<sup>11</sup>, Yano M<sup>12</sup>, Nakazawa Y<sup>13</sup>, Fujisaki H<sup>14</sup>, Matsumoto K<sup>15</sup>, Yanagimachi M<sup>16</sup>, **Yoshida N<sup>17</sup>**, Kakuda H<sup>18</sup>, Satou A<sup>19</sup>, Tabuchi K<sup>20</sup>, Tomizawa D<sup>15</sup>, Taga T<sup>21</sup>, Adachi S<sup>22</sup>, Koh K<sup>23</sup>, Kato K<sup>24</sup>

1:Department of Pediatrics, Osaka International Cancer Institute; Department of Cancer Immunotherapy, Osaka University Graduate School of Medicine 2:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 3:Department of Medical Innovation, Osaka University Hospital 4:Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Kyoto University 5:Department of Hematology and Oncology, Children's Cancer Center, Kobe Children's Hospital 6:Department of Medical Technology, Kyorin University Faculty of Health Sciences 7:Department of Pediatrics, University of the Ryukyus Hospital 8:Department of Pediatrics, Kyoto City Hospital 9:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 10:Department of Pediatrics, Musashino Red Cross Hospital 11:Department of Cell Transplantation and Regenerative Medicine, Tokai University School of Medicine 12:Department of Pediatrics, Akita University Hospital 13:Department of Pediatrics, Shinshu University School of Medicine 14:Department of Pediatric Hematology and Oncology, Osaka City General Hospital 15:Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 16:Division of Hematology/Oncology, Kanagawa Children's Medical Center 17:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 18:Department of Hematology/Oncology, Chiba Children's Hospital 19:Department of Hematology and Oncology, Miyagi Children's Hospital 20:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation 21:Department of Pediatrics, Shiga University of Medical Science 22:Department of Human Health Sciences, Graduate School of Medicine, Kyoto University 23:Department of Hematology and Oncology, Saitama Children's Medical Center 24:Central Japan Cord Blood Bank

Transplantation and Cellular Therapy 30(11):1102.e1–1102.e12 2024



**Pediatric Acute Myeloid Leukemia Working Group of Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. Salvage hematopoietic cell transplantation for children with acute myeloid leukemia relapsed after first transplantation: a Japanese national registry study.**

Sakaguchi H<sup>1</sup>, Taga T<sup>2</sup>, Ishida H<sup>3</sup>, **Hama A<sup>4</sup>**, Okamoto Y<sup>5</sup>, Sano H<sup>6</sup>, Sato M<sup>7</sup>, Koga Y<sup>8</sup>, Koh K<sup>9</sup>, Iwasaki F<sup>10</sup>, **Yoshida N<sup>1</sup>**, Cho Y<sup>11</sup>, Okada K<sup>12</sup>, Watanabe K<sup>13</sup>, Watanabe A<sup>14</sup>, Hasegawa D<sup>15</sup>, Noguchi M<sup>16</sup>, Hashii Y<sup>17</sup>, Matsumoto K<sup>1</sup>, Tabuchi K<sup>18</sup>

1:Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 2:Department of Pediatrics, Shiga University of Medical Science 3:Department of Pediatrics, Okayama University Hospital 4:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 5:Department of Pediatrics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences 6:Department of Pediatric Oncology, Fukushima Medical University Hospital 7:Department of Hematology/Oncology, Osaka Women's and Children's Hospital 8:Department of Pediatrics, Kyushu University Hospital 9:Department of Hematology/Oncology, Saitama Children's Medical Center 10:Division of Hematology/Oncology, Kanagawa Children's Medical Center 11:Department of Pediatrics, Hokkaido University Hospital 12:Department of Pediatric Hematology/Oncology, Osaka City General Hospital 13:Department of Pediatrics, The University of Tokyo Hospital 14:Department of Pediatric and Adolescent Hematology/Oncology, Niigata Cancer Center Hospital 15:Department of Hematology and Oncology, Center of Childhood Cancer, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital 16:Department of Pediatrics, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center 17:Department of Pediatrics, Osaka International Cancer Institute 18:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation

Bone Marrow Transplant 59(11):1621-1624 2024

**Clinical features of immature leukemias in children**

Sajiki D<sup>1</sup>, **Yoshida N<sup>2</sup>**, Muramatsu H<sup>1</sup>, Sakaguchi K<sup>3</sup>, Maeda N<sup>4</sup>, Yokoyama N<sup>5</sup>, Miyajima Y<sup>6</sup>, Tanaka M<sup>7</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, **Hama A<sup>2</sup>**

1:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 3:Department of Pediatrics, Hamamatsu University School of Medicine 4:Department of Pediatrics, National Hospital Organization Nagoya Medical Center 5:Department of Pediatric Hematology, Gifu Municipal Hospital 6:Department of Pediatrics, Anjo Kosei Hospital 7:Department of Pediatrics, Fujita Health University School of Medicine International Journal of Hematology 120(1):117-127 2024

**A higher CD34+ cell dose correlates with better event-free survival after KIR-ligand mismatched cord blood transplantation for childhood acute myeloid leukemia**

Ishida H<sup>1</sup>, Kawahara Y<sup>2</sup>, Tomizawa D<sup>3</sup>, Okamoto Y<sup>4</sup>, **Hama A<sup>5</sup>**, Cho Y<sup>6</sup>, Koh K<sup>7</sup>, Koga Y<sup>8</sup>, **Yoshida N<sup>5</sup>**, Sato M<sup>9</sup>, Terui K<sup>10</sup>, Miyagawa N<sup>11</sup>, Watanabe A<sup>12</sup>, Takita J<sup>13</sup>, Kobayashi R<sup>14</sup>, Yamamoto M<sup>15</sup>, Watanabe K<sup>16</sup>, Okada K<sup>17</sup>, Kato K<sup>18</sup>, Matsumoto K<sup>3</sup>, Hino M<sup>19</sup>, Tabuchi K<sup>20</sup>, Sakaguchi H<sup>3</sup>

1:Department of Pediatrics, Okayama University Hospital 2:Department of Pediatrics, Jichi Medical University School of Medicine 3:Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 4:Department of Pediatrics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University 5:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 6:Department of Pediatrics, Hokkaido University Hospital 7:Department of Hematology/Oncology, Saitama Children's Medical Center 8:Department of Perinatal and Pediatric Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University 9:Department of Hematology/Oncology, Osaka Women's and Children's Hospital 10:Department of Pediatrics, Hiroaki University Hospital 11:Division of Hematology/Oncology, Kanagawa Children's Medical Center 12:Department of Pediatrics, Niigata Cancer Center Hospital 13:Department of Pediatrics, Kyoto University Hospital 14:Department of Hematology/Oncology for Children and Adolescents, Sapporo Hokuyu Hospital 15:Department of Pediatrics, Sapporo Medical University Hospital 16:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 17:Department of Pediatric Hematology/Oncology, Osaka City General Hospital 18:Central Japan Cord Blood Bank 19:Department of Pediatrics, Chiba University School of Medicine 20:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation

Journal of Hematology & Oncology 17(1):24 2024

**A retrospective analysis of gene fusions and treatment outcomes in pediatric acute megakaryoblastic leukemia without Down syndrome**

Suzuki K<sup>1</sup>, Hama A<sup>1</sup>, Okuno Y<sup>2</sup>, Xu Y<sup>1</sup>, Narita A<sup>1</sup>, **Yoshida N<sup>3</sup>**, Muramatsu H<sup>1</sup>, Nishio N<sup>4</sup>, **Kato K<sup>3</sup>**, Kojima S<sup>1</sup>, Yoo KH<sup>5</sup>, Takahashi Y<sup>6</sup>

1:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Virology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences 3:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 4:Department of Advanced Medicine, Nagoya University Hospital, 5:Department of Pediatrics, Samsung Medical Center, Sungkyunkwan University School of Medicine, Seoul, Korea 6:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine

Haematologica 109(6):1936-1940 2024

**Reduced-intensity allogeneic transplantation for children and adolescents with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia**

Ishida H<sup>1</sup>, Arakawa Y<sup>2</sup>, Hasegawa D<sup>3</sup>, Usami I<sup>4</sup>, Hashii Y<sup>5</sup>, Arai Y<sup>6</sup>, Nishiwaki S<sup>7</sup>, Keino D<sup>8</sup>, Kato K<sup>9</sup>, Sato M<sup>10</sup>, **Yoshida N<sup>11</sup>**, Ozawa Y<sup>12</sup>, Okada K<sup>13</sup>, Hidaka M<sup>14</sup>, Yuza Y<sup>15</sup>, Tanaka M<sup>16</sup>, Watanabe K<sup>17</sup>, Takita J<sup>18</sup>, Kosaka Y<sup>3</sup>, Fujita N<sup>19</sup>, Tanaka J<sup>20</sup>, Sato A<sup>21</sup>, Atsuta Y<sup>22,23</sup>, Imamura T<sup>24</sup>

1:Department of Pediatrics, Okayama University Hospital 2:Department of Hematology/Oncology, Saitama Children's Medical Center 3:Department of Hematology and Oncology, Center of Childhood Cancer, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital 4:Department of Pediatric Hematology and Oncology, Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center 5:Department of Pediatrics, Osaka International Cancer Institute 6:Department of Hematology and Oncology, Graduate School of Medicine, Kyoto University 7:Department of Advanced Medicine, Nagoya University Hospital 8:Division of Hematology/Oncology, Kanagawa Children's Medical Center 9:Division of Pediatric Hematology and Oncology, Ibaraki Children's Hospital 10:Department of Hematology/Oncology, Osaka Women's and Children's Hospital 11:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 12:Department of Hematology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 13:Department of Pediatric Hematology/Oncology, Osaka City General Hospital 14:Department of Pediatrics, The University of Tokyo Hospital 15:Department of Hematology/Oncology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center 16:Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center 17:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 18:Department of Pediatrics, Kyoto University Hospital 19:Department of Pediatrics, Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital 20:Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University 21:Department of Hematology and Oncology, Miyagi Children's Hospital 22:Japanese Data Center for Hematopoietic Cell Transplantation 23:Department of Registry Science for Transplant and Cellular Therapy, Aichi Medical University School of Medicine 24:Department of Pediatrics, Kyoto Prefectural University of Medicine, Graduate School of Medical Science

Annals of Hematology 103(3):843-854 2024

**Development and evaluation of a rapid one-step high sensitivity real-time quantitative PCR system for minor BCR-ABL (e1a2) test in Philadelphia-positive acute lymphoblastic leukemia (Ph+ ALL)**

Hidaka M<sup>1</sup>, Inokuchi K<sup>2</sup>, Uoshima N<sup>3</sup>, Takahashi N<sup>4</sup>, **Yoshida N<sup>5</sup>**, Ota S<sup>6</sup>, Nakamae H<sup>7</sup>, Iwasaki H<sup>8</sup>, Watanabe K<sup>9</sup>, Kosaka Y<sup>10</sup>, Komatsu N<sup>11</sup>, Meguro K<sup>12</sup>, Najima Y<sup>13</sup>, Eto T<sup>14</sup>, Kondo T<sup>15</sup>, Kimura S<sup>16</sup>, Yoshida C<sup>17</sup>, Ishikawa Y<sup>18</sup>, Sawa M<sup>19</sup>, Hata T<sup>20</sup>, Horibe K<sup>21</sup>, Iida H<sup>22</sup>, Shimomura T<sup>23</sup>, Dobashi N<sup>24</sup>,

Sugiura I<sup>25</sup>, Makiyama J<sup>26</sup>, Miyagawa N<sup>27</sup>, Sato A<sup>28</sup>, Ito R<sup>28</sup>, Matsumura I<sup>29</sup>, Kanakura Y<sup>30</sup>, Naoe T<sup>31</sup>

1:Department of Hematology, National Hospital Organization Kumamoto Medical Center 2:Department of Hematology, Nippon Medical School 3:Department of Hematology, Japanese Red Cross Kyoto Daini Hospital 4:Department of Hematology, Nephrology and Rheumatology, Akita University Graduate School of Medicine 5:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 6:Department of Hematology, Sapporo Hokuyu Hospital 7:Department of Hematology, Graduate School of Medicine, Osaka City University 8:Department of Hematology, National Hospital Organization Kyushu Medical Center 9:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 10:Department of Hematology and Oncology, Center of Childhood Cancer, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital 11:Department of Hematology, Juntendo University School of Medicine 12:Department of Hematology, National Hospital Organization Sendai Medical Center 13:Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital 14:Department of Hematology, Hamanomachi Hospital 15:Blood Disorders Center, Aikou Hospital 16:Department of Hematology, Respiratory Medicine and Oncology, Saga University 17:Department of Hematology, National Hospital Organization Mito Medical Center 18:Department of Hematology and Oncology, Nagoya University Graduate School of Medicine 19:Department of Hematology and Oncology, Anjo Kosei Hospital 20:Department of Hematology, Nagasaki University Hospital 21:Department of Pediatrics, National Hospital Organization Nagoya Medical Center 22:Department of Hematology, National Hospital Organization Nagoya Medical Center 23:Department of Hematology, National Hospital Organization Hiroshimanishi Medical Center 24:Department of Clinical Oncology and Hematology, The Jikei University Daisan Hospital 25:Department of Hematology and Oncology, Toyohashi Municipal Hospital 26:Department of Hematology/Oncology, Institute of Medical Science, The University of Tokyo Hospital 27:Division of Hematology/Oncology, Kanagawa Children's Medical Center 28:Diagnostic Division, Otsuka Pharmaceutical Co. Ltd. 29:Department of Hematology and Rheumatology, Kindai University Faculty of Medicine 30:Sumitomo Hospital 31:National Hospital Organization Nagoya Medical Center  
Japanese Journal of Clinical Oncology 54(2):153–159 2024

### **Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Juvenile Myelomonocytic Leukemia with a Busulfan, Fludarabine, and Melphalan Regimen: JPLSG JMML–11**

Sakashita K<sup>1</sup>, Yoshida N<sup>2</sup>, Muramatsu H<sup>3</sup>, Ohtsuka Y<sup>4</sup>, Watanabe K<sup>5</sup>, Yabe M<sup>6</sup>, Kakuda H<sup>7</sup>, Honda Y<sup>8</sup>, Watanabe T<sup>9</sup>, Haba M<sup>10</sup>, Ohmori S<sup>11</sup>, Matsuda K<sup>12</sup>, Yuza Y<sup>13</sup>, Saito A<sup>14</sup>, Horibe K<sup>14</sup>, Adachi S<sup>15</sup>, Manabe A<sup>16</sup>

1:Department of Hematology and Oncology, Nagano Children's Hospital 2:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 3:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 4:Department of Pediatrics, Hyogo College of Medicine 5:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 6:Department of Innovative Medical Science, Tokai University School of Medicine 7:Department of Hematology and Oncology, Chiba Children's Hospital 8:Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health 9:Department of Health and Nutritional Sciences, Faculty of Health Sciences, Aichi Gakuin University, 10:Department of Biopharmaceutics, Faculty of Pharmacy, Chiba Institute of Science 11:Department of Pharmacy, Shinshu University Hospital 12:Department of Clinical Laboratory Sciences, School of Health Sciences, Shinshu University 13:Department of Pediatric Hematology Oncology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center 14:Clinical Research Center, National Hospital Organization Nagoya Medical Center 15:Human Health Science, Graduate School of Medicine, Kyoto University 16:Department of Pediatrics, Hokkaido University Graduate School of Medicine  
Transplantation and Cellular Therapy 30(1):105.e1–105.e10 2024

### **Recent advances in the diagnosis and treatment of pediatric acquired aplastic anemia Yoshida N**

International Journal of Hematology 119(3):240–247 2024

### **JCCG ALL–B12: Evaluation of Intensified Therapies With Vincristine/Dexamethasone Pulses and Asparaginase and Augmented High–Dose Methotrexate for Pediatric B–ALL**

Kato M<sup>1</sup>, Okamoto Y<sup>2</sup>, Imamura T<sup>3</sup>, Kada A<sup>4</sup>, Saito AM<sup>4</sup>, Iijima–Yamashita Y<sup>4</sup>, Deguchi T<sup>5</sup>, Ohki K<sup>6</sup>, Fukushima T<sup>7,8</sup>, Anami K<sup>9</sup>, Sanada M<sup>4</sup>, Taki T<sup>10</sup>, Hashii Y<sup>11</sup>, Inukai T<sup>12</sup>, Kiyokawa N<sup>6</sup>, Kosaka Y<sup>13</sup>, Yoshida N<sup>14</sup>, Yuza Y<sup>15</sup>, Yanagimachi M<sup>16</sup>, Watanabe K<sup>17</sup>, Sato A<sup>18</sup>, Imai C<sup>19</sup>, Taga T<sup>20</sup>, Adachi S<sup>21</sup>, Horibe K<sup>4</sup>, Manabe A<sup>22</sup>, Koh K<sup>23</sup>

1:Department of Pediatrics, The University of Tokyo 2:Department of Pediatrics, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences 3:Department of Pediatrics, Kyoto Prefectural University of Medicine 4:Clinical Research Center, NHO Nagoya Medical Center 5:Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 6:Department of Pediatric Hematology and Oncology Research, National Research Institute for Child Health and Development 7:Department of Child Health, Institute of Medicine, University of Tsukuba 8:Department of Pediatric Oncology and Hematology, Saitama Medical University International Medical Center 9:Department of Medical Oncology, Hematology, and Infectious Diseases, Faculty of Medicine, Fukuoka University 10:Department of Medical Technology, Kyorin University Faculty of Health Sciences 11:Department of Pediatrics, Osaka University 12:Department of Pediatrics, University of Yamanashi 13:Department of Hematology and Oncology, Kobe Children's Hospital 14:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 15:Department of Hematology–Oncology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center 16:Division of Hematology/Oncology, Kanagawa Children's Medical Center 17:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 18:Department of Hematology and Oncology, Miyagi Children's Hospital 19:Department of Pediatrics, University of Toyama 20:Department of Pediatrics, Shiga University of Medical Science 21:Department of Human Health Sciences, Graduate School of Medicine, Kyoto University 22:Department of Pediatrics, Hokkaido University Graduate School of Medicine 23:Department of Hematology/Oncology, Saitama Children's Medical Center  
Journal of Clinical Oncology 43(5):567–577 2025

## **一般・消化器外科**

### **Appendiceal adenocarcinoma associated with Amyand's hernia: a case report**

Momota K<sup>1</sup>, Shibata K<sup>1</sup>, Miyake H<sup>1</sup>, Nagai H<sup>1</sup>, Yoshioka Y<sup>1</sup>, Yuasa N<sup>1</sup>, Murakami H<sup>2</sup>

1:Department of Gastrointestinal Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Nagoya Journal of Medical Science 86(3):514–523 2024

### **An appendiceal mucocoele associated with inverted epithelium and submucosal hyperplasia at the appendiceal root: a rare case report**

Asai S<sup>1</sup>, Miyake H<sup>1</sup>, Nagai H<sup>1</sup>, Yoshioka Y<sup>1</sup>, Yuasa N<sup>1</sup>, Takada R<sup>2</sup>, Fujino M<sup>2</sup>

1:Department of Gastrointestinal Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

**Conversion surgery により 10 年生存している Virchow リンパ節転移および大動脈周囲リンパ節転移陽性胃癌の 1 例**  
浅井周平<sup>1</sup>, 三宅秀夫<sup>1</sup>, 永井英雅<sup>1</sup>, 吉岡裕一郎<sup>1</sup>, 柴田耕治<sup>1</sup>, 湯浅典博<sup>2</sup>

1:一般消化器外科 2:緩和ケア科

消化器外科 47(5):607-615 2024

**局所再発した Low-grade appendiceal mucinous neoplasm (LAMN) の 1 例**

若尾聖<sup>1</sup>, 吉岡裕一郎<sup>1</sup>, 小林龍太郎<sup>1</sup>, 藤野雅彦<sup>2</sup>

1:一般消化器外科 2:病理部

日本大腸肛門病学会雑誌 78(1):26-30 2025

## 血管外科

**放射線治療遠隔期の上腸間膜動脈閉塞症に対して総腸骨－上腸間膜動脈バイパス術を施行した 1 例**

佐藤 誠洋, 榊原 昌志, 山本 清人, 錦見 尚道

血管外科 (Metropolitan Vascular and Endovascular Surgery) 43(1):71-75 2024

## 心臓血管外科

**Totally Endoscopic Coronary Artery Aneurysm Repair**

Kato R, Hosoba S, Ito T

Innovations 19(2):121 2024

**Sinus of Valsalva and leaflet thrombosis after surgical aortic valve replacement.**

Kato R, Hosoba S, Adachi K, Maeda S, Ito T

Cardiovascular Intervention and Therapeutics 39(2):216-217 2024

**Longitudinal valvotomy of anterior leaflet for endoscopic transmitral myectomy for hypertrophic obstructive cardiomyopathy**

Ito T, Sawaki S, Tokoro M, Kato R

The Multimedia Manual of Cardio-Thoracic Surgery 30:2024 2024

**Clinical and Angiographic Outcomes of Bilateral Internal Thoracic Artery Revascularization: In Situ vs Free Grafts**

Hayashi Y<sup>1</sup>, Shimamoto T<sup>2</sup>, Numata S<sup>3</sup>, Goto Y<sup>4</sup>, Komiya T<sup>2</sup>, Yaku H<sup>3</sup>, Okawa Y<sup>4</sup>, Ito T<sup>1</sup>

1:Department of Cardiovascular Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Cardiovascular Surgery, Kurashiki Central Hospital 3:

Department of Cardiovascular Surgery, Kyoto Prefectural University of Medicine 4:Department of Cardiovascular Surgery, Toyohashi Heart Center

The Annals of Thoracic Surgery 119(2):351-360 2025

**Transcatheter mitral valve repair for a patient with double inferior vena cava: case report**

Kato R<sup>1</sup>, Hosoba S<sup>1</sup>, Kuroda M<sup>2</sup>, Yasuda K<sup>2</sup>

1:Department of Cardiovascular Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Cardiology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

European Heart Journal Case Reports 8(5):ytac221 2024

## 呼吸器外科

**甲状腺癌肺転移として経過観察されてきた肺良性転移性子宮平滑筋腫の 1 例**

後藤まどか, 市川靖久, 坪内秀樹, 福本紘一, 森正一

日本臨床外科学会雑誌 85(8):1012-17 2024

## 小児外科

**A case report of type II Floyd tracheal agenesis with staged tracheal and alimentary reconstructions**

Tani Y<sup>1</sup>, Murase N<sup>1</sup>, Kato T<sup>2</sup>

1:Department of Pediatric Surgery, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Gastroenterological Surgery and Pediatric Surgery, Gifu University Graduate School of Medicine

Surgical Case Reports 10(1):271 2024

**Laparoscopic-assisted omentectomy for omental torsion: A case report**

Matsumoto T, Tani Y, Murase N

Journal of Pediatric Surgery Case Reports 103:102792 2024

## 整形外科

### 肘関節後方脱臼手術症例の臨床像と治療成績

洪淑貴<sup>1</sup>, 大塚純子<sup>1</sup>, 堀井恵美子<sup>2</sup>

1:整形外科 2:関西医科大学整形外科

日本肘関節学会雑誌 31(2):70-73 2024

### 深指屈筋に生じた先天性筋短縮症の治療経験

大塚純子<sup>1</sup>, 堀井恵美子<sup>2</sup>, 洪淑貴<sup>1</sup>, 武重宏樹<sup>1</sup>

1:整形外科 2:関西医科大学整形外科

日本手外科学会雑誌 41(2):61-64 2024

### 投球による上腕骨内側上顆骨端離解の3例

洪淑貴<sup>1</sup>, 大塚純子<sup>1</sup>, 堀井恵美子<sup>2</sup>

1:整形外科 2:関西医科大学整形外科

日本手外科学会雑誌 41(4):406-409 2025

### 外傷性母指CM関節脱臼の臨床像と治療経験

武重宏樹, 洪淑貴, 大塚純子

日本手外科学会雑誌 41(5):491-495 2025

### Lateral Polydactyly of the Foot: Surgical Outcomes Based on a New Classification

Otsuka J<sup>1</sup>, Horii E<sup>2</sup>, Koh S<sup>1</sup>, Takeshige H<sup>1</sup>

1:Department of Orthopedic Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2: Department of Orthopedic Surgery, Kansai Medical University

Plastic & Reconstructive Surgery-Global Open 13(1):e6463 2025

## 脳神経外科

### Magnetic Resonance Spectroscopy Facilitates the Understanding of the Pathophysiology of Cerebellar Arterovenous Malformations

Kubo H, Hattori K, Hatano H, Fujitani S

Cureus 16(8):e68052 2024

## 皮膚科

### ポリコナゾール投与中止後も出現を繰り返した多発光線関連皮膚癌の1例

石原麻衣子, 井上優貴, 吉川真人, 大見修也, 犬飼実紗子

臨床皮膚科 78(10):743-747 2024

### ダーモスコピー所見が診断の一助となった aneurysmal fibrous histiocytoma の1例

石原麻衣子, 吉川真人, 井上優貴, 大見修也, 犬飼実紗子

臨床皮膚科 78(11):861-865 2024

## 泌尿器科

### 膀胱癌の診断・マーカー 取扱い規約とTNM分類

加藤真史

臨床腎・泌尿器癌(中) 82(増刊号 9):97-101 2024

### Validation study on the 2 mm diameter cutoff in lymph node-positive cases following radical prostatectomy in accordance with the AJCC/UICC TNM 8th edition: Real-world data analysis from a Japanese cohort

Kato M<sup>1</sup>, Shiota M<sup>2</sup>, Kimura T<sup>3</sup>, Hanazawa R<sup>4</sup>, Hirakawa A<sup>4</sup>, Takamatsu D<sup>2</sup>, Tashiro K<sup>3</sup>, Matsui Y<sup>5</sup>, Hashine K<sup>6</sup>, Saito R<sup>7</sup>, Yokomizo A<sup>8</sup>, Yamamoto Y<sup>9</sup>, Narita S<sup>10</sup>, Hashimoto K<sup>11</sup>, Matsumoto H<sup>12</sup>, Akamatsu S<sup>13</sup>, Nishiyama N<sup>14</sup>, Eto M<sup>2</sup>, Kitamura H<sup>14</sup>, Tsuzuki T<sup>15</sup>

1:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Urology, Kyushu University 3:Department of Urology, The Jikei University School of Medicine 4:Department of Clinical Biostatistics, Graduate School of Medical and Dental Science, Tokyo Medical and Dental University 5:Department of Urology, National Cancer Center Hospital 6:Department of Urology, National Hospital Organization Shikoku Cancer Center 7:Department of Urology and Andrology, Kansai Medical University 8:Department of Urology, Harasanshin Hospital 9:Department of Urology, Osaka International Cancer Institute 10:Department of Urology, Akita University 11:Department of Urology, Sapporo Medical University 12:Department of Urology, Yamaguchi University 13:Department of Urology, Kyoto University 14:Department of Urology, University of Toyama 15:Department of Surgical Pathology, Aichi Medical University

International Journal of Urology 31(6):662-669 2024

### **Establishment of an adverse effect prevention protocol on plasma exchange using fresh frozen plasma prior to ABO-incompatible living donor kidney transplantation at our hospital**

Tanaka A<sup>1</sup>, Watanabe Y<sup>2</sup>, Furuhashi K<sup>1</sup>, Saito S<sup>1</sup>, Yasuda Y<sup>2</sup>, Kosugi T<sup>2</sup>, Sano Y<sup>3</sup>, **Kato M<sup>4</sup>**, Maruyama S<sup>2</sup>

1:Department of Nephrology, Nagoya University Hospital, Nagoya 2:Department of Nephrology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya 3:Department of Urology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Aichi 4:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Therapeutic Apheresis and Dialysis 28(1):152-157 2024

### **Changes in antibody titer after four and five doses of the SARS-CoV-2 vaccine in Japanese post-kidney transplant patients**

Fujieda K<sup>1</sup>, Tanaka A<sup>1</sup>, Kikuchi R<sup>2,3</sup>, Takai N<sup>4</sup>, Saito S<sup>1</sup>, Yasuda Y<sup>1</sup>, Sano Y<sup>5</sup>, **Kato M<sup>6</sup>**, Furuhashi K<sup>1</sup>, Maruyama S<sup>7</sup>

1:Department of Nephrology, Nagoya University Hospital 2:Department of Medical Technique, Nagoya University Hospital 3:Division of Clinical Laboratory, Gifu University Hospital  
4:Department of Nursing, Nagoya University Hospital 5:Department of Urology, Nagoya University Graduate School of Medicine 6:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 7:Department of Nephrology, Nagoya University Graduate School of Medicine  
Therapeutic Apheresis and Dialysis 28(4):489-498 2024

### **Prognostication in Lymph Node-Positive Prostate Cancer with No PSA Persistence After Radical Prostatectomy**

Shiota M<sup>1</sup>, Takamatsu D<sup>2</sup>, Matsui Y<sup>3</sup>, Yokomizo A<sup>4</sup>, Morizane S<sup>5</sup>, Saito R<sup>6</sup>, Miyake M<sup>7</sup>, Tsutsumi M<sup>8</sup>, Yamamoto Y<sup>9</sup>, Tashiro K<sup>10</sup>, Tomida R<sup>11</sup>, Narita S<sup>12</sup>, Edamura K<sup>13</sup>, Yamaguchi T<sup>14</sup>, Hashimoto K<sup>15</sup>, **Kato M<sup>16</sup>**, Kasahara T<sup>17</sup>, Yoshino T<sup>18</sup>, Akamatsu S<sup>19</sup>, Kaneko T<sup>20</sup>, Matsukawa A<sup>21</sup>, Matsumoto R<sup>22</sup>, Joraku A<sup>23</sup>, Saito T<sup>24</sup>, Kato T<sup>25</sup>, Kato M<sup>26</sup>, Enokida H<sup>27</sup>, Sakamoto S<sup>28</sup>, Terada N<sup>29</sup>, Kanno H<sup>30</sup>, Nishiyama N<sup>31</sup>, Kimura T<sup>10</sup>, Kitamura H<sup>31</sup>, Eto M<sup>2</sup>

1:Department of Urology, Kyushu University 2:Department of Urology, Kyushu University 3:Department of Urology, National Cancer Center Hospital 4:Department of Urology, Harasanshin Hospital 5:Division of Urology, Department of Surgery, Faculty of Medicine, Tottori University 6:Department of Urology and Andrology, Kansai Medical University  
7:Department of Urology, Nara Medical University 8:Department of Urology, Hitachi General Hospital 9:Department of Urology, Osaka International Cancer Institute 10:Department of Urology, The Jikei University School of Medicine 11:Department of Urology, Shikoku Cancer Center 12:Department of Urology, Akita University 13:Department of Urology, Okayama University 14:Department of Urology, Kumamoto University 15:Department of Urology, Sapporo Medical University 16:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 17:Division of Urology, Department of Regenerative and Transplant Medicine, Niigata University 18:Department of Urology, University of Tsukuba  
19:Department of Urology, Kyoto University 20:Department of Urology, Teikyo University School of Medicine 21:Department of Urology, Kashiwa Hospital, The Jikei University  
22:Department of Renal and Genitourinary Surgery, Hokkaido University 23:Department of Urology, Ibaraki Prefectural Central Hospital, Ibaraki Cancer Center 24:Department of Urology, Niigata Cancer Center Hospital 25:Department of Urology, Kagawa University 26:Department of Nephro-Urologic Surgery and Andrology, Mie University 27:Department of Urology, Kagoshima University 28:Department of Urology, Chiba University 29:Department of Urology, Miyazaki University 30:Department of Urology, Yamagata University  
31:Department of Urology, University of Toyama  
Annals of Surgical Oncology 31(6):3872-3879 2024

### **A case of late-onset organizing pneumonia following COVID-19 infection in a post-kidney transplant patient**

Fujieda K<sup>1</sup>, Saito S<sup>1</sup>, Tanaka A<sup>1</sup>, Furuhashi K<sup>2</sup>, Yasuda Y<sup>3</sup>, Sano Y<sup>4</sup>, **Kato M<sup>5</sup>**, Maruyama S<sup>3</sup>

1:Department of Nephrology, Nagoya University Hospital, Nagoya 2:Department of Nephrology, Nagoya University Hospital 3:Department of Nephrology, Nagoya University Graduate School of Medicine 4:Department of Urology, Nagoya University Graduate School of Medicine 5:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Cen Case Reports 13(5):346-350 2024

### **Treatment escalation and de-escalation of de-novo metastatic castration-sensitive prostate cancer**

Akamatsu S<sup>1</sup>, Naito Y<sup>1</sup>, Nagayama J<sup>1</sup>, Sano Y<sup>1</sup>, Inoue S<sup>1</sup>, Matsuo K<sup>1</sup>, Sano T<sup>1</sup>, Ishida S<sup>1</sup>, Matsukawa Y<sup>1</sup>, **Kato M<sup>2</sup>**

1:Department of Urology, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Nagoya Journal of Medical Science 86(2):169-180 2024

### **Prognosis based on postoperative PSA levels and treatment in prostate cancer with lymph node involvement**

Tanegashima T<sup>1</sup>, Shiota M<sup>2</sup>, Kimura T<sup>3</sup>, Takamatsu D<sup>1</sup>, Matsui Y<sup>4</sup>, Yokomizo A<sup>5</sup>, Saito R<sup>6</sup>, Morizane S<sup>7</sup>, Miyake M<sup>8</sup>, Tsutsumi M<sup>9</sup>, Yamamoto Y<sup>10</sup>, Tashiro K<sup>3</sup>, Tomida R<sup>11</sup>, Edamura K<sup>12</sup>, Narita S<sup>13</sup>, Yamaguchi T<sup>14</sup>, Kasahara T<sup>15</sup>, Hashimoto K<sup>16</sup>, **Kato M<sup>17</sup>**, Yoshino T<sup>18</sup>, Akamatsu S<sup>19</sup>, Matsukawa A<sup>20</sup>, Kaneko T<sup>21</sup>, Matsumoto R<sup>22</sup>, Joraku A<sup>23</sup>, Kato M<sup>24</sup>, Saito T<sup>25</sup>, Kato T<sup>26</sup>, Tatarano S<sup>27</sup>, Sakamoto S<sup>28</sup>, Kanno H<sup>29</sup>, Terada N<sup>30</sup>, Nishiyama N<sup>31</sup>, Kitamura H<sup>31</sup>, Eto N<sup>1</sup>

1:Department of Urology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University 2:Department of Urology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University 3:Department of Urology, The Jikei University School of Medicine 4:Department of Urology, National Cancer Center Hospital 5:Department of Urology, Harasanshin Hospital 6:Department of Urology and Andrology, Kansai Medical University 7:Division of Urology, Department of Surgery, Faculty of Medicine, Tottori University 8:Department of Urology, Nara Medical University  
9:Department of Urology, Hitachi General Hospital 10:Department of Urology, Osaka International Cancer Institute 11:Department of Urology, Shikoku Cancer Center 12:Department of Urology, Okayama University 13:Department of Urology, Akita University 14:Department of Urology, Kumamoto University 15:Division of Urology, Department of Regenerative and Transplant Medicine, Niigata University 16:Department of Urology, Sapporo Medical University 17:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 18:Department of Urology, University of Tsukuba 19:Department of Urology, Kyoto University 20:Department of Urology, Kashiwa Hospital, The Jikei University  
21:Department of Urology, Teikyo University School of Medicine 22:Department of Renal and Genitourinary Surgery, Hokkaido University 23:Department of Urology, Ibaraki Prefectural Central Hospital, Ibaraki Cancer Center 24:Department of Nephro-Urologic Surgery and Andrology, Mie University 25:Department of Urology, Niigata Cancer Center Hospital 26:Department of Urology, Kagawa University 27:Department of Urology, Kagoshima University 28:Department of Urology, Chiba University 29:Department of Urology, Yamagata University 30:Department of Urology, Miyazaki University 31:Department of Urology, University of Toyama  
International Journal of Clinical Oncology 29(10):1586-1593 2024

### **Improved prognosis of de novo metastatic prostate cancer after an introduction of life-prolonging agents for castration-resistant prostate cancer**

Tanegashima T<sup>1</sup>, Shiota M<sup>2</sup>, Terada N<sup>3</sup>, Saito T<sup>4</sup>, Yokomizo A<sup>5</sup>, Kohei N<sup>6</sup>, Goto T<sup>7</sup>, Kawamura S<sup>8</sup>, Hashimoto Y<sup>9</sup>, Takahashi A<sup>10</sup>, Kimura T<sup>11</sup>, Tabata K<sup>12</sup>, Tomida R<sup>13</sup>, Hashimoto K<sup>14</sup>, Sakurai T<sup>15</sup>, Shimazui T<sup>16</sup>, Sakamoto S<sup>17</sup>, Kamiyama M<sup>18</sup>, Tanaka N<sup>19</sup>, Mitsuzuka K<sup>20</sup>, Kato T<sup>21</sup>, Narita S<sup>22</sup>, Yasumoto H<sup>23</sup>, Teraoka S<sup>24</sup>, **Kato M<sup>25</sup>**, Osawa T<sup>26</sup>, Nagumo Y<sup>27</sup>, Matsumoto H<sup>28</sup>, Enokida H<sup>29</sup>, Sugiyama T<sup>30</sup>, Kuroiwa K<sup>31</sup>, Kitamura H<sup>32</sup>, Kamoto

T<sup>3</sup>, Eto M<sup>1</sup>

1:Department of Urology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University 2:Department of Urology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University 3:Department of Urology, Miyazaki University 4:Department of Urology, Niigata Cancer Center Hospital 5:Department of Urology, Harasanshin Hospital 6:Department of Urology, Shizuoka General Hospital 7:Department of Urology, Kyoto University 8:Department of Urology, Miyagi Cancer Center 9:Department of Urology, Hirosaki University 10:Department of Urology, Hakodate Goryoukaku Hospital 11:Department of Urology, Jikei University 12:Department of Urology, Kitasato University 13:Department of Urology, Shikoku Cancer Center 14:Department of Urology, Sapporo Medical University 15:Department of Urology, Yamagata University 16:Department of Urology, Ibaraki Prefectural Central Hospital, Ibaraki Cancer Center 17:Department of Urology, Chiba University 18:Department of Urology, University of Yamanashi Hospital 19:Department of Urology, and Department of Prostate Brachytherapy, Nara Medical University 20:Department of Urology, Tohoku University 21:Department of Urology, Kagawa University 22:Department of Urology, Akita University 23:Department of Urology, Shimane University 24:Department of Urology, Tottori University 25:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 26:Department of Renal and Genitourinary Surgery, Hokkaido University 27:Department of Urology, University of Tsukuba Hospital 28:Department of Urology, Yamaguchi University 29:Department of Urology, Kagoshima University 30:Department of Urology, Hamamatsu University School of Medicine 31:Department of Urology, Miyazaki Prefectural Miyazaki Hospital 32:Department of Urology, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences for Research, University of Toyama  
International Journal of Clinical Oncology 30(3):551–558 2025

### Darolutamide in Japanese patients with metastatic hormone-sensitive prostate cancer: Phase 3 ARASENS subgroup analysis

Uemura M<sup>1</sup>, Kikukawa H<sup>2</sup>, Hashimoto Y<sup>3</sup>, Uemura H<sup>4</sup>, Mizokami A<sup>5</sup>, **Kato M<sup>6</sup>**, Matsushima H<sup>7</sup>, Kosaka T<sup>8</sup>, Nakamura M<sup>9</sup>, Fukasawa S<sup>10</sup>, Smith M R<sup>11</sup>, Tombal B<sup>12</sup>, Hussain M<sup>13</sup>, Saad F<sup>14</sup>, Fizazi K<sup>15</sup>, Sternberg C N<sup>16</sup>, Crawford E D<sup>17</sup>, Kakiuchi H<sup>18</sup>, Akiyama M<sup>19</sup>, Li R<sup>20</sup>, Kuss I<sup>21</sup>, Joensuu H<sup>22</sup>, Suzuki H<sup>23</sup>

1:Department of Urology, Osaka University Hospital 2:Department of Urology, National Hospital Organization Kumamoto Medical Center 3:Department of Urology, Hirosaki University School of Medicine and Hospital 4:Department of Urology, Yokohama City University Medical Center 5:Department of Urology, Kanazawa University Hospital 6:Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 7:Department of Urology, Tokyo Metropolitan Police Hospital 8:Department of Urology, Keio University Hospital 9:Department of Urology, National Hospital Organization Kyushu Cancer Center 10:Prostate Center and Division of Urology, Chiba Cancer Center 11:Genitourinary Oncology Program, Massachusetts General Hospital Cancer Center and Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, USA 12:Division of Urology, IREC, Cliniques Universitaires Saint-Luc, Université Catholique de Louvain, Brussels, Belgium 13:Division of Hematology-Oncology, Department of Medicine, Robert H. Lurie Comprehensive Cancer Center, Northwestern University Feinberg School of Medicine, Chicago, Illinois, USA 14:Department of Urology, University of Montreal Hospital Center, Montréal, Québec, Canada 15:Department of Cancer Medicine, Institut Gustave Roussy, University of Paris-Saclay, Villejuif, France 16:Department of Medicine, Englander Institute for Precision Medicine, Meyer Cancer Center, Weill Cornell Medicine, New York-Presbyterian Hospital, New York, New York, USA 17:Department of Urology, University of California San Diego School of Medicine, La Jolla, California, USA 18:Bayer Yakuhin, Ltd 19:Bayer Yakuhin, Ltd 20:Bayer HealthCare Pharmaceuticals Inc., Whippany, New Jersey, USA 21:Bayer AG, Berlin, Germany 22:Orion Corporation, Espoo, Finland 23:Department of Urology, Toho University Sakura Medical Center  
Cancer Medicine 13(21):e70029 2024

## 産婦人科

### 不妊治療後に骨盤内感染をきたし腹腔鏡下手術を施行した7症例の検討

上田真子, 安藤智子, 荒木甫, 黒柳雅文, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 齋藤愛, 坂堂美央子, 廣村勝彦  
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 39(2):21–27 2024

### Prevalence, risk factors, and perinatal outcomes of velamentous umbilical cord insertion in twin pregnancies: a single-center retrospective cohort study

Somiya A, Tsuda H, Tsugeno E, Nakamura Y, Kuroyanagi M, Araki H, Masahashi Y, Suzuki M, Fukuhara N, Ito Y, Tazuka A, Ando T, Mizuno K  
Journal of Clinical Medicine 13(5):1396 2024

### Association between subclinical hypothyroidism and adverse pregnancy outcomes in assisted reproduction technology singleton pregnancies:A retrospective study

Narita Y, Tsuda H, Tsugeno E, Nakamura Y, Suzuki M, Ito Y, Tazuka A, Ando T  
Journal of Clinical Medicine 13(17):5137 2024

### Transvaginal Ultrasound Findings Predicting Prolonged Pregnancy in Cases of Prolapsed Fetal Membrane: A Retrospective Study

Kondo T, Tsuda H, Tsugeno E, Nakamura Y, Ito Y, Tazuka A, Ando T  
Journal of Clinical Medicine 14(5):1592 2025

### 血清型IV型B群レンサ球菌による菌血症の母児例

上田真菜<sup>1</sup>, 濱崎咲也子<sup>1</sup>, 大城誠<sup>1</sup>, 中山淳<sup>1</sup>, 手塚敦子<sup>2</sup>, 伊藤由美子<sup>2</sup>, 津田弘之<sup>2</sup>, 脇本寛子<sup>3</sup>

1:小児科 2:産婦人科 3:名古屋大学大学院看護学研究科  
日本周産期・新生児医学会雑誌 60(2):283–286 2024

### 妊娠中の胸膜炎を契機に全身性エリテマトーデスの診断に至った一例

白倉千香, 伊藤由美子, 吉野絵里, 中村侑実, 荒木甫, 黒柳雅文, 鈴木美帆, 手塚敦子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 廣村勝彦, 津田弘之, 水野公雄  
日本周産期・新生児医学会雑誌 60(2):323–329 2024

### 子宮頸管無力症に対する子宮頸管縫縮術の治療効果についての検討

岡見ゆりか, 津田弘之, 手塚敦子, 伊藤由美子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 廣村勝彦, 安藤智子  
日本周産期・新生児医学会雑誌 61(1):39–43 2025

Efficacy of prophylactic cerclage in women with a single history of Mid-trimester pregnancy loss with pain less cervical dilation: A retrospective cohort study

Tezuka A, Tsuda H, Ito Y, Ando T

Clinical and experimental Obstetrics & Gynecology 52(1):26338 2025

当院で管理した超高齢妊娠 10 症例

林紗由,手塚敦子,中島菜都美,箕浦広大,近藤友宏,成田佑一郎,森永崇文,簗田章,田中梨紗子,寺沢直浩,告野絵里,中村侑実,正橋佳樹,鈴木美帆,福原伸彦,伊藤由美子,齋藤愛,坂堂美央子,廣村勝彦,津田弘之,安藤智子

東海産科婦人科雑誌 61:53-57 2024

妊娠中に卵管卵巣膿瘍を発症し早産となった 1 例

告野絵里,伊藤由美子,中島菜都美,箕浦広大,近藤友宏,成田佑一郎,林紗由,森永崇文,田中梨紗子,寺沢直浩,簗田章,中村侑実,正橋佳樹,鈴木美帆,福原伸彦,手塚敦子,齋藤愛,坂堂美央子,廣村勝彦,津田弘之,安藤智子

東海産科婦人科雑誌 61:131-137 2024

尿生殖洞遺残合併妊婦から生児を得た 1 例

成田佑一郎,伊藤由美子,中島菜都美,箕浦広大,近藤友宏,成田佑一郎,林紗由,森永崇文,簗田章,田中梨紗子,寺沢直浩,告野絵里,中村侑実,正橋佳樹,鈴木美帆,福原伸彦,手塚敦子,齋藤愛,坂堂美央子,廣村勝彦,津田弘之,安藤智子

東海産科婦人科雑誌 61:177 2024

## 耳鼻咽喉科

口蓋扁桃にランゲルハンス細胞肉腫(LCS)を認めた 1 例

長谷川雅俊<sup>1</sup>,柘植勇人<sup>1</sup>,寺田聡広<sup>1</sup>,鈴木淳志<sup>1</sup>,伊藤潤平<sup>1</sup>,村上優美子<sup>1</sup>,小澤亮太<sup>1</sup>,曾根 三千彦<sup>2</sup>

1:耳鼻咽喉科 2:名古屋大学医学部頭頸部・感覚器外科学耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科臨床 118(1):49-54 2025

## 麻酔科

全身麻酔下での両側胸部傍脊椎ブロック持続カテーテル法が下腹部正中切開手術の周術期疼痛管理に有効であった 1 症例

森玲央那<sup>1</sup>,三宅舞香<sup>2</sup>,横田修一<sup>1</sup>

1:麻酔科 2:ガーデンクリニック名古屋院

日本ペインクリニック学会誌 31(10):227-228 2024

## リハビリテーション科部 (PT・OT・ST)

自宅退院となる高齢脳梗塞患者の病前生活空間は退院時転倒リスクの予測に寄与する

武藤健人<sup>1</sup>,西川大樹<sup>1</sup>,久保田雅史<sup>2</sup>

1:リハビリテーション科 2:金沢大学医薬保健学系リハビリテーション科学領域理学療法科学講座

日本老年療法学会誌 3:1-8 2024

Redox state of human serum albumin as a post-discharge prognostic marker in patients hospitalized for heart failure

Nishikawa T<sup>1,2</sup>, Ueyama J<sup>1</sup>, Shimizu S<sup>3</sup>, Shibata Y<sup>4</sup>, Yamada S<sup>5</sup>

1:Department of Biomolecular Sciences, Field of Omics Health Sciences, Nagoya University Graduate School 2:Department of Rehabilitation, Japan Red Cross Aichi Medical Center

Nagoya Daiichi Hospital 3:Department of Cardiology, Kariya Toyota General Hospital 4:Department of Cardiology, Japan Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 5:

Department of Cardiology, Aichi Medical University

International Journal of Cardiology 416:132497 2024

## 病理部・細胞診分子病理診断部

Landscape of driver mutations and their clinical effects on Down syndrome-related myeloid neoplasm

Sato T<sup>1</sup>, Yoshida K<sup>2,3</sup>, Toki T<sup>1</sup>, Kanezaki R<sup>1</sup>, Terui K<sup>1</sup>, Saiki R<sup>2</sup>, Ojima M<sup>4</sup>, Ochi Y<sup>2</sup>, Mizuno S<sup>5</sup>, Yoshihara M<sup>5,6</sup>, Uechi T<sup>7</sup>, Kenmochi N<sup>7</sup>, Tanaka S<sup>8</sup>, Matsubayashi J<sup>9</sup>, Kisai K<sup>8</sup>, Kudo K<sup>1</sup>, Yuzawa K<sup>1</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Yamamoto Y<sup>1</sup>, Kobayashi A<sup>1</sup>, Kamio T<sup>1</sup>, Sasaki S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>10</sup>, Chiba K<sup>10</sup>, Tanaka H<sup>11</sup>, Muramatsu H<sup>12</sup>, Hama A<sup>13</sup>, Hasegawa D<sup>14</sup>, Sato A<sup>15</sup>, Koh K<sup>16</sup>, Karakawa S<sup>17</sup>, Kobayashi M<sup>17</sup>, Hara J<sup>18</sup>, Taneyama Y<sup>19</sup>, Imai C<sup>20</sup>, Hasegawa D<sup>21</sup>, Fujita N<sup>22</sup>, Yoshitomi M<sup>23</sup>, Iwamoto S<sup>24</sup>, Yamato G<sup>25</sup>, Saida S<sup>26</sup>, Kiyokawa N<sup>27</sup>, Deguchi T<sup>24,28</sup>, Ito M<sup>29</sup>, Matsuo H<sup>30</sup>, Adachi S<sup>30</sup>, Hayashi Y<sup>31,32</sup>, Taga T<sup>33</sup>, Saito M A<sup>34</sup>, Horibe K<sup>34</sup>, Watanabe K<sup>35</sup>, Tomizawa D<sup>36</sup>, Miyano S<sup>11</sup>, Takahashi S<sup>4</sup>, Ogawa S<sup>2,37,38</sup>, Ito E<sup>1,39</sup>

1:Department of Pediatrics, Hiroasaki University Graduate School of Medicine 2:Department of Pathology and Tumor Biology, Graduate School of Medicine, Kyoto University 3:Division

of Cancer Evolution, National Cancer Center Research Institute 4:Department of Anatomy and Embryology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba 5:Laboratory Animal Resource

Center and Trans-border Medical Research Center, University of Tsukuba 6:School of Integrative and Global Majors, University of Tsukuba 7:Department of Anatomy, Faculty of

Medicine, University of Miyazaki 8:Department of Clinical Biostatistics, Graduate School of Medicine, Kyoto University 9:Center for Clinical Research and Advanced Medicine, Shiga

University of Medical Science 10:Division of Genome Analysis Platform Development, National Cancer Center Research Institute 11:M and D Data Science Center, Tokyo Medical and

Dental University 12:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 13:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 14:Department of Pediatrics, St. Luke's International Hospital 15:Department of Hematology and Oncology, Miyagi Children's Hospital 16:Department of Hematology/Oncology, Saitama Children's Medical Center 17:Department of Pediatrics, Hiroshima University Graduate School of Biomedical Sciences 18:Department of Hematology and Oncology, Osaka City General Hospital 19:Department of Hematology/Oncology, Chiba Children's Hospital 20:Department of Pediatrics, Niigata University Graduate School Medical and Dental Sciences 21:Department of Hematology and Oncology, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital 22:Department of Pediatrics, Hiroshima Red Cross Hospital and Atomic-bomb Survivors Hospital 23:Department of Pediatrics, Yokohama City University Graduate School of Medicine 24:Department of Pediatrics, Mie University Graduate School of Medicine 25:Department of pediatrics, Gunma University Graduate School of Medicine 26:Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Kyoto University 27:Department of Pediatric Hematology and Oncology Research, National Research Institute for Child Health and Development 28:Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 29:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 30:Department of Human Health Sciences, Kyoto University 31:Department of Hematology and Oncology, Gunma Children's Medical Center 32:Institute of Physiology and Medicine, Jobu University 33:Department of Pediatrics, Shiga University of Medical Science 34:Clinical Research Center, National Hospital Organization Nagoya Medical Center 35:Department of Hematology and Oncology, Shizuoka Children's Hospital 36:Division of Leukemia and Lymphoma, Children's Cancer Center, National Center for Child Health and Development 37:Department of Medicine, Center for Hematology and Regenerative Medicine, Karolinska Institute, Stockholm, Sweden 38:Institute for the Advanced Study of Human Biology, Kyoto University 39:Department of Community Medicine, Hirosaki University Graduate School of Medicine  
Blood 143(25):2627–2643 2024

### **Integrated proteogenomic analysis for inherited bone marrow failure syndrome**

Wakamatsu M<sup>1</sup>, Muramatsu H<sup>1</sup>, Sato H<sup>2,3</sup>, Ishikawa M<sup>2</sup>, Konno R<sup>2</sup>, Nakajima D<sup>2</sup>, Hamada M<sup>1,4</sup>, Okuno Y<sup>4</sup>, Kawashima Y<sup>2</sup>, Hama A<sup>5</sup>, **Ito M<sup>6</sup>**, Iwafuchi H<sup>7</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, Ohara O<sup>2</sup>

1:Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Applied Genomics, Kazusa DNA Research Institute 3:Department of Pediatrics, Chiba University Graduate School of Medicine 4:Department of Virology, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences 5:Department of Hematology and Oncology, Children's Medical Center, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 6:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya First Hospital 7:Department of Pathology, Shizuoka Children's Hospital  
Leukemia 38(6):1256–1265 2024

### **Recent advances in bone marrow pathology for myeloproliferative neoplasms diagnosis**

**Ito M<sup>1,2</sup>**

1:ITO. MD Pathology Laboratory 2:Japanese Red Cross, Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, Department of Pathology  
Rinsho Ketsueki 65(8):778–783 2024

### **Long-term safety and efficacy of ropeginterferon alfa-2b in Japanese patients with polycythemia vera**

Kirito K<sup>1</sup>, Sugimoto Y<sup>2</sup>, Gotoh A<sup>3</sup>, Takenaka K<sup>4</sup>, Ichii M<sup>5</sup>, Inano T<sup>6,7</sup>, Shirane S<sup>6,7</sup>, **Ito M<sup>8</sup>**, Zagrijtschuk O<sup>9</sup>, Qin A<sup>10</sup>, Kawase H<sup>11</sup>, Sato T<sup>11</sup>, Komatsu N<sup>6,7,11</sup>, Shimoda K<sup>12</sup>

1:Department of Hematology and Oncology, University of Yamanashi 2:Department of Hematology and Oncology, Mie University Graduate School of Medicine 3:Department of Hematology, Tokyo Medical University 4:Department of Hematology, Clinical Immunology and Infectious Diseases, Ehime University Graduate School of Medicine 5:Department of Hematology and Oncology, Osaka University Graduate School of Medicine 6:Department of Hematology, Juntendo University Graduate School of Medicine 7:Department of Advanced Hematology, Juntendo University Graduate School of Medicine 8:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 9:PharmaEssentia Corporation USA 10:Medical Research and Clinical Operations, PharmaEssentia Corporation 11:PharmaEssentia Japan KK 12:Division of Hematology, Diabetes and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, University of Miyazaki  
International Journal of Hematology 120(6):675–683 2024

### **Late-onset disseminated BCG infection with hepatosplenomegaly after intravesical BCG immunotherapy in a non-immunocompromised patient**

Hotta Y<sup>1</sup>, Yoshioka N<sup>1</sup>, Sakamoto A<sup>1</sup>, Inagaki M<sup>2</sup>, Ito R<sup>2</sup>, **Shiraki K<sup>3</sup>**, **Kiriyaama A<sup>3</sup>**, Yokoyama T<sup>2</sup>, **Fujino M<sup>3</sup>**, Doisaki M<sup>1</sup>

1:Department of Gastroenterology and Hepatology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 3:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Clinical Journal of Gastroenterology 18(2):337–342 2024

### **Clinical features and risk factors for appendiceal diverticulitis: a comparative study with acute appendicitis**

Sugiura K<sup>1</sup>, Miyake H<sup>1</sup>, Nagai H<sup>1</sup>, Yoshioka Y<sup>1</sup>, Shibata K<sup>1</sup>, Yuasa N<sup>1</sup>, **Fujino M<sup>2</sup>**

1:Department of Gastrointestinal Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Surgery Today 54(6):551–564 2024

### **An appendiceal mucocoele associated with inverted epithelium and submucosal hyperplasia at the appendiceal root: a rare case report**

Asai S<sup>1</sup>, Miyake H<sup>1</sup>, Kato A<sup>1</sup>, Yuasa N<sup>1</sup>, **Takada R<sup>2</sup>**, **Fujino M<sup>2</sup>**

1:Department of Gastrointestinal Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Nagoya Journal of Medical Science 86(4):703–710 2024

### **Utility of Modified pancreaticoduodenectomy(Hi-cut PD)for middle third cholangiocarcinoma: an alternative to hepatopancreaticoduodenectomy**

Onoe S<sup>1</sup>, Mizuno T<sup>1</sup>, Watanabe N<sup>1</sup>, Yokoyama Y<sup>2</sup>, Igami T<sup>1</sup>, Yamaguchi J<sup>1</sup>, Sunagawa M<sup>2</sup>, Kawakatsu S<sup>1</sup>, **Shimoyama Y<sup>3</sup>**, Ebata T<sup>4</sup>

1:Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine; Division of Perioperative Medicine, Department of Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine. 3:Department of Pathology and Clinical Laboratories, Nagoya University Graduate School of Medicine 4:Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine  
HPB(Oxford) 26(4):530–540 2024



**A prospective study on the histological evaluation of type 1 autoimmune pancreatitis using endoscopic ultrasound-guided fine needle biopsy with a 19-gauge Franseen needle**

Ishikawa T<sup>1</sup>, Yamao K<sup>1</sup>, Mizutani Y<sup>1</sup>, Iida T<sup>1</sup>, Uetsuki K<sup>1</sup>, **Shimoyama Y<sup>2</sup>**, Nakamura M<sup>3</sup>, Furukawa K<sup>1</sup>, Yamamura T<sup>1</sup>, Kawashima H<sup>1</sup>

1:Department of Gastroenterology and Hepatology, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Pathology and Laboratory Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine 3:Department of Endoscopy, Nagoya University Hospital  
Journal of Hepato-Biliary- Pancreatic Sciences 31(8):581-590 2024

**Thorascopic Wedge Resection for Low-Grade Fibromyxoid Sarcoma(Evans Tumor) with Massive Calcification and Originating from the Lung: A Rare Case in an Unexpected Location**

Watanabe H<sup>1</sup>, Nakanishi K<sup>1</sup>, Ueno H<sup>1</sup>, Kato T<sup>1</sup>, **Shimoyama Y<sup>2</sup>**, Fengshi Chen-Yoshikawa T<sup>1</sup>

1:Department of Thoracic Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Department of Pathology, Nagoya University Graduate School of Medicine  
Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 30(1):23-00170 2024

**Reappraisal of carcinoma in situ residue at the bile duct margin: a single-center review of 681 patients with perihilar cholangiocarcinoma**

Yamamoto R<sup>1</sup>, Onoe S<sup>2</sup>, Mizuno T<sup>2</sup>, Watanabe N<sup>2</sup>, Kawakatsu S<sup>2</sup>, Sunagawa M<sup>2</sup>, Yamaguchi J<sup>2</sup>, Ogura A<sup>2</sup>, Baba T<sup>2</sup>, Igami T<sup>2</sup>, Yamada M<sup>2</sup>, **Shimoyama Y<sup>3</sup>**, Ebata T<sup>2</sup>

1:Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine; Department of Pathology and Clinical Laboratories, Nagoya University Graduate School of Medicine 2:Division of Surgical Oncology, Department of Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine 3:Department of Pathology and Clinical Laboratories, Nagoya University Graduate School of Medicine  
HPB(Oxford) 27(3):362-370 2025

**Appendiceal adenocarcinoma associated with Amyand's hernia: a case report**

Momota K<sup>1</sup>, Shibata K<sup>1</sup>, Miyake H<sup>1</sup>, Nagai H<sup>1</sup>, Yoshioka Y<sup>1</sup>, Yuasa N<sup>1</sup>, **Murakami H<sup>2</sup>**

1:Department of Gastrointestinal Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital  
Nagoya Journal of Medical Science 86(3):514-523 2024

**救急部・集中治療部**

**救助者は自動体外式除細動器(AED)の心電図解析および電気ショック施行時に胸骨圧迫を中断したか？**

金子洋<sup>1</sup>, 長瀬亜岐<sup>2</sup>, 丸川征四郎<sup>3</sup>

1:救急部 2:おひさまクリニック西宮 3:吹田徳洲会病院集中治療センター  
蘇生 43(1):8-11 2024

**薬剤部**

**Robotic Process Automation とDatawarehouse を活用した観血的処置後の一時中断薬再開忘れ防止対策**

榊原朋恵<sup>1</sup>, 榊原秀之<sup>1</sup>, 石川惣一<sup>1</sup>, 野村浩夫<sup>1</sup>, 近森清美<sup>2</sup>, 作間千夏<sup>2</sup>, 久保敦史<sup>3</sup>, 永井英雅<sup>4</sup>, 水野公雄<sup>5</sup>, 成瀬徳彦<sup>1</sup>

1:薬剤部 2:看護部 3:医療情報課 4:一般消化器外科 5:産婦人科  
医療薬学 50(4):170-178 2024

**Favorable Prognosis in Patients with Multiple Myeloma and Lenalidomide-induced Skin Rash: A Multicenter Retrospective Study**

Nakamura A<sup>1</sup>, Kimura Y<sup>2</sup>, Tanaka Y<sup>3</sup>, Tsuchimoto D<sup>4</sup>, **Naruse A<sup>5</sup>**, Kanematsu T<sup>6</sup>, Takeuchi K<sup>7</sup>, Tomita N<sup>8</sup>, Miyazawa K<sup>9</sup>, Fukuoka T<sup>4</sup>, Mori A<sup>10</sup>, Tamaki S<sup>11</sup>, Fujioaka A<sup>12</sup>, Yokoyama S<sup>13</sup>, Ikeda Y<sup>14</sup>, Nagai H<sup>15</sup>

1:Department of Pharmacy, National Hospital Organization Higashinagoya National Hospital 2:Department of Pharmacy, National Hospital Hokkaido Cancer Center 3:Department of Pharmacy, Gifu Municipal Hospital 4:Department of Pharmacy, Komaki City Hospital 5:Department of Pharmacy, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 6:Department of Pharmacy, Japan Community Health Care Organization Chukyo Hospital 7:Department of Pharmacy, Matsusaka Chuo General Hospital 8:Department of Pharmacy, Kouseiren Konan Kosei Hospital 9:Department of Pharmacy, National Hospital Organization Kanazawa Medical Center 10:Department of Pharmacy, Suzuka General Hospital 11:Department of Pharmacy, KKR Sapporo Medical Center 12:Department of Pharmacy, Takai Hospital 13:School of Pharmacy, Kidai University 14:College of Pharmacy, Kinjo Gakuin University 15:Department of Hematology, National Hospital Organization Nagoya Medical Center  
European Journal of Haematology 114: 267-275 2025

**慢性腎臓病(CKD)と心不全～薬学的介入の必要性～**

秋田桂汰<sup>1</sup>, 榊原秀之<sup>1</sup>, 石川惣一<sup>1</sup>, 松井孝美<sup>1</sup>, 成瀬徳彦<sup>1</sup>, 木下照常<sup>2,3</sup>, 安田知弘<sup>4</sup>, 田中章郎<sup>5</sup>, 山田成樹<sup>6</sup>

1:薬剤部 2:刈谷豊田総合病院薬剤部 3:熊本大学大学院生命科学研究部臨床薬理学分野 4:日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院薬剤部 5:大同病院薬剤部 6:藤田医科大学病院薬剤部  
愛知県病院薬剤師会雑誌(APJHP) 52(4):7-15 2024

## 栄養課

### 随時尿法を用いた食塩摂取量推定における尿採取タイミングによる推定値への影響

炭竈優太<sup>1,2</sup>, 青山敬成<sup>3</sup>, 井須紀文<sup>3</sup>, 永田雅昭<sup>3</sup>, 塚原丘美<sup>2</sup>

1:栄養課 2:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科 3:株式会社 LIXIL

日本病態栄養学会誌 27(2):193-200 2024

### Effectiveness of registered dietitian-led management of early nutritional support in the emergency intensive care unit: a retrospective observational study

Hayashi M<sup>1,2</sup>, Nishikido Y<sup>3</sup>, Banno H<sup>1</sup>, Tsuzuki M<sup>4</sup>, Tachibana E<sup>2</sup>, Tsukahara T<sup>2</sup>

1:Nutrition Section, Department of Medical Technology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Graduate School of Nutrition Science, Nagoya University of Arts and Sciences 3:Nursing Department, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 4:Intensive Care and Emergency Department, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

BMC Nutrition 10(1):96 2024

### Global Associations of the Traditional Japanese Diet Score with Hypertension Prevalence and Systolic Blood Pressure from 2009 to 2019: A CrossSectional and Longitudinal Ecological Study

Abe C<sup>1,2</sup>, Imai T<sup>2,3</sup>, Sezaki A<sup>2,4</sup>, Miyamoto K<sup>2,5</sup>, Kawase F<sup>2,6</sup>, Shirai Y<sup>2,7</sup>, Sanada M<sup>2,8</sup>, Inden A<sup>2,9</sup>, Sugihara N<sup>10</sup>, Honda T<sup>2,5</sup>, Sumikama Y<sup>2,11</sup>, Nosaka S<sup>2,12</sup>, Shimokata H<sup>2,12</sup>

1:Department of Food and Nutrition, Tsu City College 2:Institute of Health and Nutrition, Nagoya University of Arts and Sciences 3:Department of Food Science and Nutrition, Doshisha Women's College of Liberal Arts 4:National Cancer Center Japan 5:Department of Nursing, Nagoya University of Arts and Sciences 6:Department of Nutrition, Asuke Hospital Aichi Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives 7:Persuasive Technology Group, Life Science Laboratories, KDDI Research, Inc 8:Department of Nursing, Heisei College of Health Sciences 9:Clinical Nutrition Unit, Hamamatsu University Hospital 10:Faculty of Health and Social Services, Kanagawa University of Human Services 11:Department of nutrition, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 12:Graduate School of Nutritional Science, Nagoya University of Arts and Sciences

Journal of the American Nutrition Association 43(8):678-685 2024

### The association between the dietary fatty acid fraction and healthy life expectancy: Global spatiotemporal epidemiology from 2010 to 2019

Shirai Y<sup>1,2</sup>, Imai T<sup>2,3</sup>, Abe C<sup>2,4</sup>, Sezaki A<sup>2</sup>, Miyamoto K<sup>2,5</sup>, Kawase F<sup>2,6</sup>, Sanada M<sup>2,7</sup>, Inden A<sup>2,8</sup>, Sugihara N<sup>9</sup>, Honda T<sup>2,5</sup>, Sumikama Y<sup>2,10</sup>, Nosaka S<sup>3,11</sup>, Shimokata H<sup>2,11</sup>

1:Health and Medical Research Group, Think Tank Division, KDDI research, inc 2:Institute of health and nutrition, Nagoya university of arts and sciences 3:Department of Food Science and Nutrition, Doshisha Women's College of Liberal Arts 4:Department of food and nutrition, Tsu City College 5:Department of nursing, Nagoya University of Arts and Sciences 6:Department of nutrition, Asuke Hospital Aichi Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives 7:Department of nursing, Heisei College of Health Sciences 8:Clinical Nutrition Unit, Hamamatsu University Hospital 9:Faculty of Health and Social Services, Kanagawa University of Human Services 10:Department of nutrition, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 11:Graduate School of Nutritional Science, Nagoya University of Arts and Sciences

Journal of the American Nutrition Association 10:1-8 2025

## 看護部

### 就任初期の主任看護師が成長につながったと捉える看護管理上の経験

大島和美<sup>1</sup>, 森田恵美子<sup>2</sup>, 宇城令<sup>3</sup>, 賀沢弥貴<sup>3</sup>

1:看護部 2:愛知県看護協会 3:愛知県立大学大学院看護学研究科

日本看護管理学会誌 28(1):72-82 2024

## Ⅱ. 業 績

### 3. 学 会

令和6年4月～令和7年3月

## 腎臓内科

MPO-ANCA と抗 GBM 抗体陽性で、末期腎不全に至った若年女性にリツキシマブ投与後に腎移植を行った一例  
杉浦琢也<sup>1</sup>, 田中章仁<sup>2</sup>, 西堀暢浩<sup>2</sup>, 尾関貴哉<sup>2</sup>, 佐藤由香<sup>2</sup>, 前田佳哉輔<sup>2</sup>, 古橋和弘<sup>2</sup>, 加藤規利<sup>2</sup>, 小杉智規<sup>2</sup>, 丸山彰一<sup>2</sup>

1:腎臓内科 2:名古屋大学医学部附属病院腎臓内科

第 54 回日本腎臓学会西部学術大会 2024 年 10 月 姫路市

## 内分泌内科

遺伝子パネル検査を契機に見つかった PMS2 遺伝子の部分欠失によるリンチ症候群の 1 例

尾崎信暁<sup>1</sup>, 清田篤志<sup>1</sup>, 古俣知里<sup>2</sup>, 安藤智子<sup>3</sup>

1:内分泌内科 2:看護部 3:産婦人科

第 30 回日本遺伝性腫瘍学会学術集会 2024 年 5 月 仙台市

パセドウ病と 1 型糖尿病の治療中、糖尿病性ケトアシドーシスを契機に診断されたもやもや病の一例

武田由季, 清田篤志, 吉田詢, 林祐里, 今瀧柚衣, 土田真梨子, 尾崎信暁

第 97 回日本内分泌学会学術総会 2024 年 6 月 横浜市(Web)

重症背部膿瘍を契機とする糖尿病性ケトアシドーシスの 1 例

石田萌, 吉田詢, 武田由季, 林祐里, 今瀧柚衣, 土田真梨子, 清田篤志, 尾崎信暁

第 253 回内科学会東海地方会 2024 年 6 月 名古屋市

複数の動脈硬化性病変を合併した Composite pheochromocytoma の一例

吉田詢, 清田篤志, 石田萌, 武田由季, 林祐里, 今瀧柚衣, 土田真梨子, 尾崎信暁

第 253 回内科学会東海地方会 2024 年 6 月 名古屋市

ギボシラン中止後も良好な経過をたどっている遺伝性コプロポルフィリン症の 1 例

尾崎信暁, 林祐里, 吉田詢, 吉田薫, 清田篤志

第 65 回日本先天代謝異常学会学術集会 2024 年 11 月 東京都

巨大下垂体腫瘍をともなう下垂体卒中に対し保存的治療を行った 1 例

吉田薫, 清田篤志, 石田萌, 吉田詢, 武田由季, 林祐里, 今瀧柚衣, 尾崎信暁

第 255 回内科学会東海地方会 2025 年 2 月 名古屋市

## 血液内科

当院における CAR-T 細胞療法「イエスカルタ」導入に向けた取り組み

二村亜子<sup>1</sup>, 後藤辰徳<sup>1</sup>, 山中泰子<sup>1</sup>, 池口美代子<sup>1</sup>, 檜本和美<sup>1</sup>, 古賀一輝<sup>1</sup>, 西田徹也<sup>2</sup>

1:輸血部 2:血液内科

第 72 回日本輸血・細胞治療学会学術総会 2024 年 5 月 東京都

特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) の既往歴がある、高齢発症の急性前骨髄球性白血病 (APL) の一例

福岡翔, 久保篤史, 宇野友梨, 中谷記衣, 内藤知希, 石際康平, 土門洋祐, 加賀谷裕介, 後藤辰徳, 森下喬允, 西田徹也

第 13 回日本血液学会東海地方会 2024 年 6 月 名古屋市

MESENCHYMAL STEM CELL TREATMENT FOR INTESTINAL ACUTE GVHD COEXISTING WITH MICROANGIOPATHY

Naito T, Goto T, Uno Y, Kubo A, Nakatani N, Ishigiwa K, Domon Y, Fukuoka S, Kagaya Y, Morishita T, Nishida T

The 29th European Hematology Association Congress 2024 年 06 月 Madrid, Spain

急性骨髄性白血病同種移植後再発における HLA-DR 発現量低下についての検討

内藤知希, 河本知大, 宇野友梨, 田原玄寛, 中谷記衣, 福岡翔, 竹内裕貴, 加賀谷裕介, 後藤辰徳, 西田徹也

第 37 回日本組織適合性学会大会 2024 年 9 月 名古屋市

微小血管障害を併存する腸管急性 GVHD: ステロイド治療に対する不応性および間葉系幹細胞の有効性について

内藤知希, 後藤辰徳, 河本知大, 宇野友梨, 田原玄寛, 中谷記衣, 福岡翔, 竹内裕貴, 加賀谷裕介, 西田徹也

第 86 回日本血液学会学術集会 2024 年 10 月 京都府

当院における難治性 ITP に対する fostamatinib による治療経験

中谷記衣, 後藤辰徳, 河本知大, 宇野友梨, 田原玄寛, 内藤知希, 福岡翔, 竹内裕貴, 加賀谷裕介, 西田徹也

第 86 回日本血液学会学術集会 2024 年 10 月 京都府

骨髄内 CD20 陽性 B 細胞の割合は免疫性血小板減少症におけるステロイド治療反応性を予測する  
土門洋祐,後藤辰徳,宇野友梨,久保篤史,中谷記衣,内藤知希,石際康平,福岡翔,加賀谷裕介,森下喬允,小澤幸泰,西田徹也  
第 86 回日本血液学会学術集会 2024 年 10 月 京都府

当院における慢性 GVHD に対する体外フォトフェレーシスの導入と安全性の検討  
後藤辰徳,河本知大,宇野友梨,田原玄寛,中谷記衣,内藤知希,福岡翔,竹内裕貴,加賀谷裕介,西田徹也  
第 86 回日本血液学会学術集会 2024 年 10 月 京都府

FGFR1 融合遺伝子陽性の骨髄性腫瘍に対して FGFR 阻害剤を投与後に造血幹細胞移植を実施した一例  
加賀谷裕介,河本知大,宇野友梨,中谷記衣,田原玄寛,内藤知希,福岡翔,竹内裕貴,森下喬允,後藤辰徳,西田徹也  
第 86 回日本血液学会学術集会 2024 年 10 月 京都府

当院における造血幹細胞移植後に発症した日光角化症および皮膚癌に関する検討  
福岡翔,後藤辰徳,河本知大,宇野友梨,田原玄寛,中谷記衣,内藤知希,竹内裕貴,加賀谷裕介,西田徹也  
第 86 回日本血液学会学術集会 2024 年 10 月 京都府

当院におけるステロイド抵抗性又は不耐容の慢性 GVHD に対する体外フォトフェレーシスの安全性と有効性の検討  
後藤辰徳<sup>1,2</sup>,河本知大<sup>1</sup>,宇野友梨<sup>1</sup>,田原玄寛<sup>1</sup>,中谷記衣<sup>1</sup>,内藤知希<sup>1</sup>,福岡翔<sup>1</sup>,後藤知伽<sup>2</sup>,森下美香<sup>3</sup>,竹内裕貴<sup>1</sup>,加賀谷裕介<sup>1</sup>,西田徹也<sup>1,2</sup>  
1:血液内科 2:輸血部 3:薬剤部  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪府

当院における t(7;11)(p15;p15)/NUP98::HOXA9 を伴う AML に対する同種造血幹細胞移植の成績  
田原玄寛,河本知大,宇野友梨,中谷記衣,内藤知希,福岡翔,竹内裕貴,加賀谷裕介,後藤辰徳,西田徹也  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪府

骨髄線維症における Flu+Bu+TBI による同種造血幹細胞移植の有効性と骨髄線維化及び脾臓容積の変化の検討  
中谷記衣,河本知大,宇野友梨,田原玄寛,内藤知希,福岡翔,竹内裕貴,加賀谷裕介,後藤辰徳,西田徹也  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪府

慢性移植片対宿主病に対する体外フォトフェレーシスにおける医療者の業務量の検討  
西田徹也<sup>1</sup>,後藤辰徳<sup>1</sup>,城友泰<sup>2</sup>,常峰絃子<sup>3</sup>,有馬靖佳<sup>3</sup>,渡邊光正<sup>4</sup>,村田誠<sup>5</sup>,新井康之<sup>2</sup>  
1:血液内科 2:京都大学医学部附属病院細胞療法センター 3:神鋼記念病院血液内科 4:兵庫県立尼崎総合医療センター血液内科 5:滋賀医科大学内科学講座血液内科  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪府

臍帯血移植は PTCy を用いた Haplo 半合致移植と比較してより低い慢性 GVHD 発症率と優れた GRFS をもたらす  
内藤知希,河本知大,宇野友梨,中谷記衣,田原玄寛,福岡翔,竹内裕貴,加賀谷裕介,後藤辰徳,西田徹也  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 3 月 大阪府

無菌室管理期間における造血幹細胞移植患者の骨格筋変化に関連する因子の検討  
松永佑哉<sup>1</sup>,西田徹也<sup>2</sup>,中村和司<sup>1</sup>  
1:リハビリテーション科 2:血液内科  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 3 月 大阪府

## 総合診療科

転倒転落に考慮した論理的睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～  
宮川慶  
医療の安全・質を考える不眠症診療セミナー 2024 年 5 月 春日井市

転倒転落リスクに考慮した論理的睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～  
宮川慶  
不眠症治療セミナー in 根室～チーム医療の重要性～ 2024 年 5 月 根室市(Web)

高齢者・認知症患者がしっかりと眠るために必要な知識と対処法  
宮川慶  
不眠症病棟 web セミナー 9th 2024 年 5 月 人吉市

超高齢化時代に必要！高齢者・認知症患者の睡眠マネジメントの考え方  
宮川慶  
岐阜県睡眠セミナー 2024 年 6 月 岐阜市(Web)

超高齢化時代に必要！高齢者・認知症患者の睡眠マネジメントの考え方  
宮川慶  
第 66 回日本老年医学会学術集会 2024 年 6 月 名古屋

転倒転落リスクに配慮した論理的睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～

宮川慶

不眠症診療セミナー 2024 年 6 月 那須塩原市

時間をかけずにできる！明日からできる睡眠マネジメント

宮川慶

お昼の不眠症 web セミナー 2024 年 6 月 Web

明日から始める！医療安全対策に配慮した睡眠マネジメント

宮川慶

不眠症診療 web セミナー～認知症ケアチームとしての取り組みも踏まえて～ 2024 年 6 月 Web

これからの時代に必要！高齢者睡眠マネジメントのキモ

宮川慶

海部津島 Diabetes Sleep Premium Seminar 2024 2024 年 7 月 津島市(Web)

明日から使える！高齢者認知症患者の睡眠マネジメント法

宮川慶

令和 6 年度救急医療生涯教育研修会愛知県外科医会学術講演会 2024 年 7 月 名古屋(Web)

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

取手市医師会学術講演会～病棟での睡眠薬適正使用を考える～ 2024 年 7 月 取手市(Web)

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方～身体拘束最小化に向けた取り組みも踏まえて～

宮川慶

不眠症治療薬の適正使用を考える会～医療安全の観点から～ 2024 年 8 月 埼玉県入間郡

従来型→新規睡眠薬への切り替え法もマスター 高齢者・認知症患者の睡眠マネジメント法

宮川慶

日本専門医機構認定 2024 年度専門医共通講習 2024 年 8 月 滋賀県大津市

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

中濃睡眠セミナー 2024 年 8 月 関市

高齢者睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～

宮川慶

不眠症診療セミナー～認知症ケアチームの取り組みも踏まえて～ 2024 年 8 月 名古屋市(Web)

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

不眠症セミナーin 石川～チーム医療を考える～ 2024 年 9 月 Web

高齢者睡眠マネジメントに配慮した夜間頻尿治療のキモ

宮川慶

アボット×キッセイ地域連携推進セミナー 2024 年 9 月 Web

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

睡眠薬適正使用推進セミナーin 横浜～多職種で考える不眠症対策～ 2024 年 9 月 Web

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

古河・猿島郡地域フォーミュラリープロジェクト web セミナー 2024 年 9 月 Web

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

不眠症治療を考える会 in 碧南市 2024 年 9 月 碧南市(Web)

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

南大阪地域連携セミナー 2024 年 9 月 堺市(Web)

転倒転落リスクに配慮した論理的睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～

宮川慶

令和6年度日本精神科病院協会日本精神科医学会学術教育研修会薬剤師部門 2024年9月 伊勢市

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

ひたちなか睡眠薬 web セミナー～不眠症診療と医療安全を再考する～ 2024年9月 Web

これからの時代に必要な高齢者認知症睡眠マネジメント

宮川慶

天白区医師会臨床懇話会 2024年10月 名古屋市(Web)

身体拘束最小限にむけたはじめの一步

宮川慶

三重大学医学部付属病院医療安全講演 2024年10月 Web

医療安全の観点から考えるマネジメント～他職種で取り組む身体拘束対策も含めて～

宮川慶

不眠症対応を考える会 2024年11月 Web

明日からできる高齢者不眠症マネジメント

宮川慶

令和6年11月名東区学術講演会 2024年11月 名古屋市

誰でも簡単に取り組める医療安全 睡眠マネジメントからはじめよう！

宮川慶

諏訪赤十字病院医療安全講演 2024年11月 諏訪市

認知症早期発見と予防,認知症新薬のポイントおさえよう！認知症になりにくい正しい睡眠薬選択とは？

宮川慶

ベネッセスタイルケア認知症セミナー 2024年11月 名古屋市

夜間頻尿治療時にもちたい医療安全に配慮した睡眠マネジメントの視点

宮川慶

Ask the Expert webinar 2024年11月 東京都

転倒転落リスクに配慮した論理的睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～

宮川慶

睡眠薬適正使用セミナー 2024年12月 Web

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

不眠症診療マネジメントセミナー 2024年12月 Web

医療安全に配慮した睡眠マネジメント～せん妄リスク対策,身体拘束最小化に向けた取り組み～

宮川慶

不眠症診療セミナーin いわき 2024年12月 いわき市(Web)

これからの時代に必要な高齢者認知症睡眠マネジメント

宮川慶

不眠症治療 web seminar 2024年12月 Web

医療安全対策に配慮した睡眠マネジメント～身体拘束最小化を中心に～

宮川慶

医療安全セミナー～睡眠マネジメントを含めて～ 2025年1月 Web

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

不眠症治療を考える会 in 岡崎 2025年1月 岡崎市(Web)

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

中小病院実践セミナー in Nagoya 2025年2月 Web

せん妄,転倒転落対策を考慮した睡眠マネジメント

宮川慶

多職種連携不眠症診療セミナーin 東濃 2025 年 2 月 瑞浪市(Web)

医療安全対策に配慮した睡眠マネジメント～身体拘束最小化を中心に～

宮川慶

不眠症診療 web セミナーin 県央 2025 年 2 月 Web

高齢者睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～

宮川慶

水俣芦北不眠症診療セミナー 2025 年 2 月 Web

転倒転落リスクに配慮した論理的睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～

宮川慶

睡眠薬適正使用推進セミナーin 藤岡 2025 年 2 月 Web

転倒転落リスクに配慮した論理的睡眠マネジメント～良い睡眠でせん妄リスクを減らす～

宮川慶

多職種連携不眠症 web セミナー 2025 年 2 月 Web

これからの時代に必要の高齢者認知症睡眠マネジメント

宮川慶

西区学術講演会 2025 年 2 月 名古屋市

明日から始める！医療安全対策に配慮した睡眠マネジメント

宮川慶

医療安全と不眠症対策を考える会 in 沖縄 2025 年 3 月 Web

転倒転落リスクに配慮した論理的睡眠マネジメント～せん妄リスク対策,身体拘束最小化に向けた取り組み～

宮川慶

睡眠薬適正使用セミナー 2025 年 3 月 Web

医療安全の観点から考える睡眠マネジメント

宮川慶

栃木県薬剤師会・病院薬剤師会 学術講演会 2025 年 3 月 Web

良い睡眠で導く医療安全:看護ケアの重要ポイント-せん妄と転倒を未然に防ぐ効果的アプローチ-

宮川慶

看護師さんむけの睡眠マネジメント web seminar 2025 年 3 月 Web

医療安全対策に配慮した睡眠マネジメント-身体的拘束最小化を中心に-

宮川慶

睡眠マネジメントセミナー 2025 年 3 月 桑名市

医療安全の観点から考える睡眠マネジメント

宮川慶

睡眠マネジメントセミナー 2025 年 3 月 三重県三重郡

病棟の負担を減らす睡眠薬の使い方・考え方～せん妄リスク・転倒転落リスク対応も含めて～

宮川慶

睡眠薬適正使用 web セミナー 2025 年 3 月 Web

## 脳神経内科

中枢神経系に晩期再発した乳癌患者 3 例の臨床的検討

福野貴仁<sup>1</sup>,安藤孝志<sup>1</sup>,渡邊はづき<sup>1</sup>,後藤洋二<sup>1</sup>,藤野雅彦<sup>2</sup>

1:脳神経内科 2:病理部

第 65 回日本神経学会学術大会 2024 年 5 月 東京都

MSA の臨床診断基準を満たした例の神経病理像の多様性

安藤孝志

第 65 回日本神経学会学術大会 2024 年 5 月 東京都



発熱と後頭部痛で発症し、各種検査で石灰沈着が検出されなかった頸長筋炎の一例  
長谷川智哉,安藤孝志,渡邊はづき,後藤洋二  
第 169 回日本神経学会東海北陸地方会 2024 年 7 月 名古屋市

重度四肢麻痺を呈した片側の延髄および上位頸髄梗塞の一例  
山本満里奈,三澤尚史,安藤孝志,渡邊はづき,後藤洋二  
第 169 回日本神経学会東海北陸地方会 2024 年 7 月 名古屋市

Valosin-containing protein(VCP)遺伝子変異による多系統蛋白質症  
安藤孝志<sup>1,2</sup>,鈴木将史<sup>3</sup>,勝野雅央<sup>4</sup>  
1:脳神経内科 2:愛知医科大学加齢医科学研究所 3:名古屋大学医学部附属病院検査部 4:名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学  
第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会 2024 年 10 月 札幌市

治療抵抗性のてんかん重積発作で発症した橋本脳症の 1 例  
片岡真由美<sup>1</sup>,飯塚高浩<sup>2</sup>,安藤孝志<sup>1</sup>,渡邊はづき<sup>1</sup>,後藤洋二<sup>1</sup>  
1:脳神経内科 2:北里大学脳神経内科学  
第 170 回日本神経学会東海北陸地方会 2024 年 11 月 金沢市

免疫グロブリン大量静注療法後に遅発性片側顔面神経麻痺が出現した Guillain-Barré 症候群(GBS)の 1 例  
朝倉知海<sup>1</sup>,片岡真由美<sup>1</sup>,岩村祥平<sup>2</sup>,安藤孝志<sup>1</sup>,渡邊はづき<sup>1</sup>,後藤洋二<sup>1</sup>  
1:脳神経内科 2:耳鼻咽喉科  
第 170 回日本神経学会東海北陸地方会 2024 年 11 月 金沢市

両側後大脳動脈領域梗塞により Dide-Botcazo 症候群を呈した 1 例  
伊藤理樹,渡邊はづき,安藤孝志,後藤洋二  
第 170 回日本神経学会東海北陸地方会 2024 年 11 月 金沢市

両側大脳皮質病変を伴った Wernicke 脳症の 1 例  
橋本寛子,片岡真由美,朝倉知海,安藤孝志,渡邊はづき,後藤洋二  
第 170 回日本神経学会東海北陸地方会 2024 年 11 月 金沢市

頸髄病変で発症し、経過中に乳癌の併存が判明した MOG 抗体関連疾患の一例  
鵜飼陽一,安藤孝志,渡邊はづき,後藤洋二  
第 171 回日本神経学会東海北陸地方会 2025 年 3 月 名古屋市

経過中に帯状疱疹性脊髄炎を併発し、臨床的再発との鑑別を要した多発性硬化症の一例  
長谷川智哉,小谷慧,安藤孝志,渡邊はづき,後藤洋二  
第 171 回日本神経学会東海北陸地方会 2025 年 3 月 名古屋市

腰膨大レベルの後脊髄動脈領域梗塞により一側下肢に全感覚障害を呈した 1 例  
小椋陽介,片岡真由美,安藤孝志,渡邊はづき,後藤洋二  
第 171 回日本神経学会東海北陸地方会 2025 年 3 月 名古屋市

環軸椎不安定症による動的圧迫の関与が疑われた頸髄症の 1 例  
橋本寛子,安藤孝志,渡邊はづき,後藤洋二  
第 171 回日本神経学会東海北陸地方会 2025 年 3 月 名古屋市

## 循環器内科

難民認定申請中に急性心筋梗塞による心停止となった外国人診療を経験して  
川浪匡史<sup>1,2</sup>,都築通孝<sup>1,2</sup>,花木芳洋<sup>1</sup>,古田翔太郎<sup>3</sup>,大鐘隆宏<sup>4</sup>,島田香穂梨<sup>4</sup>,榎本伸一<sup>5</sup>,田畑真規子<sup>5</sup>,野坂真希<sup>5</sup>,平野二郎<sup>6</sup>,奥村仁哉<sup>7</sup>  
1:救急部 2:集中治療部 3:循環器内科 4:看護部 5:医療社会事業部 6:医事業務管理課 7:事務部総務課  
第 39 回日本救命医療学会総会学術集会 2024 年 9 月 福岡市

急性期病院から転院を要した心不全患者の 1 年予後調査  
西川大樹<sup>1</sup>,藍澤洋介<sup>1</sup>,名和森太郎<sup>1</sup>,石丸曜<sup>1</sup>,松原修<sup>1</sup>,安田健一郎<sup>2</sup>  
1:リハビリテーション科 2:循環器内科  
第 8 回日本循環器理学療法学会学術大会 2024 年 11 月 仙台市

クレアチンとシスタチン C で算出された eGFR 値は心不全患者における身体的フレイルの有無によって異なるか  
石丸曜<sup>1</sup>,西川大樹<sup>1</sup>,藍澤洋介<sup>1</sup>,名和森太郎<sup>1</sup>,松原修<sup>1</sup>,安田健一郎<sup>2</sup>,山田純生<sup>3</sup>  
1:リハビリテーション科 2:循環器内科 3:愛知医科大学循環器内科  
第 8 回日本循環器理学療法学会学術大会 2024 年 11 月 仙台市

心不全管理及びフレイル改善を目的に外来心臓リハビリテーションで継続介入した劇症型心筋症の一例

名和森太郎<sup>1</sup>, 藍澤洋介<sup>1</sup>, 西川大樹<sup>1</sup>, 石丸曜<sup>1</sup>, 小川恵<sup>2</sup>, 荻野隼己<sup>3</sup>, 山田純生<sup>4</sup>

1:リハビリテーション科 2:看護部 3:循環器内科 4:愛知医科大学循環器内科

第10回日本心臓リハビリテーション学会東海支部地方会 2024年12月 名古屋市

## 呼吸器内科

当院における肺胞蛋白症7例の検討

廣島正雄, 吉田健太, 白髭彩, 松浦彰彦, 都島悠佑, 山田悠貴, 稲垣雅康, 田中麻里, 小玉勇太, 伊藤亮太, 竹山佳宏, 横山俊彦

第64回日本呼吸器学会学術講演会 2024年4月 横浜市

左上顎洞炎に対する手術を契機に発見された副鼻腔結核の一例

古澤秀一朗, 吉田健太, 白髭彩, 松浦彰彦, 廣島正雄, 都島悠佑, 山田悠貴, 田中麻里, 稲垣雅康, 小玉勇太, 伊藤亮太, 竹山佳宏, 横山俊彦

第125回日本呼吸器学会東海地方会 2024年6月 名古屋市

遠位型の細気管支腺腫/線毛性粘液結節性乳頭状腫瘍と診断された3例

吉田健太, 横山俊彦, 竹山佳宏, 伊藤亮太, 小玉勇太, 稲垣雅康, 田中麻里, 山田悠貴, 都島悠佑, 廣島正雄, 松浦彰彦, 白髭彩

第125回日本呼吸器学会東海地方会 2024年6月 名古屋市

軟性気管支鏡にて摘出した植物性気管支異物の1例

白髭彩, 吉田健太, 松浦彰彦, 廣島正雄, 都島悠佑, 山田悠貴, 田中麻里, 稲垣雅康, 小玉勇太, 伊藤亮太, 竹山佳宏, 横山俊彦

第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2024年6月 大阪市

局所麻酔下胸腔鏡検査にて診断に至った甲状腺乳頭癌の未分化転化の一例

松浦彰彦, 吉田健太, 白髭彩, 廣島正雄, 都島悠佑, 山田悠貴, 田中麻里, 稲垣雅康, 小玉勇太, 伊藤亮太, 竹山佳宏, 横山俊彦

第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2024年6月 大阪市

デュレルパルマブによる免疫関連有害事象として多発脳神経障害を呈した肺腺癌の一例

小川紗葵<sup>1</sup>, 三澤尚史<sup>2</sup>, 吉田健太<sup>1</sup>, 安藤守恭<sup>1</sup>, 廣島正雄<sup>1</sup>, 稲垣雅康<sup>1</sup>, 田中麻里<sup>1</sup>, 小玉勇太<sup>1</sup>, 伊藤亮太<sup>1</sup>, 竹山佳宏<sup>1</sup>, 横山俊彦<sup>1</sup>

1:呼吸器内科 2:脳神経内科

第126回日本呼吸器学会東海地方会 2024年10月 岐阜市

当院における進展型小細胞肺癌に対するPD-L1阻害薬治療導入前後の治療成績に関する後方視的検討

安藤守恭, 竹山佳宏, 横山俊彦, 吉田健太, 廣島正雄, 田中麻里, 稲垣雅康, 小玉勇太, 伊藤亮太

第65回日本肺癌学会学術集会 2024年11月 横浜市

## 消化器内科

小児がんサバイバーに発生する肝限局性結節性過形成の超音波画像の特徴

吉岡直輝<sup>1</sup>, 鷺見肇<sup>1</sup>, 土居崎正雄<sup>1</sup>, 土居崎小夜子<sup>2</sup>, 吉田奈央<sup>2</sup>, 濱麻人<sup>2</sup>, 西田徹也<sup>3</sup>, 山口丈夫<sup>1</sup>, 春田純一<sup>1</sup>

1:消化器内科 2:小児医療センター血液腫瘍科 3:血液内科

日本超音波医学会第97回学術集会 2024年6月 横浜市

原因不明のmicrovesicular steatosisの1例

伊藤優理子, 吉岡直輝, 丸川高弘, 藤吉俊尚, 鷺見肇, 土居崎正雄, 山口丈夫, 春田純一

第60回日本肝臓学会総会 2024年6月 熊本市

抗ウイルス治療によるHCV RNA陰性化の7年後にC型急性肝炎を発症した1例

伊藤優理子, 川瀬祐, 吉岡直輝, 丸川高弘, 藤吉俊尚, 鷺見肇, 山口丈夫, 土居崎正雄

第253回日本内科学会東海地方会 2024年6月 名古屋市

脂肪肝と肥満症

吉岡直輝

日本内科学会専門医部会第36回東海支部教育セミナー 2024年6月 名古屋市

ソナゾイド造影超音波内視鏡検査で特徴的な画像所見を呈した腭 epidermoid cyst の1例

高木大貴, 鷺見肇, 山口丈夫, 吉岡直輝, 土居崎正雄

第45回日本超音波医学会中部地方学術集会 2024年9月 名古屋市

Vonoprazan or proton-pump inhibitor for gastric endoscopic submucosal dissection in patients taking antithrombotic agents: a randomized prospective multicenter study (V-POINT study)

Fujiyoshi T<sup>1</sup>, Shibata H<sup>2</sup>, Kakushima N<sup>3</sup>

1:Department of Gastroenterology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2:Department of Gastroenterology and Hepatology, Nagoya University Graduate School of Medicine 3:Department of Gastroenterology, The University of Tokyo

第32回日本消化器関連学会週間 Japan Digestive Disease Week 2024 (JDDW2024) 2024年11月 神戸

## 精神科

極低出生体重児における修正 1 歳 6 ヶ月時の発達指数および M-CHAT と 6 歳児の知能指数との関連—M-CHAT を調整変数として—  
吉田翔子<sup>1</sup>, 大城誠<sup>2</sup>, 杉山裕一朗<sup>2</sup>, 中山淳<sup>2</sup>, 丹羽早智子<sup>1</sup>, 鈴木小央里<sup>1</sup>, 村瀬彩夏<sup>1</sup>

1: 精神科 2: 小児科

第 51 回ハイリスク児フォローアップ研究会 2024 年 6 月 浜松市

小児科病棟における心理職の活動と他職種との連携—職能団体を通じた実態調査から—

春日部好香<sup>1</sup>, 高橋久美<sup>2</sup>, 丹羽早智子<sup>3</sup>, 水島みゆき<sup>4</sup>, 守村麻子<sup>5</sup>, 永田雅子<sup>6</sup>

1: 名古屋大学教育発達科学研究科 2: 名古屋医療センター小児科 3: 精神科 4: 静岡県立こども病院 5: あいち小児保健医療総合センター 6: 名古屋大学心の発達支援研究実践センター

日本心理臨床学会第 43 回大会 2024 年 8 月 横浜市

小児がん入院治療過程における患児および家族への心理職の支援の検討

丹羽早智子, 鈴木小央里, 前原沙織, 村瀬彩夏, 吉田翔子, 白川由里

第 24 回中部小児がんトータルケア研究会 2024 年 10 月 津市

遊びを通した入院児への心理的介入～こころのケアとしての「遊び」と発達支援としての「遊び」～

吉田翔子

第 24 回中部小児がんトータルケア研究会 2024 年 10 月 津市

極低出生体重児における 6 歳時の知的発達に関連する M-CHAT 項目の検討

吉田翔子<sup>1</sup>, 杉山裕一朗<sup>2</sup>, 丹羽早智子<sup>1</sup>, 中山淳<sup>2</sup>, 大城誠<sup>2</sup>

1: 精神科 2: 小児科

第 68 回新生児成育医学会・学術集会 2024 年 11 月 松本市

超早産児の社会性の発達—2 歳児を対象とした社会的注意の特徴—

三谷真優<sup>1</sup>, 佐藤義朗<sup>2</sup>, 村松友佳子<sup>2</sup>, 大城誠<sup>3</sup>, 丹羽早智子<sup>4</sup>, 吉田翔子<sup>4</sup>, 加藤有一<sup>5</sup>, 永田雅子<sup>1</sup>

1: 名古屋大学心の発達支援研究実践センター 2: 名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター新生児部門 3: 小児科 4: 精神科 5: 安城更生病院小児科

第 68 回新生児成育医学会・学術集会 2024 年 11 月 松本市

## 小児科

新生仔豚低酸素性虚血性脳症モデルにおける低体温療法・水素ガス吸入併用療法による痙攣発作軽減効果

土屋冬威<sup>1,2</sup>, 井上依里<sup>2</sup>, 杉山裕一朗<sup>3</sup>, 中尾泰浩<sup>2</sup>, 井上公太<sup>2</sup>, 西岡克文<sup>2</sup>, 福家典子<sup>2</sup>, 若林替幸<sup>2</sup>, 中村信嗣<sup>1</sup>, 小谷野耕佑<sup>4</sup>, 近藤因子<sup>2</sup>, 日下隆<sup>2</sup>

1: 三豊総合病院 2: 香川大学医学部小児科 3: 小児科 4: 香川大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター

第 127 回日本小児科学会学術集会 2024 年 4 月 福岡市

蘇生後の短時間水素ガス吸入に脳障害軽減効果はあるのか? ～新生仔豚仮死モデルを用いた基礎的検討～

井上依里<sup>1</sup>, 土屋冬威<sup>1</sup>, 杉山裕一朗<sup>2</sup>, 中村信嗣<sup>1</sup>, 井上公太<sup>1</sup>, 川口幸穂<sup>1</sup>, 横田崇之<sup>1</sup>, 光家努<sup>6</sup>, 坂本浩助<sup>3</sup>, 中尾泰浩<sup>1</sup>, 有岡誠<sup>1</sup>, 森田啓督<sup>1</sup>, 小谷野耕佑<sup>4</sup>, 安田真之<sup>5</sup>, 岩瀬孝志<sup>4</sup>, 日下隆<sup>1</sup>

1: 香川大学医学部小児科 2: 小児科 3: 香川大学医学部心臓血管外科 4: 香川大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 5: 香川大学医学部附属病院卒後臨床研修センター 6: 香川大学医学部附属病院臨床工学部

第 127 回日本小児科学会学術集会 2024 年 4 月 福岡市

生後早期に診断できた新生児期発症 ATP1A3 関連神経障害の 1 例

土屋研人<sup>1</sup>, 田中雅大<sup>1</sup>, 杉山裕一朗<sup>1</sup>, 竹内智哉<sup>1</sup>, 齋藤伸治<sup>2</sup>, 鈴木寿人<sup>3</sup>, 武内俊樹<sup>4</sup>, 大城誠<sup>1</sup>

1: 小児科 2: 名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野 3: 筑波大学医学医療系医学数理情報学 4: 岡山大学学術研究院医歯薬学域小児発達病因病態学

第 127 回日本小児科学会学術集会 2024 年 4 月 福岡市

脳波トレンドプログラム amplitude-integrated EEG

杉山裕一朗

第 66 回日本小児神経学会学術集会 2024 年 5 月 名古屋市

極低出生体重で出生し修正 2 ヶ月からのイブプロフェンが有用であった最重症 4a 型 Bartter 症候群の 1 例

竹田早織<sup>1</sup>, 杉山裕一朗<sup>1</sup>, 多代篤史<sup>2</sup>, 近藤淳<sup>3</sup>, 野津寛大<sup>3</sup>, 榎本さやか<sup>1</sup>, 神原紀香<sup>1</sup>, 近藤真生<sup>1</sup>, 濱崎咲也子<sup>1</sup>, 立花貴史<sup>1</sup>, 浅田英之<sup>1</sup>, 齊藤明子<sup>1</sup>, 中山淳<sup>1</sup>, 大城誠<sup>1</sup>

1: 小児科 2: 地域医療機能推進機構中京病院小児科 3: 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野

第 59 回日本小児腎臓病学会学術集会 2024 年 5 月 福岡市

#### 小児再生不良性貧血・MDS 形態中央診断年次報告

濱麻人

第 30 回小児再生不良性貧血治療研究会 2024 年 5 月 札幌市

プロテイン S 欠乏症を合併した T 細胞性急性リンパ性白血病

前村遼, 相川拓哉, 竹田早織, 北澤宏展, 吉田奈央, 濱麻人

第 94 回東海小児血液懇話会 2024 年 6 月 Web

#### MEF2D::SS18 陽性 B 細胞性急性リンパ性白血病に対する同種骨髄移植

林大地, 矢内里紗, 小川晃太郎, 北澤宏展, 秋田直洋, 吉田奈央, 濱麻人

第 13 回日本血液学会東海地方会 2024 年 6 月 名古屋市

#### Pediatric Pancreatic Acinar Cell Carcinoma treated with FOLFIRINOX therapy

Yanai R<sup>1</sup>, Akita N<sup>1</sup>, Hayashi D<sup>1</sup>, Ogawa K<sup>1</sup>, Kitazawa H<sup>1</sup>, Tani Y<sup>2</sup>, Murase N<sup>2</sup>, Takada R, Fujino M<sup>3</sup>, Yoshida N<sup>1</sup>, Hama A<sup>1</sup>

1:Department of Pediatrics, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital, 2:Department of Pediatric Surgery, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya

Daiichi Hospital 3:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

16th Congress of Asia continental branch of International Society of Paediatric Oncology 2024 年 6 月 横浜市

#### 類洞閉塞症候群を発症した MNX1::ETV6 陽性急性骨髄性白血病の乳児例

林大地, 下澤諒大, 大竹輝, 前村遼, 北澤宏展, 吉田奈央, 濱麻人

第 71 回東海小児造血細胞移植研究会 2024 年 7 月 Web

#### 小児 AA・MDS の骨髄形態診断

濱麻人<sup>1</sup>, 岩淵英人<sup>2</sup>

1:小児科 2:静岡県立こども病院病理診断科

第 19 回小児 AA・MDS web 講演会 2024 年 7 月 Web

#### 臍帯結紮されずに院外から心肺停止状態で搬送されて神経学的障害なく救命できた超早産児例

神原紀香, 榎本さやか, 近藤真生, 濱崎咲也子, 立花貴史, 浅田英之, 杉山裕一朗, 齊藤明子, 中山淳, 大城誠

第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会 2024 年 7 月 大阪市

#### 超早産児における新生児期経皮的動脈血酸素飽和度の目標範囲順守率と 6 歳時知的発達の関連性

大城誠, 神原紀香, 近藤真生, 濱崎咲也子, 立花貴史, 杉山裕一朗, 浅田英之, 齊藤明子, 中山淳

第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会 2024 年 7 月 大阪市

#### 動画をを用いた modified Sarnat Score による低酸素虚血性脳症診断講習会前後の診断精度改善についての報告

杉山裕一朗<sup>1</sup>, 柴崎淳<sup>2</sup>, 津田兼之介<sup>3</sup>, 竹内章人<sup>4</sup>, 木下正啓<sup>5</sup>, 北井征宏<sup>6</sup>, 中村信嗣<sup>7</sup>, 青木宏諭<sup>8</sup>, 向井丈雄<sup>9</sup>, 五百蔵智明<sup>10</sup>, 高橋章仁<sup>11</sup>, 豊奈々絵<sup>12</sup>, 岩田欧介<sup>3</sup>

1:小児科 2:神奈川県立こども医療センター新生児科 3:名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野 4:国立病院機構岡山医療センター新生児科・小児神経内科 5:久

留米大学医学部小児科学講座 6:ボパース記念病院小児神経科 7:香川大学医学部小児科学講座 8:奈良県立医科大学附属病院周産期医療センター新生児集中治療部門 9:東京

大学医学部附属病院小児科 10:姫路赤十字病院総合周産期母子医療センター小児科 11:大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院小児科 12:淀川クリスト教病院周産期母子医療

センター

第 60 回日本周産期・新生児医学会学術集会 2024 年 7 月 大阪市

#### 啼泣時のチアノーゼを契機に診断した左上大静脈左房還流に気管軟化症を合併した 1 例

荒木未希絵, 三井さやか, 島田茉奈, 田中雅大, 西門優一, 竹内智哉, 牧野篤司, 福見大地

第 291 回日本小児科学会東海地方会 2024 年 7 月 名古屋市

#### 当院における小児肥大型心筋症(HCM)・心筋肥大の中期予後

三井さやか, 福見大地

第 60 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2024 年 7 月 福岡市

#### 当院で経験したてんかん発作が初発症状であった脳腫瘍の 4 例

荒木未希絵, 田中雅大, 竹内智哉

第 60 回日本小児神経学会東海地方会 2024 年 7 月 名古屋市

#### Trisomy21 を伴わない CAVSD Eisenmenger 症候群に 17 歳に対する treat and repair に向けた治療

福見大地<sup>1</sup>, 相馬桂<sup>2</sup>, 八尾厚史<sup>2</sup>

1:小児科 2:東京大学附属病院循環器内科

第 136 回東海小児循環器談話会 2024 年 7 月 名古屋市

#### MRI の Arterial spin labeling シーケンスで低灌流が特徴的であった予後不良な痙攣重積型(二相性)急性脳症の 2 症例

荒木未希絵, 田中雅大, 西門優一, 牧野篤司, 三井さやか, 竹内智哉, 福見大地

第 59 回中部日本小児科学会学術集会 2024 年 8 月 津市

#### 出生時から側頭骨、胸壁および腹腔内に石灰化を伴う腫瘤を認めた新生児例

相川拓哉, 北澤宏展, 村瀬成彦, 谷有希子, 竹田早織, 前村遼, 吉田奈央, 小出莉央, 村上秀樹, 伊藤雅文, 濱麻人

第 85 回東海小児がん研究会 2024 年 9 月 名古屋市

### 移植後再発急性リンパ性白血病の小児若年患者に対する2回目の造血細胞移植の成績と予後因子

宮川直将<sup>1,20</sup>, 加藤元博<sup>2,20</sup>, 岡本康裕<sup>3,20</sup>, 篠原明仁<sup>4,21</sup>, 立花崇孝<sup>5,21</sup>, 名島悠峰<sup>6,21</sup>, 堺田恵美子<sup>7,21</sup>, 吉田奈央<sup>8</sup>, 照井君典<sup>9</sup>, 佐野秀樹<sup>10</sup>, 吉原哲<sup>11</sup>, 康勝好<sup>12</sup>, 岡田恵子<sup>13</sup>, 佐藤真穂<sup>14</sup>, 川口浩史<sup>15</sup>, 佐藤篤<sup>16</sup>, 日野もえ子<sup>17</sup>, 田渕健<sup>18</sup>, 坂口大俊<sup>19,20</sup>

1: 神奈川県立こども医療センター血液・腫瘍科 2: 東京大学小児科 3: 鹿児島大学小児科 4: 東京女子医科大学血液内科 5: 神奈川県立がんセンター血液内科 6: 東京都立駒込病院血液内科 7: 千葉大学血液内科 8: 小児科 9: 弘前大学小児科 10: 福島県立医科大学小児腫瘍内科 11: 兵庫医科大学血液内科 12: 埼玉県立小児医療センター血液・腫瘍科 13: 大阪市立総合医療センター小児血液・腫瘍内科 14: 大阪母子医療センター血液・腫瘍科 15: 広島大学小児科 16: 宮城県立こども病院血液腫瘍科 17: 千葉大学小児科 18: 日本造血細胞移植データセンター 19: 国立成育医療研究センター小児がんセンター 20: 日本造血・免疫細胞療法学会ワーキンググループ急性リンパ性白血病【成人】 21: 日本造血・免疫細胞療法学会ワーキンググループ急性リンパ性白血病【小児】

第86回日本血液学会学術集会 2024年10月 京都市

### 慢性肺疾患合併超早産児における新生児期経皮的動脈血酸素飽和度の目標範囲順守率と6歳時知的発達との関連性

大城誠, 竹内陽平, 神原紀香, 近藤真生, 濱崎咲也子, 立花貴史, 杉山裕一朗, 齊藤明子, 中山淳

第68回日本新生児成育医学会・学術集会 2024年10月 松本市

### 当院出生の在胎35週以下の早産児における鼠経ヘルニア手術例の検討

竹内陽平, 杉山裕一朗, 大瀧悠嗣, 神原紀香, 近藤真生, 濱崎咲也子, 立花貴史, 齊藤明子, 中山淳, 谷有希子, 村瀬成彦, 大城誠

第292回日本小児科学会東海地方会 2024年11月 豊明市

### 脳室内投与と酵素補充療法を併用して造血幹細胞移植を実施したMPS-II症例

濱麻人

第65回日本先天代謝異常学会 2024年11月 東京都

### 強度減弱前処置を用いた造血細胞移植後に甲状腺乳頭がんを発症したnear haploid ALL

前村遼, 相川拓哉, 大竹輝, 北澤宏展, 土居崎小夜子, 吉田奈央, 濱麻人

第72回東海小児造血細胞移植研究会 2024年11月 Web

### 小児血液疾患の鑑別診断

濱麻人

第14回若手臨床血液学セミナー 2024年11月 Web

### 寛解導入療法中にカテーテル関連静脈血栓症を発症した先天性プロテインS欠損症に合併したT-ALL

前村遼<sup>1</sup>, 林大地<sup>1</sup>, 下澤諒大<sup>1</sup>, 北澤宏展<sup>1</sup>, 吉田奈央<sup>1</sup>, 谷有希子<sup>2</sup>, 村瀬成彦<sup>2</sup>, 濱麻人<sup>1</sup>

1: 小児科 2: 小児外科

第66回日本小児血液・がん学会学術集会 2024年12月 京都市

### 第一寛解期に同種骨髄移植を行ったMEF2D::SS18陽性PreB-急性リンパ性白血病

林大地, 下澤諒大, 大竹輝, 前村遼, 北澤宏展, 吉田奈央, 濱麻人

第66回日本小児血液・がん学会学術集会 2024年12月 京都市

### 複数回移植を受けた小児急性骨髄性白血病患者の予後因子

吉田秀樹<sup>1,2</sup>, 岩本彰太郎<sup>2</sup>, 嶋田明<sup>2</sup>, 宮村能子<sup>2</sup>, 照井君典<sup>2</sup>, 佐野弘純<sup>2</sup>, 田村彰広<sup>2</sup>, 溝口洋子<sup>2</sup>, 森谷京子<sup>2</sup>, 今村俊彦<sup>2</sup>, 大杉夕子<sup>2</sup>, 濱麻人<sup>2,3</sup>

1: 京都府立医科大学大学院医学研究科小児科学 2: JACLS AML小委員会 3: 小児科

第66回日本小児血液・がん学会学術集会 2024年12月 京都市

### エレンタール投与中にビタミンK欠乏による凝固障害を生じた2症例

相川拓哉, 田中雅大, 竹内智哉

第61回日本小児神経学会東海地方会 2025年1月 名古屋市

### 重篤な乳糜腹水を合併した肝未分化肉腫の女児例

大竹輝, 北澤宏展, 前村遼, 吉田奈央, 濱麻人

第86回東海小児がん研究会 2025年2月 名古屋市

### ALL治療中に組織球肉腫を発症した女児例

島田茉奈, 北澤宏展, 大竹輝, 前村遼, 吉田奈央, 濱麻人

第96回東海小児血液懇話会 2025年2月 Web

### 多彩な合併症を呈しサイトカインプロファイルが有用であった川崎病の男児

島田茉奈<sup>1</sup>, 三井さやか<sup>1</sup>, 梶野真帆<sup>2</sup>, 金子修也<sup>2</sup>, 田中雅大<sup>1</sup>, 西門優一<sup>1</sup>, 竹内智哉<sup>1</sup>, 牧野篤司<sup>1</sup>, 清水正樹<sup>2</sup>, 福見大地<sup>1</sup>

1: 小児科 2: 東京科学大学病院小児科

第293回日本小児科学会東海地方会優秀演題賞 2025年2月 名古屋市

**複数回移植を要した小児急性骨髄性白血病症例に対する終末期ケア・共同意思決定の検討**

吉田秀樹<sup>1,2</sup>, 岩本彰太郎<sup>1,3</sup>, 嶋田明<sup>1,4</sup>, 宮村能子<sup>1,5</sup>, 照井君典<sup>1,6</sup>, 佐野弘純<sup>1,7</sup>, 田村彰広<sup>1,8</sup>, 溝口洋子<sup>1,9</sup>, 森谷京子<sup>1,10</sup>, 今村俊彦<sup>1,2</sup>, 大杉夕子<sup>1,11</sup>, 濱麻人<sup>1,12</sup>

1:日本小児白血病研究会(JACLS), AML 小委員会 2:京都府立医科大学附属病院小児科 3:みえキッズ&ファミリーホームケアクリニック 4:自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科 5:大阪大学大学院医学系研究科小児科学 6:弘前大学医学部附属病院小児科 7:札幌北楡病院小児思春期科 8:神戸大学医学部附属病院小児科 9:広島大学病院小児科 10:愛媛大学医学部附属病院小児科 11:兵庫医科大学呼吸器・血液内科 12:小児科  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会 2025 年 2 月 大阪市

**臍帯血移植後に類洞閉塞症候群を発症した MNX1::ETV6 陽性急性骨髄性白血病の乳児例**

林大地, 前村遼, 北澤宏展, 吉田奈央, 濱麻人

第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪市

**臍帯血移植後に炎症性筋線維芽細胞性腫瘍を発症した RUNX1::RUNX1T1 陽性 AML**

前村遼<sup>1</sup>, 村瀬成彦<sup>2</sup>, 谷有希子<sup>2</sup>, 土居崎小夜子<sup>1</sup>, 北澤宏展<sup>1</sup>, 吉田奈央<sup>1</sup>, 濱麻人<sup>1</sup>

1:小児科 2:小児外科  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪市

**遺伝性疾患に対する同種造血幹細胞移植における transplant conditioning intensity score の有用性**

川口晃司<sup>1,2</sup>, 宮本智史<sup>2,3</sup>, 吉田奈央<sup>2,4</sup>, 山本将平<sup>2,5</sup>, 小池隆志<sup>5</sup>, 川口浩史<sup>6</sup>, 梶原道子<sup>3</sup>, 高橋義行<sup>7</sup>, 石村匡崇<sup>8</sup>, 坂口大俊<sup>9</sup>, 濱麻人<sup>4</sup>, 長祐子<sup>10</sup>, 佐藤真穂<sup>11</sup>, 松本公一<sup>9</sup>, 加藤剛二<sup>12</sup>, 橋井佳子<sup>13</sup>, 田渕健<sup>14</sup>, 熱田由子<sup>14</sup>, 梅田雄嗣<sup>2,15</sup>

1:静岡県立こども病院血液腫瘍科 2:日本造血・免疫細胞療法学会遺伝性疾患ワーキンググループ 3:東京医科歯科大学病院小児科 4:小児科 5:東海大学医学部付属病院小児科 6:広島大学病院小児科 7:名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 8:九州大学病院小児科 9:国立成育医療研究センター小児がんセンター 10:北海道大学病院小児科 11:大阪母子医療センター血液・腫瘍科 12:一般社団法人中部さい帯血バンク 13:大阪国際がんセンター小児科 14:日本造血細胞移植データセンター 15:京都大学医学部附属病院小児科  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪市

**本邦における非腫瘍性疾患に対する再移植の治療成績**

下村麻衣子<sup>1,2</sup>, 川口晃司<sup>2,3</sup>, 山本将平<sup>2,4</sup>, 梶原道子<sup>5</sup>, 小池隆志<sup>4</sup>, 石村匡崇<sup>6</sup>, 吉田奈央<sup>7</sup>, 佐藤真穂<sup>8</sup>, 康勝好<sup>9</sup>, 岡田恵子<sup>10</sup>, 佐藤篤<sup>11</sup>, 日野もえ子<sup>12</sup>, 加藤剛二<sup>13</sup>, 田渕健<sup>14</sup>, 熱田由子<sup>14</sup>, 梅田雄嗣<sup>2,15</sup>

1:広島大学病院小児科 2:日本造血・免疫細胞療法学会遺伝性疾患ワーキンググループ 3:静岡県立こども病院血液腫瘍科 4:東海大学医学部付属病院小児科 5:東京科学大学病院小児科 6:九州大学病院小児科 7:小児科 8:大阪母子医療センター血液腫瘍科 9:埼玉県立小児医療センター血液腫瘍科 10:大阪市立総合医療センター小児血液・腫瘍内科 11:宮城県立こども病院血液腫瘍科 12:千葉大学大学院医学研究院小児病態学 13:一般社団法人中部さい帯血バンク 14:日本造血細胞移植データセンター 15:京都大学医学部附属病院小児科  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪市

**小児治療関連骨髄性腫瘍に対する造血細胞移植成績**

長谷川大輔<sup>1</sup>, 吉田奈央<sup>2</sup>, 吉田仁典<sup>3</sup>, 古賀友紀<sup>4</sup>, 坂口大俊<sup>3</sup>, 佐藤真穂<sup>5</sup>, 田渕健<sup>6</sup>, 佐藤篤<sup>7</sup>, 加藤剛二<sup>8</sup>, 松本公一<sup>3</sup>, 熱田由子<sup>6</sup>, 岡本康裕<sup>9</sup>, 山本将平<sup>10</sup>

1:聖路加国際病院小児科 2:小児科 3:国立成育医療研究センター小児がんセンター 4:独立行政法人国立病院機構九州がんセンター小児・思春期腫瘍科 5:大阪母子医療センター血液・腫瘍科 6:日本造血細胞移植データセンター 7:宮城県立こども病院血液腫瘍科 8:一般社団法人中部さい帯血バンク 9:鹿児島大学小児科 10:東海大学医学部付属病院小児科  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪市

**本邦におけるムコ多糖症に対する造血細胞移植成績**

藤田祥央<sup>1,2</sup>, 山本将平<sup>1,2</sup>, 小池隆志<sup>1</sup>, 下澤克宜<sup>3</sup>, 濱麻人<sup>4</sup>, 笹原洋二<sup>5</sup>, 宮村能子<sup>6</sup>, 長祐子<sup>7</sup>, 日野もえ子<sup>8</sup>, 加藤剛二<sup>9</sup>, 橋井佳子<sup>10</sup>, 田渕健<sup>11</sup>, 吉田奈央<sup>2,4</sup>, 加藤俊一<sup>1,2</sup>, 矢部普正<sup>1,2</sup>, 梅田雄嗣<sup>12,2</sup>

1:東海大学医学部付属病院小児科 2:日本造血・免疫細胞療法学会 遺伝性疾患ワーキンググループ 3:日本大学医学部附属板橋病院小児科 4:小児科 5:東北大学病院小児科・小児腫瘍科 6:大阪大学医学部附属病院小児科 7:北海道大学病院小児科 8:千葉大学大学院医学研究院小児病態学 9:一般社団法人中部さい帯血バンク 10:大阪国際がんセンター小児科 11:日本造血細胞移植データセンター 12:京都大学小児科  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪市

**小児急性リンパ性白血病に対する同種造血細胞移植におけるドナー・ソースの臨床的意義**

坂口大俊<sup>1</sup>, 末松正也<sup>2</sup>, 山本俊亮<sup>3</sup>, 石田悠志<sup>4</sup>, 加藤格<sup>5</sup>, 大場詩子<sup>3</sup>, 康勝好<sup>6</sup>, 佐藤真穂<sup>7</sup>, 岡田恵子<sup>8</sup>, 高橋義行<sup>9</sup>, 柳町昌克<sup>10</sup>, 吉田奈央<sup>11</sup>, 富澤大輔<sup>1</sup>, 齋藤章治<sup>12</sup>, 佐野秀樹<sup>13</sup>, 橋井佳子<sup>14</sup>, 佐藤篤<sup>15</sup>, 加藤剛二<sup>16</sup>, 熱田由子<sup>17</sup>, 田渕健<sup>17</sup>, 荒川ゆうき<sup>6</sup>

1:国立成育医療研究センター小児がんセンター 2:京都府立医科大学小児科 3:九州大学病院小児科 4:岡山大学病院小児科 5:京都大学医学部附属病院小児科 6:埼玉県立小児医療センター血液・腫瘍科 7:大阪母子医療センター血液・腫瘍科 8:大阪市立総合医療センター小児血液・腫瘍内科 9:名古屋大学医学部附属病院小児科 10:神奈川県立こども医療センター血液・腫瘍科 11:小児科 12:信州大学医学部附属病院小児科 13:福島県立医科大学附属病院小児腫瘍内科 14:大阪国際がんセンター小児科 15:宮城県立こども病院血液腫瘍科 16:中部さい帯血バンク 17:日本造血細胞移植データセンター  
第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 3 月 大阪市

**一般・消化器外科**

**IPOM-plus 術後に生じた遅発性下腹壁動脈瘤に対し、動脈瘤切除を実施した一例**

浅井周平, 三宅秀夫, 永井英雅, 吉岡裕一郎, 柴田耕治, 川合亮祐, 小林龍太郎, 関本晃裕, 矢野彦太, 百田浩太郎

第 305 回東海外科学会 2024 年 4 月 名古屋市

#### 腸管子宮内膜症による S 状結腸穿孔の 1 例

百田浩太郎, 三宅秀夫, 永井英雅, 吉岡裕一郎, 柴田耕治, 川合亮祐, 関本晃裕, 浅井周平, 若尾聖  
第 305 回東海外科学会 2024 年 4 月 名古屋市

#### Prognostic significance of preoperative MCV in patients with stage II and III colorectal cancer

浅井周平, 三宅秀夫, 永井英雅, 吉岡裕一郎, 柴田耕治, 川合亮祐, 小林龍太郎, 湯浅典博  
第 79 回日本消化器外科学会総会 2024 年 7 月 下関市

#### 緩和手術としての胃空腸バイパス術の検討

吉岡裕一郎  
第 40 回日本栄養治療学会学術集会 2025 年 2 月 横浜市

## 乳腺外科

#### 根治性と生活機能維持を両立させた高齢者乳癌に対する手術手技

照屋なつき, 岩瀬拓士, 伊藤千夏, 加藤明子, 山岸陽二, 角田伸行, 後藤康友  
第 124 回日本外科学会定期学術集会 2024 年 4 月 名古屋市

#### 混合病棟における乳癌看護の質の向上を目指す取り組み

小嶋若狭<sup>1</sup>, 牧村綾子<sup>1</sup>, 堤真莉<sup>1</sup>, 藤井風花<sup>1</sup>, 服部久加子<sup>1</sup>, 後藤康友<sup>2</sup>, 糸山久恵<sup>1</sup>

1:看護部 2:乳腺外科  
第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024 年 7 月 仙台市

#### 乳癌術後出血を早期に発見するための取り組み

服部久加子<sup>1</sup>, 牧村綾子<sup>1</sup>, 堤真莉<sup>1</sup>, 藤井風花<sup>1</sup>, 小嶋若狭<sup>1</sup>, 照屋なつき<sup>2</sup>, 後藤康友<sup>2</sup>

1:看護部 2:乳腺外科  
第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024 年 7 月 仙台市

#### 乳腺外科医が容易にできる整容性を保つ乳房温存術

照屋なつき, 岩瀬拓士, 伊藤千夏, 加藤明子, 山岸陽二, 角田伸行, 後藤康友  
第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024 年 7 月 仙台市

#### 周術期ペンプロリズムの当院における使用経験

加藤明子, 水野佑希, 伊藤千夏, 山岸陽二, 照屋なつき, 角田伸行, 岩瀬拓二, 後藤康友  
第 32 回日本乳癌学会学術総会 2024 年 7 月 仙台市

#### 乳頭内で集簇する石灰化を伴う腫瘍を形成した非浸潤性乳管癌の 1 例

水野佑希<sup>1</sup>, 岩瀬拓士<sup>1</sup>, 伊藤千夏<sup>1</sup>, 加藤明子<sup>1</sup>, 照屋なつき<sup>1</sup>, 角田伸行<sup>1</sup>, 桐山理美<sup>2</sup>, 藤野雅彦<sup>2</sup>, 後藤康友<sup>1</sup>

1:乳腺外科 2:病理部  
第 21 回日本乳癌学会中部地方会 2024 年 9 月 富山市

#### 石灰化の診断と治療 一言言わせてもらっていいですか？

岩瀬拓士<sup>1</sup>, 秋山太<sup>2</sup>

1:乳腺外科 2:正診会クリニック  
第 34 回日本乳癌画像研究会学術総会 2025 年 2 月 東京都

## 心臓血管外科

#### 前尖切開アプローチによる完全鏡視下経僧帽弁中隔心筋切除

伊藤敏明, 澤木完成, 所正佳, 加藤陸, 前田将吾  
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会 2024 年 11 月 金沢市

#### MICS における総合的心筋保護戦略

伊藤敏明  
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会 2024 年 11 月 金沢市

#### 広範囲胸腹部大動脈瘤に対する TEVAR と胸腹部置換の二期的手術の成績

澤木完成, 前田将吾, 菱川敬規, 加藤陸, 所正佳, 伊藤敏明  
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会 2024 年 11 月 金沢市

#### 大動脈弁狭窄症に対する術式選択~MICS AVR, 正中 AVR, TAVR の選択基準~

所正佳, 伊藤敏明, 澤木完成, 加藤陸, 菱川敬規, 前田将吾  
第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会 2024 年 11 月 金沢市

#### 完全 3D 内視鏡下大動脈弁形成術の成績

前田将吾

第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会 2024 年 11 月 金沢市

Decision method of artificial chord based on intraoperative measurement of the distance between papillary muscle and posterior annular  
Kato R, Ito T

AATS/JATS Mitral Conclave, JATS-NEXT Mitral Conclave Award Session 2024 年 11 月 金沢市

#### 鏡視下メイズ

伊藤敏明, 所正佳, 加藤陸, 前田将吾, 澤木完成

第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会 2025 年 2 月 下関市

#### 術中計測に基づいた loop technique

伊藤敏明, 所正佳, 加藤陸, 前田将吾, 澤木完成

第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会 2025 年 2 月 下関市

#### 当院での再手術としての胸部下行および胸腹部置換の周術期成績

澤木完成, 前田将吾, 菱川敬規, 加藤陸, 所正佳, 伊藤敏明

第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会 2025 年 2 月 下関市

#### Piggyback technique を使用した free RITA の遠隔成績

加藤陸, 伊藤敏明, 澤木完成, 所正佳, 菱川敬規, 前田将吾

第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会 2025 年 2 月 下関市

#### Loop technique based on 3-port 3D endoscopic platform

Ito T

EACTS-JSCVS Joint Workshop on Mitral Valve Repair -The actual surgical in Europe and Japan- 2025 年 2 月 下関市

## 呼吸器外科

#### ロボット支援下肺切除における術中合併症・開胸コンパート症例の検討

市川靖久, 後藤まどか, 坪内秀樹, 福本絃一, 内山美佳, 森正一

第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会 2024 年 5 月 長野県

#### 左 B1+2 転位気管支を伴う肺癌に対して胸腔鏡下左肺 S1+2 区域切除術を施行した 1 例

坪内秀樹, 後藤まどか, 市川靖久, 福本絃一, 内山美佳, 森正一

第 41 回日本呼吸器外科学会学術集会 2024 年 5 月 長野県

#### 縦隔リンパ節に胚中心進展性異形成を伴う胸腺腫の 1 切除例

坪内秀樹, 後藤まどか, 市川靖久, 福本絃一, 内山美佳, 森正一

第 125 回日本肺癌学会中部支部学術集会 2024 年 8 月 岐阜市(台風にて中止となり演題登録のみ)

#### 肺癌に対するロボット支援下内視鏡手術周術期成績～自身の症例を振り返る～

森正一, 後藤まどか, 市川靖久, 坪内秀樹, 福本絃一

第 60 回日本赤十字社医学会総会 2024 年 10 月 仙台市

#### 原発性肺癌切除例の術前因子による STAS の予測は可能か? ～当院 1114 切除例における検討～

後藤まどか, 市川靖久, 坪内秀樹, 福本絃一, 内山美佳, 森正一

第 65 回日本肺癌学会学術集会 2024 年 11 月 横浜市

#### 原発性肺癌術後肺瘻に対する入院期間短縮への治療戦略

市川靖久, 後藤まどか, 坪内秀樹, 福本絃一, 内山美佳, 森正一

第 86 回日本臨床外科学会学術集会 2024 年 11 月 宇都宮市

#### Treatment strategy for shortening hospital stay for patients with prolonged air leak after surgery for primary lung cancer

市川靖久, 後藤まどか, 坪内秀樹, 福本絃一, 内山美佳, 森正一

第 77 回日本胸部外科学会学術集会 2024 年 11 月 金沢市

#### 肺多発結節を呈した硝子化肉芽腫の 1 例

近藤玲生, 後藤まどか, 市川靖久, 坪内秀樹, 福本絃一, 内山美佳, 森正一

第 126 回日本肺癌学会中部支部学術集会 2025 年 2 月 名古屋市



## 小児外科

診断に難渋した22週で出生した超低出生体重児ヒルシュスプルング病の1例

谷有希子, 村成彦

第61回日本小児外科学会学術集会 2024年5月 福岡市

敗血症を合併した非穿孔性急性虫垂炎の1例

孫思佳<sup>1</sup>, 谷有希子<sup>2</sup>, 村瀬成彦<sup>2</sup>

1:小児科 2:小児外科

第61回日本小児外科学会学術集会 2024年5月 福岡市

## 形成外科

腋臭症

菱田雅之

第1回名鉄路線リレーセミナー 2025年3月 Web

テープによりスキンテア予防の検討

菱田雅之<sup>1</sup>, 伊藤真粧美<sup>2</sup>

1:形成外科 2:看護部

第20回日本褥瘡学会中部地方会学術集会 2025年3月 名古屋市

## 整形外科

投球による上腕骨内側上顆骨端離解—臨床像と治療経験

洪淑貴<sup>1</sup>, 大塚純子<sup>1</sup>, 堀井恵美子<sup>2</sup>

1:整形外科 2:関西医科大学整形外科

第67回日本手外科学会学術集会 2024年4月 奈良市(Web)

極めて稀な先天性深指屈筋短縮症に対する手術経験

大塚純子<sup>1</sup>, 堀井恵美子<sup>2</sup>, 洪淑貴<sup>1</sup>, 武重宏樹<sup>1</sup>

1:整形外科 2:関西医科大学整形外科

第67回日本手外科学会学術集会 2024年4月 奈良市(Web)

外傷性母指CM関節脱臼に対する治療経験

武重宏樹, 洪淑貴, 大塚純子

第67回日本手外科学会学術集会 2024年4月 奈良市(Web)

小児上腕骨顆上骨折後 fishtail 変形は予防できるか

洪淑貴<sup>1</sup>, 堀井恵美子<sup>2</sup>, 大塚純子<sup>1</sup>

1:整形外科 2:関西医科大学整形外科

第97回日本整形外科学会学術集会 2024年5月 福岡市(Web)

治療に難渋した強直性脊椎炎の一例

高橋裕, 祖父江康司

第35回中部リウマチ学会 2024年9月 津市

## 脳神経外科

小径脳動脈瘤塞栓術における double catheter technique の有用性の検討

服部健一

第33回脳神経外科手術と機器学会 2024年7月 東京都

二分脊椎に合併した側弯症治療における脊髄係留解除術の役割

波多野寿

第41回日本二分脊椎研究会 2024年7月 東京都

## 皮膚科

抗ラミニン 332 型粘膜類天疱瘡と抗ラミニン γ1 類天疱瘡を合併した一例

近藤春菜<sup>1</sup>, 磯部里香子<sup>1</sup>, 犬飼実紗子<sup>1</sup>, 石原麻衣子<sup>1</sup>, 吉川真人<sup>1</sup>, 井上優貴<sup>1</sup>, 古賀浩嗣<sup>2</sup>, 石井文人<sup>2</sup>

1: 皮膚科 2: 久留米大学医学部皮膚科学講座

第 123 回日本皮膚科学会総会 2024 年 6 月 京都市

右上腕に生じた原発性皮膚濾胞中心リンパ腫(PCFCL)の1例

近藤春菜, 寺倉里奈, 磯部里香子, 石原麻衣子, 吉川真人, 井上優貴

第 308 回日本皮膚科学会東海地方会 2024 年 6 月 名古屋市

鼠径リンパ節腫大を伴った臀部毛巣洞の一例

近藤春菜, 寺倉里奈, 磯部里香子, 石原麻衣子, 吉川真人, 井上優貴

第 309 回日本皮膚科学会東海地方会 2024 年 9 月 名古屋市

STAT1 遺伝子変異による慢性皮膚粘膜カンジダ症の一例

近藤春菜, 寺倉里奈, 磯部里香子, 石原麻衣子, 吉川真人, 井上優貴

第 310 回日本皮膚科学会東海地方会 2024 年 12 月 名古屋市

## 泌尿器科

切除断端陽性部位の断端長および Gleason pattern に基づくリスク分類による根治的前立腺切除術後の生化学的再発予測モデル

加藤真史<sup>1</sup>, 錦見俊徳<sup>1</sup>, 上平修<sup>2</sup>, 木村亨<sup>2</sup>, 山本晃之<sup>3</sup>, 内藤祐志<sup>4</sup>, 赤松秀輔<sup>4</sup>, 都築豊徳<sup>5</sup>

1: 泌尿器科 2: 小牧市民病院泌尿器科 3: 豊橋市民病院泌尿器科 4: 名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学教室 5: 愛知医科大学病理診断学講座

第 111 回日本泌尿器科学会総会 2024 年 4 月 横浜市

腎 Oncocytic tumour の一例

小林幹典, 松山愛佳, 川瀬璃苑, 百田絢子, 角田夕紀子, 山口朝臣, 平林裕樹, 鈴木省二, 加藤真史

第 296 回日本泌尿器科学会東海地方会 2024 年 6 月 名古屋市

膀胱癌 plasmacytoid subtype の 1 例

川瀬璃苑, 平林裕樹, 小林幹典, 百田絢子, 松山愛佳, 角田夕紀子, 山口朝臣, 鈴木省治, 加藤真史

第 297 回日本泌尿器学会東海地方会 2024 年 12 月 浜松市

馬蹄腎に合併した腎癌に対して RAPN を施行した 1 例

小林幹典, 山口朝臣, 百田絢子, 松山愛佳, 角田夕紀子, 平林裕樹, 鈴木省治, 加藤真史

第 298 回日本泌尿器学会東海地方会 2025 年 3 月 名古屋市

進行性尿路上皮癌に対するアベルマブ維持療法のリアルワールドデータ

小林幹典<sup>1</sup>, 井上聡<sup>2</sup>, 富岡禎史<sup>3</sup>, 大見貴尚<sup>4</sup>, 社本憲俊<sup>5</sup>, 伊藤史裕<sup>6</sup>, 弓場拓真<sup>5</sup>, 湯口友梨<sup>7</sup>, 栃木宏介<sup>7</sup>, 赤松秀輔<sup>2</sup>

1: 泌尿器科 2: 名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学教室 3: 国立長寿医療研究センター泌尿器外科 4: 豊橋市民病院泌尿器科 5: 刈谷豊田総合病院泌尿器科 6: 岐阜県立多治見病院泌尿器科 7: 市立四日市病院泌尿器科

第 74 回日本泌尿器科学会中部総会 2024 年 11 月 金沢市

転移性去勢感受性前立腺癌(mCSPC)における組織中遺伝子変異と臨床転帰に関する前向き観察研究: IDC-P の影響力

加藤真史<sup>1</sup>, 内藤祐志<sup>2</sup>, 山本晃之<sup>3</sup>, 川西秀治<sup>4</sup>, 赤松秀輔<sup>2</sup>, 都築豊徳<sup>5</sup>

1: 泌尿器科 2: 名古屋大学大学院医学系研究科泌尿器科学教室 3: 豊橋市民病院泌尿器科 4: 愛知医科大学泌尿器科学講座 5: 愛知医科大学病理診断学講座

第10回泌尿器腫瘍学会 2024 年 10 月 福岡市

経膣メッシュ手術とペッサリー: メッシュ露出を増やさないための注意点

角田夕紀子<sup>1</sup>, 加藤久美子<sup>2</sup>, 成島雅博<sup>2</sup>, 荒木秀盛<sup>2</sup>, 川瀬璃苑<sup>1</sup>, 小林幹典<sup>1</sup>, 百田絢子<sup>1</sup>, 松山愛佳<sup>1</sup>, 山口朝臣<sup>1</sup>, 平林裕樹<sup>1</sup>, 加藤真史<sup>1</sup>, 鈴木省治<sup>1</sup>

1: 泌尿器科 2: 名鉄病院泌尿器科

第 29 回東海排尿障害研究会 2025 年 2 月 名古屋市

Prospective Observational Study in Japanese Patients with Metastatic Castration-Sensitive Prostate Cancer

(mCSPC) With or Without Intraductal Carcinoma of the Prostate (IDC-P)

Kato M<sup>1</sup>, Naito Y<sup>2</sup>, Hirabayashi H<sup>1</sup>, Nishikimi T<sup>1</sup>, Nakano Y<sup>3</sup>, Kimura T<sup>4</sup>, Yamamoto A<sup>5</sup>, Kobayashi M<sup>6</sup>, Akamatsu S<sup>2</sup>, Tsuzuki T<sup>7</sup>

1: Department of Urology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 2: Department of Urology, Nagoya University Graduate School of Medicine 3: Department of Urology, Tosei General Hospital 4: Department of Urology, Japan Community Health care Organization Chukyo Hospital 5: Department of Urology, Toyohashi Municipal Hospital 6: Department of Urology, Narita Memorial Hospital 7: Department of Surgical Pathology, Aichi Medical University

ASCO Genitourinary Cancers Symposium 25 2025 年 2 月 San Francisco

## 産婦人科

当院における胸腔子宮内膜症の治療についての検討

福原伸彦, 安藤智子, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 伊藤由美子, 手塚敦子, 坂堂美央子, 齋藤愛, 廣村勝彦, 津田弘之, 水野公雄

第 76 回日本産科婦人科学会 2024 年 4 月 横浜市

生殖補助医療(ART)妊娠における潜在性甲状腺機能低下症と周産期予後についての検討

成田佑一郎, 津田弘之, 林紗由, 森永崇文, 近藤友宏, 告野絵里, 中村侑実, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 手塚敦子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 廣村勝彦, 安藤智子

第 76 回日本産科婦人科学会 2024 年 4 月 横浜市

血液検査にて偶発的に発見した無症状急性妊娠脂肪肝の一例

荒木甫, 津田弘之, 告野絵里, 中村侑実, 黒柳雅文, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 手塚敦子, 安藤智子, 水野公雄

第 76 回日本産科婦人科学会 2024 年 4 月 横浜市

当院における初経遅延の原因とその後の月経・妊娠の可能性

齋藤愛, 安藤智子, 告野絵里, 中村侑実, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 手塚敦子, 坂堂美央子, 廣村勝彦, 津田弘之

第 76 回日本産科婦人科学会 2024 年 4 月 横浜市

子宮頸管無力症に対する子宮頸管縫縮術の治療効果についての検討

岡見ゆりか, 津田弘之, 水野公雄, 安藤智子, 廣村勝彦, 坂堂美央子, 齋藤愛, 伊藤由美子, 手塚敦子, 福原伸彦, 鈴木美帆, 正橋佳樹

第 76 回日本産科婦人科学会 2024 年 4 月 横浜市

当院に母体搬送された胎胞可視 100 例の検討～経腔エコー所見による妊娠延長期間の評価～

近藤友宏, 津田弘之, 告野絵里, 中村侑実, 黒柳雅文, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 手塚敦子, 安藤智子, 水野公雄

第 76 回日本産科婦人科学会 2024 年 4 月 横浜市

地域に広げるシミュレーションの輪(J-CIMELS ワークショップ)

伊藤由美子

第 76 回日本産科婦人科学会 2024 年 4 月 横浜市

当院で管理した超高齢妊娠 10 症例

林紗由, 手塚敦子, 中島菜都美, 箕浦広大, 近藤友宏, 成田佑一郎, 森永崇文, 簗田章, 田中梨紗子, 寺沢直浩, 告野絵里, 中村侑実, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 廣村勝彦, 津田弘之, 安藤智子

第 119 回愛知産科婦人科学会学術講演会 2024 年 7 月 名古屋市

卵巣顆粒膜細胞腫のリンパ節転移との鑑別を要したリンパ脈管筋腫症(LAM)に対して、迅速病理診断法を併用した staging laparotomy をおこなうことで妊娠性温存ができた 1 例

成田佑一郎, 廣村勝彦, 中島菜都美, 箕浦広大, 近藤友宏, 林紗由, 森永崇文, 簗田章, 田中梨紗子, 寺沢直浩, 告野絵里, 中村侑実, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 手塚敦子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 津田弘之, 安藤智子

第 120 回愛知産科婦人科学会学術講演会 2024 年 10 月 名古屋市

妊娠 22 週胎胞脱出に対し羊水除去後に治療的頸管縫縮術を行った一例

中島菜都美, 手塚敦子, 箕浦広大, 近藤友宏, 成田佑一郎, 林紗由, 森永崇文, 簗田章, 田中梨紗子, 寺沢直浩, 告野絵里, 中村侑実, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 廣村勝彦, 津田弘之, 安藤智子

第 120 回愛知産科婦人科学会学術講演会 2024 年 10 月 名古屋市

双胎妊娠における経膈分娩の成功因子についての検討

告野絵里, 津田弘之, 簗田章, 中村侑実, 鈴木美帆, 伊藤由美子, 手塚敦子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 廣村勝彦, 安藤智子

第 60 回日本周産期・新生児医学会 2024 年 7 月 大阪市

当院における卵巣上皮性境界悪性腫瘍の後方視的検討(妊娠性温存はどこまで許容されるのか?)

正橋佳樹, 坂堂美央子, 黒柳雅文, 鈴木美帆, 福原伸彦, 廣村勝彦, 水野公雄

第 66 回日本婦人科腫瘍学会 2024 年 7 月 鹿児島市

レンパチニブ・ペムブロリズマブ療法中に重症 irAe 関連脳炎を来した子宮癌肉腫の一例

黒柳雅文, 坂堂美央子, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 廣村勝彦, 水野公雄

第 66 回日本婦人科腫瘍学会 2024 年 7 月 鹿児島市

Highly Differentiated Follicular Carcinoma of Ovarian Origin の 1 例

福原伸彦, 坂堂美央子, 黒柳雅文, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 廣村勝彦, 水野公雄

第 66 回日本婦人科腫瘍学会 2024 年 7 月 鹿児島市

調整卵巣刺激中の急激な血小板減少により、連続して採卵が中止になった血小板減少症の1例  
成田佑一郎<sup>1</sup>, 安藤智子<sup>1</sup>, 蓼沼美砂<sup>2</sup>, 江口智子<sup>1</sup>, 齋藤愛<sup>1</sup>

1:産婦人科 2:超音波検査係

第24回産婦人科内分泌研究会 2024年7月 名古屋市

左鎖骨上リンパ節生検で高異型度漿液性癌を認め、審査腹腔鏡にて診断に至った腹膜播種病変を伴わなかった多発リンパ節転移が主体の卵管・卵巣癌の1例

正橋佳樹, 廣村勝彦, 簗田章, 田中梨紗子, 寺沢直浩, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 齋藤愛, 坂堂美央子, 安藤智子

第64回 日本産科婦人科内視鏡学会 2024年9月 東京都

医療チームの倫理的感性を高めるための取り組み

武藤直美<sup>1</sup>, 森早苗<sup>1</sup>, 奥村仁哉<sup>2</sup>, 安藤智子<sup>3</sup>

1:看護部 2:事務部総務課 3:産婦人科

第18回医療マネジメント学会愛知県支部学術集会 2024年11月 名古屋市

ARTにより妊娠が成立した子宮筋症合併妊娠の周産期予後

齋藤愛<sup>1</sup>, 成田佑一郎<sup>1</sup>, 告野絵里<sup>1</sup>, 蓼沼美砂<sup>2</sup>, 江口智子<sup>1</sup>, 安藤智子<sup>1</sup>

1:産婦人科 2:超音波検査係

第69回日本生殖医学会学術講演会 2024年11月 名古屋市

NIPT陰性でも流産絨毛染色体検査で18番染色体関連の不均衡型転座が判明した1例

伊藤由美子<sup>1</sup>, 中村侑実<sup>1</sup>, 手塚敦子<sup>1</sup>, 坂堂美央子<sup>1</sup>, 津田弘之<sup>1</sup>, 古俣知里<sup>2</sup>, 内海史<sup>3</sup>, 安藤智子<sup>1</sup>

1:産婦人科 2:臨床遺伝診療科 3:藤田医科大学ばんなね病院産婦人科

第10回日本産科婦人科遺伝診療学会 2024年12月 東京都

精子凍結を施行した妊孕性温存症例における、がん治療後の妊孕能に関する検討

齋藤愛<sup>1</sup>, 安藤智子<sup>1</sup>, 蓼沼美砂<sup>2</sup>, 江口智子<sup>1</sup>

1:産婦人科 2:超音波検査係

第15回日本がん・生殖医療学会学術集会 2025年2月 大阪市

胎児期に淡血性片側胸水を認め、生後に胸壁軟骨間葉性過誤腫と診断された一例

告野絵里, 津田弘之, 簗田章, 中村侑実, 伊藤由美子, 手塚敦子, 安藤智子

第21回日本胎児治療学会学術集会 2025年2月 横浜市

非典型的なMRI所見を呈したが腹腔鏡下手術で診断に至った巨大なう胞変性を伴った卵巣線維腫の1例

正橋佳樹, 廣村勝彦, 中島菜都美, 箕浦広大, 近藤友宏, 成田佑一郎, 林紗由, 森永崇文, 簗田章, 田中梨紗子, 寺沢直浩, 告野絵里, 中村侑実, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 手塚敦子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 津田弘之, 安藤智子

第145回東海産科婦人科学会 2025年3月 名古屋市

2絨毛膜2羊膜双胎に突如MPFDを認め胎児機能不全に至った1例

森永崇文, 伊藤由美子, 中島菜都美, 箕浦広大, 近藤友宏, 成田佑一郎, 林紗由, 簗田章, 田中梨紗子, 寺沢直浩, 中村侑実, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 手塚敦子, 齋藤愛, 坂堂美央子, 廣村勝彦, 津田弘之, 安藤智子

第145回東海産科婦人科学会 2025年3月 名古屋市

消化管浸潤を伴う骨盤内腫瘍に対して術前化学療法を施行後、手術により診断した子宮体癌腸管粘膜浸潤の一例

林紗由, 坂堂美央子, 中島菜都美, 箕浦広大, 近藤友宏, 成田佑一郎, 森永崇文, 簗田章, 田中梨紗子, 寺沢直浩, 告野絵里, 中村侑実, 正橋佳樹, 鈴木美帆, 福原伸彦, 伊藤由美子, 手塚敦子, 齋藤愛, 廣村勝彦, 津田弘之, 安藤智子

第145回東海産科婦人科学会 2025年3月 名古屋市

## 眼科

驚眼の視神経炎が疑われた急性網膜壊死の一例

福田創<sup>1,2</sup>, 佐藤英津子<sup>1</sup>, 野坂光司<sup>1</sup>

1:眼科 2:名古屋医療センター

第57回日本眼炎症学会 2024年7月 札幌市

## 耳鼻咽喉科

補聴器におけるレディメイドイヤモールドの開発(中間報告)

柘植勇人<sup>1,2</sup>, 小澤亮太<sup>1</sup>, 降旗敏熙<sup>1</sup>, 渡邊早紀<sup>1</sup>, 村上優美子<sup>1</sup>, 稲垣計<sup>1</sup>, 寺田聡広<sup>1</sup>, 曾根三千彦<sup>2</sup>, 三輪徹<sup>3</sup>, 阪本浩一<sup>3</sup>, 加藤匠子<sup>3</sup>, 小杉祐季<sup>3</sup>, 春田友佳<sup>3</sup>, 大石直樹<sup>4</sup>, 西山崇経<sup>4</sup>, 細谷誠<sup>4</sup>, 上野真史<sup>4</sup>, 島貞茉莉江<sup>4</sup>, 坂田俊文<sup>5</sup>, 西村忠己<sup>6</sup>, 岡安唯<sup>6</sup>, 齋藤修<sup>6</sup>, 白馬伸洋<sup>7</sup>, 山原康平<sup>7</sup>, 三瀬和代<sup>7</sup>

1:耳鼻咽喉科 2:名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部・感覚器外科学耳鼻咽喉科 3:大阪公立大学医学部耳鼻咽喉科 4:慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科 5:福岡大学医学部耳鼻咽喉科 6:奈良県立医科大学医学部耳鼻咽喉科 7:帝京大学医学部附属溝口病院耳鼻咽喉科

第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会 2024年5月 大阪市

#### 小児副咽頭間隙膿瘍の1例

降旗敏熙<sup>1</sup>, 柘植勇人<sup>1</sup>, 寺田聡広<sup>1</sup>, 小澤亮太<sup>1</sup>, 渡邊早紀<sup>1</sup>, 稲垣計<sup>1</sup>, 曾根三千彦<sup>2</sup>

1:耳鼻咽喉科 2:名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部・感覚器外科学耳鼻咽喉科

第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会 2024年5月 大阪市

#### 難聴者が補聴器を満足して活用するために「その具体的手法」

柘植勇人

第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会 2024年5月 大阪市

#### 加齢性難聴におけるフィッティングの課題～難聴症例の経験から～

畑ひかり, 柘植勇人, 三宅杏季, 加藤大介, 薬師寺政美, 加藤由記

第9回耳鳴・難聴研究会 2024年7月 東京都

#### 無難聴性耳鳴に対する補聴器フィッティング: サウンドジェネレーターを使わなくなった理由

柘植勇人<sup>1,2</sup>, 三宅杏季<sup>1</sup>, 加藤大介<sup>1</sup>, 薬師寺政美<sup>1</sup>, 加藤由記<sup>1</sup>, 畑ひかり<sup>1</sup>, 曾根三千彦<sup>2</sup>

1:耳鼻咽喉科 2:名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部・感覚器外科学耳鼻咽喉科

第9回耳鳴・難聴研究会 2024年7月 東京都

#### 偶発的に発見された非腸管型鼻腔腺癌の一例

稲垣計

第63回日本鼻科学会総会・学術講演会 2024年9月 東京都

#### 補聴器装用に関連する臨床医学

柘植勇人

令和6年度認定補聴器技能者講習 2024年9月 名古屋市

#### 耳鳴に対する補聴器フィッティング 当院の手法とその進化

柘植勇人<sup>1,2</sup>, 岩村祥平<sup>1</sup>, 三宅杏季<sup>1</sup>, 加藤大介<sup>1</sup>, 薬師寺政美<sup>1</sup>, 加藤由記<sup>1</sup>, 畑ひかり<sup>1</sup>, 曾根三千彦<sup>2</sup>

1:耳鼻咽喉科 2:名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部・感覚器外科学耳鼻咽喉科

第69回日本聴覚医学会総会・学術講演会 2024年10月 東京都

#### 加齢性難聴におけるフィッティングの課題～難聴症例の経験から～

畑ひかり, 柘植勇人, 三宅杏季, 加藤大介, 薬師寺政美, 加藤由記

第69回日本聴覚医学会総会・学術講演会 2024年10月 東京都

#### 一側性難聴者への補聴器の適応と活用

小澤亮太<sup>1,2</sup>, 柘植勇人<sup>1,3</sup>, 降旗敏熙<sup>1</sup>, 實川純人<sup>2</sup>, 高野賢一<sup>2</sup>, 曾根三千彦<sup>3</sup>

1:耳鼻咽喉科 2:札幌医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 3:名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部・感覚器外科学耳鼻咽喉科

第34回日本耳科学会総会・学術講演会 2024年10月 名古屋市

#### 緊急手術で聴力予後不良を回避できた外傷性外リンパ瘻

降旗敏熙<sup>1</sup>, 柘植勇人<sup>1</sup>, 小澤亮太<sup>1</sup>, 曾根三千彦<sup>2</sup>

1:耳鼻咽喉科 2:名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部・感覚器外科学耳鼻咽喉科

第34回日本耳科学会総会・学術講演会 2024年10月 名古屋市

#### テーマセッション 手術耳への補聴器装用 ～適応と工夫～ 一般臨床における術後耳への補聴器装用

柘植勇人

第34回日本耳科学会総会・学術講演会 2024年10月 名古屋市

#### 難聴者が補聴器を満足して使用するために ～不満足な場合の理由とその対策～

柘植勇人

いなべ医師会合同研修会 2024年11月 いなべ市

#### 難聴者が補聴器を満足して使用するには ～補聴器って調整しだいでこんなに違うのですか！～

柘植勇人

補聴器フォーラム東海2024「補聴器相談医更新講習会」, 「市民公開講座」 2023年11月 名古屋市

#### 補聴器相談医講習会 講義 5.フィッティングのための調整手段 6.装用指導

柘植勇人

第38回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会 2024年11月 京都市

#### 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院における取り組み

降旗敏熙

第3回西名古屋耳鼻咽喉科懇話会 2025年2月 Web

## パネルディスカッション アレルギー性鼻炎の治療について

柘植 勇人<sup>1</sup>, 寺西 正明<sup>2</sup>, 倉田 燿介<sup>3</sup>, 欄 真一郎<sup>4</sup>

1:耳鼻咽喉科 2:国立病院機構名古屋医療センター耳鼻咽喉科 3:藤田医科大学ばんだね病院耳鼻咽喉科 4:ませき耳鼻咽喉科  
第3回西名古屋耳鼻咽喉科懇話会 2025年2月 Web

## 補聴器の電気音響特性測定および調節と効果 実耳測定・規定選択法によるフィッティングと評価

柘植 勇人

日本聴覚医学会聴力測定技術講習会 2025年2月 東京都

## 補聴器を活用するために

柘植 勇人

日本耳鼻咽喉科学会 youtube チャンネル 2025年3月 Web(当院 Web サイトにリンク設定中)

## 麻酔科

### 呼吸器外科手術後におけるレミマゾラムとプロポフォール の PONV の発生率の比較研究

森玲央那<sup>1</sup>, 石川奈津江<sup>1</sup>, 蓬萊春日<sup>1</sup>, 田村高廣<sup>2</sup>, 横田修一<sup>1</sup>

1:麻酔科 2:名古屋大学大学院医学系研究科 麻酔蘇生医学分野  
日本麻酔科学会第71回学術集会 2024年6月 神戸市

### 間質性肺炎を合併した急速破壊型股関節症患者に対する人工股関節置換術を脊椎くも膜下硬膜外併用麻酔で良好に管理できた一例

細川裕美子, 高松万佑子, 國澤太幹, 森玲央那, 横田修一

日本麻酔科学会東海・北陸支部第22回学術集会 2024年9月 名古屋市

### 呼吸器外科手術でダブルルーメンチューブを使用した数日後に声門下狭窄を生じた1症例

高松万佑子, 細川裕美子, 森玲央那, 横田修一

日本麻酔科学会東海・北陸支部第22回学術集会 2024年9月 名古屋市

### BMI42.3 妊婦に対する帝王切開術の麻酔経験

西川昌雄, 吉田貴一

日本麻酔科学会東海・北陸支部第22回学術集会 2024年9月 名古屋市

## リハビリテーション科部 (PT・OT・ST)

### Redox state of human serum albumin predicts adverse events in non-fragile patients with heart failure: a single-center prospective cohort study

Nishikawa T<sup>1,2</sup>, Ueyama J<sup>1</sup>, Shimizu S<sup>3</sup>, Shibata Y<sup>4</sup>, Yamada S<sup>5</sup>

1:Department of Biomolecular Sciences, Field of Omics Health Sciences, Nagoya University Graduate School 2:Department of Rehabilitation, Japan Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 3:Department of Cardiology, Kariya Toyota General Hospital 4:Department of Cardiology, Japan Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 5:Department of Cardiology, Aichi Medical University

第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2024年7月 神戸市

### 身体的フレイルと術後の左室駆出分画低下が MitraClip 術後1年の予後に及ぼす影響

藍澤洋介<sup>1</sup>, 西川大樹<sup>1</sup>, 名和森太郎<sup>1</sup>, 石丸曜<sup>1</sup>, 加藤陸<sup>2</sup>, 山田純生<sup>3</sup>, 細羽創宇<sup>2</sup>

1:リハビリテーション科 2:心臓血管外科 3:愛知医科大学循環器内科  
第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 2024年7月 神戸市

### 神経筋電気刺激および床上エルゴメーターの使用が筋出力の改善に奏功した ICU-AW の一例

西川大樹<sup>1</sup>, 藍澤洋介<sup>1</sup>, 石丸曜<sup>1</sup>, 中井悠二<sup>2</sup>, 開正宏<sup>2</sup>, 竹本賢人<sup>3</sup>, 川浪匡史<sup>4</sup>, 都築通孝<sup>5</sup>

1:リハビリテーション科 2:臨床工学科 3:循環器内科 4:救急部 5:集中治療部  
日本集中治療医学会第8回東海北陸支部学術集会 2024年7月 名古屋市

### 高齢軽症脳梗塞患者における退院時転倒リスクの予測には発症前の生活空間が寄与する

武藤健人<sup>1</sup>, 西川大樹<sup>1</sup>, 久保田雅史<sup>2</sup>

1:リハビリテーション科 2:金沢大学医薬保健学域保健学系リハビリテーション科学領域理学療法科学講座  
第2回日本老年療法学会学術集会 2024年8月 札幌市

### タナトフォリック骨異形成症児にグミを使用した嚥下訓練について

犬飼晃見<sup>1</sup>, 坂口真那美<sup>2</sup>, 高橋操<sup>2</sup>, 犬飼桂子<sup>3</sup>, 浅見真未<sup>3</sup>, 村瀬完太<sup>1</sup>

1:リハビリテーション科 2:看護部 3:歯科  
第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 2024年8月 福岡市

### 重度の対麻痺と感覚障害を認めたが運動機能回復と ADL 改善に至った特発性脊髄内出血の1症例

永井将貴<sup>1</sup>, 石丸真歩<sup>1</sup>, 二上和也<sup>2</sup>

1:リハビリテーション科 2:独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター脳神経内科  
第22回神経理学療法学会学術集会 2024年9月 福岡市

脳卒中患者の退院時階段昇降能力に関連する因子とは ～下肢麻痺重症度別の検討～

武藤健人,永井将貴

第 22 回神経理学療法学会学術集会 2024 年 9 月 福岡市

学会発表への道 ～観察研究～

武藤健人

日本神経理学療法学会愛知地方会 2024 年 10 月 名古屋市

Early active motion with Manchester Short Splint for a case of flexor tendon reconstructure after neglected attritional rupture of the little finger flexor

小川倫永子<sup>1</sup>,服部亜衣<sup>1</sup>,洪淑貴<sup>2</sup>

1:リハビリテーション科 2:手外科

第 8 回アジア太平洋作業療法学会学術集会 2024 年 11 月 札幌市

急性期病院から転院を要した心不全患者の 1 年予後調査

西川大樹<sup>1</sup>,藍澤洋介<sup>1</sup>,名和森太郎<sup>1</sup>,石丸曜<sup>1</sup>,松原修<sup>1</sup>,安田健一郎<sup>2</sup>

1:リハビリテーション科 2:循環器内科

第 8 回日本循環器理学療法学会学術大会 2024 年 11 月 仙台市

クレアチンとシスタチン C で算出された eGFR 値は心不全患者における身体的フレイルの有無によって異なるか

石丸曜<sup>1</sup>,西川大樹<sup>1</sup>,藍澤洋介<sup>1</sup>,名和森太郎<sup>1</sup>,松原修<sup>1</sup>,安田健一郎<sup>2</sup>,山田純生<sup>3</sup>

1:リハビリテーション科 2:循環器内科 3:愛知医科大学循環器内科

第 8 回日本循環器理学療法学会学術大会 2024 年 11 月 仙台市

大腿骨近位部骨折術後患者における術後 1 週時の歩行能力に影響する因子の検討

石川将己,打田健人,浦航平,山川桂子,高木寛人

第 51 回日本赤十字リハビリテーション協会学術集会 2024 年 11 月 姫路市

造血幹細胞移植リハビリテーションの質向上を目指して

中村和司

第 52 回四国理学療法士学会 2024 年 11 月 松山市

心室中隔穿孔(VSP)と重症冠動脈病変が併存した急性心筋梗塞患者の入院リハビリテーション—症例報告

深川理生<sup>1</sup>,西川大樹<sup>1</sup>,藍澤洋介<sup>1</sup>,名和森太郎<sup>1</sup>,石丸曜<sup>1</sup>,加藤陸<sup>2</sup>,山田純生<sup>3</sup>

1:リハビリテーション科 2:心臓血管外科 3:愛知医科大学循環器内科

第 10 回日本心臓リハビリテーション学会東海支部地方会 2024 年 12 月 名古屋市

心不全管理及びフレイル改善を目的に外来心臓リハビリテーションで継続介入した劇症型心筋症の一例

名和森太郎<sup>1</sup>,藍澤洋介<sup>1</sup>,西川大樹<sup>1</sup>,石丸曜<sup>1</sup>,小川恵<sup>2</sup>,荻野隼己<sup>3</sup>,山田純生<sup>4</sup>

1:リハビリテーション科 2:看護部 3:循環器内科 4:愛知医科大学循環器内科

第 10 回日本心臓リハビリテーション学会東海支部地方会 2024 年 12 月 名古屋市

無菌室管理期間における造血幹細胞移植患者の骨格筋変化に関連する因子の検討

松永佑哉<sup>1</sup>,中村和司<sup>1</sup>,西田徹也<sup>2</sup>

1:リハビリテーション科 2:血液内科

第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪市

造血幹細胞移植患者に対するリハビリテーション—運動療法を中心に—

中村和司

第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会 2025 年 2 月 大阪市

筋弛緩薬投与中に神経電気刺激を行った腹部大動脈瘤破裂の一例

西川大樹<sup>1</sup>,藍澤洋介<sup>1</sup>,名和森太郎<sup>1</sup>,石丸曜<sup>1</sup>,榊原昌志<sup>2</sup>,都築通孝<sup>3</sup>

1:リハビリテーション科 2:血管外科 3:集中治療部

日本物理療法合同学術大会 2025 2025 年 2 月 名古屋市

## 放射線診断科

腹腔動脈周囲の軟部影が示唆していた膵多発微小浸潤癌の一例

望月佳那子<sup>1</sup>,伊藤茂樹<sup>1</sup>,堀場隼史<sup>1</sup>,安田雄紀<sup>1</sup>,熊澤秀亮<sup>1</sup>,山田恵一郎<sup>1</sup>,河合雄一<sup>1</sup>,森雄司<sup>1</sup>,永井英雅<sup>2</sup>,桐山理美<sup>3</sup>,藤野雅彦<sup>3</sup>

1:放射線診断科 2:消化器外科 3:病理診断科

日本医学放射線学会第 176 回中部地方会 2025 年 2 月 豊明市

#### 神経内分泌癌成分が肝転移を生じた子宮体癌の1例

熊澤秀亮<sup>1</sup>, 伊藤茂樹<sup>1</sup>, 堀場隼史<sup>1</sup>, 安田雄紀<sup>1</sup>, 望月佳那子<sup>1</sup>, 山田恵一郎<sup>1</sup>, 河合雄一<sup>1</sup>, 森雄司<sup>1</sup>, 鈴木美帆<sup>2</sup>, 小出莉央<sup>3</sup>, 村上秀樹<sup>3</sup>

1:放射線診断科 2:産婦人科 3:病理部

第37回日本腹部放射線学会 2024年6月 川越市

## 歯科口腔外科

#### 当科における舌扁平上皮癌の切除断端に異型上皮を認めた症例についての検討

上田整, 佐藤春樹, 長縄憲亮, 田中佑樹, 大岩伊知郎

第48回日本頭頸部癌学会 2024年6月 浜松市

#### ペムプロリズマブ投与後に口腔粘膜に水疱性類天疱瘡を生じた一例

早川依里, 早川泰平, 長縄憲亮, 上田整, 小野翔矢, 花木俊介, 田中佑樹, 大岩伊知郎

第49回日本口腔外科学会中部支部学術集会 2024年6月 塩尻市+Web

#### 頬骨骨折により生じた眼窩下神経障害例の検討

小野翔矢, 長縄憲亮, 早川泰平, 上田整, 早川依里, 花木俊介, 田中佑樹, 中村七瀬, 大岩伊知郎

第25回日本口腔顎顔面外傷学会 2024年7月 津市

#### 当科における口腔扁平上皮癌患者の術前栄養評価と術後経過

花木俊介, 上田整, 長縄憲亮, 早川泰平, 小野翔矢, 早川依里, 田中佑樹, 大岩伊知郎

第78回NPO法人日本口腔科学会学術集会 2024年7月 東京都+Web

#### 造血幹細胞移植後の二次性口腔癌に関する臨床的検討

長縄憲亮, 早川泰平, 上田整, 小野翔矢, 早川依里, 花木俊介, 田中佑樹, 中村七瀬, 大岩伊知郎

第69回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会 2024年11月 横浜市+Web

#### 腎癌の下顎骨転移を疑った1例

小田知佳<sup>1</sup>, 木下弘幸<sup>2</sup>, 山本圭一<sup>3</sup>, 橋本明佳<sup>2</sup>, 古藤咲希<sup>2</sup>, 後藤満雄<sup>4</sup>

1:歯科口腔外科 2:中京病院歯科口腔外科 3:岡崎市民病院歯科口腔外科 4:愛知医科大学歯学部口腔顎顔面外科講座

第69回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会 2024年11月 横浜市+Web

#### 口腔癌術後の過活動型せん妄の臨床的検討

長縄憲亮, 上田整, 小野翔矢, 早川依里, 小田知佳, 花木俊介, 田中佑樹, 大岩伊知郎

第43回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 2025年2月 東京都

#### 口腔粘膜疾患

大岩伊知郎

大治町健康づくり教室 2024年8月 あま市

#### 嚥下評価と嚥下食①摂食嚥下の基本

上田整

令和6年度名古屋第一病院摂食嚥下障害ケアチーム勉強会第1回 2024年9月 名古屋市

#### 嚥下評価と嚥下食①摂食嚥下の基本

上田整

令和6年度名古屋第一病院摂食嚥下障害ケアチーム勉強会第2回 2024年10月 名古屋市

#### VAP予防と口腔ケア

長縄憲亮

名古屋第一病院 RST 勉強会 2024年10月 名古屋市

#### 嚥下評価と嚥下食①摂食嚥下の基本

上田整

令和6年度名古屋第一病院摂食嚥下障害ケアチーム勉強会第3回 2024年11月 名古屋市

#### 造血幹細胞移植患者のオーラルマネージメント

長縄憲亮

造血細胞移植看護基礎研修Ⅱ 2024年12月 名古屋市



## 健診部

人間ドック上部消化管内視鏡検査の説明動画導入による効果

荒木綾子<sup>1</sup>, 村上らん<sup>1</sup>, 阿部佳代子<sup>1</sup>, 加納典子<sup>1</sup>, 森博美<sup>2</sup>, 柴田千江美<sup>2</sup>, 藤本美千子<sup>2</sup>, 鶴飼美由紀<sup>1</sup>, 渡邊保子<sup>3</sup>

1:看護部 2:事務部医事業務管理課 3:健診部

第65回日本人間ドック・予防医療学会大会 2024年9月 横浜市

## 病理部・細胞診分子病理診断部

白血病の形態・形質発現から遺伝子異常を推測する

伊藤雅文

第27回日本血液病理研究会 2024年6月 東京都

骨髄性/リンパ性腫瘍～血球形態と骨髄病理から始まる病態の理解

伊藤雅文

第25回日本検査血液学会学術集会 2024年7月 広島市

形態学的診断に苦慮し、FISH検査が有用であったT-ALL治療後組織球性肉腫の1例

安村奈緒子<sup>1</sup>, 郡司昌治<sup>1,2</sup>, 田中知咲季<sup>1</sup>, 川喜田恵<sup>2</sup>, 藤瀬佳穂<sup>2</sup>, 岡田亜矢香<sup>3</sup>, 馬元春<sup>3</sup>, 藤野雅彦<sup>4</sup>, 伊藤雅文<sup>4</sup>, 村上秀樹<sup>1</sup>

1:細胞診分子病理診断部 2:検査部 3:株式会社常光 4:病理部

第63回日本臨床細胞学会秋季大会 2024年11月 千葉市

Low-grade bronchial adenocarcinoma with ETV6::NTRK3 fusion の一例

白木健太<sup>1</sup>, 伊藤雅文<sup>1</sup>, 藤野雅彦<sup>1</sup>, 村上秀樹<sup>2</sup>, 下山芳江<sup>1</sup>, 桐山理美<sup>1</sup>, 小出莉央<sup>1</sup>, 山室直史<sup>1</sup>

1:病理部 2:細胞診分子病理診断部

第93回日本病理学会中部支部交代会 2024年12月 名古屋市

骨髄病理を知れば骨髄像がもっとわかる

伊藤雅文

第23回日本検査血液学会冬期セミナー 2025年2月 東京都(Web)

適合性評価が日常となった検査部からの景色

郡司昌治

第73回日本医学検査学会 2024年5月 金沢市

病理検査の国際標準化とモチベーションの維持 化学物質に関連する法令の管理を中心に

郡司昌治<sup>1</sup>, 美濃島慎<sup>2</sup>, 田中知咲季<sup>1</sup>, 尾崎靖将<sup>1</sup>, 安村奈緒子<sup>1</sup>

1:細胞診分子病理診断部 2:病理部

第73回日本医学検査学会 2024年5月 金沢市

EZH2変異陽性濾胞性リンパ腫の臨床病理学的解析

吉川佳苗<sup>1,2</sup>, 佐藤啓<sup>3</sup>, 光田一輝<sup>4</sup>, 岩越朱里<sup>5</sup>, 美濃島慎<sup>6</sup>, 郡司昌治<sup>6</sup>, 村上秀樹<sup>6</sup>, 佐藤誠孝<sup>7</sup>, 加留部謙之輔<sup>1,8</sup>

1:病理部 2:名古屋大学臓器病態診断学 3:愛知医科大学病理診断学講座 4:琉球大学医学部医学科 5:国立病理機構名古屋医療センター病理診断科 6:細胞診分子病理診断部

7:エーザイ株式会社メディカル本部 8:名古屋大学臓器病態診断学

第64回日本リンパ網内系学会学術集会 2024年6月 東京都

体外式超音波による虫垂憩室の診断能

中村詩織<sup>1</sup>, 佐藤彩<sup>1</sup>, 小島祐穀<sup>1</sup>, 二坂好美<sup>1</sup>, 前岡悦子<sup>1</sup>, 郡司昌治<sup>2</sup>

1:検査部 2:細胞診分子病理診断部

第49回超音波検査学会学術集会 2024年7月 仙台市

品質マネジメントシステムが検査室に溶け込む過程とその景色

郡司昌治

遺伝子病理・検査診断研究会第12回定期報告会 2024年9月 東京都

考えてみてわかった！AmoyDx 肺癌マルチケーススタディ・ワークショップ Vol2

郡司昌治

AmoyDx 肺癌マルチ遺伝子PCR パネル Web セミナー 2024年10月 Web

FISH染色、解析の精度管理とトラブルシューティング

郡司昌治

第1回いむテクセミナー（神戸免疫組織技術セミナー） 2025年1月 神戸市

## 遺伝子、FISH 解析の臨床応用と精度管理

郡司昌治

第 33 回日臨技首都圏・関甲信支部合同病理細胞検査研修会 2025 年 1 月 浦安市

## Clinicopathologic Characteristics of Follicular Lymphoma(FL) with EZH2 Y646 mutation: Comparative Analysis of FL with and without EZH2 mutation

Satou A<sup>1</sup>, Yoshikawa K<sup>2</sup>, Mitsuda I<sup>3</sup>, Iwakoshi A<sup>4</sup>, Minoshima M<sup>5</sup>, Gunji M<sup>6</sup>, Murakami H<sup>5</sup>, Carreras J<sup>6</sup>, Ikoma H<sup>6</sup>, Nakamura N<sup>6</sup>, Tsuzuki T<sup>7</sup>, Sato M<sup>8</sup>, Karube K<sup>2</sup>

1:Nagoya University Hospital 2:Nagoya University Graduate School of Medicine 3:University of the Ryukyus 4:Nagoya Medical Center 5:Department of Pathology, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital 6:Tokai University School of Medicine 7:Aichi Medical University Hospital 8:Medical HQs, Eisai Co., Ltd United States and Canadian Academy of Pathology114th Annual Meetings 2025 年 3 月 Boston

## 救急部・集中治療部

### 平坦波形は平坦波形で終わる

金子洋<sup>1</sup>, 畑中哲生<sup>2</sup>, 長瀬亜岐<sup>3</sup>, 丸川征四郎<sup>4</sup>

1:救急部 2:健和会大手町病院 救急科 3:おひさまクリニック西宮 4:吹田徳洲会病院集中治療センター

第 52 回日本救急医学会学術集会 2024 年 10 月 仙台市

### 病院外心停止における AED と救助者のパフォーマンス

金子洋<sup>1</sup>, 畑中哲生<sup>2</sup>, 長瀬亜岐<sup>3</sup>, 丸川征四郎<sup>4</sup>

1:救急部 2:健和会大手町病院 救急科 3:おひさまクリニック西宮 4:吹田徳洲会病院集中治療センター

第 52 回日本救急医学会学術集会 2024 年 10 月 仙台市

### AED 内部記録情報解析で明らかになった救助者と AED のパフォーマンス

丸川征四郎<sup>1</sup>, 金子洋<sup>2</sup>, 長瀬亜岐<sup>3</sup>, 畑中哲生<sup>4</sup>

1:吹田徳洲会病院集中治療センター 2:救急部 3:おひさまクリニック西宮 4:健和会大手町病院救急科

日本蘇生学会第 43 回大会 2024 年 12 月 大宮市

### 一次救命処置の心肺蘇生において胸骨圧迫は VF/VT を誘発するか？

丸川征四郎<sup>1</sup>, 金子洋<sup>2</sup>, 長瀬亜岐<sup>3</sup>, 畑中哲生<sup>4</sup>

1:吹田徳洲会病院集中治療センター 2:救急部 3:おひさまクリニック西宮 4:健和会大手町病院救急科

第 52 回日本集中治療学会学術集会 2025 年 3 月 福岡市

### 地域連携 BCP の策定に向けた第一歩

浦野紘明<sup>1</sup>, 金子洋<sup>2</sup>, 花木芳洋<sup>2</sup>

1:事務部総務課 2:救急部

第 30 回日本災害医学会学術集会 2025 年 3 月 名古屋市

### 福祉施設を対象とした BCP 研修の実際～愛知県介護施設等防災リーダー養成研修事業について～

柴田隼人<sup>1</sup>, 小澤和弘<sup>1</sup>, 高橋礼子<sup>1</sup>, 川谷陽子<sup>1</sup>, 津田雅庸<sup>1</sup>, 稲田眞治<sup>2</sup>, 花木芳洋<sup>3</sup>, 北川喜己<sup>4</sup>

1:愛知医科大学 2:日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 3:救急部 4:名古屋えきさいかい病院

第 30 回日本災害医学会総会学術集会 2025 年 3 月 名古屋市

### 自発呼吸モードの際 IntelliSync+による呼吸トリガーの使用が心不全の安定化に非常に有用であった 1 例

都築通孝<sup>1</sup>, 國澤太幹<sup>1</sup>, 西川大樹<sup>2</sup>, 中井悠二<sup>3</sup>, 落合友彌<sup>3</sup>, 開正宏<sup>3</sup>, 林衛<sup>4</sup>, 川浪匡史<sup>1</sup>

1:集中治療部 2:リハビリテーション部 3:臨床工技術課 4:栄養課

日本集中治療医学会第 8 回東海北陸支部学術集会 2024 年 7 月 名古屋市

### 難民認定申請中に急性心筋梗塞による心停止となった外国人診療を経験して

川浪匡史<sup>1,2</sup>, 都築通孝<sup>1,2</sup>, 花木芳洋<sup>1</sup>, 古田翔太郎<sup>3</sup>, 大鐘隆宏<sup>4</sup>, 島田香穂梨<sup>4</sup>, 榎本伸一<sup>5</sup>, 田畑真規子<sup>5</sup>, 野坂真希<sup>5</sup>, 平野二郎<sup>6</sup>, 奥村仁哉<sup>7</sup>

1:救急部 2:集中治療部 3:循環器内科 4:看護部 5:医療社会事業部 6:医事業務管理課 7:事務部総務課

第 39 回日本救命医療学会総会学術集会 2024 年 9 月 福岡市

## 薬剤部

### パンコマイシンの初回投与設計で得られる予測値と急性腎障害との関連性について

松井孝美, 櫛原秀之, 奥村英典, 秋田桂汰, 成瀬徳彦

第 18 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2024 年 9 月 札幌市

### カルボプラチン投与量設計における GFR 推算式の検討

秋田桂汰, 櫛原秀之, 奥村英典, 松井孝美, 成瀬徳彦

第 18 回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2024 年 9 月 札幌市

**術後疼痛管理チーム活動について【CKDに着目して】**

奥村英典<sup>1</sup>, 横田修一<sup>2</sup>, 二宮結花<sup>3</sup>, 秋田桂汰<sup>1</sup>, 桑原匠平<sup>1</sup>, 山田千草<sup>1</sup>, 藤波さやか<sup>1</sup>, 松井孝美<sup>1</sup>, 櫛原秀之<sup>1</sup>, 成瀬徳彦<sup>1</sup>

1:薬剤部 2:麻酔科 3:看護部

第18回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 2024年9月 札幌市

**当院における術後疼痛管理チームの活動報告 - 薬剤師の立場から**

桑原匠平<sup>1</sup>, 奥村英典<sup>1</sup>, 櫛原秀之<sup>1</sup>, 二宮結花<sup>2</sup>, 横田修一<sup>3</sup>, 成瀬徳彦<sup>1</sup>

1:薬剤部 2:看護部 3:麻酔科

第60回日本赤十字社医学会総会 2024年10月 仙台市

**泌尿器科病棟における不眠指示・病棟常備及びクリニカルパスの整備**

家城瞭<sup>1</sup>, 平林裕樹<sup>2</sup>, 井内豊子<sup>3</sup>, 櫛原秀之<sup>1</sup>, 成瀬徳彦<sup>1</sup>

1:薬剤部 2:泌尿器科 3:看護部

第60回日本赤十字社医学会総会 2024年10月 仙台市

**急性期病院における大腿骨頸部骨折患者に対するビスホスホネート製剤導入について**

大隅萌加<sup>1</sup>, 櫛原秀之<sup>1</sup>, 山田千草<sup>1</sup>, 樋口直美<sup>1</sup>, 成瀬徳彦<sup>1</sup>, 祖父江康司<sup>2</sup>

1:薬剤部 2:整形外科

第26回日本骨粗鬆症学会 2024年10月 金沢市

**悪性リンパ腫 R-CHOP 療法における体重変動と有害事象の関連について**

大隅萌加, 櫛原秀之, 奥村英典, 岩永周子, 成瀬徳彦

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2024年10月 岐阜市

**オピオイドマブ療法における注入関連反応(IRR)に関する調査**

奥村英典, 櫛原秀之, 岩永周子, 大隅萌加, 成瀬徳彦

日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2024年10月 岐阜市

**当院におけるメサドン使用状況の実態調査**

末松菜月<sup>1</sup>, 櫛原秀之<sup>1</sup>, 成瀬徳彦<sup>1</sup>, 河合奈津子<sup>2</sup>

1:薬剤部 2:緩和ケア科

第34回日本医療薬学会年会 2024年11月 千葉市

**抗がん剤連日投与レジメンにおけるフィルグラスチムの至適投与タイミングと投与方法の検討**

竹下充哉<sup>1</sup>, 山本孝枝<sup>1</sup>, 川崎貴蔵<sup>1</sup>, 櫛原秀之<sup>2</sup>, 成瀬徳彦<sup>2</sup>

1:豊川市民病院薬剤部 2:薬剤部

第34回日本医療薬学会年会 2024年11月 千葉市

**JSPEN 臨床栄養代謝腎疾患専門療法士を取得した糖尿病薬物療法認定薬剤師が高齢者 CKD 患者における透析導入を回避した事例報告**

野村浩夫<sup>1,2</sup>, 野村祐理<sup>3</sup>, 野村有紀<sup>3</sup>, 野村真理<sup>2</sup>, 日比陽子<sup>3</sup>, 副田雄也<sup>4</sup>, 濱野高行<sup>5</sup>, 成瀬徳彦<sup>1</sup>

1:薬剤部 2:野村薬局 3:名古屋市立大学病院薬剤部 4:そえだ腎・泌尿器クリニック 5:名古屋市立大学病院腎臓内科

第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2024年10月 仙台市

**有害事象自発報告データベース(JADER)を用いたせん妄に関する調査**

岩永周子, 櫛原秀之, 坂口静羽, 佐藤美月, 成瀬徳彦

日本薬学会第145年会 2025年3月 福岡市

**当院における妊婦・授乳婦の医薬品使用状況と情報源に関する調査**

坂口静羽, 櫛原秀之, 佐藤美月, 山田総, 櫛原朋恵, 山田千草, 山本侑佳, 成瀬徳彦

日本薬学会第145年会 2025年3月 福岡市

## 栄養課

### ナトリウム摂取量と認知症有病率との関連－9年間の国際比較研究

阿部稚里<sup>1,2</sup>, 今井具子<sup>2,3</sup>, 瀬崎彩也子<sup>2,4</sup>, 宮本恵子<sup>2,5</sup>, 川瀬文哉<sup>6,7</sup>, 白井禎朗<sup>2,8</sup>, 位田文香<sup>9</sup>, 眞田正世<sup>2,10</sup>, 杉原規恵<sup>11</sup>, 本多利枝<sup>2,5</sup>, 炭竈優太<sup>12</sup>, 野坂沙耶<sup>3</sup>, 下方浩史<sup>2,7</sup>

1:三重短期大学食物栄養学科 2:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 3:同志社女子大学生活科学部 4:国立がん研究センターがん対策研究所 5:名古屋学芸大学看護学部 6:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 7:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科 8:KDDI 総合研究所 9:浜松医科大医学部附属病院栄養部 10:平成医療短期大学看護学科 11:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 12:栄養課

第78回日本栄養・食糧学会大会 2024年5月 福岡市

### Mediterranean diet score and Hypertension: an International Comparative study

Sezaki A<sup>1,2</sup>, Nosaka S<sup>3</sup>, Imai T<sup>2,4</sup>, Miyamoto K<sup>2,5</sup>, Kawase F<sup>6,7</sup>, Shirai Y<sup>2,8</sup>, Abe C<sup>2,9</sup>, Sanada M<sup>2,10</sup>, Inden A<sup>11</sup>, Sugihara N<sup>12</sup>, **Sumikama Y**<sup>2,13</sup>, Shimokata H<sup>2,6</sup>

1:Institute of Cancer Control, National Cancer Center 2:Institute of Health and Nutrition, Nagoya University of Arts and Sciences 3:Major in Food Science and Nutrition Studies, Doshisha Women's College of Liberal Arts 4:Department of Food Science and Nutrition, Doshisha Women's College of Liberal Arts 5:Department of Nursing, Nagoya University of Arts and Sciences 6:Graduate School of Nutritional Science, Nagoya University of Arts and Sciences 7:Department of Nutrition, Asuke Hospital Aichi Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives 8:KDDI Research, Inc. 9:Department of Food and Nutrition, Tsu City College 10:Department of Nursing, Heisei College of Health Sciences 11:Clinical Nutrition Unit, Hamamatsu University Hospital 12:Faculty of Health and Social Services, Kanagawa University of Human Services 13:Department of Nutrition, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

ICND2024, The 19th International Congress of Nutrition and Dietetics 2024年6月 Toronto(Web)

### Longitudinal association of selenium intake with IHD incidence and mortality

Nosaka S<sup>1</sup>, Sezaki A<sup>2,3</sup>, Imai T<sup>4</sup>, Miyamoto K<sup>3,5</sup>, Kawase F<sup>3,6</sup>, Shirai Y<sup>3,8</sup>, Abe C<sup>3,9</sup>, Sanada M<sup>3,10</sup>, Inden A<sup>11</sup>, Sugihara N<sup>12</sup>, **Sumikama Y**<sup>3,13</sup>, Honda T<sup>3,5</sup>, Shimokata H<sup>3,7</sup>

1:Major in Food Science and Nutrition Studies, Doshisha Women's College of Liberal Arts 2:Institute of Cancer Control, National Cancer Center 3:Institute of Health and Nutrition, Nagoya University of Arts and Sciences 4:Department of Food Science and Nutrition, Doshisha Women's College of Liberal Arts 5:Department of Nursing, Nagoya University of Arts and Sciences 6:Department of Nutrition, Asuke Hospital Aichi Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives 7:Graduate School of Nutritional Science, Nagoya University of Arts and Sciences 8:KDDI Research, Inc. 9:Department of Food and Nutrition, Tsu City College 10:Department of Nursing, Heisei College of Health Sciences 11:Clinical Nutrition Unit, Hamamatsu University Hospital 12:Faculty of Health and Social Services, Kanagawa University of Human Services 13:Department of Nutrition, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

ICND2024, The 19th International Congress of Nutrition and Dietetics 2024年6月 Toronto(Web)

### Association between dietary fatty acid fractions and chronic kidney disease

Shimokata H<sup>1,2</sup>, Sezaki A<sup>1,3</sup>, Nosaka S<sup>4</sup>, Imai T<sup>5</sup>, Miyamoto K<sup>6</sup>, Kawase F<sup>1,7</sup>, Shirai Y<sup>1,8</sup>, Abe C<sup>1,9</sup>, Sanada M<sup>1,10</sup>, Inden A<sup>11</sup>, Sugihara N<sup>12</sup>, Honda T<sup>6</sup>, **Sumikama Y**<sup>1,13</sup>

1:Institute of Health and Nutrition, Nagoya University of Arts and Sciences 2:Graduate School of Nutritional Science, Nagoya University of Arts and Sciences 3:Institute of Cancer Control, National Cancer Center 4:Major in Food Science and Nutrition Studies, Doshisha Women's College of Liberal Arts 5:Department of Food Science and Nutrition, Doshisha Women's College of Liberal Arts 6:Department of Nursing, Nagoya University of Arts and Sciences 7:Department of Nutrition, Asuke Hospital Aichi Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives 8:KDDI Research, Inc. 9:Department of Food and Nutrition, Tsu City College 10:Department of Nursing, Heisei College of Health Sciences 11:Clinical Nutrition Unit, Hamamatsu University Hospital 12:Faculty of Health and Social Services, Kanagawa University of Human Services 13:Department of Nutrition, Japanese Red Cross Aichi Medical Center Nagoya Daiichi Hospital

ICND2024, The 19th International Congress of Nutrition and Dietetics 2024年6月 Toronto(Web)

### 様々な臨床栄養管理－急性期病院－

林衛

第9回実践栄養ケア研究会 2024年7月 名古屋市

### 国際データを用いたエコロジカル研究における5つの食スコアと健康寿命との関連

今井具子<sup>1,2</sup>, 阿部稚里<sup>2,3</sup>, 瀬崎彩也子<sup>2,4</sup>, 宮本恵子<sup>2,5</sup>, 川瀬文哉<sup>2,6</sup>, 白井禎朗<sup>2,7</sup>, 位田文香<sup>2,8</sup>, 眞田正世<sup>2,9</sup>, 杉原規恵<sup>10</sup>, 本多利枝<sup>2,5</sup>, 炭竈優太<sup>2,11</sup>, 野坂咲耶<sup>1,12</sup>, 下方浩史<sup>2,5,12</sup>

1:同志社女子大学生活科学部 2:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 3:三重短期大学食物栄養学科 4:国立がん研究センターがん対策研究所 5:名古屋学芸大学看護学部 6:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 7:KDDI 総合研究所 8:浜松医科大医学部附属病院栄養部 9:平成医療短期大学看護学科 10:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 11:栄養課 12:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科

第71回日本栄養改善学会学術総会 2024年9月 大阪市(Web)

### 脂肪酸分画と障害調整生命年との関連－国際データベースを用いた9年間の生態学的研究

白井禎朗<sup>1,2</sup>, 瀬崎彩也子<sup>2,3</sup>, 今井具子<sup>2,4</sup>, 宮本恵子<sup>2,5</sup>, 川瀬文哉<sup>2,6</sup>, 阿部稚里<sup>2,7</sup>, 眞田正世<sup>2,8</sup>, 位田文香<sup>2,9</sup>, 杉原規恵<sup>10</sup>, 炭竈優太<sup>2,11</sup>, 本多利枝<sup>2,12</sup>, 野坂咲耶<sup>4,12</sup>, 下方浩史<sup>2,12</sup>

1:KDDI 総合研究所 2:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 3:国立がん研究センターがん対策研究所 4:同志社女子大学生活科学部 5:名古屋学芸大学看護学部 6:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 7:三重短期大学食物栄養学科 8:平成医療短期大学看護学科 9:浜松医科大医学部附属病院栄養部 10:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 11:栄養課 12:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科

第71回日本栄養改善学会学術総会 2024年9月 大阪市(Web)

## 和食スコアと脳梗塞発症率および死亡率との関連—9 年間の縦断解析

阿部稚里<sup>1,12</sup>, 今井具子<sup>2,11</sup>, 瀬崎彩也子<sup>3,11</sup>, 宮本恵子<sup>4,11</sup>, 川瀬文哉<sup>5,11</sup>, 白井禎朗<sup>6,11</sup>, 位田文香<sup>7,11</sup>, 眞田正世<sup>8,11</sup>, 杉原規恵<sup>9</sup>, 本多利枝<sup>4,11</sup>, 炭竈優太<sup>10,11</sup>, 野坂咲耶<sup>2,12</sup>, 下方浩史<sup>11,12</sup>

1:三重短期大学食物栄養学科 2:同志社女子大学生生活科学部 3:国立がん研究センターがん対策研究所 4:名古屋学芸大学看護学部 5:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 6:KDDI 総合研究所 7:浜松医科大医学部附属病院栄養部 8:平成医療短期大学看護学科 9:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 10:栄養課 11:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 12:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科

第 71 回日本栄養改善学会学術総会 2024 年 9 月 大阪市(Web)

## ビタミン E 摂取量と IHD 発症率および死亡率の 28 年間にわたる縦断的関連-国際比較研究

野坂咲耶<sup>1,2</sup>, 瀬崎彩也子<sup>3,4</sup>, 今井具子<sup>2,4</sup>, 宮本恵子<sup>4,5</sup>, 川瀬文哉<sup>4,6</sup>, 白井禎朗<sup>4,7</sup>, 阿部稚里<sup>4,8</sup>, 眞田正世<sup>4,9</sup>, 位田文香<sup>4,10</sup>, 杉原規恵<sup>11</sup>, 炭竈優太<sup>4,12</sup>, 本多利枝<sup>4,5</sup>, 下方浩史<sup>1,4,5</sup>

1:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科 2:同志社女子大学生生活科学部 3:国立がん研究センターがん対策研究所 4:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 5:名古屋学芸大学看護学部 6:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 7:株式会社 KDDI 総合研究所 8:三重短期大学食物栄養学科 9:平成医療短期大学看護学科 10:浜松医科大医学部附属病院栄養部 11:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 12:栄養課

第 71 回日本栄養改善学会学術総会 2024 年 9 月 大阪市(Web)

## 和食と慢性関節リウマチ有病率との関連—9 年間の縦断解析

杉原規恵<sup>1</sup>, 今井具子<sup>2,11</sup>, 阿部稚里<sup>3,11</sup>, 瀬崎彩也子<sup>4,11</sup>, 宮本恵子<sup>5,11</sup>, 川瀬文哉<sup>6,11</sup>, 白井禎朗<sup>7,11</sup>, 位田文香<sup>8,11</sup>, 眞田正世<sup>9,11</sup>, 本多利枝<sup>5,11</sup>, 炭竈優太<sup>10,11</sup>, 野坂咲耶<sup>2,12</sup>, 下方浩史<sup>11,12</sup>

1:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 2:同志社女子大学生生活科学部 3:三重短期大学食物栄養学科 4:国立がん研究センターがん対策研究所 5:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 6:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 7:KDDI 総合研究所 8:浜松医科大医学部附属病院栄養部 9:平成医療短期大学看護学科 10:栄養課 11:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 12:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科

第 71 回日本栄養改善学会学術総会 2024 年 9 月 大阪市(Web)

## 地中海食スコアと全がん罹患率・死亡率との関連～国際データベースを用いた 28 年間の縦断比較研究

瀬崎彩也子<sup>1</sup>, 野坂咲耶<sup>3,4</sup>, 今井具子<sup>2,4</sup>, 宮本恵子<sup>2,5</sup>, 川瀬文哉<sup>2,6</sup>, 白井禎朗<sup>2,7</sup>, 阿部稚里<sup>2,8</sup>, 眞田正世<sup>2,9</sup>, 位田文香<sup>2,10</sup>, 杉原規恵<sup>11</sup>, 炭竈優太<sup>2,12</sup>, 本多利枝<sup>2,5</sup>, 下方浩史<sup>2,3</sup>

1:国立がん研究センターがん対策研究所 2:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 3:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科 4:同志社女子大学生生活科学部 5:名古屋学芸大学看護学部 6:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 7:株式会社 KDDI 総合研究所 8:三重短期大学食物栄養学科 9:平成医療短期大学看護学科 10:浜松医科大医学部附属病院栄養部 11:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 12:栄養課

第 71 回日本栄養改善学会学術総会 2024 年 9 月 大阪市(Web)

## 肉類の摂取量と閉塞性肺疾患 (COPD 有病率との 9 年間の縦断的関連

本多利枝<sup>1,2</sup>, 今井具子<sup>2,3</sup>, 瀬崎彩也子<sup>2,4</sup>, 宮本恵子<sup>1,2</sup>, 川瀬文哉<sup>2,5</sup>, 白井禎朗<sup>2,6</sup>, 阿部稚里<sup>2,7</sup>, 眞田正世<sup>2,8</sup>, 位田文香<sup>9</sup>, 杉原規恵<sup>10</sup>, 炭竈優太<sup>2,11</sup>, 野坂咲耶<sup>3,12</sup>, 下方浩史<sup>2,12</sup>

1:名古屋学芸大学看護学部 2:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 3:同志社女子大学生生活科学部 4:国立がん研究センターがん対策研究所 5:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 6:KDDI 総合研究所 7:三重短期大学食物栄養学科 8:平成医療短期大学看護学科 9:浜松医科大医学部附属病院栄養部 10:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 11:栄養課 12:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科

第 71 回日本栄養改善学会学術総会 2024 年 9 月 大阪市(Web)

## 食品多様性スコアと脳梗塞発症率および死亡率との関連—国際データを用いた縦断解析

宮本恵子<sup>1,11</sup>, 今井具子<sup>2,11</sup>, 瀬崎彩也子<sup>3,11</sup>, 川瀬文哉<sup>4,11</sup>, 白井禎朗<sup>5,11</sup>, 阿部稚里<sup>6,11</sup>, 眞田正世<sup>7,11</sup>, 位田文香<sup>8,11</sup>, 杉原規恵<sup>9</sup>, 本多利枝<sup>1,11</sup>, 炭竈優太<sup>10,11</sup>, 野坂咲耶<sup>2,12</sup>, 下方浩史<sup>11,12</sup>

1:名古屋学芸大学看護学部 2:同志社女子大学生生活科学部 3:国立がん研究センターがん対策研究所 4:JA 愛知厚生連足助病院栄養管理室 5:KDDI 総合研究所 6:三重短期大学食物栄養学科 7:平成医療短期大学看護学科 8:浜松医科大医学部附属病院栄養部 9:神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 10:栄養課 11:名古屋学芸大学健康・栄養研究所 12:名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科

第 71 回日本栄養改善学会学術総会 2024 年 9 月 大阪市(Web)

## Association of Traditional Japanese diet score with disability survival and disability-adjusted life years – an international open data longitudinal study

Imai T<sup>1,2</sup>, Abe C<sup>2,3</sup>, Sezaki A<sup>2,4</sup>, Miyamoto K<sup>2</sup>, Kawase F<sup>2,5</sup>, Shirai Y<sup>2,6</sup>, Sanada M<sup>2,7</sup>, Inden A<sup>8</sup>, Sugihara N<sup>9</sup>, Honda T<sup>2</sup>, Sumikama Y<sup>2,10</sup>, Nosaka S<sup>1,2</sup>, Shimokata H<sup>2</sup>

1:Doshisha Women's college of liberal arts 2:Nagoya university of arts and sciences 3:Tsu city college, 4 National cancer center Japan 5:Asuke hospital aichi Prefectural Welfare federation of agricultural cooperatives 6:KDDI research, inc. 7:Heisei college of health sciences 8:Hamamatsu university hospital 9:Kanagawa university of human services 10:Japanese red cross aichi medical center nagoya Daiichi hospital

ACFS2024, The 10th Asian Conference of Frailty and Sarcopenia 2024 年 10 月 Bangkok, Thailand

## 大腿骨近位部骨折患者における栄養評価(COUNT スコアと在院日数の関連について

柴田彩<sup>1</sup>, 伴野広幸<sup>1</sup>, 村瀬朱音<sup>1</sup>, 祖父江康司<sup>2</sup>

1:栄養課 2:整形外科

第 26 回日本骨粗鬆症学会 2024 年 10 月 金沢市

## シンポジウム プレシジョン栄養学から未来の栄養支援を考える 個別化栄養管理のための食塩摂取量のアセスメント

炭竈優太

第 28 回日本病態栄養学会年次学術集会 2025 年1月 京都市(Web)

救命救急センターICU 長期在室患者における早期栄養介入管理継続効果  
林衛<sup>1</sup>,炭竈優太<sup>1</sup>,荒川登紀子<sup>1</sup>,山上佳小吏<sup>1</sup>,伴野広幸<sup>1</sup>,川浪匡史<sup>2</sup>,都築通孝<sup>2</sup>

1:栄養課 2:集中治療部・救急部

第 28 回日本病態栄養学会年次学術集会 2025 年 1 月 京都市(Web)

胃全摘および小腸切除後の難治性下痢に対し,アルブミン輸血が著効した 1 例  
荒川登紀子,林衛,炭竈優太,伴野広幸

第 28 回日本病態栄養学会年次学術集会 2025 年 1 月 京都市(Web)

大腿骨近位部骨折患者における栄養充足率が在院日数に及ぼす影響について  
柴田彩<sup>1</sup>,伴野広幸<sup>1</sup>,祖父江康司<sup>2</sup>

1:栄養課 2:整形外科

第 28 回日本病態栄養学会年次学術集会 2025 年 1 月 京都市(Web)

はじめて学ぶ画像所見の見方-栄養管理への活用方法-  
林衛

2024 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 実務者のための NCP 研修会 2025 年 3 月 名古屋

ICU 長期在室患者における経腸栄養充足率と予後の関連:栄養介入管理体制強化の効果と安全性  
林衛<sup>1</sup>,炭竈優太<sup>1</sup>,荒川登紀子<sup>1</sup>,山上佳小吏<sup>1</sup>,伴野広幸<sup>1</sup>,川浪 匡史<sup>2</sup>,都築通孝<sup>2</sup>

1:栄養課 2:集中治療部・救急部

第 52 回日本集中治療医学会学術集会 2025 年 3 月 福岡市

## 臨床工学技術課

MICS の人工心肺灌流量には制限がある —必要な酸素運搬能は DO<sub>2</sub>/VO<sub>2</sub> から導いても問題ないのではないかな—  
開正宏<sup>1</sup>,伊藤敏明<sup>2</sup>

1:臨床工学技術課 2:心臓血管外科

近畿心血管治療ジョイントライブ 2024 年 4 月 大阪市

鏡視下手術の視野確保  
蜂須賀章友

日本臨床工学会臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修 2024 年 4 月 岐阜市

低体温中の pH-stat・ $\alpha$ -stat  
開正宏

第 11 回日本体外循環技術医学会東海地方会学術セミナー 2024 年 5 月 名古屋市

人工呼吸療法のパットフォーラ  
開正宏

第 21 回東海 RST 協定会セミナー 2024 年 6 月 名古屋市+Web

CRRT ハンズオンセミナー —これで安心 CHDF 基本手技マスター—  
開正宏

第 67 回日本腎臓学会学術総会 2024 年 6 月 横浜市

集中治療室の設備と安全の知識 —特に電源と医療ガスについて—  
開正宏<sup>1</sup>,都築通孝<sup>2</sup>

1:臨床工学技術課 2:集中治療部

日本集中治療医学会サマーキャンプ in TATESHINA 2024 年 7 月 長野県蓼科町

血液浄化ハンズオンセミナー —これで安心 CHDF 基本手技マスター—  
開正宏

日本集中治療医学会サマーキャンプ in TATESHINA 2024 年 7 月 長野県蓼科町

鏡視下手術の視野確保  
蜂須賀章友

日本臨床工学会臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修 2024 年 7 月 東京都

循環補助装置のしくみと管理  
開正宏

日本集中治療医学会 ICU セミナー(中級本会看護教育委員会セミナー) 2024 年 8 月 Web

#### オレ・ワタシ流リアル肺保護戦略

開正宏

19th CE Critical Care Meeting 2024 年 8 月 東京都(Web)

#### 鏡視下手術の視野確保

蜂須賀章友

日本臨床工学技士会臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修 2024 年 8 月 名古屋市

#### CKRT 施行時のカリウム管理について

瀧本さち

第 17 回東海 CHDF 技術検討会 2024 年 9 月 名古屋市

#### 補助循環と iNO の相性

開正宏

第 14 回中四国臨床工学会 2024 年 9 月 松山市

#### 新しい透湿性人工呼吸回路 DRI-Therm

開正宏

第 4 回関東甲信越臨床工学会 2024 年 9 月 東京都

#### 重症呼吸不全での PaCO<sub>2</sub> を考える

開正宏

第 49 回日本体外循環技術医学会 2024 年 10 月 旭川市

#### ジャクソンリース(メイプルソン回路)は酸素を流さなくとも用手換気はできる？医療安全終わりにき戦い 想定外の出来事を想定内にするための医療安全に役立つシンポジウム-(Part6)

開正宏

第 60 回日本赤十字社医学会総会 2024 年 10 月 仙台市

#### NIRS のきほんのき

蜂須賀章友

愛知県臨床工学技士会 ME セミナー ―各種生体モニター管理について― 2024 年 10 月 Web

#### これが「Team STEPPS」実践してみよう

蜂須賀章友

愛知県臨床工学技士会安全セミナー 2024 年 11 月 Web

#### 鏡視下手術の視野確保

蜂須賀章友

日本臨床工学技士会臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修 2024 年 11 月 東京都

#### 病院機能評価と CE の役割 ～平常時の準備～

山鹿彰

第 14 回日本赤十字社臨床工学技士会中部ブロック研修会 2024 年 12 月 長野市

#### 周術期における iNO は役に立つ ―当院における使用から考える―

開正宏

iNO Webinar for Clinical Engineers 2024 年 12 月 Web

#### 鏡視下手術の視野確保

蜂須賀章友

日本臨床工学技士会臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修 2024 年 12 月 東京都

#### 循環補助装置のしくみと管理

開正宏

日本集中治療医学会 ICU セミナー(中級本会看護教育委員会セミナー) 2024 年 12 月 Web

#### 新しい透湿性人工呼吸回路 DRI-Therm

開正宏

第 19 回九州・沖縄臨床工学会 2025 年 1 月 鹿児島市

#### 術中術後の乳酸値の変動について～MdN の影響～

奈良さよ子, 西野遥平, 蜂須賀章友, 中井悠二, 田中万里, 白鳥頌紘, 山鹿彰, 開正宏

第 47 回日本体外循環技術医学会東海地方会 2024 年 1 月 鳥羽市

刺さるポイントはここだ！―NKV-550 大解剖―

開正宏

人工呼吸器 NKV-550web セミナー 2025 年 1 月 Web

人工呼吸療法に係わる設備と安全 ―電気・医療ガス―

開正宏

埼玉県臨床工学技士会第 24 回人工呼吸安全対策セミナー 2025 年 1 月 Web

人工呼吸器における医療安全 ―パルスオキシメーターとカプノメーター―

中井悠二

愛知県臨床工学技士会呼吸安全セミナー2 2025 年 2 月 Web

血液浄化って一体なんだ？

開正宏

第 2 回周術期医療機器セミナー 2025 年 2 月 Web

鏡視下手術の視野確保

蜂須賀章友

日本臨床工学技士会臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修 2025 年 2 月 東京都

これであって？酸素療法 ―呼吸療法の ABC とピットフォール―

開正宏

南九州 ME 研究会第 14 回呼吸セミナー 2025 年 2 月 鹿児島市

臨床工学技士と医工連携

蜂須賀章友

医療×モノづくり技術の展示商談会メディカルメッセ 2025 年 2 月 名古屋市

鏡視下手術の視野確保

蜂須賀章友

日本臨床工学技士会臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修 2025 年 2 月 大分市

## 検査部・輸血部

当院における CAR-T 細胞療法「イエスカルタ」導入に向けた取り組み

二村亜子<sup>1</sup>, 後藤辰徳<sup>1</sup>, 古賀一輝<sup>1</sup>, 池口美代子<sup>1</sup>, 山中泰子<sup>1</sup>, 西田徹也<sup>2</sup>

1:輸血部 2:血液内科

第 72 回日本輸血・細胞治療学会学術総会 2024 年 5 月 東京都

輸血医療再入門―検査の基礎から輸血医療の最前線まで―製剤管理編

二村亜子

令和 6 年度第 1 回輸血検査研究会 2024 年 6 月 名古屋市(Web)

細胞治療に携わる検査技師の業務

古賀一輝

cGVHD Conference in 東濃 2024 年 6 月 多治見市

基礎コース:これで困らない、輸血検査の基本テクニック

中級コース:KYT しながら輸血検査をしてみよう

二村亜子

令和 6 年度愛知県臨床検査技師会輸血検査研究班基礎講座 2024 年 7 月 名古屋市

イエスカルタ施設認証における取り組み

二村亜子

イエスカルタ Web セミナー CAR T 導入における他職種連携の取り組み 2024 年 8 月 名古屋市

スクリーニングを見直そう!講演 3 脾臓

小島祐毅

第 79 回東海エコーカンファレンス 2024 年 10 月 名古屋市

クイックチェイサー CD GDH/TOX 試薬とスマートジーン CD トキシシン B 試薬の有用性に関する検討

池上志乃富, 服部拓哉, 山内淳平, 西山秀樹, 山森雅大, 二村英憲, 堀田美佐, 深尾恵美, 永井葵葉, 郡司昌治, 尾崎信暁

第 36 回日本臨床微生物学会総会学術集会 2025 年 1 月 名古屋市



## 血液培養のグラム染色の捉え方

服部拓哉

第36回日本臨床微生物学会総会学術集会 2025年1月 名古屋市

## 看護部

### ICU入室中の重症患者に対する看護師の睡眠評価の視点に関する研究

千賀栄美<sup>1</sup>, 益田美津美<sup>2</sup>

1:看護部 2:名古屋市立大学大学院看護学研究科

第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会 2024年6月 沖縄市

### 認知症看護認定看護師同士のつながりを地域の認知症ケアに活かすために

杉浦朋子

日本老年看護学会第29回学術集会 2024年6月 高知市

### コロナ禍の影響を受けた新人看護職員自身がリアルティショックを乗り越えるための取り組み

服部希恵, 山口恵津子, 安藤俊子, 森早苗

第74回日本病院学会 2024年7月 津市

### 混合病棟における乳癌看護の質の向上を目指す取り組み

小嶋若狭

第32回日本乳癌学会学術総会 2024年7月 仙台市

### 乳癌術後出血を早期に発見するための取り組み

服部久加子

第32回日本乳癌学会学術総会 2024年7月 仙台市

### 高次医療機関での産後ケア導入による助産師の役割認識の変化と助産師育成に向けた課題

大島和美, 木全美智代

第28回日本看護管理学会学術集会 2024年8月 名古屋市

### 上部消化管内視鏡検査の説明動画導入

加納典子

第29回赤十字健康管理事業研究会 2024年9月 横浜市

### 人間ドック上部消化管内視鏡検査の説明動画導入による効果

荒木綾子<sup>1</sup>, 村上らん<sup>1</sup>, 阿部佳代子<sup>1</sup>, 加納典子<sup>1</sup>, 森博美<sup>2</sup>, 柴田千江美<sup>2</sup>, 藤本美千子<sup>2</sup>

1:看護部 2:事務部医事業務管理課

第65回日本人間ドック・予防医療学会学術集会 2024年9月 横浜市

### フローチャートを用いた転倒転落予防対策

大武真紀子, 吉田有佑, 齋藤麻希, 井内豊子

第60回日本赤十字社医学会総会 2024年10月 仙台市

### 当院術後疼痛管理チームの活動報告と今後の課題～手術室看護師の立場から～

二宮結花<sup>1</sup>, 横田修一<sup>2</sup>, 奥村英典<sup>3</sup>

1:看護部 2:麻酔科 3:薬剤部

第60回日本赤十字社医学会総会 2024年10月 仙台市

### 術中大規模災害発生時の対応についての取り組み

馬場周作

第60回日本赤十字社医学会総会 2024年10月 仙台市

### 医療チームの倫理的感性を高めるための取り組み

武藤直美<sup>1</sup>, 森早苗<sup>1</sup>, 奥村仁哉<sup>2</sup>, 安藤智子<sup>3</sup>

1:看護部 2:事務部総務課 3:産婦人科

第18回日本医療マネジメント学会愛知県支部学術集会 2024年11月 名古屋市

### 術前オリエンテーションで動画を視聴した患者の心理的反応

高橋奈緒子, 島田香穂梨, 二宮結花

日本手術看護学会東海地区第64回地区学会令和6年度総会 2024年11月 名古屋市

高次医療機関の助産師が産後ケア導入によって捉えた課題

渡邊江里子,大島和美,木全美智代

第40回愛知県看護学会 2024年12月 名古屋市

心理的安全性のある職場づくりに向けた看護部としての取り組み～実践報告に焦点を当てた文献的考察～

関谷知恵子,鶴飼美由紀,大島和美,大路小千代,中村宣代,服部希恵,山田亜由美,森智子,森早苗

第40回愛知県看護学会 2024年12月 名古屋市

外来化学療法センターにおける診察前問診の取り組み

竹内麻里加,峯田知子,八木美樹,牛山喜久恵,大路小千代

第25回日本赤十字看護学会学術集会 2024年7月 広島市

ACP支援において明らかになった価値観・希望:一般病棟・外来と緩和ケアとの相違

高間紀子<sup>1</sup>,太田絵理<sup>1</sup>,武藤直美<sup>1</sup>,河合奈津子<sup>2</sup>,湯浅典博<sup>2</sup>

1:看護部 2:緩和ケア科

第29回日本緩和医療学会学術大会 第37回日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会 2024年6月 神戸市

## Ⅱ. 業 績

### 4. 学術講演等記録

令和6年4月～令和7年3月

## 4.学術講演等記録

日 付		種 類・テーマ	講 師	主 催
4	1	臨床医・専攻医オリエンテーション		教育研修推進室
4	1.2	新入職員オリエンテーション		教育研修推進室
4	3,4,5,8,9	研修医オリエンテーション		教育研修推進室
4	3.5～9.12	新人看護師採用時研修Ⅰ		看護部
5	7.8	新人看護師採用時研修Ⅱ		看護部
5	20.23	令和6年度第1回保険診療講演会	内分泌内科部長 尾崎信暁	保険診療委員会
5	31	2024年度 第1回褥瘡勉強会(対象:新規スキンケアナース登録者)「スキンケアナースの役割」褥瘡診療予防計画書の記入法」	WOC 伊藤真粧美	褥瘡対策チーム
6	17	RST勉強会①	呼吸器内科部長 横山俊彦	呼吸器モニタ管理チーム
6	19	医療廃棄物研修会	環境整備係長 服部勝儀	医療廃棄物管理委員会
6	26	名古屋第二病院臨床研究推進センター主催講演会「医療機関における個人情報の取扱いについて」	弁護士法人後藤・太田・立岡法律事務所 弁護士 長坂早余子	倫理審査委員会、臨床研究審査委員会、臨床研究・治験支援センター
7	1～31	令和6年度第1回 医療安全研修会	総合診療科副部長 宮川慶 薬剤部 係長 野村祐司	医療安全推進室
7	1～31	令和6年度第1回 感染対策研修会	感染制御部長 伊藤亮太	感染対策委員会
7	1～8/15	2024年度 第2回褥瘡勉強会(対象:全職員) ①「褥瘡と間違えやすい皮膚疾患」②「褥瘡における薬剤選択」③「スキンケア・MDRPUの予防と管理」	皮膚科医師／薬剤師 山田千草／WOC 福山直美	褥瘡対策チーム
7	8	令和6年度 第1回NST勉強会 「当院の経腸栄養ラインナップについて」	管理栄養士 荒川登紀子	栄養サポートチーム
7	16	RST勉強会②	呼吸器内科部長 横山俊彦	呼吸器モニタ管理チーム
8	13	RST勉強会③	臨床工学科 開 正宏・中井悠二	呼吸器モニタ管理チーム
8	16～9/30	2024年度 第3回褥瘡勉強会(対象:全職員) ①「褥瘡と栄養について」②「D3以上の深い褥瘡 スキンテア・MDRPUの治療方法」	管理栄養士 柴田彩／形成外科医師	褥瘡対策チーム
8	21	令和6年度 安全衛生教育講演会	外部講師	安全衛生委員会 メンタルヘルス相談室
8	31	令和6年度 緩和ケア研修会	講師:大垣徳洲会病院 間瀬隆弘先生／すぎもと在宅医療クリニック 杉本由佳先生／患者代表 鶴岡昌毅様／緩和ケア科 副部長 河合奈津子／心療相談センター長 太田龍朗／精神保健支援センター長 舟橋龍秀	緩和ケア科・総務課
8	8	令和6年度第1回排尿ケア研修会	皮膚・排泄ケア認定看護師 福山直美	排尿ケアチーム
9	2	緩和ケアチーム勉強会 第1回せん妄のケアのエビデンス	緩和ケア科医師 長谷川貴昭	緩和ケアチーム
9	9	令和6年度 第2回NST勉強会 「経腸・経静脈栄養について」		栄養サポートチーム
9	17	RST勉強会④	臨床工学科 開 正宏、集中ケア認定看護師 佐藤史子	呼吸器モニタ管理チーム
9	26	第1回 認知症の基礎講座	脳神経内科部長 後藤洋二	認知症ケアチーム
10	1～	令和5年度第2回保険診療講演会「長期収載品の選定療養について」	副院長 尾崎信暁	保険診療委員会

日付		種 類・テーマ	講 師	主 催
10	1～11/15	2024年度 第4回褥瘡勉強会(対象:全職員) ①「褥瘡評価 DESIGN-R®2020について」②「エアマットレスからの離床」③「マット選択とポジショニング」	WOC 伊藤真粧美/PT 古川和親/WOC 福山直美	褥瘡対策チーム
10	15	RST勉強会⑤	歯科口腔外科医師 長縄憲亮、救急看護認定看護師 高田恵理	呼吸器モニタ管理チーム
10	21	地域医療連携学術講演会「救急集中治療の現場での意志決定支援と緩和ケア」	緩和ケア科副部長 河合奈津子	緩和ケア運営委員会
10	31	第2回 認知症の基礎講座	総合診療科副部長 宮川慶	認知症ケアチーム
11	1～30	令和6年度第2回 医療安全研修会	副院長 兼 医療安全推進室長 井上英則 臨床工学技術課 係長 中井悠二	医療安全推進室
11	1～30	令和6年度第2回 感染対策研修会	感染管理室 院内感染管理者 係長 林瑞穂	感染対策委員会
11	5	RST勉強会⑥	リハビリテーション科部 西川大樹	呼吸器モニタ管理チーム
11	11	令和6年度 第3回NST勉強会「GLIM基準について」		栄養サポートチーム
11	14	第3回 認知症の基礎講座	認知症看護認定看護師 杉浦朋子、安増武志	認知症ケアチーム
11	16～12/31	2024年度 第5回褥瘡勉強会(対象:全職員)「①在宅に向けての社会資源」②「創傷被覆剤選択について」	MSW 榎本伸一/WOC 伊藤真粧美	褥瘡対策チーム
12	16	緩和ケアチーム勉強会 第2回疼痛コントロールのエビデンス	緩和ケア科医師 長谷川貴昭	緩和ケアチーム
1	21	RST勉強会⑦	フィリップスレスピロニクス社	呼吸器モニタ管理チーム
1	29	令和6年度 医療安全管理講演会	旭川赤十字病院 医療技術部 臨床工学 技師長代理 兼 事務部 調度課 課長 脇田邦彦	医療安全推進室
2	3	緩和ケアチーム勉強会 第3回呼吸困難のケアのエビデンス	緩和ケア科医師 長谷川貴昭	緩和ケアチーム
2	4	令和6年度 感染防止対策講演会 「HIVと共に生きる人(PLWH)を取り巻く状況と私たちができること」	名古屋医療センター 臨床研究センター感染・免疫研究部 感染症研究室長 今橋 真弓	感染対策委員会
2	10	令和6年度 院内輸血勉強会	認定臨床輸血看護師:寺西真希・中村阿由美 認定輸血検査技師:古賀一輝	輸血・細胞療法委員会
2	27	第2回排尿ケア研修会	泌尿器科部長:加藤真史医師 脳血管リハビリテーション係長:奥田哲也 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師:井内豊子	排尿ケアチーム
2	21	臓器提供と倫理	名古屋掖済会病院 救急科 小川 健一朗 先生	倫理審査委員会、脳死臓器提供者に関する委員会、倫理コンサルテーションチーム
2	5	令和6年度 医療コンフリクト・マネジメント研修会 「患者相談窓口事例報告会」		患者相談窓口
2	26	令和6年度 医療コンフリクト・マネジメント研修会 「医療サービス職のためのトラブルを回避する伝え方」	オフィス アランチャ株式会社 代表取締役 山本 淳子 先生	医療安全推進室・患者相談窓口
3	24	緩和ケアチーム勉強会 第4回浮腫のケアのエビデンス	リンパ浮腫セラピスト	緩和ケアチーム
2	25	RST勉強会⑧	泉工医科	呼吸器モニタ管理チーム
3	10	令和6年度 第4回NST勉強会「脂肪乳剤、輸液の配合変化、プレハビリテーション」	外部講師	栄養サポートチーム

## 編集後記

このたび「令和6年度病院年報」を編集・発行いたしました。  
令和6年度は、7月26日に開幕したパリ五輪で日本は海外開催  
夏季五輪で過去最多のメダル45個を獲得したほか、9月19日には  
ドジャースの大谷翔平選手がメジャー初の50本塁打50盗塁  
を達成するなど、スポーツ界の活躍が印象的な一年でした。

当院では、12月に日本医療機能評価機構による病院機能評価  
を受審し6度目となる認定を受けたほか、当院初の脳死下臓器提  
供事例を経験しました。個々の力を集約し、強い団結力で課題に  
取り組む姿はスポーツと重なり合うものがあるように感じます。

この病院年報で、令和6年度の業績を振り返っていただければ  
幸いです。

令和6年度 病院年報	
発行日	令和7年12月
発行者	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院
	院長 錦見 尚道 名古屋市中村区道下町3丁目35番地 TEL (052)481-5111
編集者	広報委員会
委員長 (所轄副院長)	井上 英 則 整形外科部兼医療社会事業部
副委員長	小 出 実 総務課
委員	津田 弘之 産婦人科部
	横山 俊彦 呼吸器内科部
	渡部 亨平 薬剤部
	山田 健 放射線診断科部
	前岡 悦子 検査部
	平岩 美緒 看護部
	阿部 由希野 看護部
	中村 阿由美 看護部
	辛島 禎史 地域医療連携課
	渡邊 淳 総務課
	柿原 佑紀 人事課
	森田 洋充 入院業務課
	伊藤 美芙結 教育研修管理課
写真班	西村 憲治 放射線診断科部
	安井 元規 診療情報管理課
幹事	波多野 浩也 総務課
印刷・製本所	相羽印刷株式会社 名古屋市守山区瀬古一丁目241番地

